

平成２８年度

第３次嵐山町男女共同参画プラン策定に伴う  
アンケート結果

平成２８年９月

地域支援課

# 目 次

|                                       |     |
|---------------------------------------|-----|
| 第Ⅰ章 調査の概要.....                        | 1   |
| 1 調査の目的.....                          | 1   |
| 2 調査項目の設定.....                        | 1   |
| 3 調査設定.....                           | 1   |
| 4 回収結果.....                           | 1   |
| 5 標本数の理論数値.....                       | 1   |
| 6 報告書の見方.....                         | 2   |
| 7 他の調査との比較における表記について.....             | 2   |
| 8 アンケート結果における表記について.....              | 2   |
| 第Ⅱ章 調査の概要.....                        | 3   |
| 1 男女平等に関する意識について.....                 | 3   |
| 問1 男女の地位の平等感.....                     | 3   |
| 問2 性別役割分担意識.....                      | 11  |
| 問2-1 同感する理由.....                      | 14  |
| 問2-2 同感しない理由.....                     | 18  |
| 問3 メディアでの性に関する表現について.....             | 22  |
| 2 家庭生活・子育てについて.....                   | 24  |
| 問4 家庭生活での役割分担.....                    | 24  |
| 問5 家庭生活での現実と希望.....                   | 32  |
| 3 就業・仕事についてお伺いします.....                | 36  |
| 問6 女性の働き方.....                        | 36  |
| 問7 自分自身の働き方.....                      | 41  |
| 問8 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと..... | 45  |
| 問9 仕事と家庭の両立の条件.....                   | 56  |
| 4 配偶者等に対する暴力について.....                 | 61  |
| 問10 暴力と認識される行為.....                   | 61  |
| 問11 配偶者・パートナーからの行為.....               | 77  |
| 問11-1 暴力に関する相談.....                   | 79  |
| 問11-2 相談した人（場所）.....                  | 81  |
| 問11-3 相談しなかった理由.....                  | 83  |
| 5 男女共同参画を推進するための取組について.....           | 85  |
| 問12 男女共同参画に関する社会の動向.....              | 85  |
| 問13 町が取り組むべきこと.....                   | 111 |
| 第Ⅲ章 調査の概要.....                        | 117 |
| 1 回答者の内容.....                         | 117 |
| F-1 性別.....                           | 117 |
| F-2 地区.....                           | 117 |
| F-3 年齢.....                           | 118 |
| F-4 職業.....                           | 118 |

|     |                       |     |
|-----|-----------------------|-----|
| F-5 | 住宅の種類.....            | 119 |
| F-6 | 最終学歴.....             | 119 |
| F-7 | 現在の婚姻状況をご回答ください。..... | 119 |
| 第Ⅳ章 | 自由意見.....             | 120 |
| 第Ⅴ章 | 使用した調査票様式.....        | 132 |





## 第Ⅰ章 調査の概要

### 1 調査の目的

本調査は、平成28年度に策定する嵐山町男女共同参画プランを策定するため、町民の男女共同参画についての意識と生活実態について把握するため実施したものである。

### 2 調査項目の設定

調査項目については、平成23年5月実施の前回調査、埼玉県が実施した「埼玉県男女共同参画に関する意識・実態調査」（平成27年9月実施）、内閣府が実施した「女性の活躍推進に関する世論調査」（平成26年8月実施）の比較を行うことも考慮し、設定したものである。

### 3 調査設定

- ①調査対象：嵐山町に在住の18歳以上の男女
- ②標本数：2,000人
- ③調査方法：郵送法
- ④調査期間：平成28年7月7日（木）～7月19日（火）

### 4 回収結果

- ①回答数：575件
- ②回答率：28.75%（前回 47.9%）

### 5 標本数の理論数値

調査に必要な数値は、理論的に以下のとおりである。

| No. | 項目        | 数値       | 備考                 |
|-----|-----------|----------|--------------------|
| (1) | 母集団(N)    | 18,142   | 平成28年7月1日付住民基本台帳人口 |
| (2) | 相対誤差(e)   | 0.05     |                    |
| (3) | 信頼度(Z)    | 1.96     | (信頼率95%)           |
| (4) | 母集団の比率(P) | 0.5      |                    |
| (5) | 必要な標本数(n) | 384.1759 |                    |
| (6) | 配布標本数     | 962.5    | (5)/0.4(回収率40%)    |
| (7) | 人口抽出率     | 5.31%    | (6)/(1)            |

信頼度が95%で標本誤差が5%以内とするために必要な標本数は以下の通り求められます。

$$N \geq \frac{N}{\left(\frac{e}{Z}\right)^2 \times \frac{N-1}{P(1-P)} + 1} = 384.1759$$

嵐山町の全住民を母集団とする調査では、必要な標本数は385件であり、回収率を40%と想定した場合、963件以上配布すれば、信頼度95%、標本誤差5%以内の結果を得られること

ができます。

今回、回収率が 28.75%と非常に低くなっていますが、上記の式をあてはめると、1,400 件配布すれば信頼度 95%の結果が得られることとなります。今回、2,000 件配布しており、信頼度には問題がないと考えられます。

なお、必要標本数 385 件についても大幅に超えており、信頼性も十分あるものと考えられます。

## 6 報告書の見方

- (1) 回収の比率は、有効回答率を基数としています。限定質問の比率については該当数を基数としています。質問の回答が複数回答の場合は、比率の合計が 100.0%を超えることがあります。
- (2) 基数となるべき実数は、n として表示しました。グラフの中の基数は（）内に表示しています。
- (3) 比率は、小数点第 2 位を四捨五入し、小数点第 1 位までを表示しています。そのため、合計が 100.0%にならないことがあります。
- (4) グラフや表のタイトルなどは、なるべく調査票そのままの表現を用いているが、スペース等の都合により簡略化している箇所があります。

## 7 他の調査との比較における表記について

今回の調査においては、調査項目の設定のとおり、前回・県・国の調査の比較をすることとしている。他の調査の標記と調査内容については以下のとおりである。

- (1) 前回調査：平成 23 年 5 月実施。20 歳以上 2,000 人に送付。有効回収数 954 人（47.7%）
- (2) 埼玉県：平成 27 年 9 月実施。男女共同参画に関する意識・実態調査
- (3) 内閣府：平成 26 年 8 月実施。女性の活躍推進に関する世論調査

## 8 アンケート結果における表記について

調査結果の表記中、学歴についての項目に 4 年制大学を 4 年生大学と記載しておりますが、アンケートにおいて「5. 4 年生大学、大学院」としていたため、本文中においても 4 年生大学と記載しています。

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 1 男女平等に関する意識について

#### 問1 男女の地位の平等感

問1 あなたは、現在、男女の地位が平等になっていると思いますか。

(n=575)

|                        | 平等に<br>なっている | どちらか<br>というと<br>平等に<br>なっている | どちら<br>かという<br>と平等<br>になって<br>いない | 平等に<br>なってい<br>ない | どちらと<br>もいえな<br>い | 無回答  |
|------------------------|--------------|------------------------------|-----------------------------------|-------------------|-------------------|------|
| (1)家庭生活は               | 18.6%        | 36.7%                        | 21.4%                             | 15.8%             | 5.2%              | 2.3% |
| (2)学校教育の場で             | 23.3%        | 34.6%                        | 14.4%                             | 4.5%              | 15.7%             | 7.5% |
| (3)職場では                | 8.9%         | 23.3%                        | 26.1%                             | 25.7%             | 9.4%              | 6.6% |
| (4)政治の場では              | 5.6%         | 19.5%                        | 28.0%                             | 33.0%             | 9.9%              | 4.0% |
| (5)自治会活動等の地域社会で        | 10.6%        | 21.6%                        | 32.0%                             | 18.8%             | 14.4%             | 2.6% |
| (6)社会通念や風潮(慣習・しきたり)などで | 4.3%         | 13.7%                        | 31.8%                             | 34.6%             | 12.2%             | 3.3% |
| (7)法律や制度上では            | 13.4%        | 28.9%                        | 22.4%                             | 18.4%             | 13.0%             | 3.8% |
| (8)社会全体の中で             | 3.8%         | 20.5%                        | 35.8%                             | 27.3%             | 10.1%             | 2.4% |

男女の地位の平等感について聞いたところ、「社会通念や風習」、「社会全体」、「政治の場」において、男女の地位が平等になっていないと感じている方が6割を超えており、不平等と感じるとの結果が出ています。「職場」、「地域社会」においても約5割の方が不平等と感じています。

男女の前回の調査、埼玉県調査と比較においても今回のアンケート調査と同様な結果となりました。

性別では、すべての項目において「平等になっている合計」は男性が女性を上回っており、「平等になっていない合計」ではすべての項目で女性が男性を上回っています。

性・年齢別でみると、「家庭生活で」では「平等になっていない合計」は女性では40歳代が6割以上と最も高くなっています。

「学校教育の場で」では、男性の「平等になっている合計」が40歳代が48.1%と低くなっており、女性では20歳代が64.5%と最も高くなっています。

「職場では」は、「平等になっていない合計」は女性では70歳以上を除く年代で5割を超えています。男性では「平等になっていない合計」が30歳代、60歳代が6割と高くなっています。

「政治の場では」は、「平等になっていない合計」が女性では30歳代、40歳代、50歳代が7割台となっています。男性では「平等になっている合計」で70歳以上が約5割と高くなっています。

「自治会活動等の地域社会で」では、「平等になっている合計」が女性の50歳代が13.6%と最も低くなっています。男性では「平等になっていない合計」が50歳代、60歳代で5割を超えています。

「社会通念や風潮(慣習・しきたり)などで」では、「平等になっている合計」が女性の50歳代が4.5%と最も低く、男性では「平等になっていない合計」が40歳代、50歳代で7割と高くなっています。

「法律や制度上では」は、「平等になっている合計」では女性の30歳代、40歳代、50歳代が3割台と低くなっています。男性では「平等になっていない合計」が40歳代で約5割と高くなっています。

「社会全体の中で」では「平等になっている」は女性では40歳代、50歳代で1割台と低くなっています。男性では「平等になっていない合計」が40歳代、50歳代、60歳代で6割を超えています。

地区別でみると、「家庭生活上」では「平等になっている合計」は北部地区で61.6%と最も高くなっています。

「学校教育の中で」では、「平等になっている合計」は南部地区で66.2%と最も高く、次いで北部地区が59.3%、中央地区が56.8%となっています。

「職場では」は、「平等になっている合計」では北部地区が41.9%となっており、「平等になっていない合計」が中央地区、南部地区で5割を超えています。

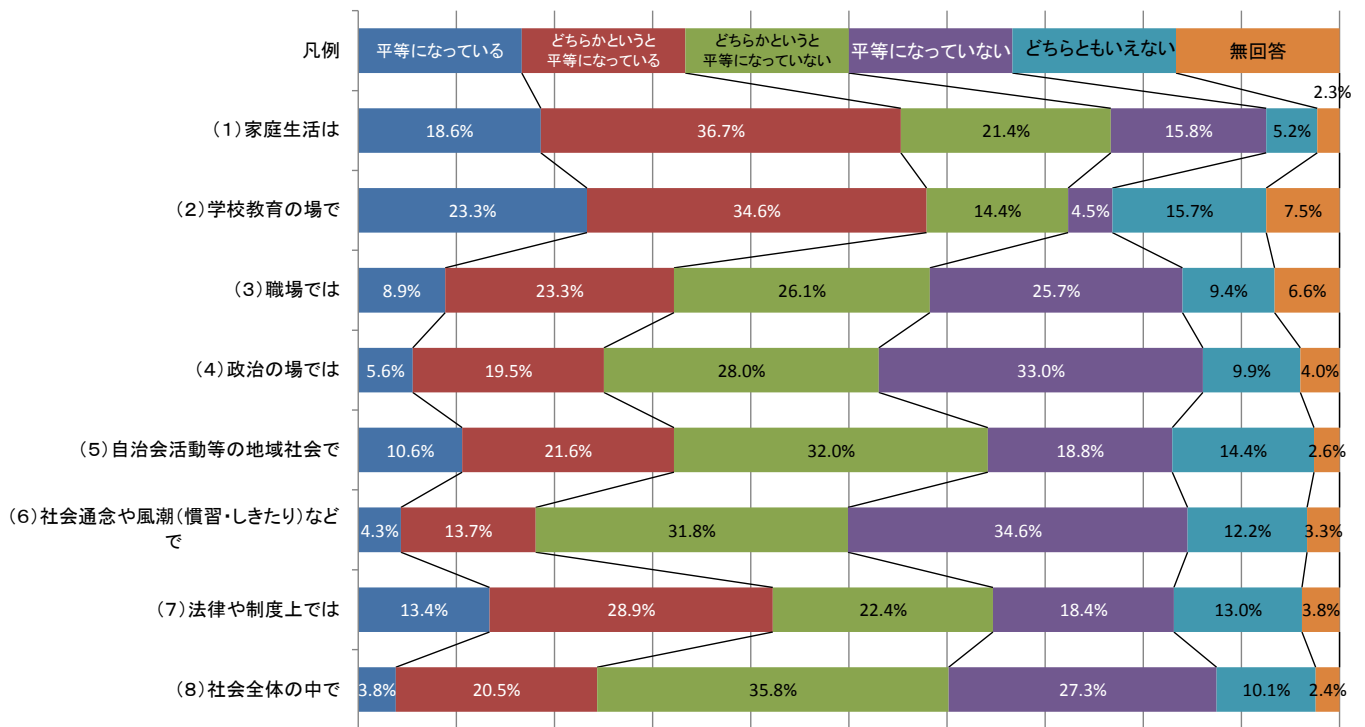
「政治の場では」は、「平等になっている合計」が全ての地区で2割を超えています。

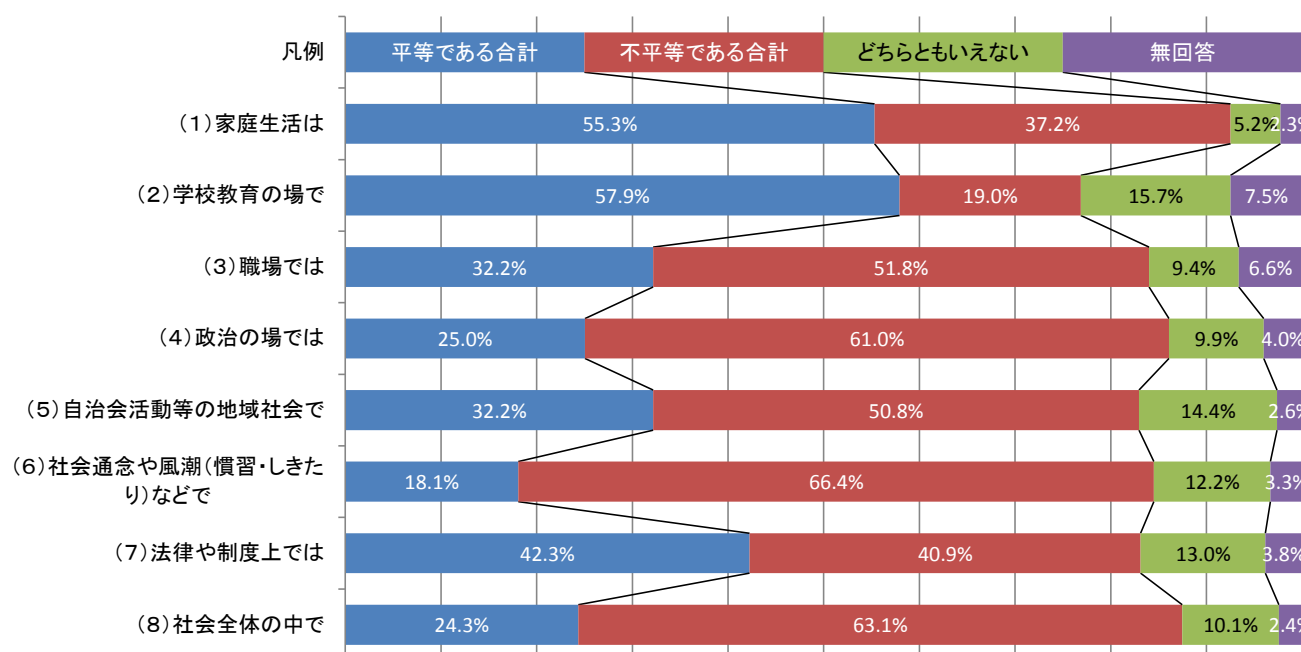
「自治会活動等の地域社会で」では、「平等になっている合計」が北部地区、中部地区で3割、を超えています。

「社会通念や風潮（習慣・しきたり）などで」では、「平等になっていない合計」が全ての地区で6割を超えて高くなっています。

「法律や制度上では」は、「平等になっている合計」が北部地区で53.5%と最も高くなっています。

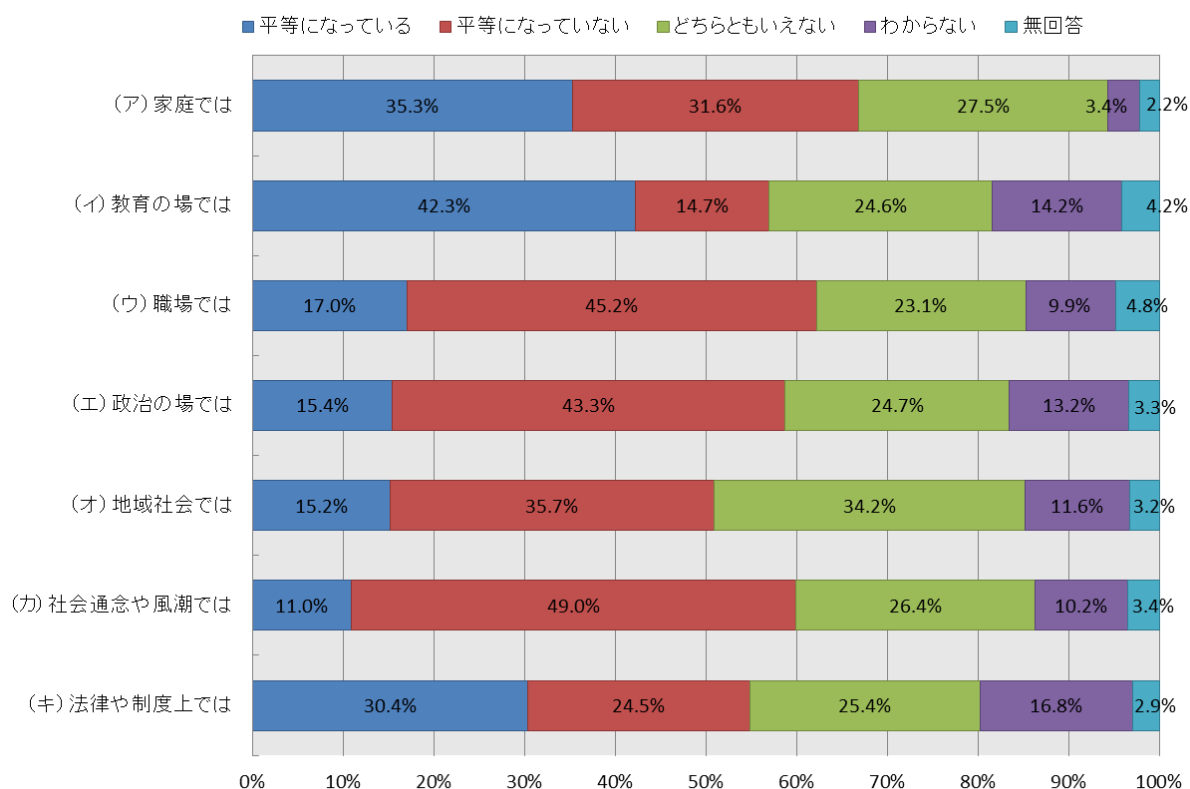
「社会全体の中で」では、全ての地区で「平等になっていない合計」が約6割となっています。





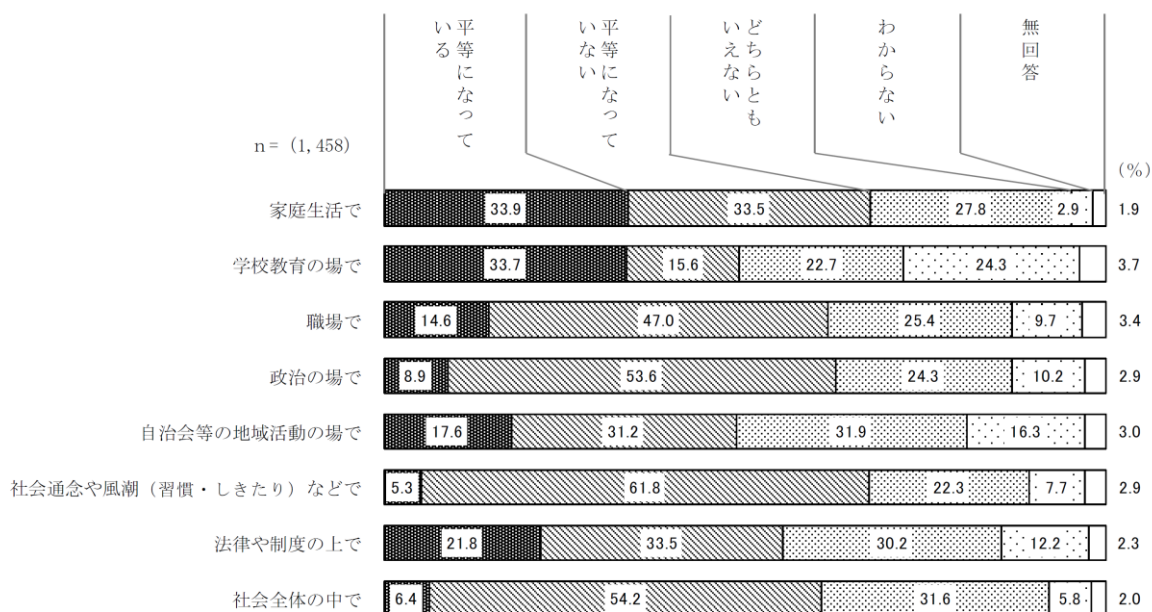
## ◇前回調査

問2 次の(ア)～(キ)の分野では、男女の地位が平等になっていると思いますか。



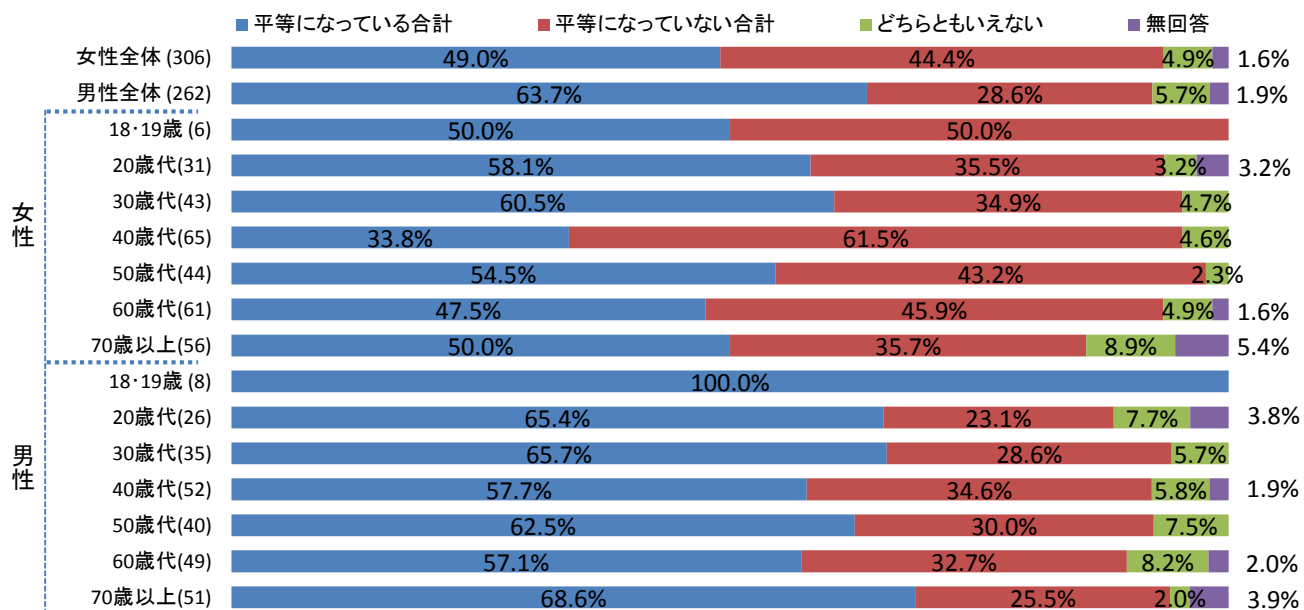
## ◇埼玉県

図表 1－1 男女の地位の平等感

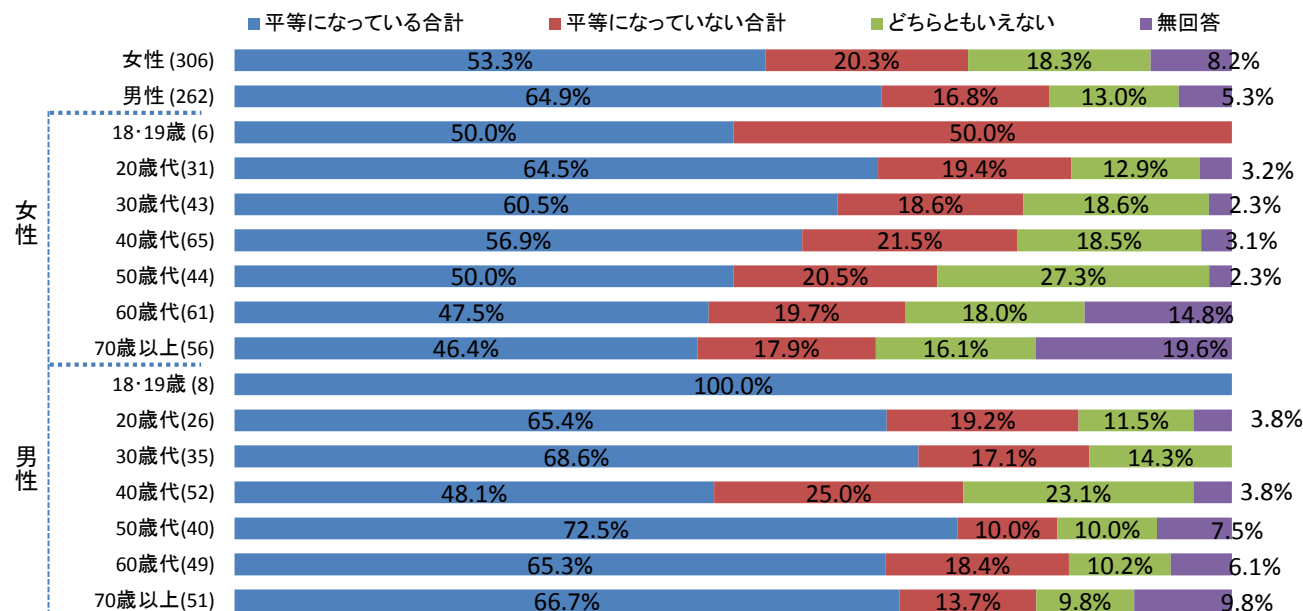


## ◇性別と年齢別の結果

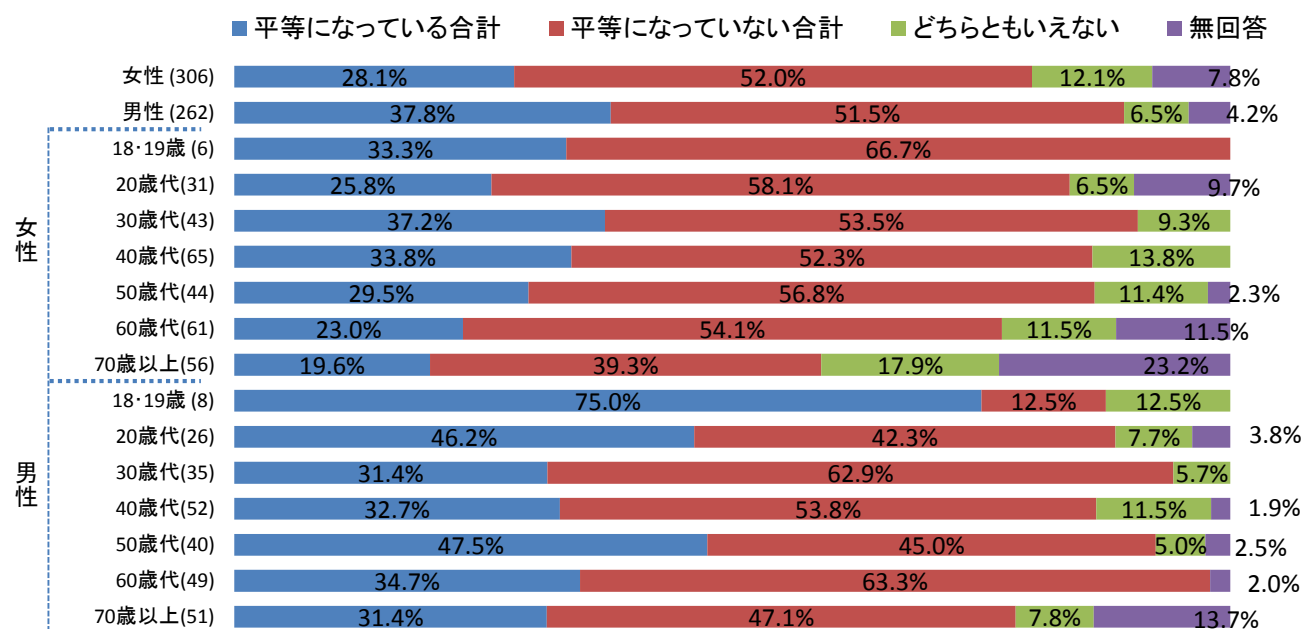
### (1) 家庭生活は



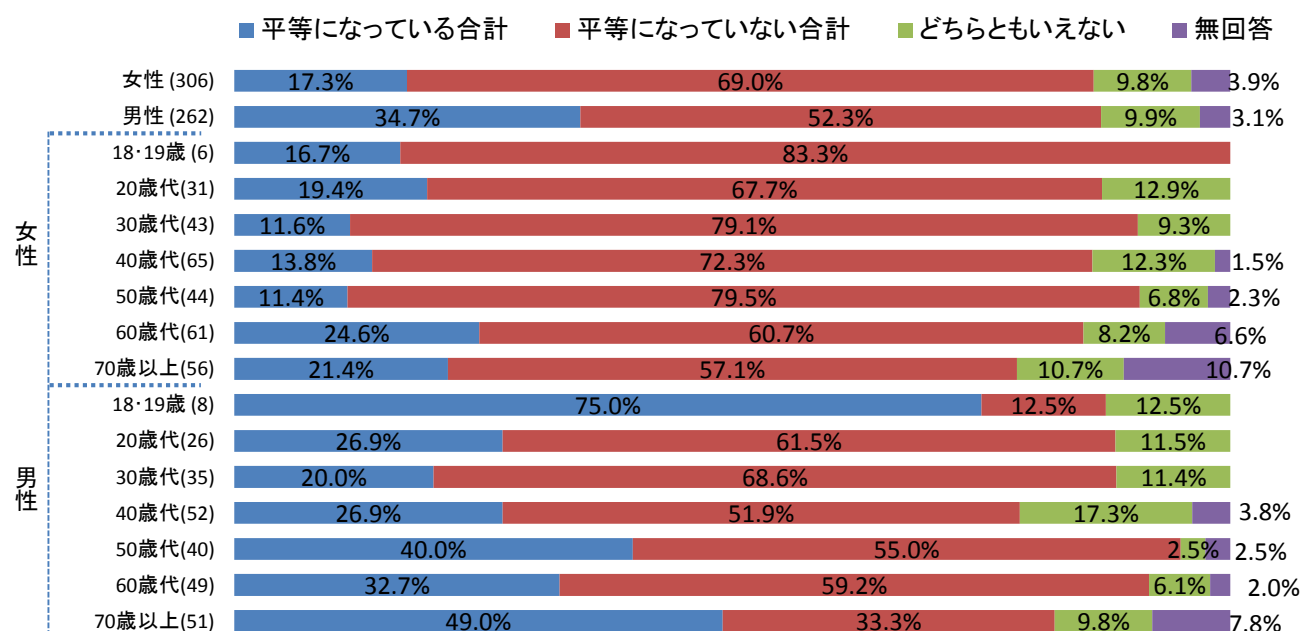
## (2) 学校教育の場で



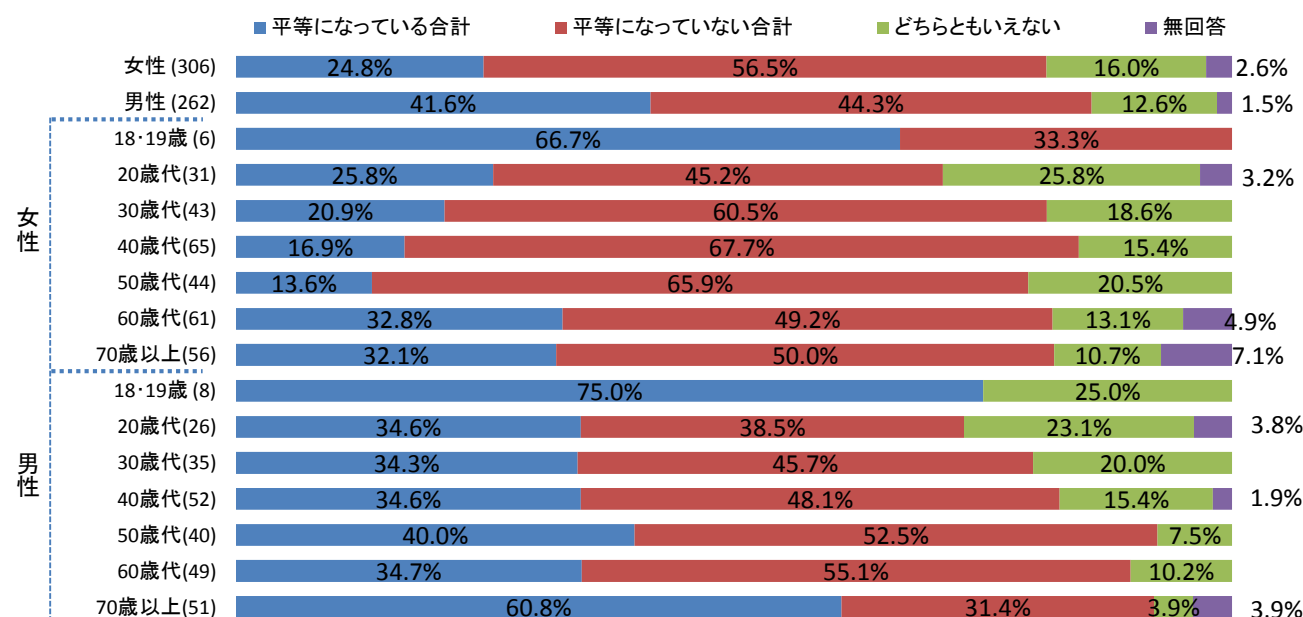
## (3) 職場では



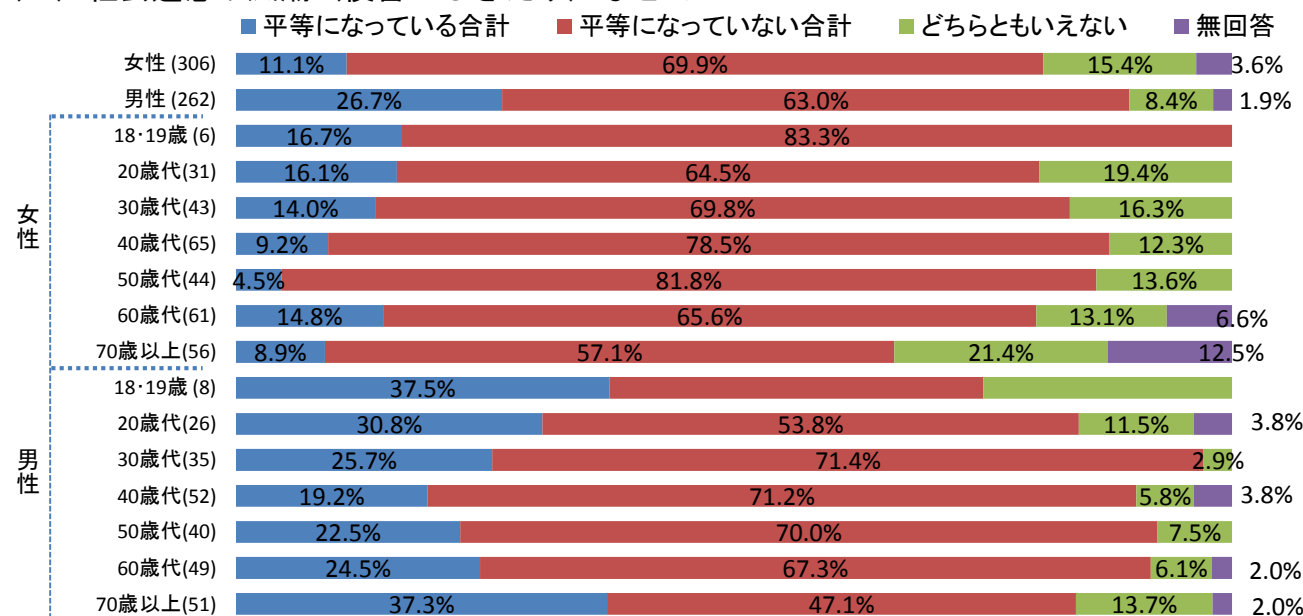
## (4) 政治の場では



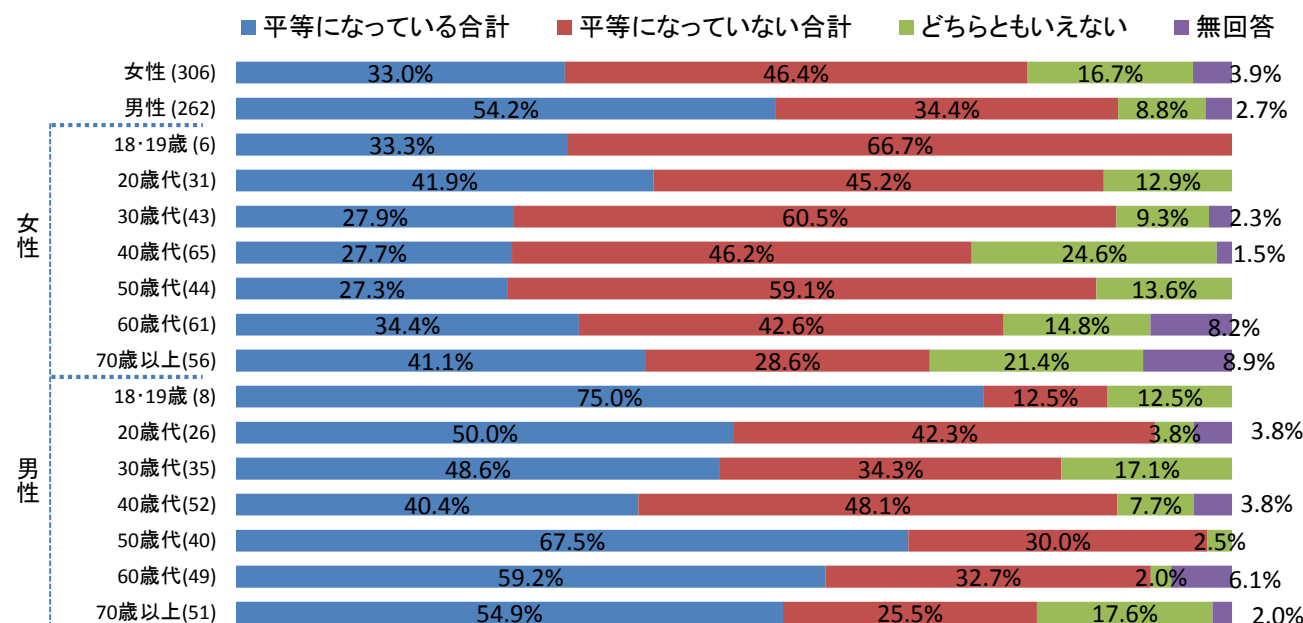
## (5) 自治会活動等の地域社会で



## (6) 社会通念や風潮（慣習・しきたり）などで

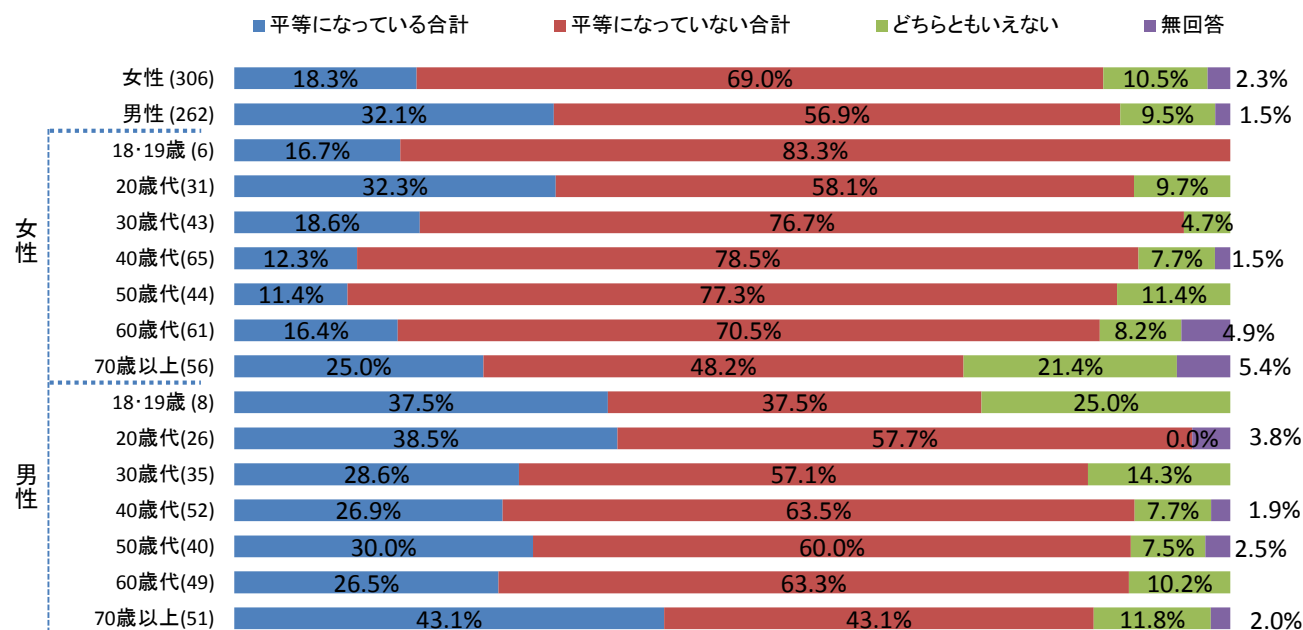


## (7) 法律や制度上では



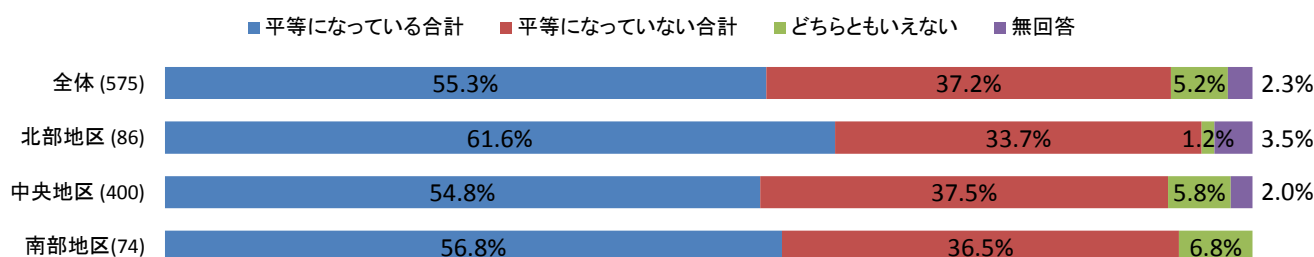


## (8) 社会全体の中で

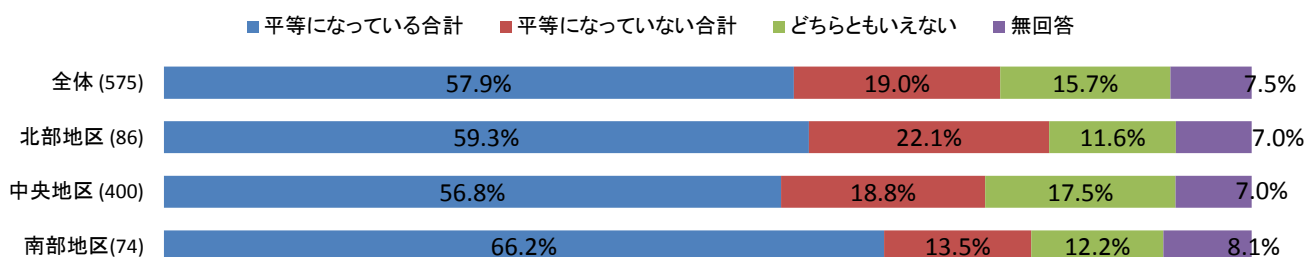


## ◇地区別の結果

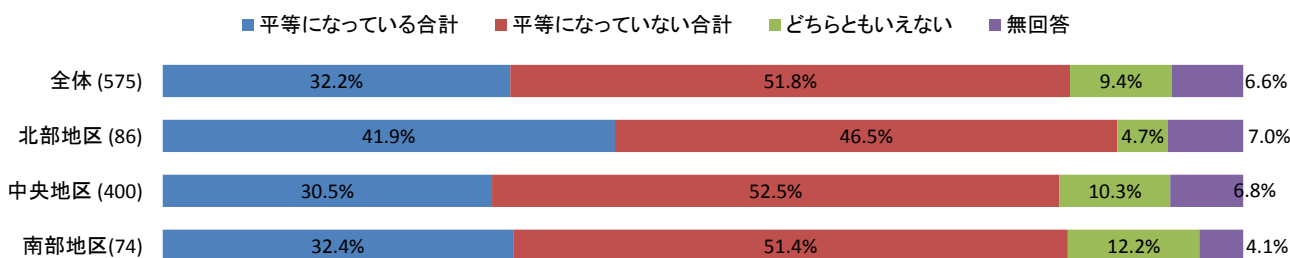
### (1) 家庭生活は



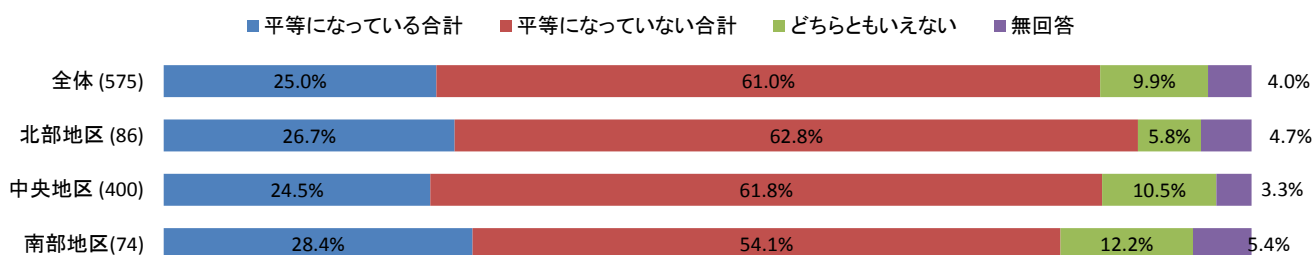
### (2) 学校教育の中で



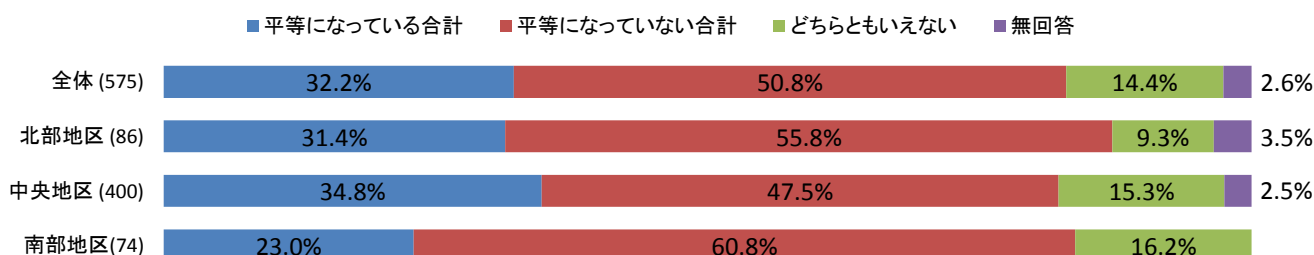
### (3) 職場では



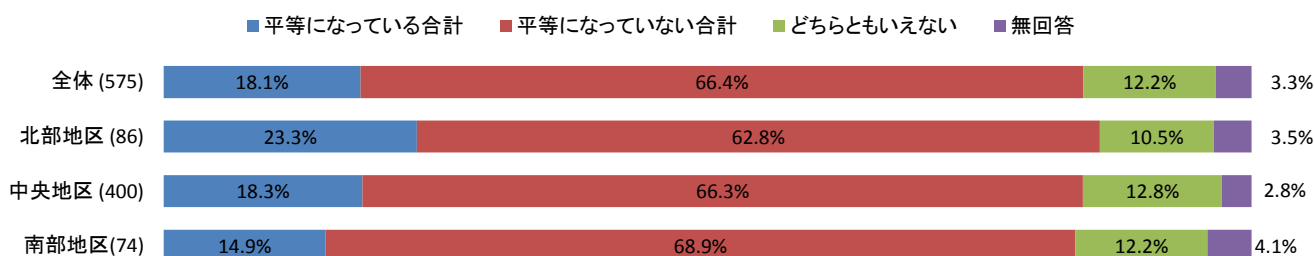
#### (4) 政治の場では



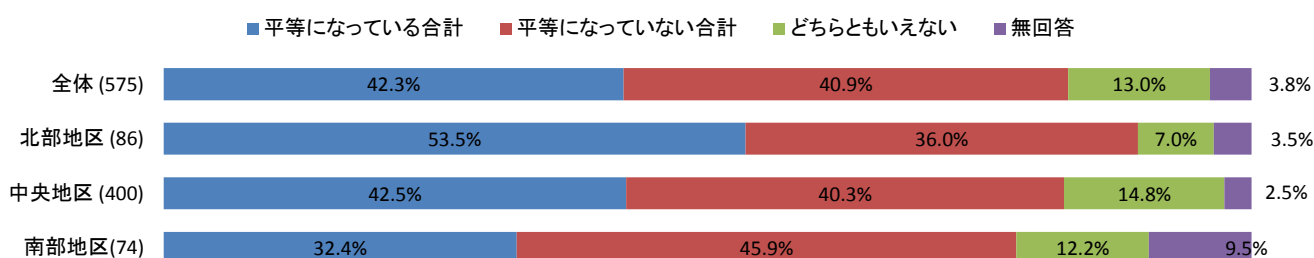
#### (5) 自治会活動等の地域社会で



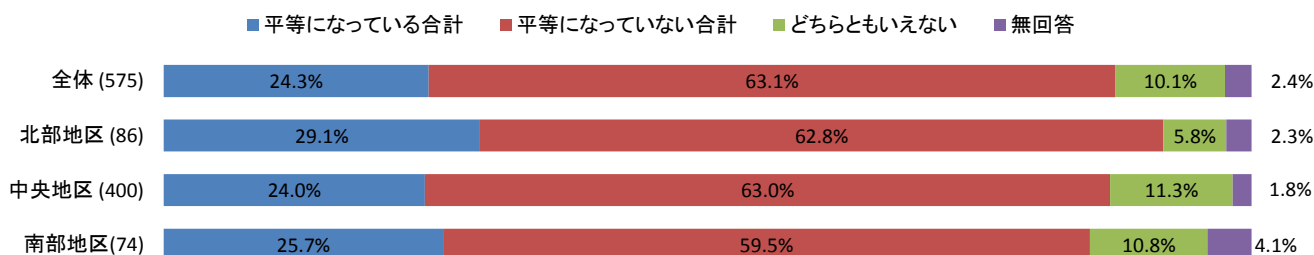
#### (6) 社会通念や風潮（慣習・しきたり）などで



#### (7) 法律や制度上では



#### (8) 社会全体の中で



## 問2 性別役割分担意識

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考えに同感しますか。

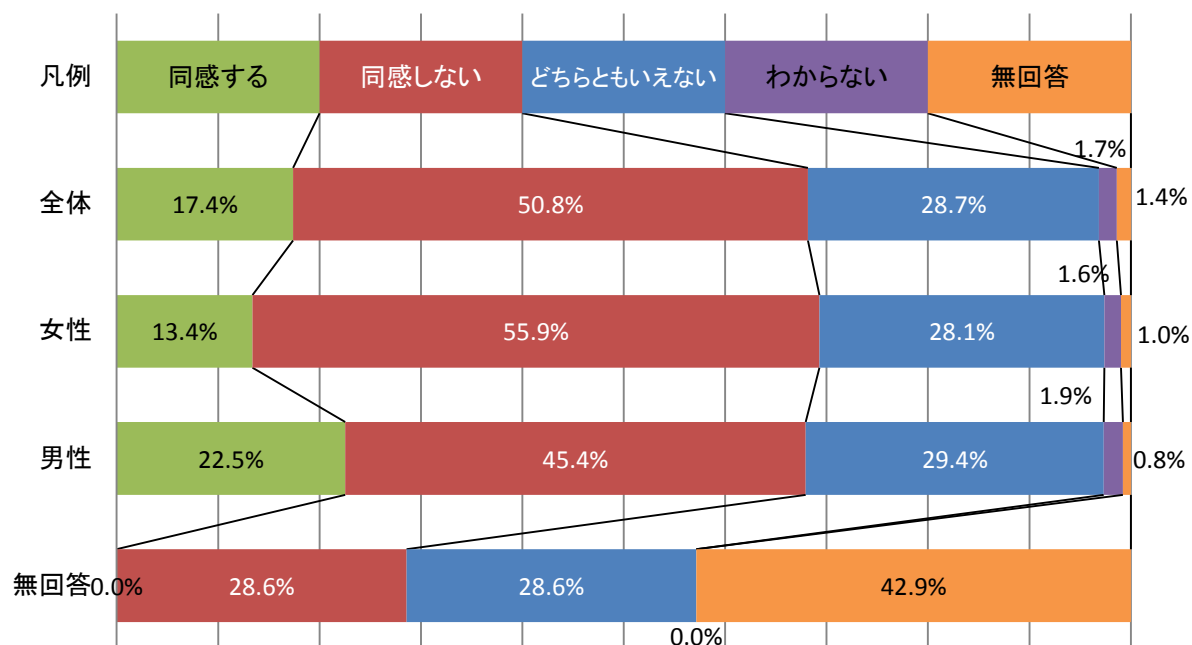
|               | 回答数 | 構成比    |
|---------------|-----|--------|
| (1) 同感する      | 100 | 17.4%  |
| (2) 同感しない     | 292 | 50.8%  |
| (3) どちらともいえない | 165 | 28.7%  |
| (4) わからない     | 10  | 1.7%   |
| 無回答           | 8   | 1.4%   |
| 計             | 575 | 100.0% |

性別役割分担意識について聞いたところ、「男は仕事、女は家庭」という考え方について、同感しないが5割を超えています。この傾向は、埼玉県調査と同様の結果でした。

平成23年に嵐山町で行った調査においても、同感しないは48.7%となっており、若干増加しています。

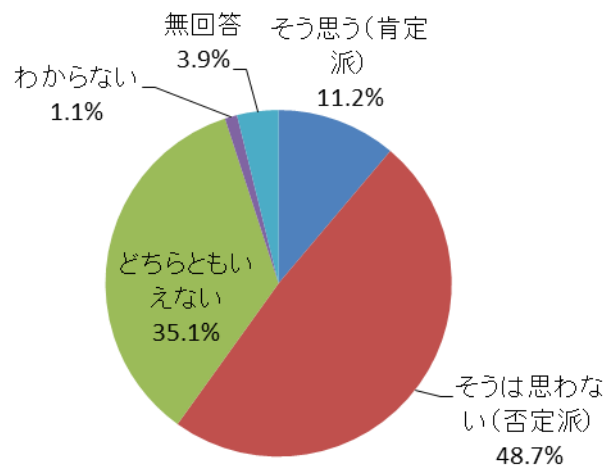
性・年齢別でみると、「同感する」は女性では70歳以上が3割台と高くなっています。また男性では「同感しない」が20歳代で7割を超えています。

地域別では、「同感しない」が中央地区で51.8%と最も高く、次いで地区が南部地区が50.0%、北部地区が46.5%となっています。



◇前回

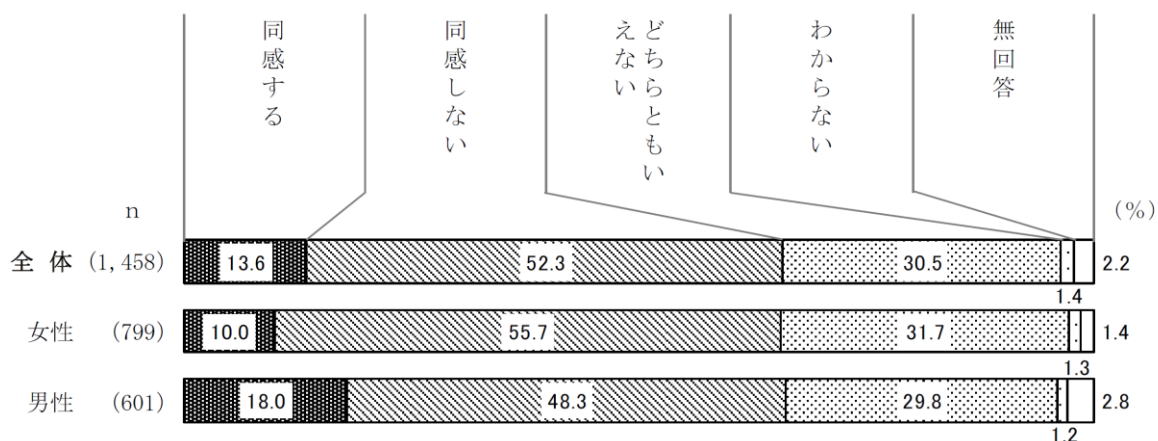
問1 「男は仕事、女は家庭」という考え方について



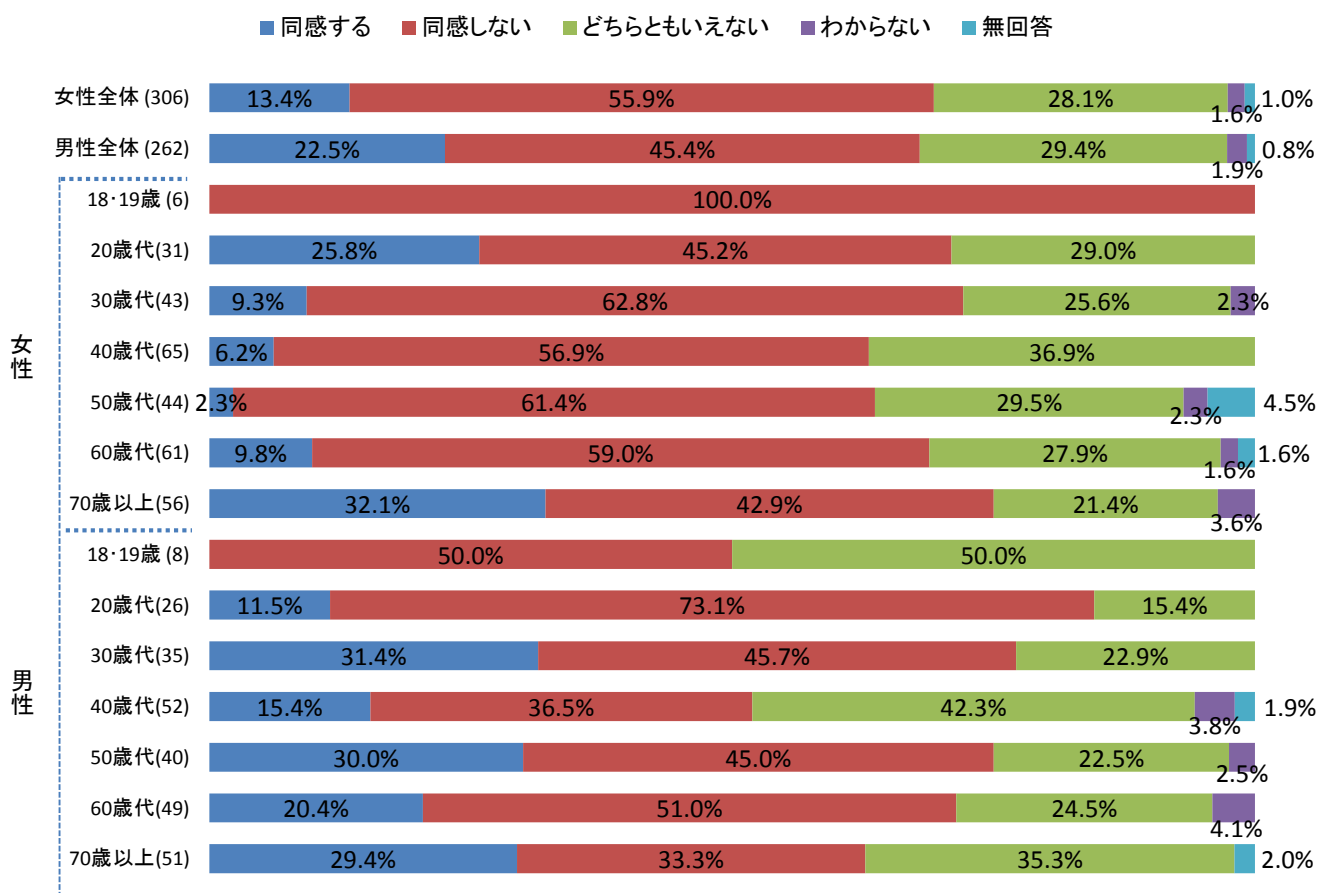
◇埼玉県

問2. 「男性は仕事、女性は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考えに同感しますか。(1 つだけに○)

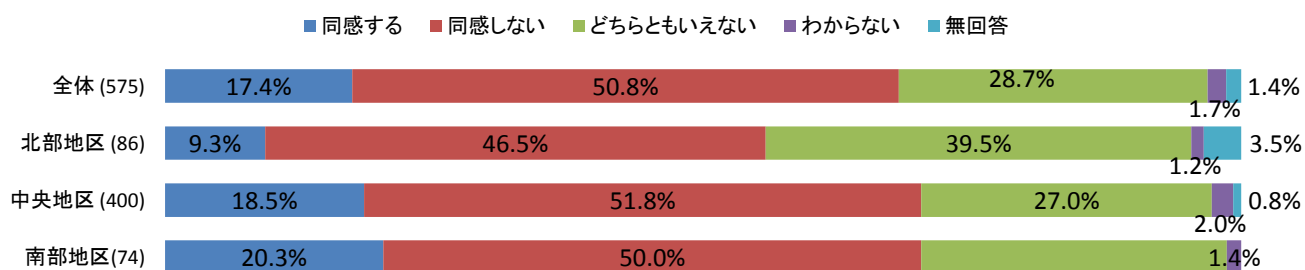
図表 1－5 性別役割分担意識



## ◇性別と年齢別の結果



## ◇地域別の結果



## 問 2－1 同感する理由

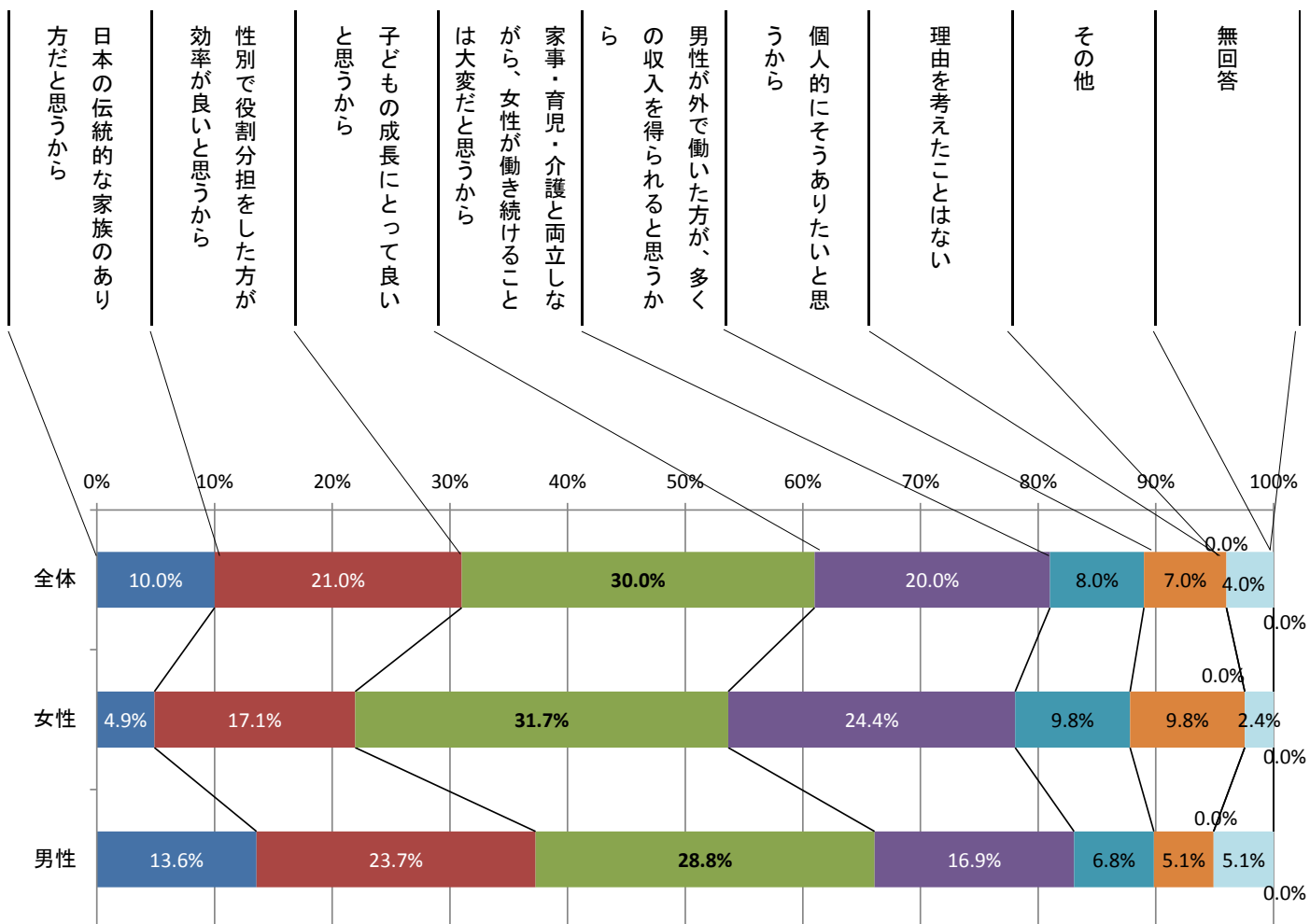
問 2－1 同感する理由をご回答ください。（問 2 で「1 同感する」を選択した方）

|                                         | 回答数 | 構成比    |
|-----------------------------------------|-----|--------|
| (1) 日本の伝統的な家族のあり方だと思うから                 | 10  | 10.0%  |
| (2) 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから              | 21  | 21.0%  |
| (3) 子どもの成長にとって良いと思うから                   | 30  | 30.0%  |
| (4) 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから | 20  | 20.0%  |
| (5) 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから          | 8   | 8.0%   |
| (6) 個人的にそうありたいと思うから                     | 7   | 7.0%   |
| (7) 理由を考えたことはない                         | 0   | 0.0%   |
| (8) その他                                 | 4   | 4.0%   |
| 無回答                                     | 0   | 0.0%   |
| 計                                       | 100 | 100.0% |

同感する理由について聞いたところ、埼玉県調査の設問内容に違いがあるので注意が必要ですが、同感する方 17.1%のうち、「子どもの成長にとって良いと思う」が埼玉県調査（44.2%）と嵐山町（30.0%）と、ともに 1 位となっています。

性・年齢別でみると、「子どもの成長にとって良いと思うから」が女性と男性の 40 歳代が 50%で同率となっています。

地域別でみると、「子どもの成長にとって良いと思うから」では北部地区で 37.5%と最も高く、「性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから」では南部地区が 33.3%と高くなっています。

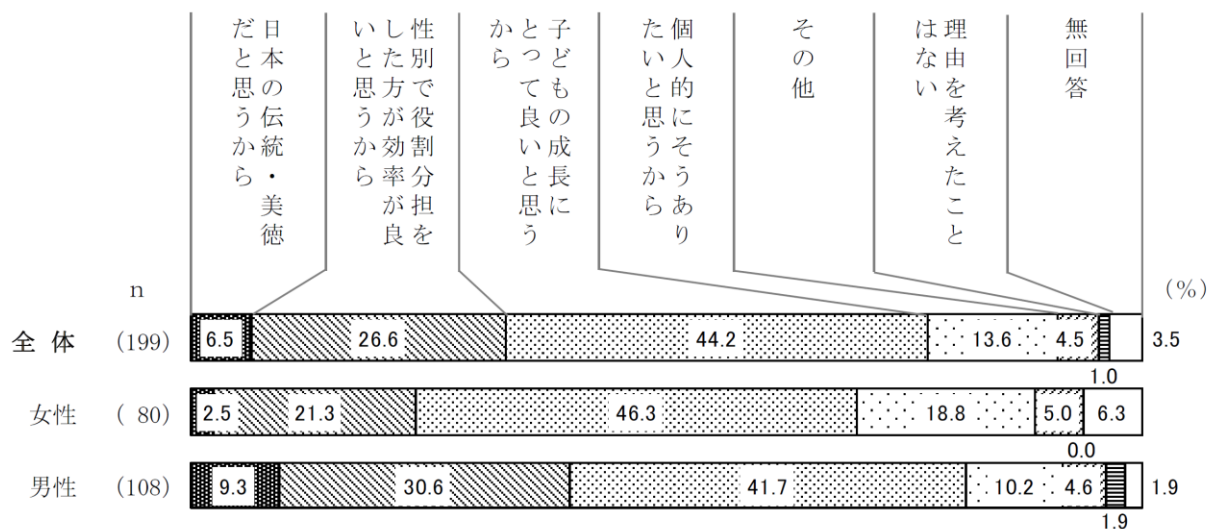


◇埼玉県

【問2. で、「1 同感する」と回答した方に】

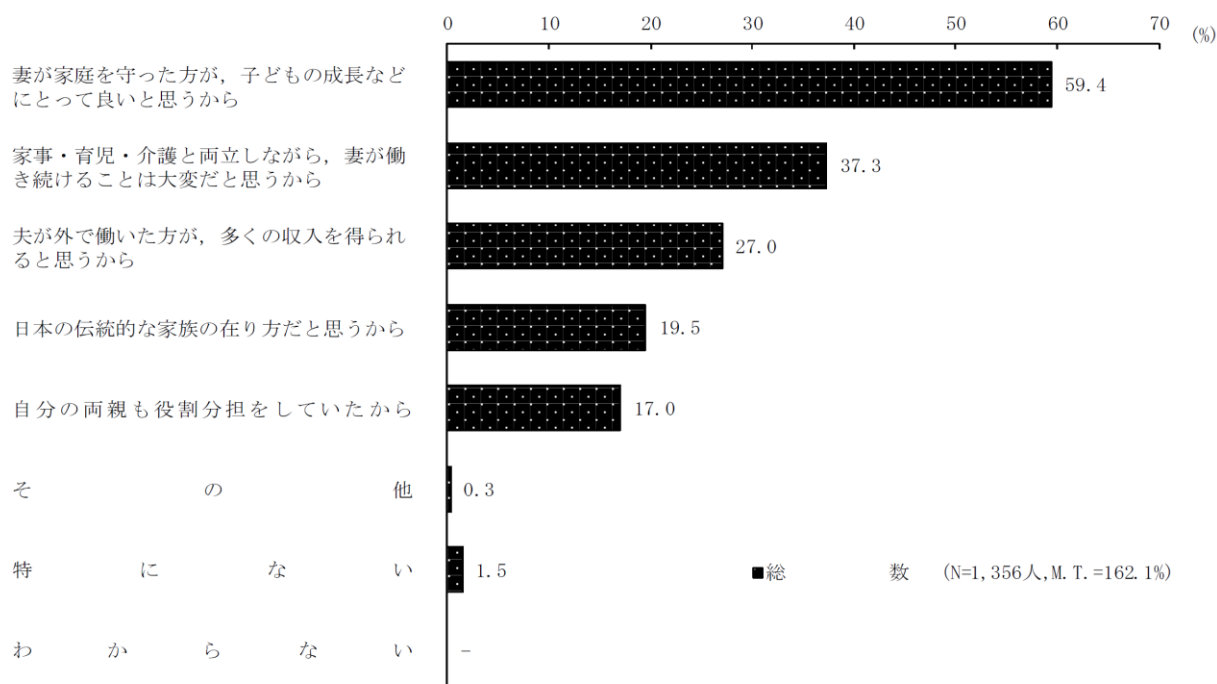
問2-1. 同感する理由を教えてください。(1つだけに○)

図表1-10 同感する理由

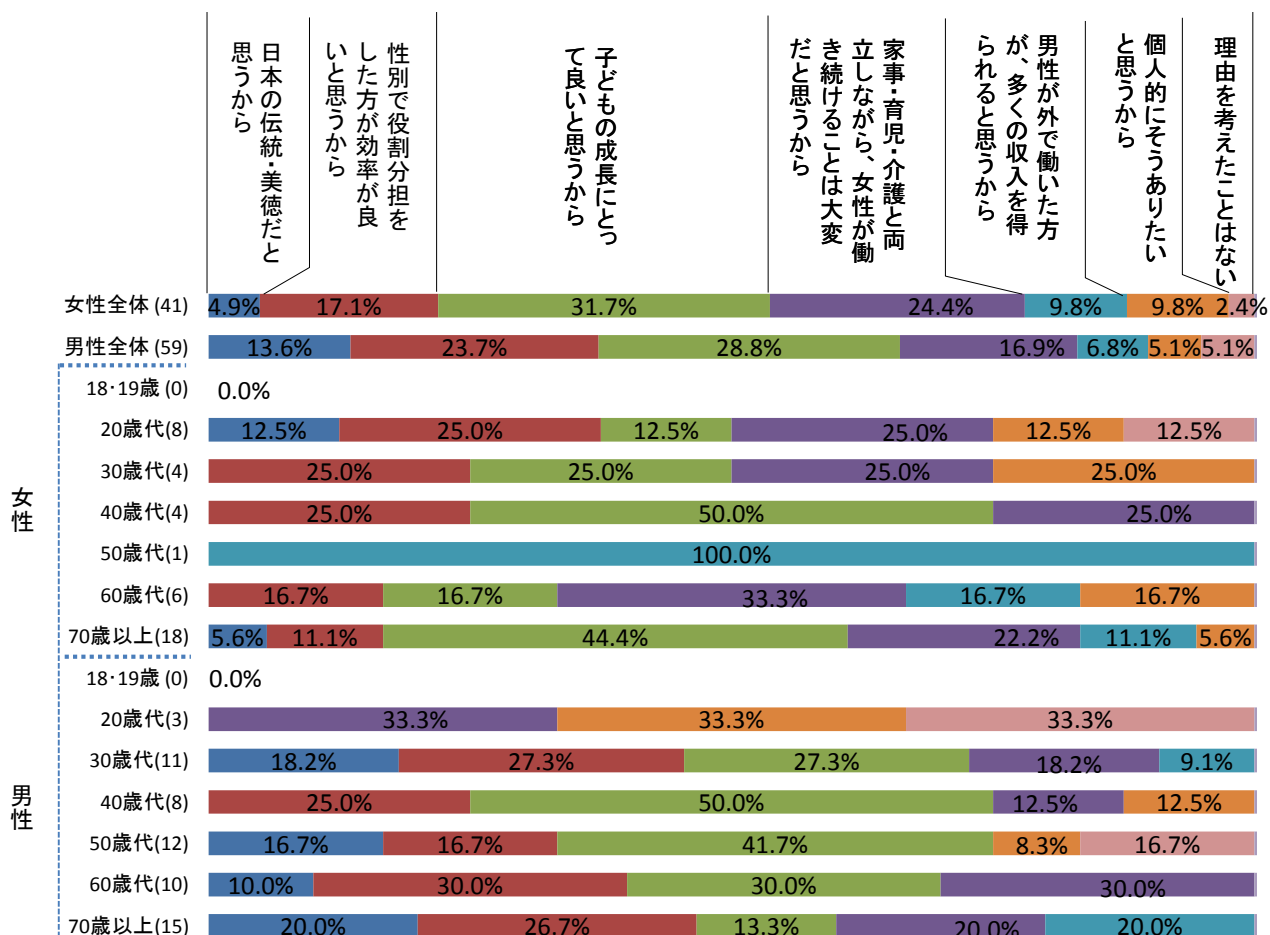


## ◇内閣府

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について「賛成」、「どちらかといえば賛成」と答えた者に、複数回答

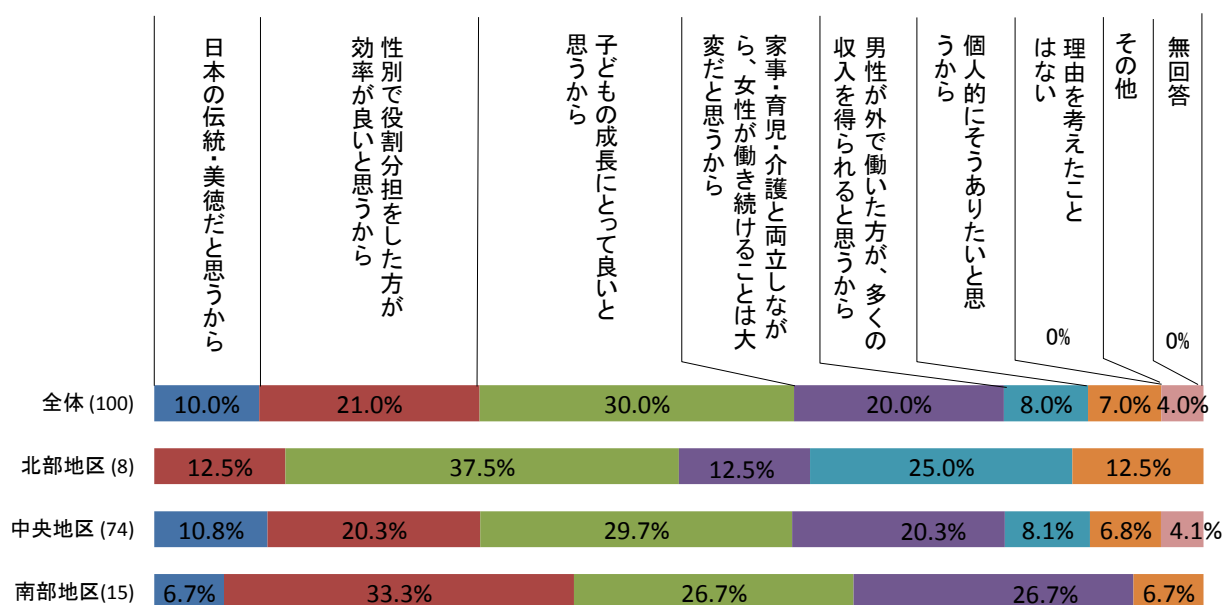


## ◇性別と年齢別の結果





# ◇地区別の結果



## 問 2－2 同感しない理由

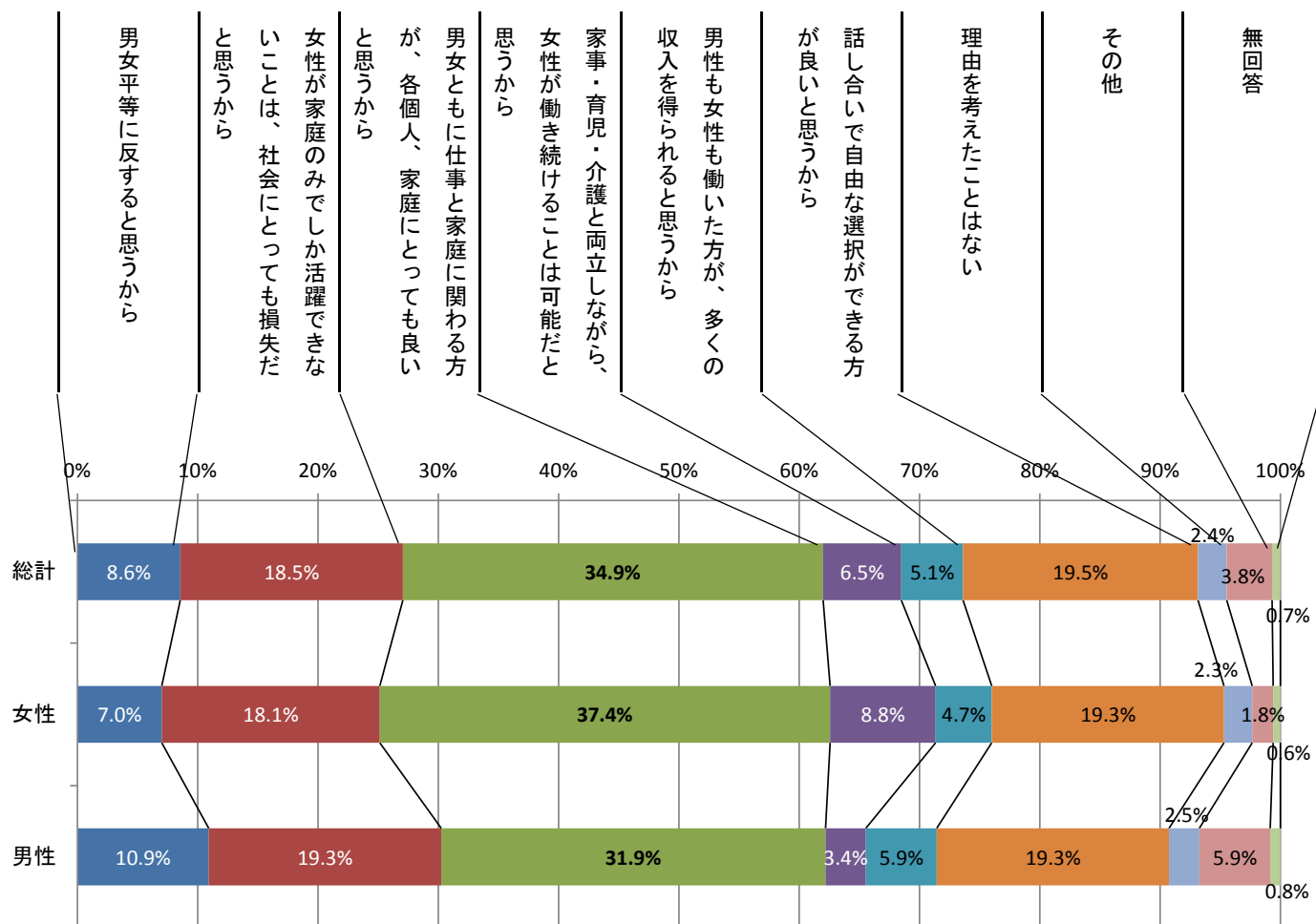
問 2－2 同感しない理由をご回答ください。（問 2 で「2 同感しない」を選択した方）

|                                         | 回答数 | 構成比    |
|-----------------------------------------|-----|--------|
| (1) 男女平等に反すると思うから                       | 25  | 8.6%   |
| (2) 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから | 54  | 18.5%  |
| (3) 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとっても良いと思うから | 102 | 34.9%  |
| (4) 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから | 19  | 6.5%   |
| (5) 男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから         | 15  | 5.1%   |
| (6) 話し合いで自由な選択ができる方が良いと思うから             | 57  | 19.5%  |
| (7) 理由を考えたことはない                         | 7   | 2.4%   |
| (8) その他                                 | 11  | 3.8%   |
| 無回答                                     | 2   | 0.7%   |
| 計                                       | 292 | 100.0% |

同感しない理由について聞いたところ、同感しない方 50.9%のうち、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとっても良いと思うから」が埼玉県調査（43.6%）と嵐山町（34.9%）ともに 1 位となっています。

性・年齢別でみると、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとっても良いと思うから」が女性では 60 歳代で 47.2%、男性が 18・19 歳、60 歳代が約 5 割と最も高くなっています。

地域別でみると、「男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとっても良いと思うから」が全ての地区で最も高くなっています。

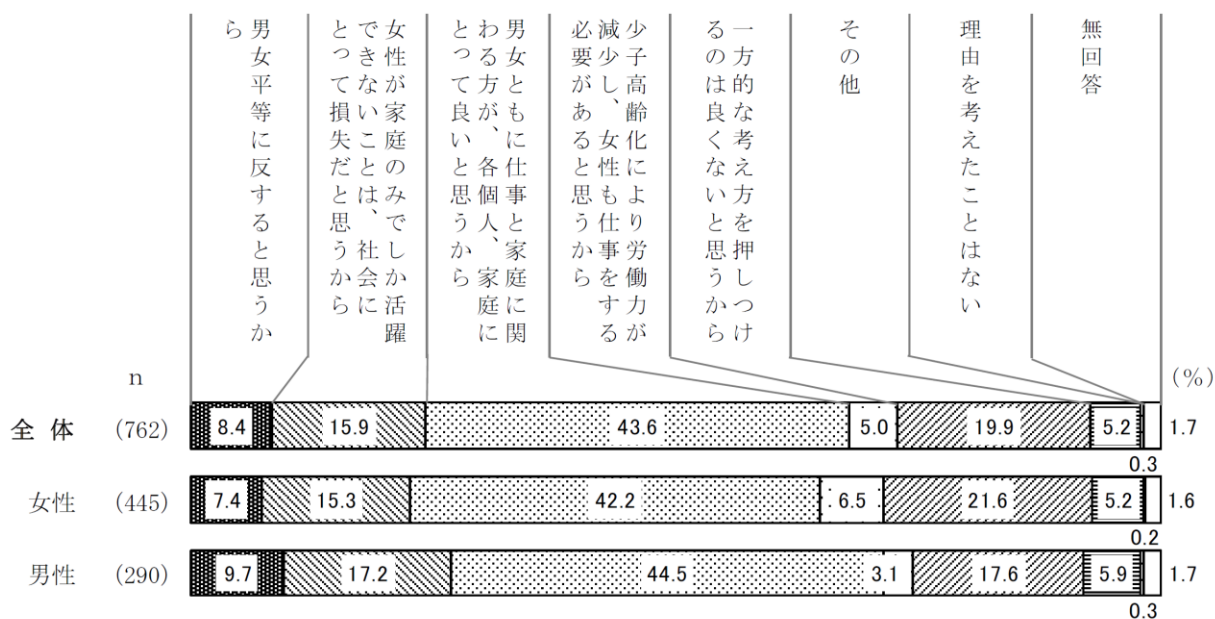


◇埼玉県

【問2. で、「2 同感しない」と回答した方に】

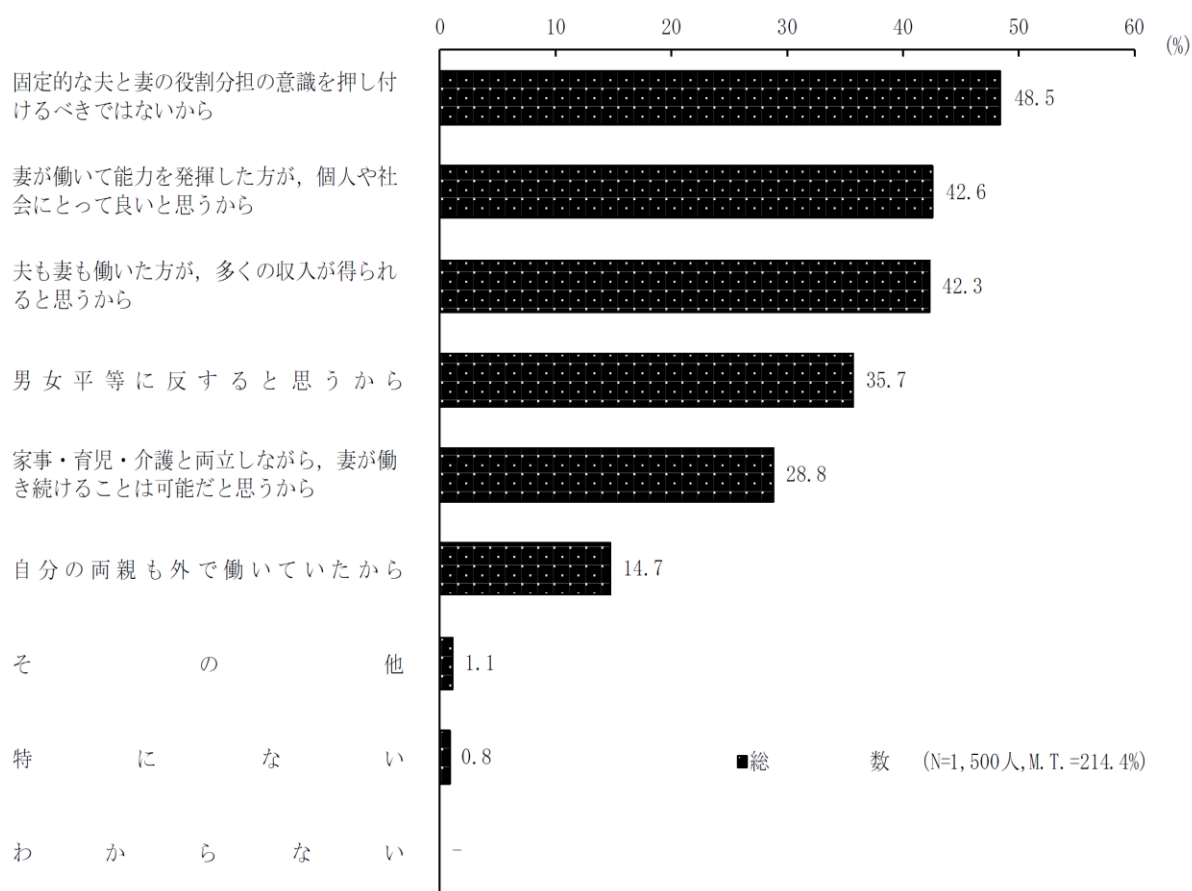
問2-2. 同感しない理由を教えてください。(1つだけに○)

図表 1-13 同感しない理由

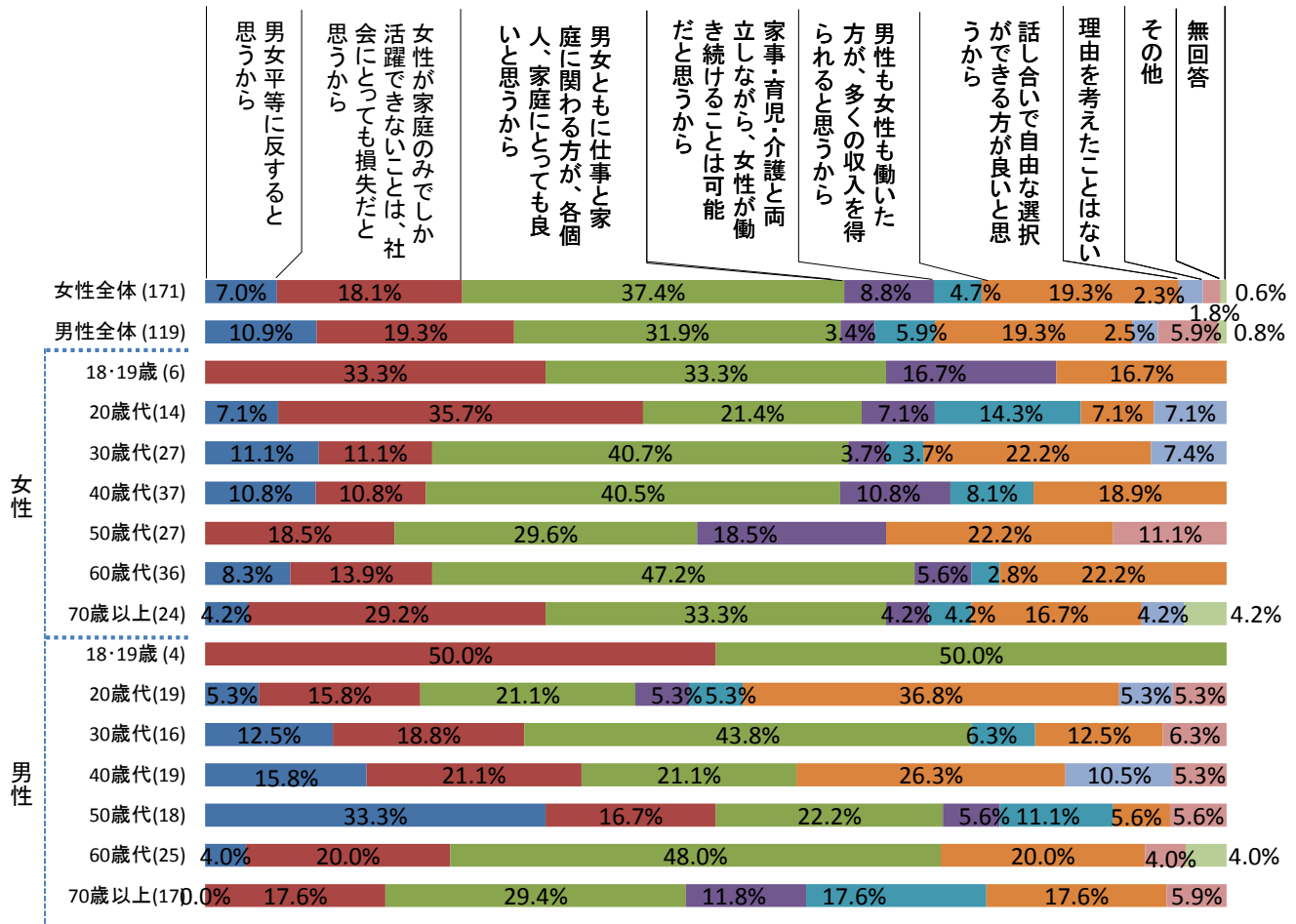


# ◇内閣府

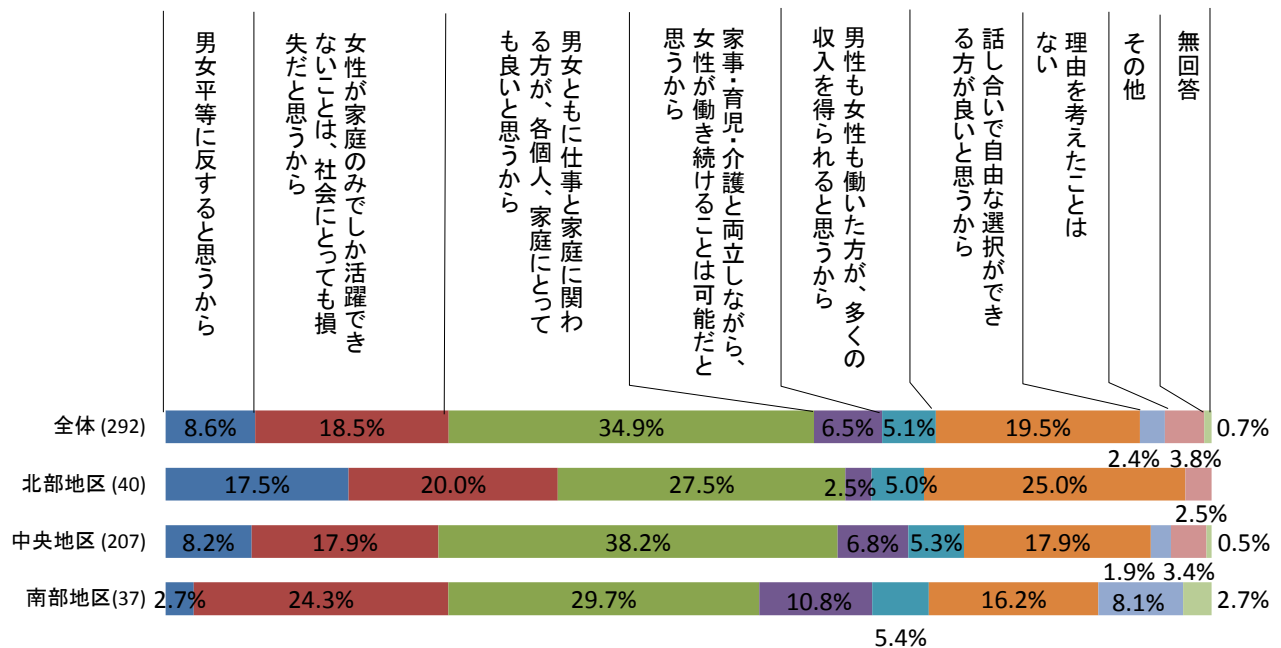
「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について「どちらかといえば反対」、「反対」と答えた者に、複数回答



## ◇性別と年齢別の結果



## ◇地区別の結果



### 問3 メディアでの性に関する表現について

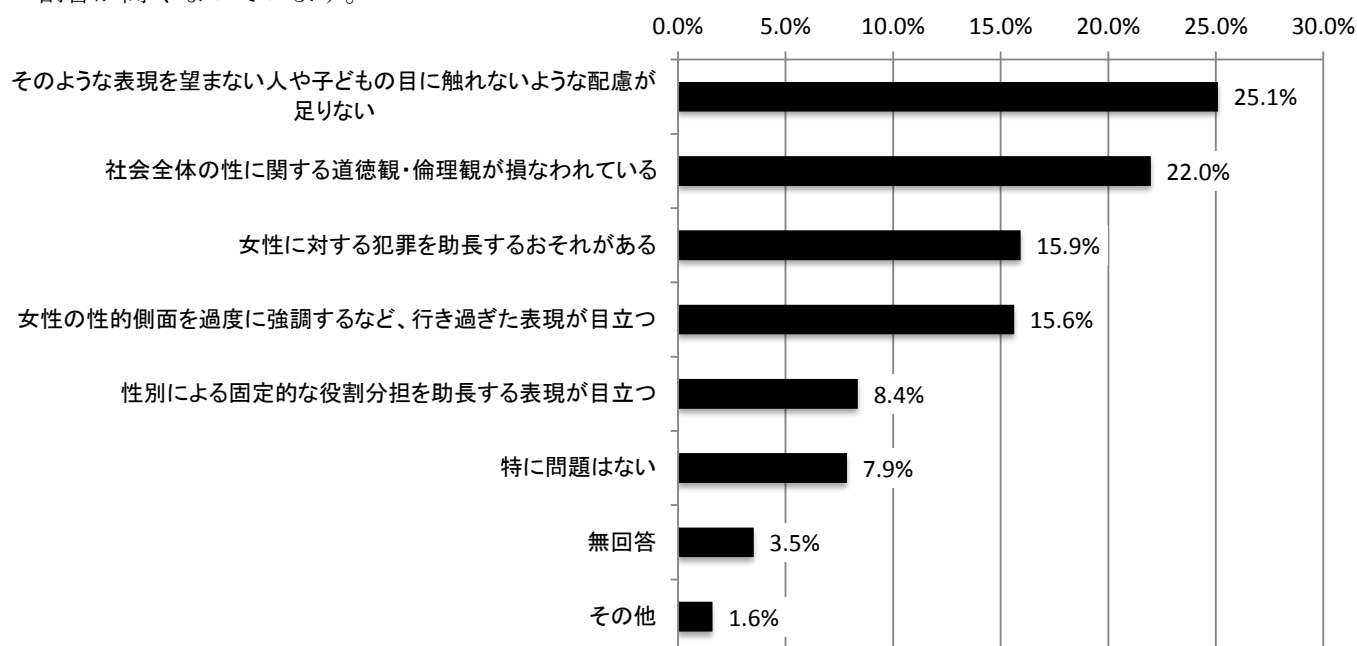
問3 テレビ、映画、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。

|                                        | 回答数 | 構成比    |
|----------------------------------------|-----|--------|
| (1) 性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ           | 83  | 8.4%   |
| (2) 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ      | 155 | 15.6%  |
| (3) 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている          | 218 | 22.0%  |
| (4) 女性に対する犯罪を助長するおそれがある                | 158 | 15.9%  |
| (5) そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない | 249 | 25.1%  |
| (6) 特に問題はない                            | 78  | 7.9%   |
| (7) その他                                | 16  | 1.6%   |
| 無回答                                    | 35  | 3.5%   |
| 計                                      | 992 | 100.0% |

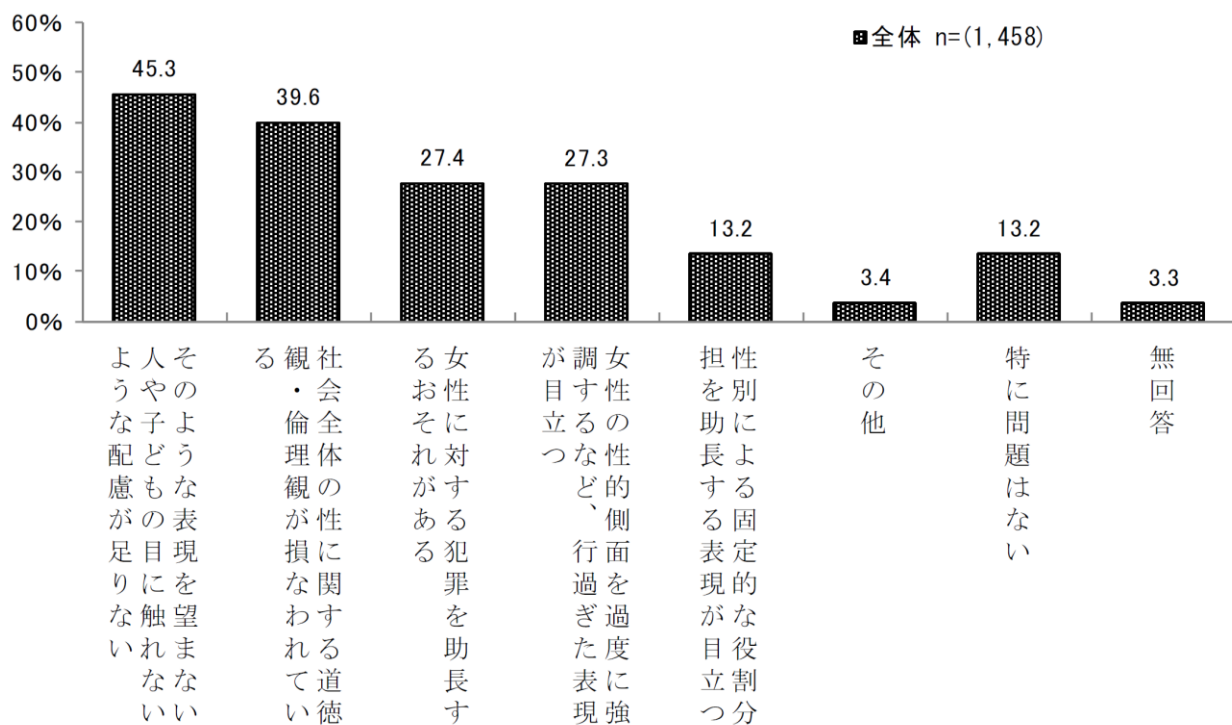
メディアでの性に関する表現について聞いたところ、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が1位で埼玉県調査と同じような傾向となっています。

性別でみると、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」で男性よりも女性のほうが割合が高くなっています。

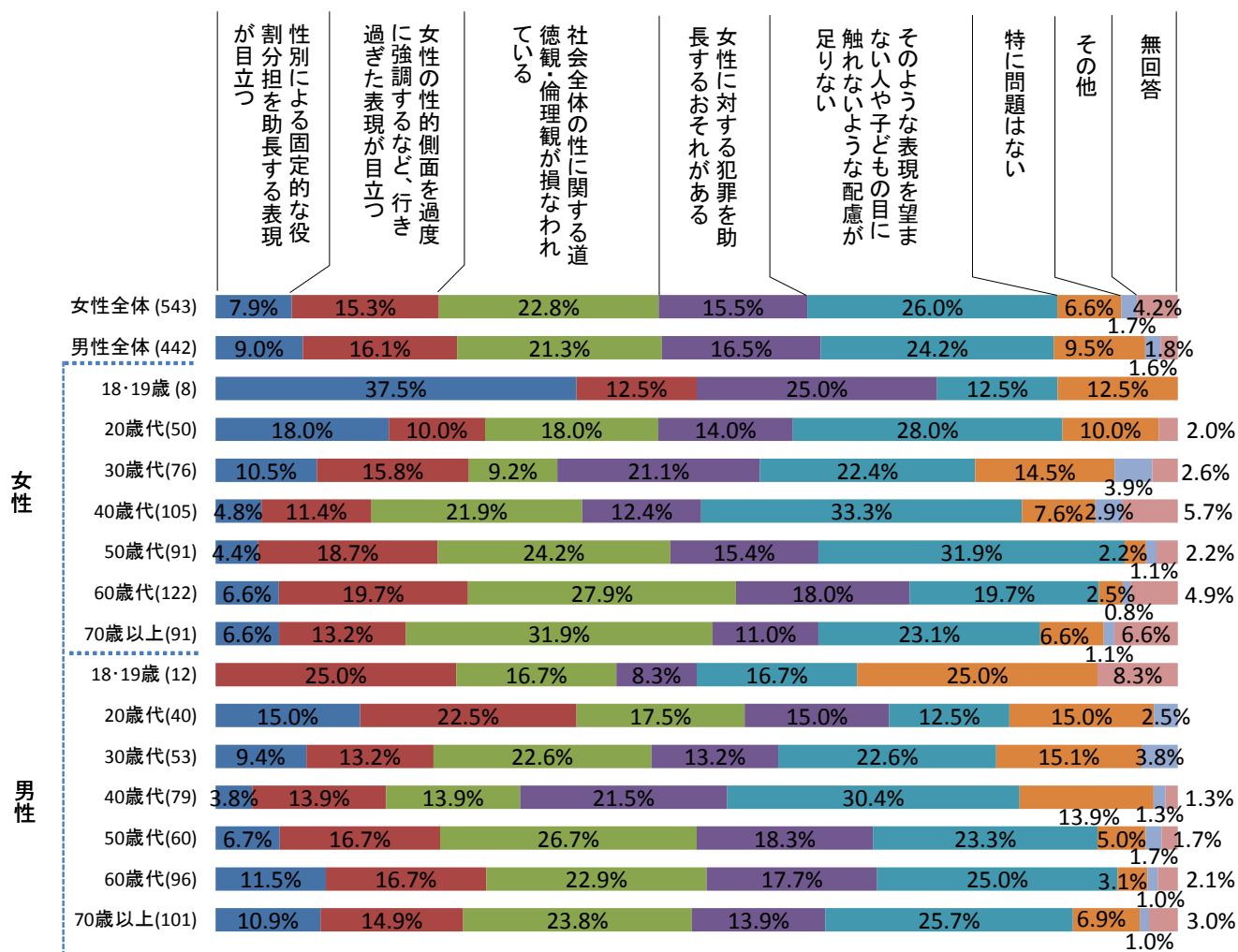
性・年齢別でみると、「社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている」が70歳以上の女性で、「そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない」が40歳代の女性で最も割合が高くなっています。



図表 1-16 メディアでの性に関する表現について



## ◇性別と年齢別の結果



## 2 家庭生活・子育てについて

### 問4 家庭生活での役割分担

| 問4 あなたの家庭では、次の（１）～（８）について、主に男性、女性のどちらが行っていますか。 |                |                      |                        |           |            |        |        |                   |
|------------------------------------------------|----------------|----------------------|------------------------|-----------|------------|--------|--------|-------------------|
|                                                | 家事（炊事・洗濯・掃除など） | 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など） | 介護（介護に必要な親の世話、病人の介護など） | 地域の行事への参加 | 自治会、PTA 活動 | 生活費の確保 | 家計の管理  | 高額な商品や土地、家屋の購入の決定 |
| 主に男性が行っている                                     | 3.8%           | 1.0%                 | 2.1%                   | 28.3%     | 14.3%      | 52.5%  | 10.3%  | 36.2%             |
| 共同して分担している                                     | 19.1%          | 27.7%                | 15.5%                  | 29.9%     | 30.8%      | 29.6%  | 17.7%  | 45.7%             |
| 主に女性が行っている                                     | 70.6%          | 42.8%                | 25.7%                  | 27.5%     | 36.3%      | 9.6%   | 64.2%  | 4.0%              |
| その他                                            | 1.2%           | 1.7%                 | 1.7%                   | 2.8%      | 2.1%       | 1.6%   | 2.6%   | 1.9%              |
| 該当しない                                          | 2.8%           | 21.7%                | 47.7%                  | 8.3%      | 12.5%      | 4.3%   | 3.1%   | 9.0%              |
| 無回答                                            | 2.4%           | 5.0%                 | 7.3%                   | 3.1%      | 4.0%       | 2.4%   | 2.1%   | 3.1%              |
| 計                                              | 100.0%         | 100.0%               | 100.0%                 | 100.0%    | 100.0%     | 100.0% | 100.0% | 100.0%            |

家庭生活・子育てについて聞いたところ、家事については、70.6%が主に女性であり、埼玉県調査（71%）と同様の傾向にあります。地域の行事への参加は男性 28.3%、女性 27.5%となっていますが、埼玉県調査では男性 17.6%、女性 30.2%となっています。

年齢別でみると、「家事（炊事・洗濯・掃除など）」では、「主に女性が行っている」が 30 歳代、40 歳代、60 歳代で 7 割を越え、20 歳代、50 歳代、70 歳以上で 6 割を超えて高くなっています。

「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」では、「主に女性が行っている」が 40 歳代、50 歳代で 5 割を超えて最も高く、「共同して分担している」が 30 歳代で 4 割を超えています。

「介護（介護に必要な親の世話、病人の介護など）」では、「主に女性が行っている」50 歳代、60 歳代で 3 割台半ばと高くなっています。

「地域の行事への参加」では、「主に男性が行っている」が 50 歳代で 38.1%、「共同して分担している」では 30 歳代が 39.7%、「主に女性が行っている」が 40 歳代で 35.9%と高くなっています。

「自治会、PTA 活動」では、「主に女性が行っている」が 40 歳代で 5 割を超えています。

「生活費の確保」では、「主に男性が行っている」が 50 歳代で 60.7%と最も高くなっており、20 代を除いた年代で「主に男性が行っている」が半数を超えています。

「家計の管理」では、「主に女性が行っている」が 20 歳代を除いた年代で 6 割を超えており、20 歳代でも 5 割を超えています。

「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」では、「共同して分担している」が 50 歳代、30 歳代で 5 割台となっています。

地区別でみると、「家事（炊事・洗濯・掃除など）」では、「主に女性が行っている」が北部地区、南部地区で 7 割台半ばと高くなっています。

「子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）」では、「主に女性が行っている」が北部地区、中央地区



で4割を越えており、南部地区では「共同して分担している」と「主に女性が行っている」が同率となっています。

「介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）」では、「主に女性が行っている」は南部地区で31.1%となっており、「共同して分担している」では北部地区が23.3%と高くなっています。

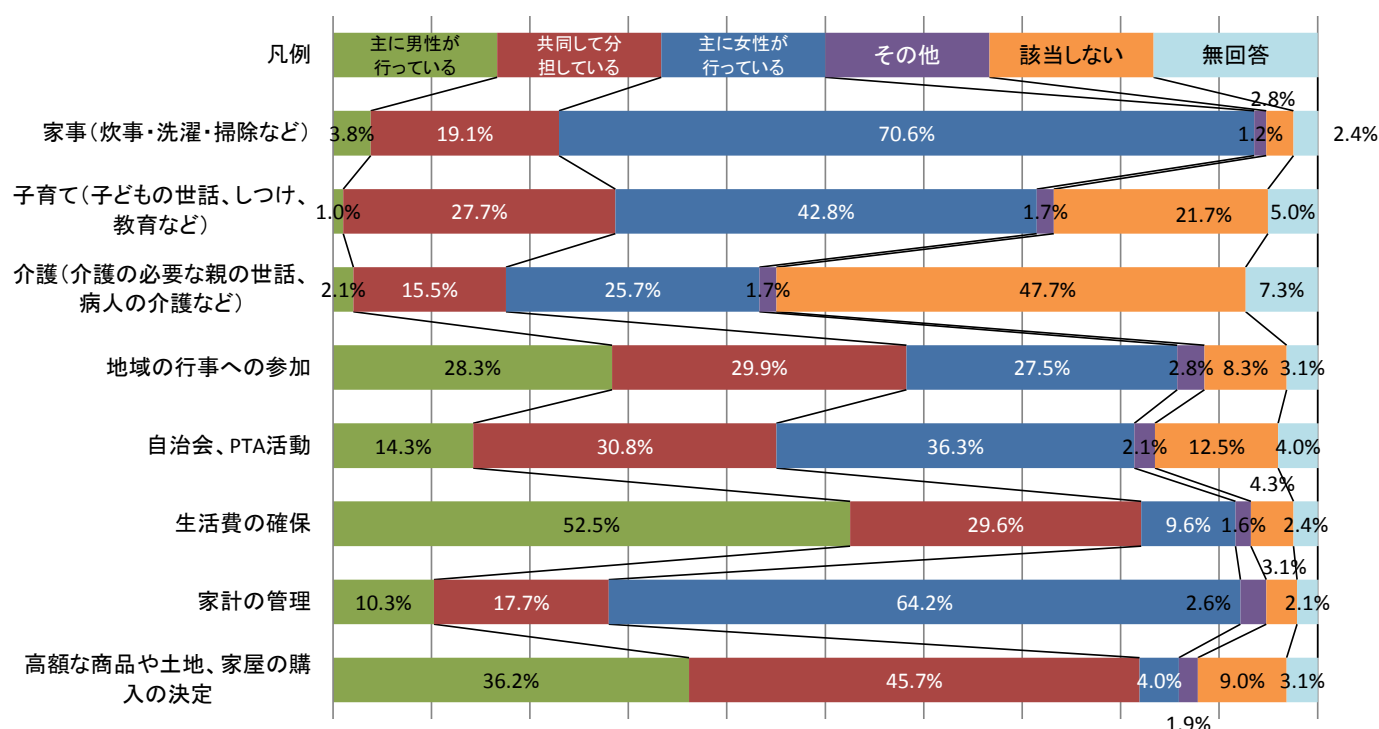
「地域の行事への参加」では、「主に男性が行っている」が北部地区で5割を越え、南部地区でも4割台半ばを越えて高くなっています。

「自治会、PTA活動」では、「共同して分担している」が北部地区で5割、「主に女性が行っている」が中央地区で4割台と高くなっています。

「生活費の確保」では、「主に男性が行っている」が全地区とも5割を超えています。

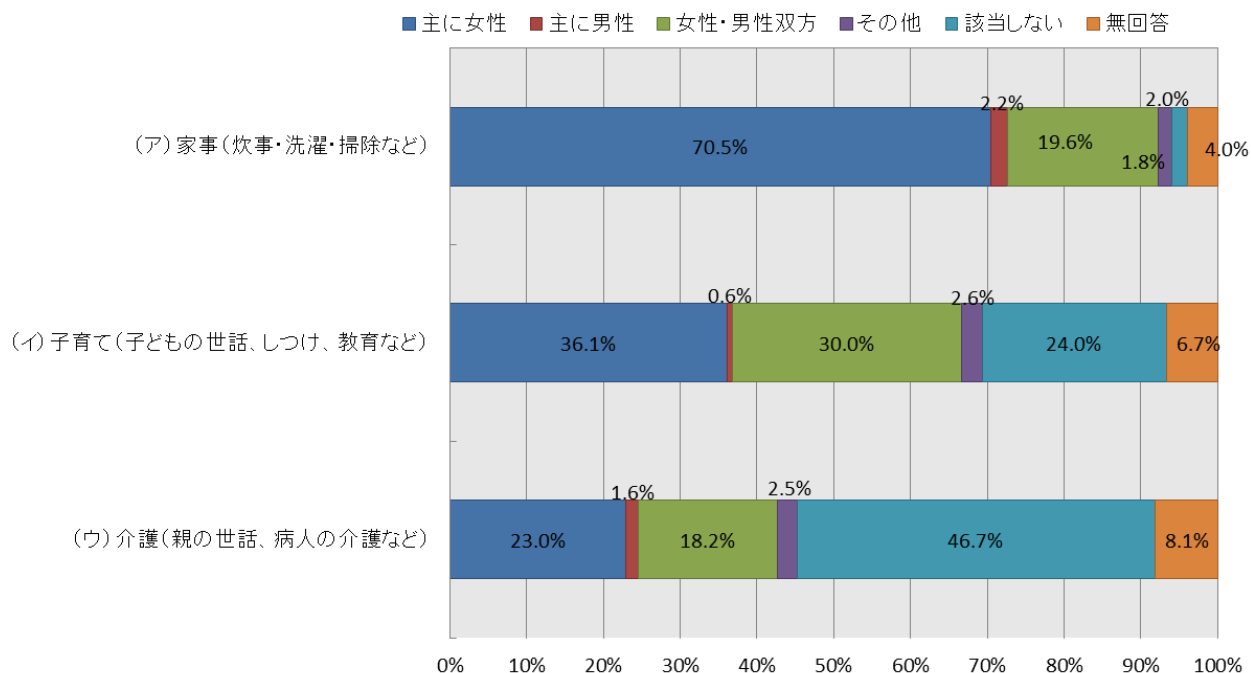
「家計の管理」では、「主に女性が行っている」が全地区とも6割台となっています。

「高額な商品や土地、家屋の購入の決定」では、「共同して分担している」が北部地区で47.7%と最も高く、次いで中央地区46.0%、南部地区41.9%となっています。



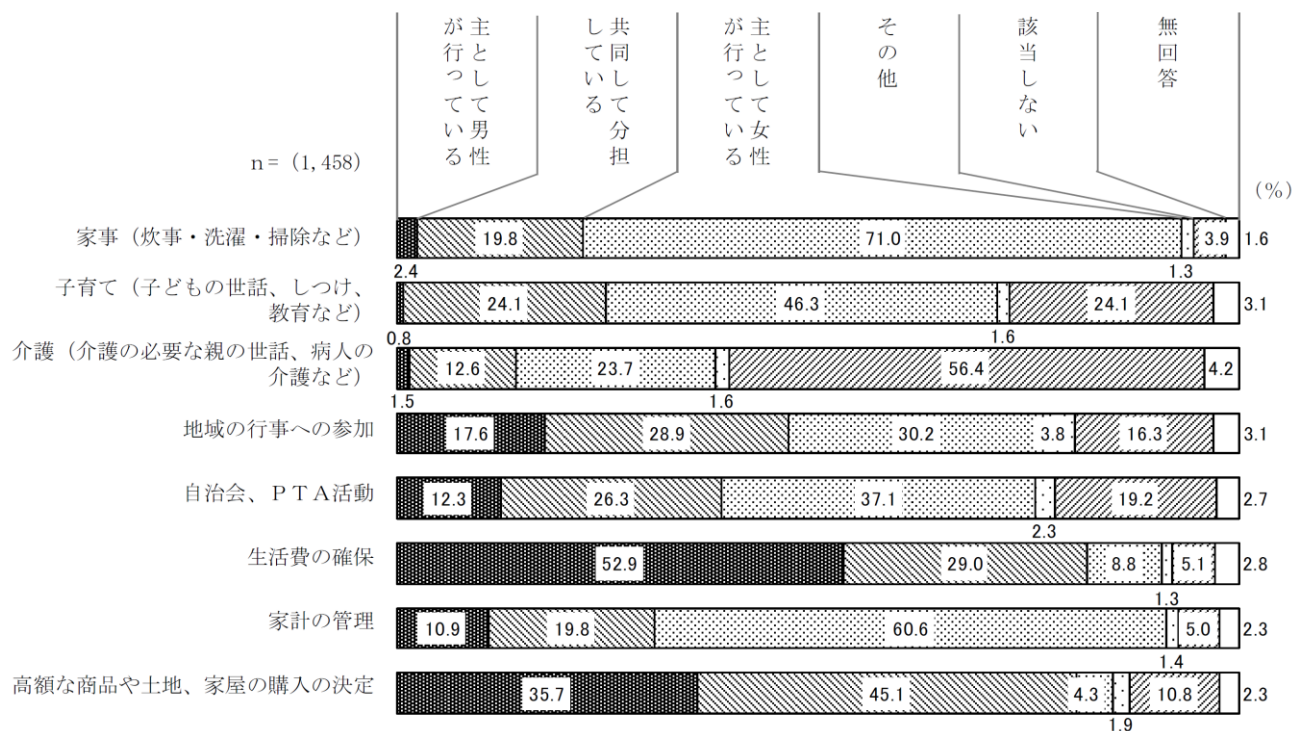
◇前回

問5 次の(ア)～(ウ)に関して、あなたの家庭では主にどなたが行っていますか。



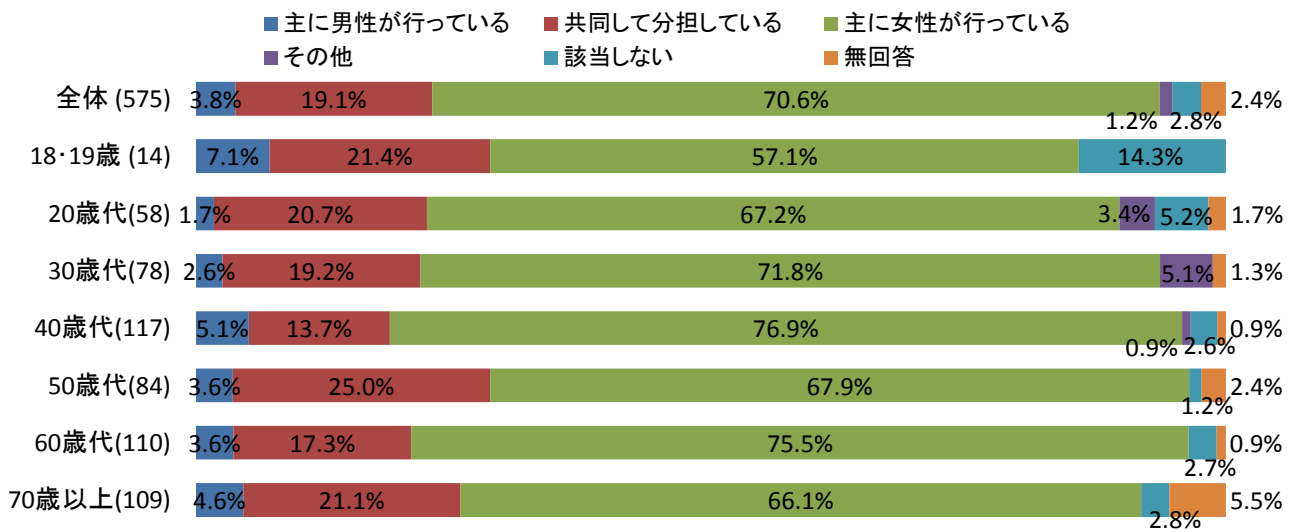
◇埼玉県

図表 2-1 家庭生活での役割分担

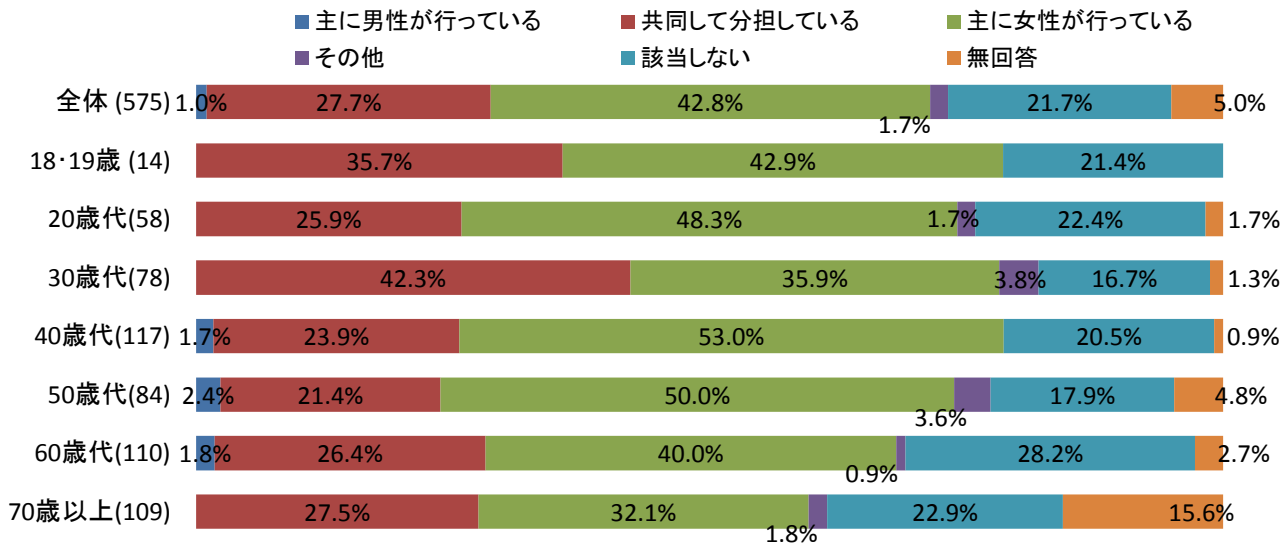


## ◇年齢別の結果

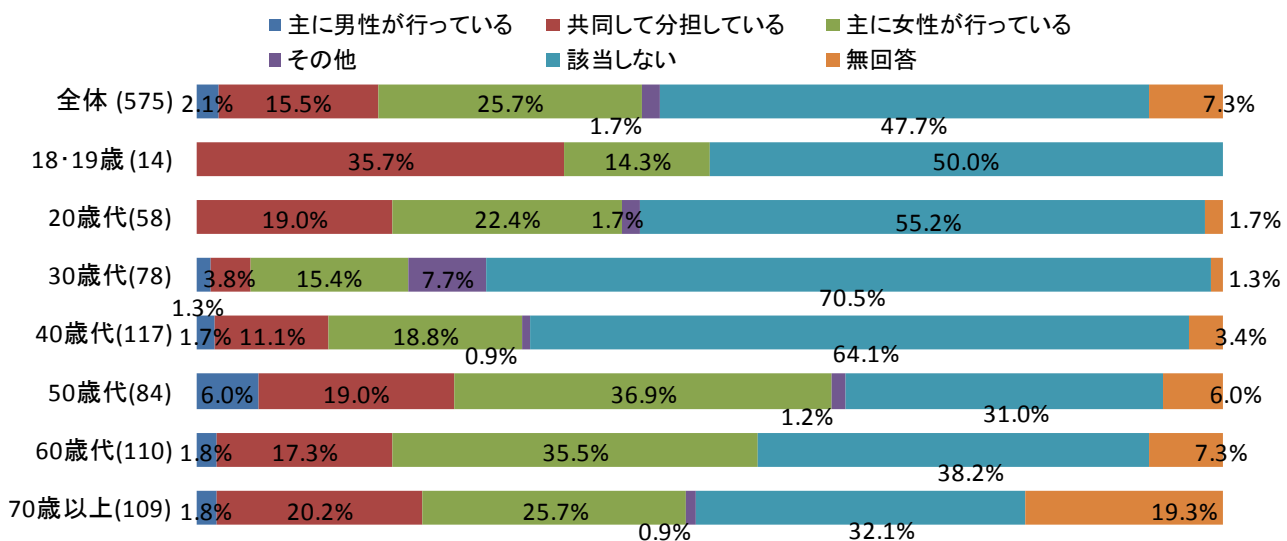
### (1) 家事（炊事・洗濯・掃除など）



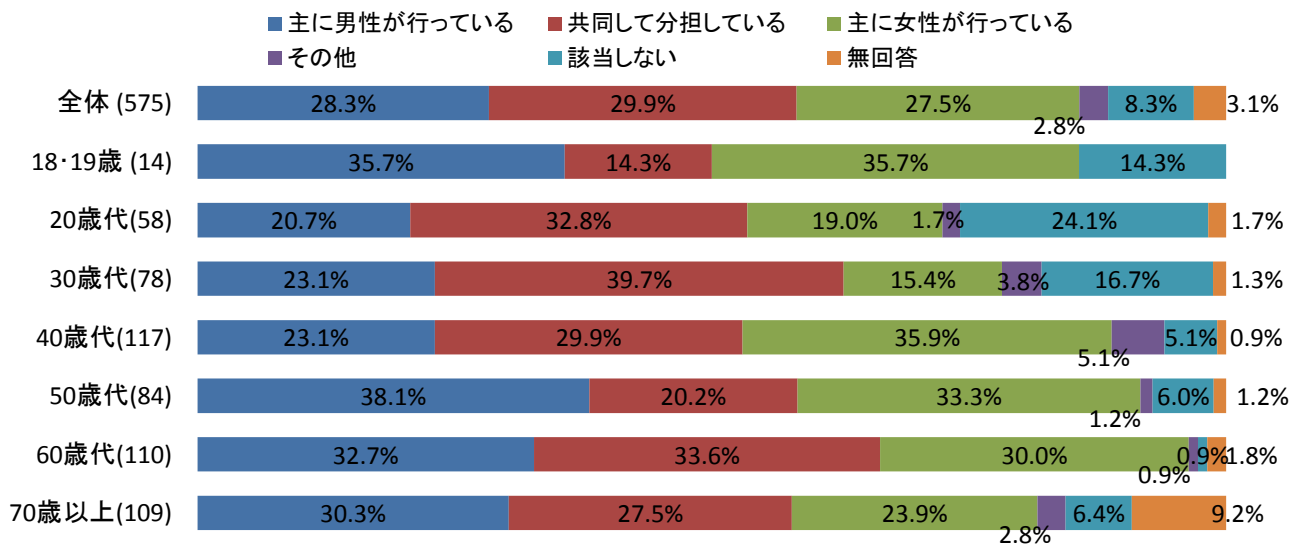
### (2) 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）



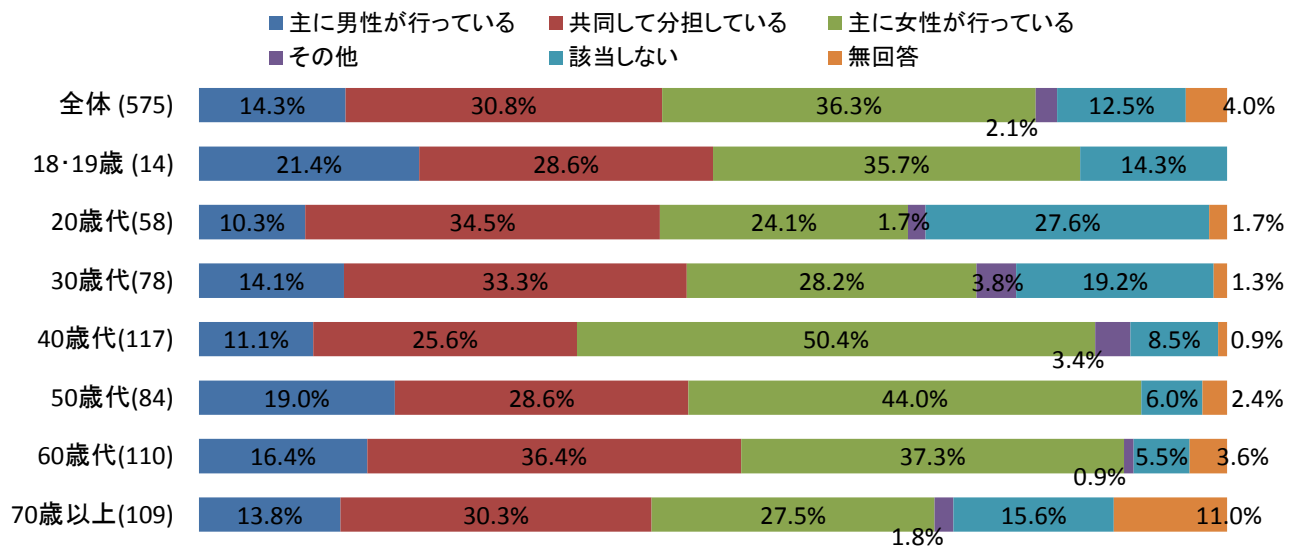
### (3) 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）



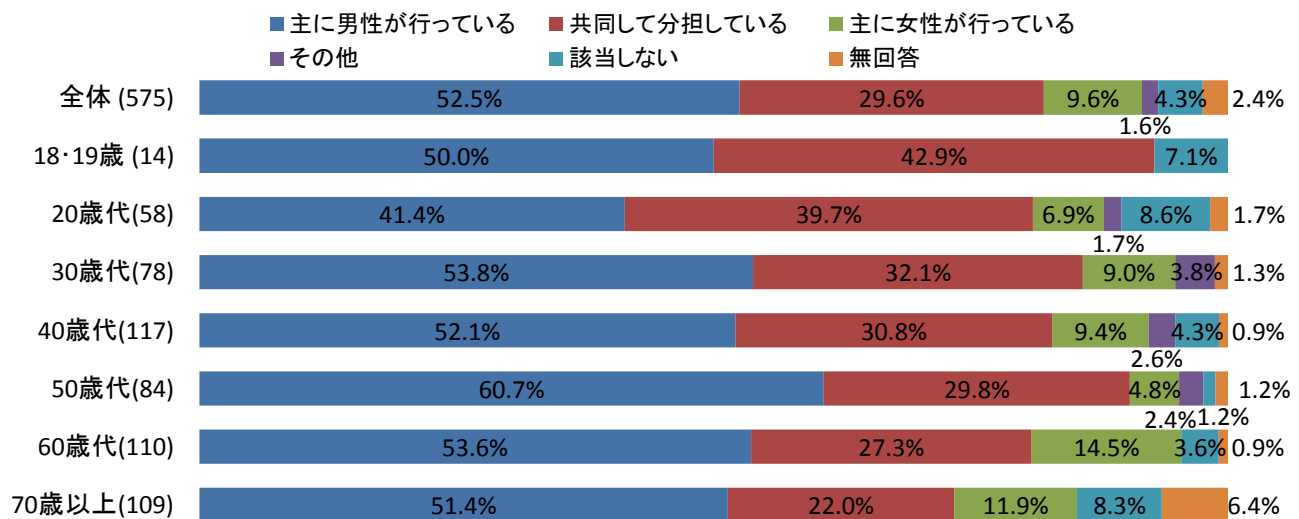
#### (4) 地域の行事への参加



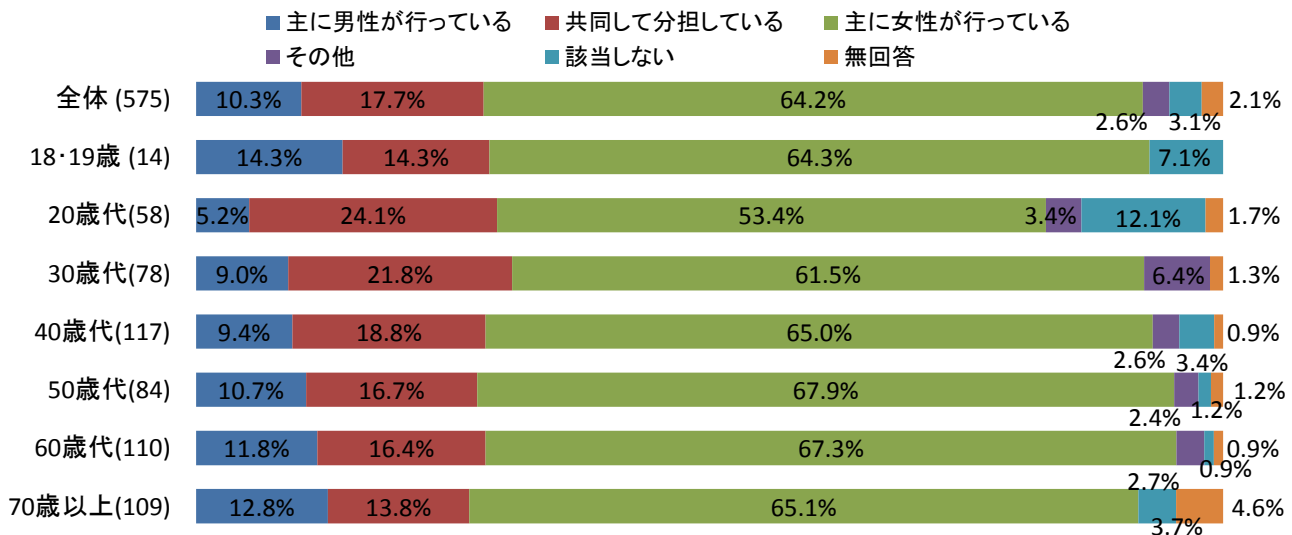
#### (5) 自治会、PTA活動



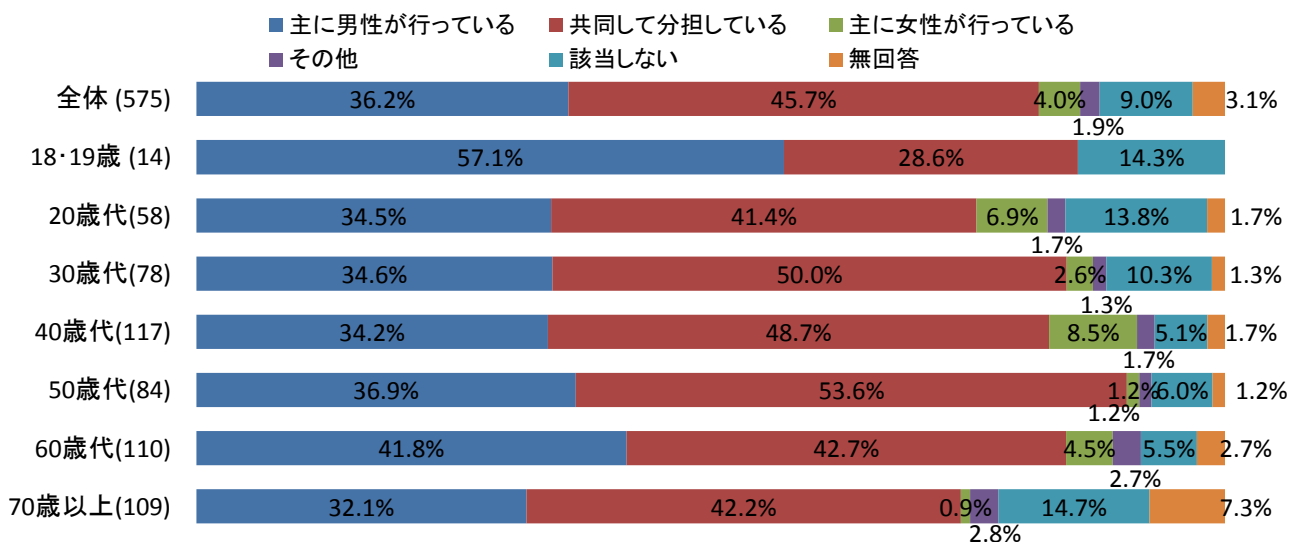
#### (6) 生活費の確保



## (7) 家計の管理

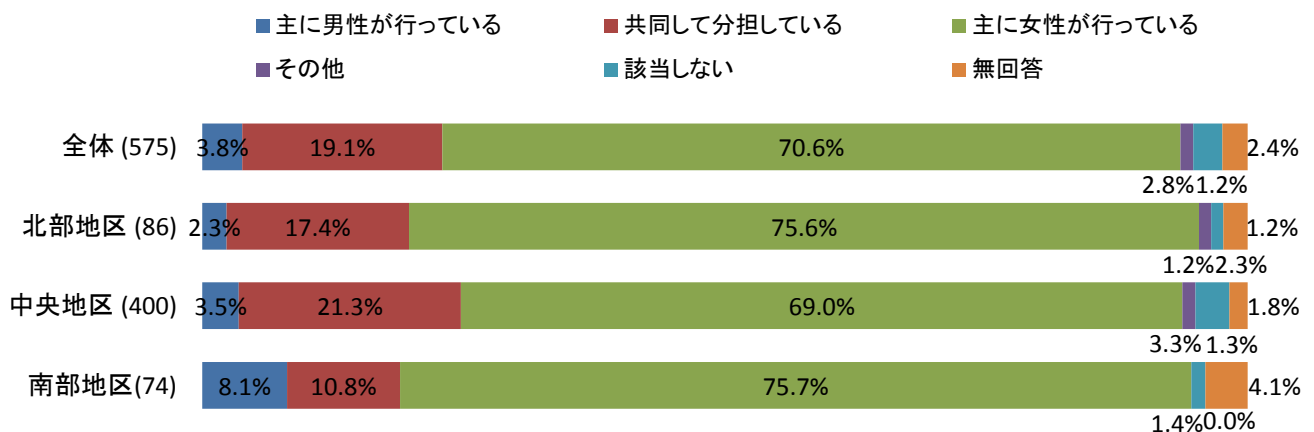


## (8) 高額な商品や土地、家屋の購入の決定

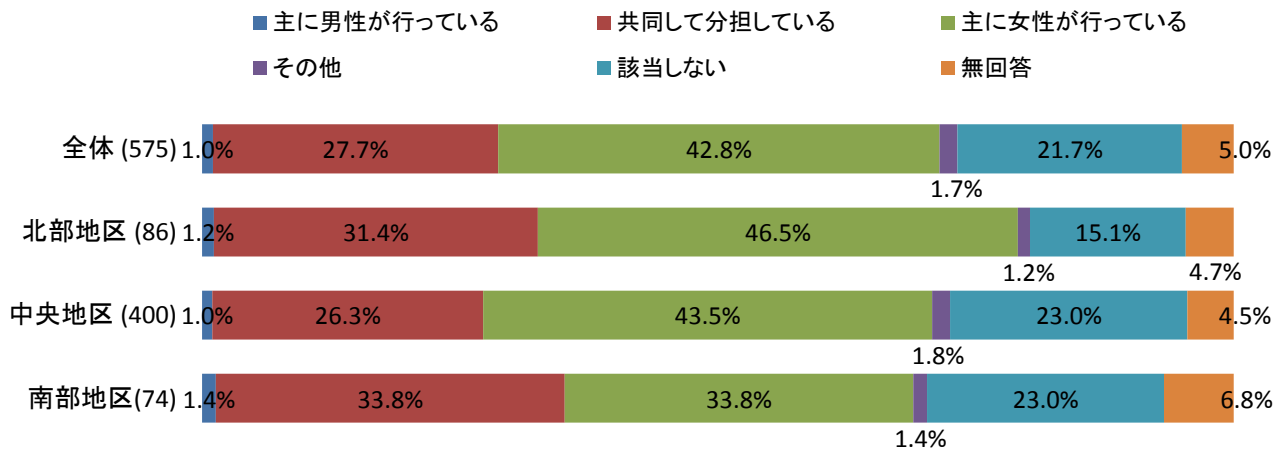


### ◇地区別の結果

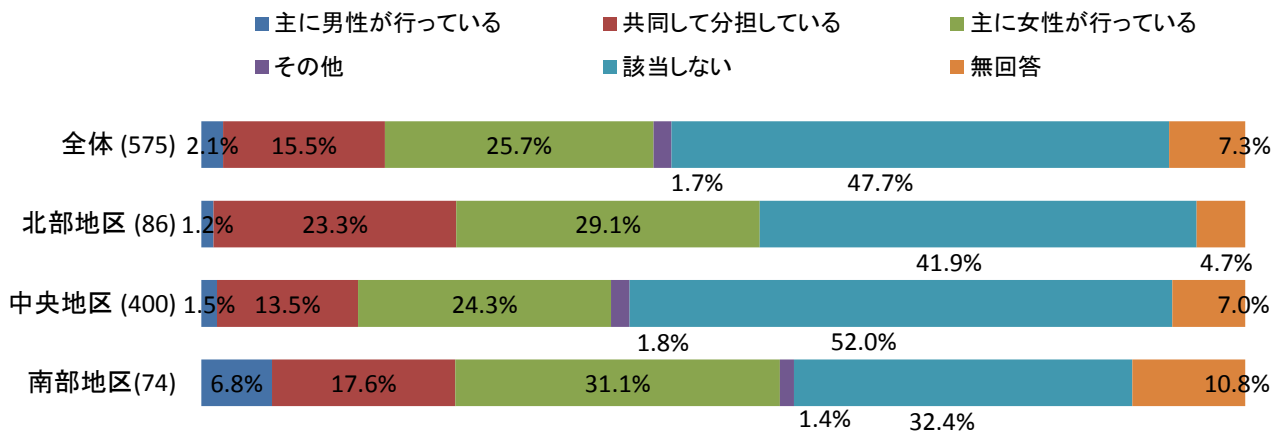
#### (1) 家事（炊事・洗濯・掃除など）



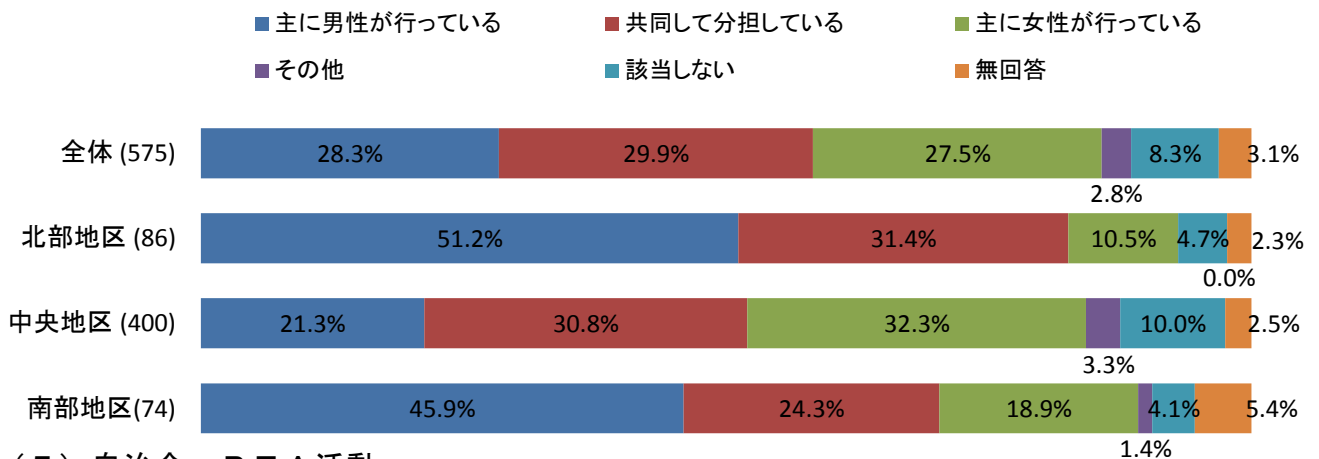
## (2) 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）



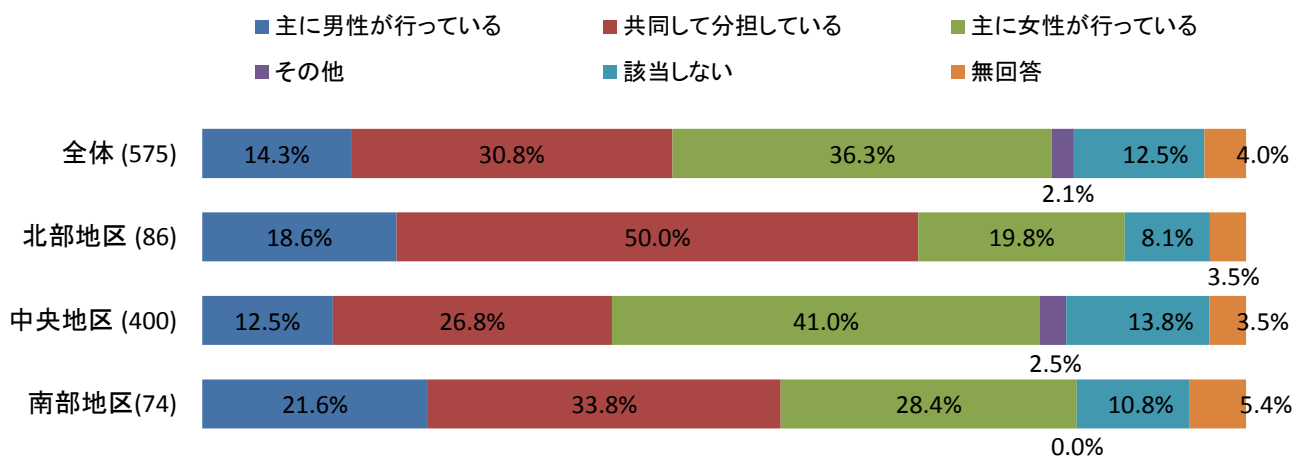
## (3) 介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など）



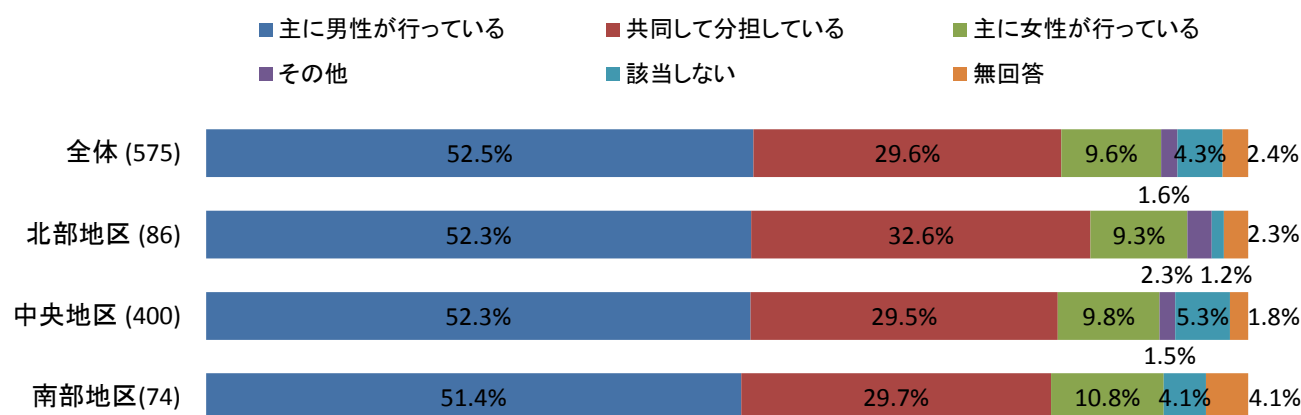
## (4) 地域の行事への参加



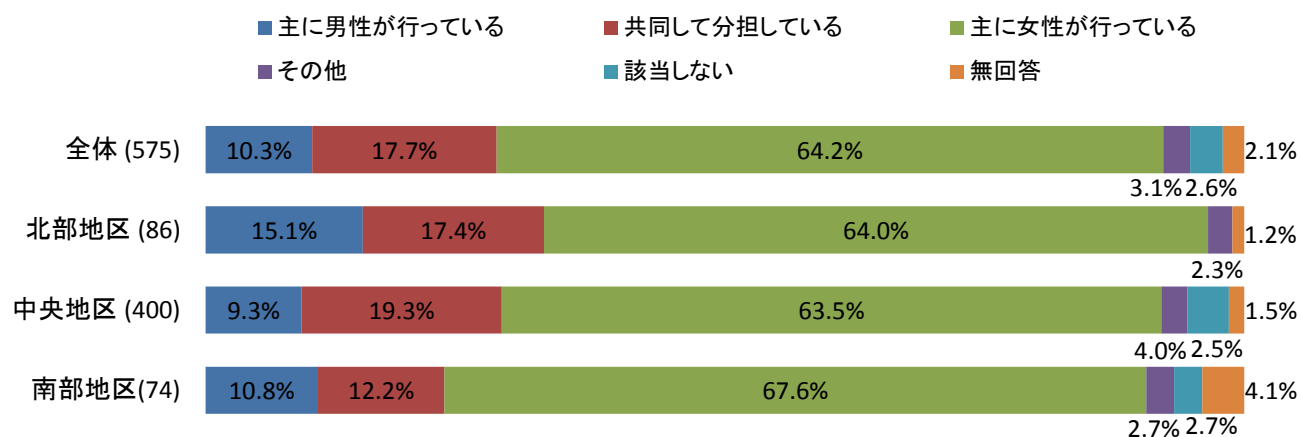
## (5) 自治会、PTA活動



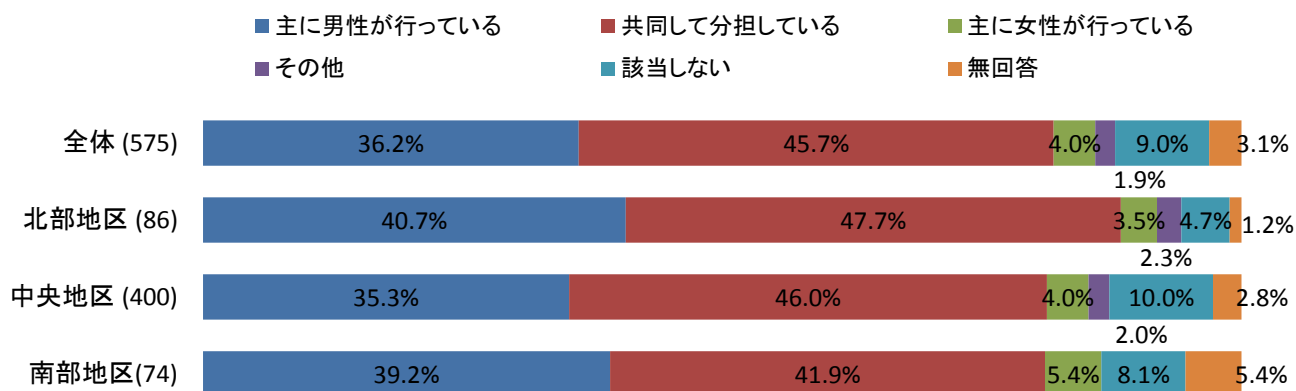
## （６）生活費の確保



## （７）家計の管理



## （８）高額な商品や土地、家屋の購入の決定



## 問5 家庭生活での現実と希望

問5 家庭生活（家事・子育て・介護）の考え方について、あなたは「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。

### 【現実】

|                                 | 回答数 | 構成比    |
|---------------------------------|-----|--------|
| (1) 仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念     | 49  | 8.5%   |
| (2) どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先  | 88  | 15.3%  |
| (3) 仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視         | 252 | 43.8%  |
| (4) どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先 | 113 | 19.7%  |
| (5) 家庭生活（家事・子育て・介護）に専念          | 51  | 8.9%   |
| 無回答                             | 22  | 3.8%   |
| 計                               | 575 | 100.0% |

### 【希望】

|                                 | 回答数 | 構成比    |
|---------------------------------|-----|--------|
| (1) 仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念     | 86  | 15.0%  |
| (2) どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先  | 51  | 8.9%   |
| (3) 仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視         | 293 | 51.0%  |
| (4) どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先 | 78  | 13.6%  |
| (5) 家庭生活（家事・子育て・介護）に専念          | 43  | 7.5%   |
| 無回答                             | 24  | 4.2%   |
| 計                               | 575 | 100.0% |

家庭生活での現実と希望について聞いたところ、理想と現実はいずれも概ね6ポイント程度差が出ています。埼玉県調査では、「どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先」、「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」の差が10ポイント以上の差となっています。

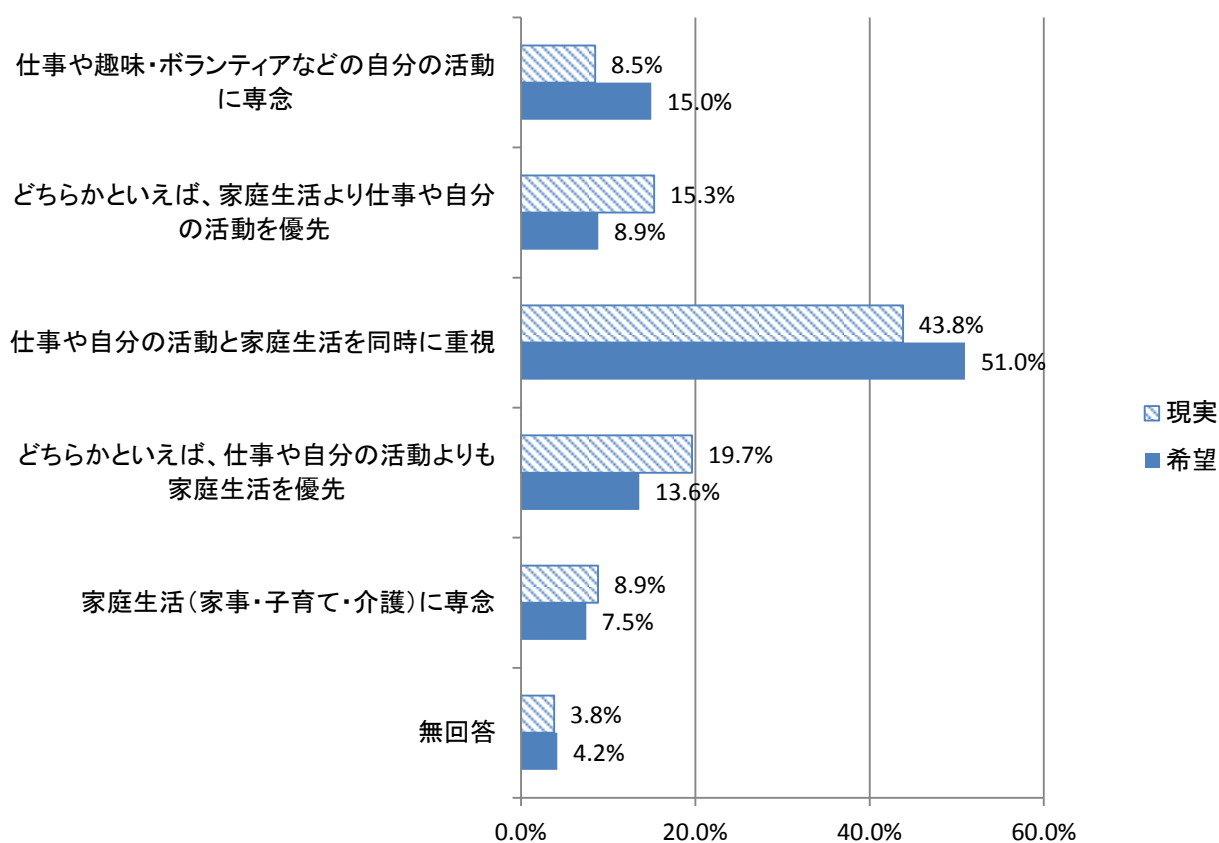
性別でみると、【現実】では男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が最も多く、女性が40.2%、男性が48.5%となっています。

また【希望】でも男女ともに「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が最も多くなっていますが、現実と希望の差をみると、男性は希望が0.4%とほとんど差がないのに対して、女性は希望が13.4%多くなっています。

性・年齢別でみると、【現実】では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が女性、男性とも50歳代が最も高く、女性50.0%、男性62.5%となっています。また【希望】でも「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が女性、男性とも50歳代が最も高く、女性65.9%、男性60.0%となっています。

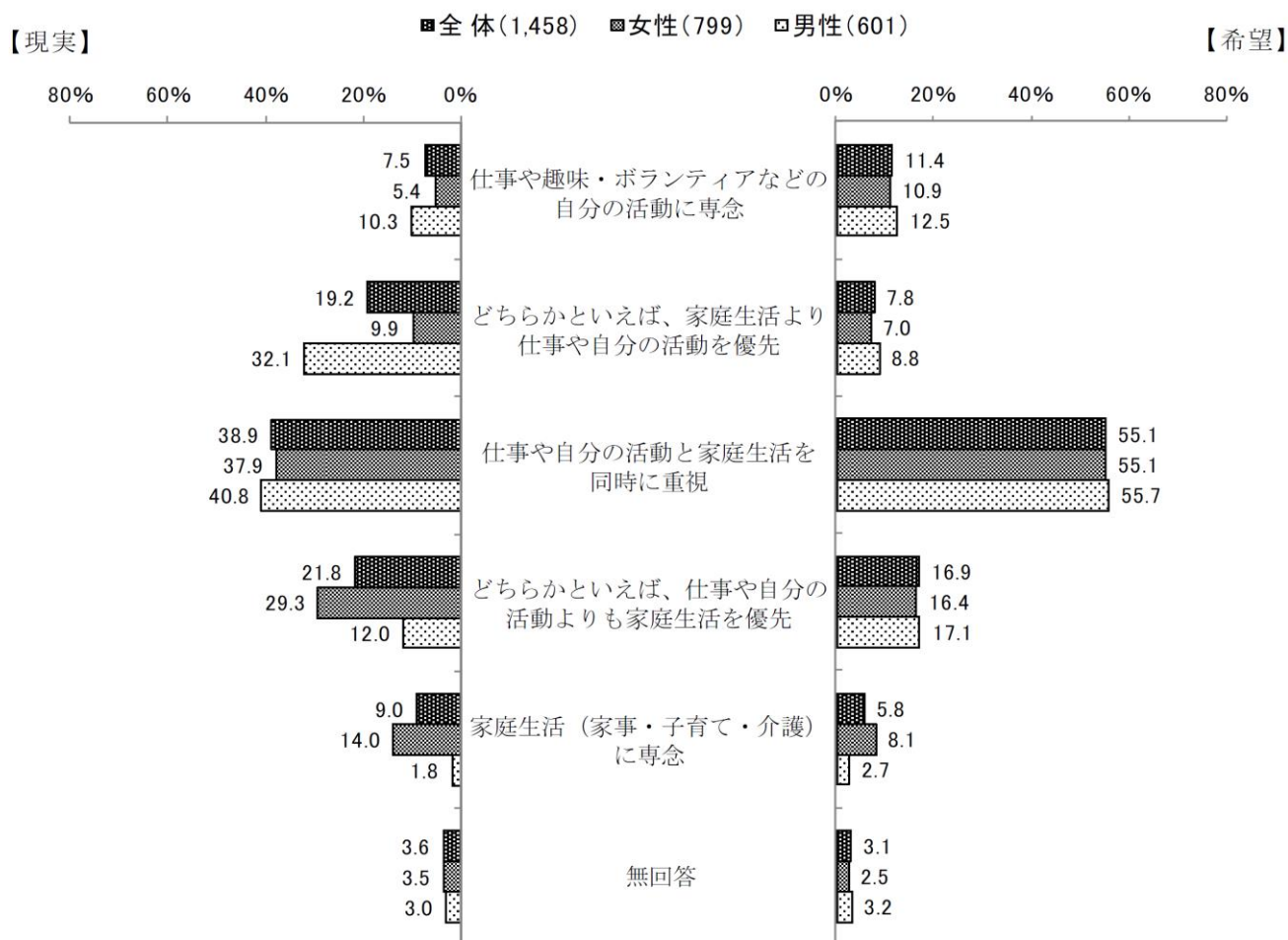
性・地区別でみると、【現実】では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」が北部地区の女性、男性ともに最も高く、北部地区女性が44.4%、男性52.5%となっています。また【希望】では「仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視」で中央地区の女性、男性ともに最も高く、中央地区女性が56.9%、男性50.3%となっています。





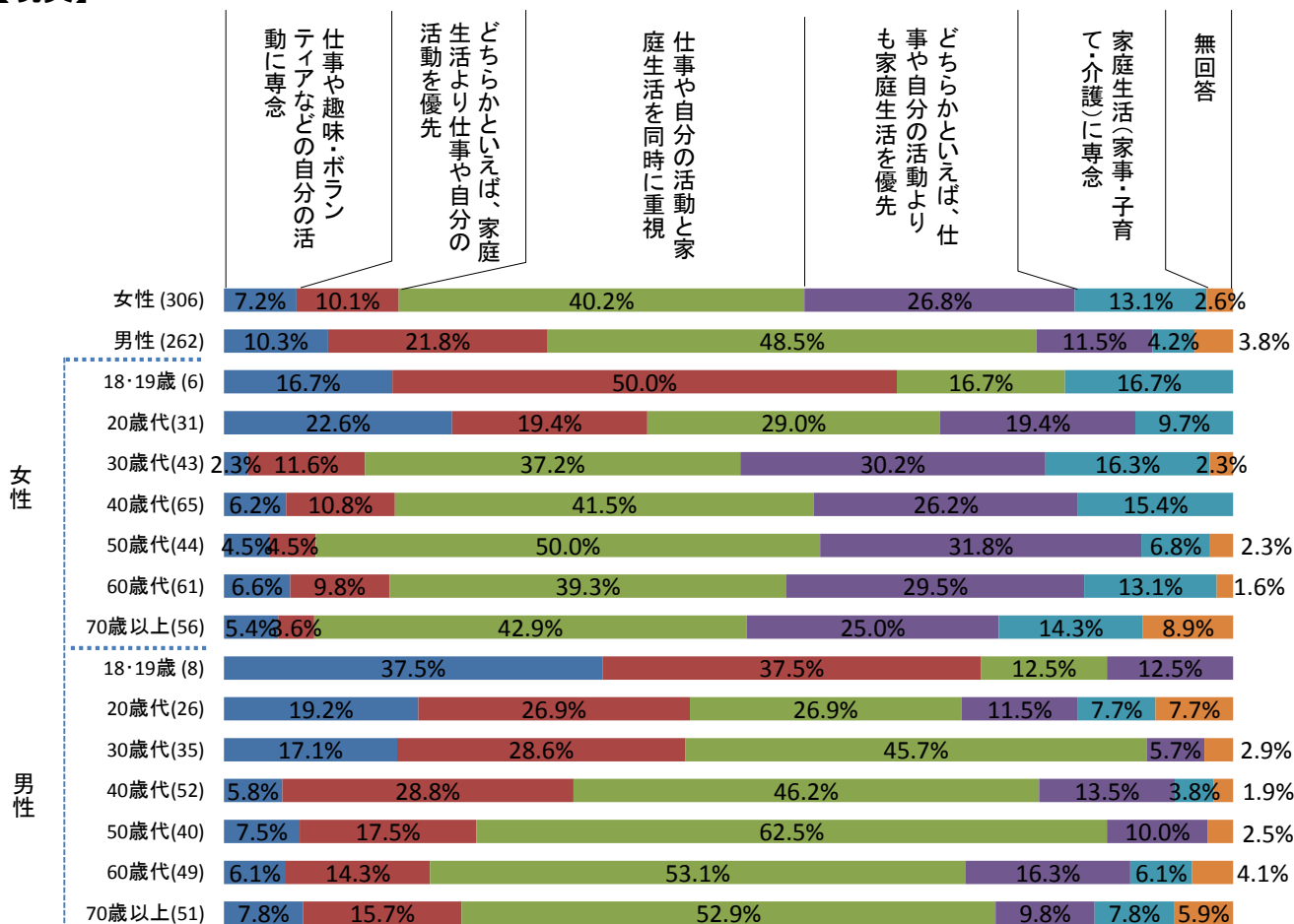
◇埼玉県

図表 2-7 家庭生活の優先度

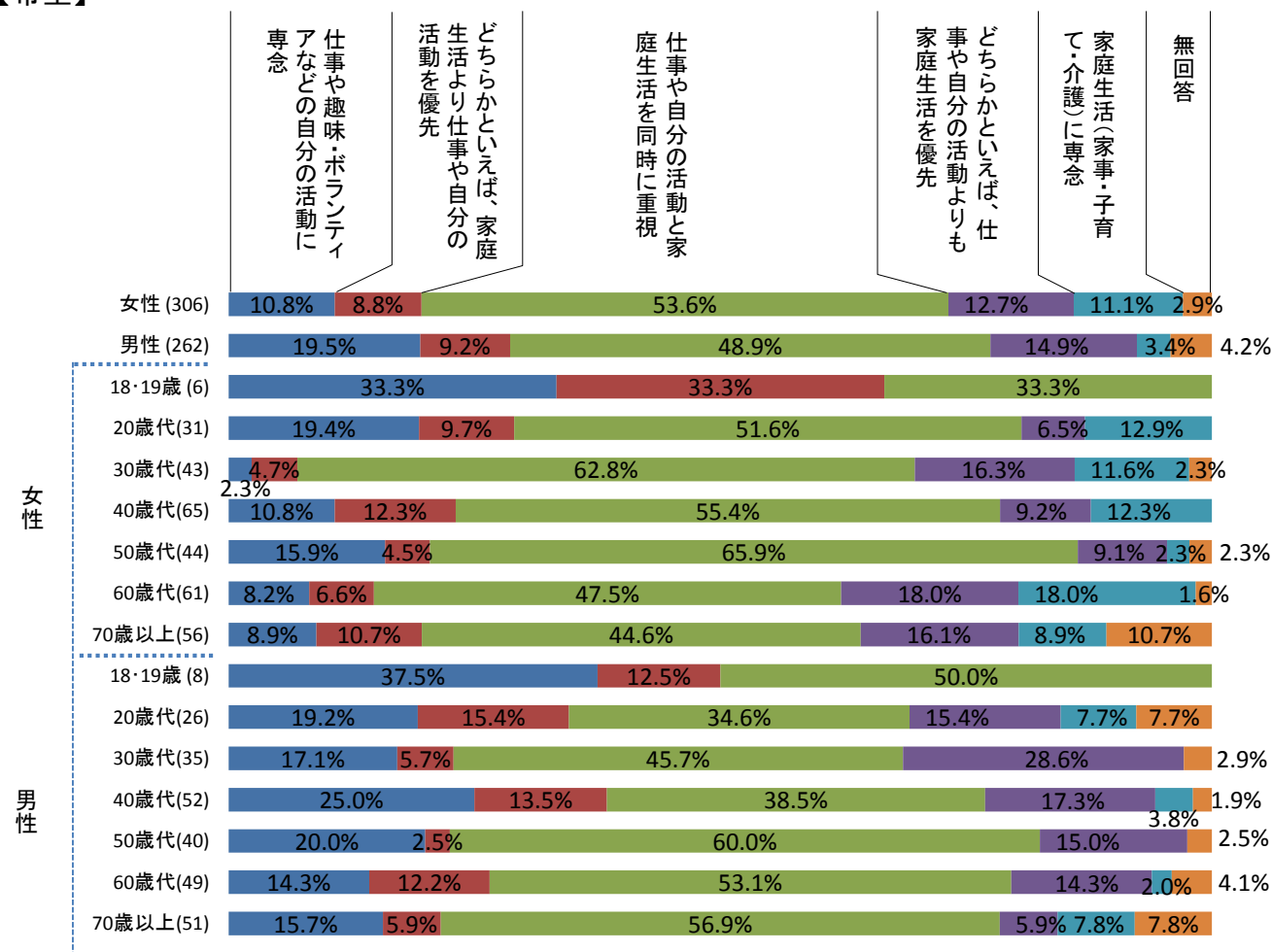


## ◇性別と年齢別の結果

### 【現実】

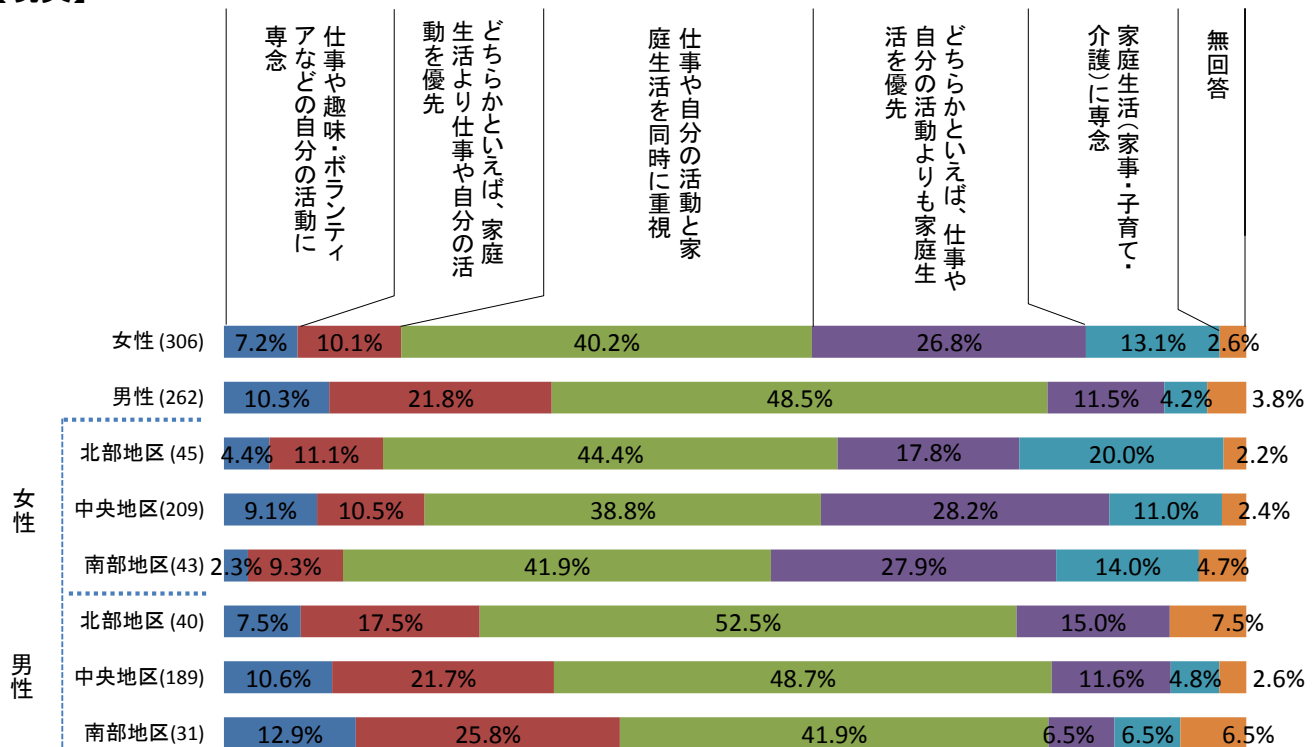


### 【希望】

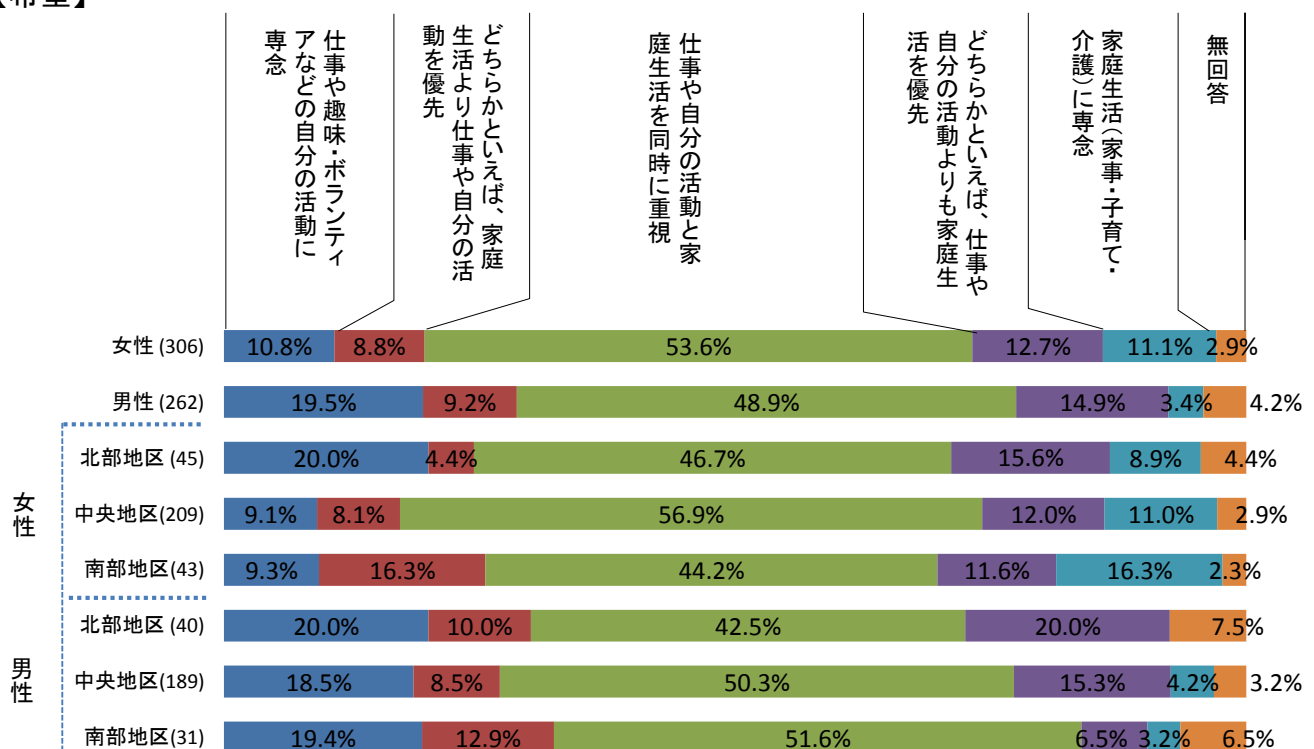


## ◇性別と地区別の結果

### 【現実】



### 【希望】



### 3 就業・仕事についてお伺いします

#### 問6 女性の働き方

問6 一般的に女性の働き方について、あなたはどのようにお考えですか。

|                                             | 回答数 | 構成比    |
|---------------------------------------------|-----|--------|
| (1) 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい                  | 124 | 21.6%  |
| (2) 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい       | 98  | 17.0%  |
| (3) 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい      | 132 | 23.0%  |
| (4) 結婚後又は子育て終了時から仕事をもつ方がよい                  | 35  | 6.1%   |
| (5) 子どもができるまでは仕事もち、子どもができたらか家事や子育てに専念する方がよい | 68  | 11.8%  |
| (6) 結婚するまで仕事もち、結婚後は家事などに専念する方がよい            | 14  | 2.4%   |
| (7) 女性は仕事をもたない方がよい                          | 5   | 0.9%   |
| (8) わからない                                   | 34  | 5.9%   |
| (9) その他                                     | 55  | 9.6%   |
| 無回答                                         | 10  | 1.7%   |
| 計                                           | 575 | 100.0% |

女性の働き方について聞いたところ、「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が前回同様一番多くなっています（23.0%）。前回では、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が11%でしたが、今回は21.6%と10ポイントも増加しました。今回調査と埼玉県調査の傾向は似ています。

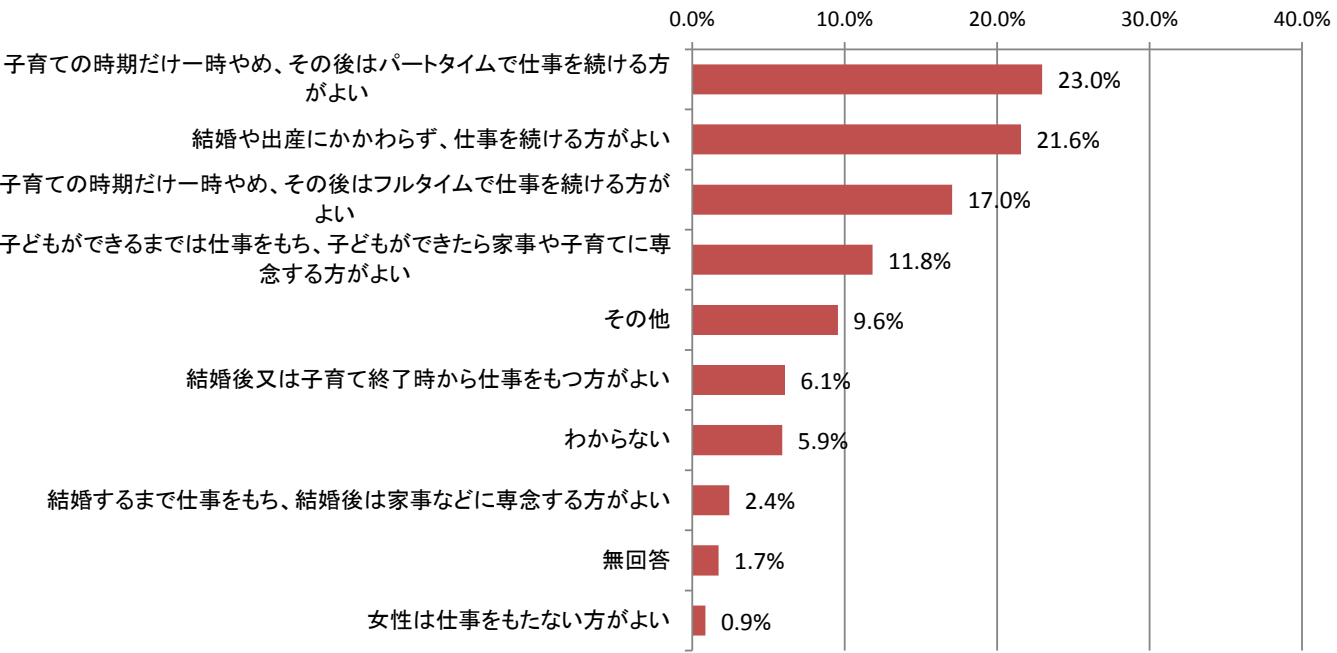
性別でみると、女性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が25.5%と最も高く、男性では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」が22.5%と最も高くなっています。

性・年齢別でみると、女性では30歳代の「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が32.6%と最も高くなっています。男性では18・19歳の「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」37.5%、次いで40歳代の「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」28.8%となっています。

性・地区別でみると、女性では北部地区の「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が31.1%と最も高く、男性では南部地区の「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」と「子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」が最も高く、同率の29.0%となっています。

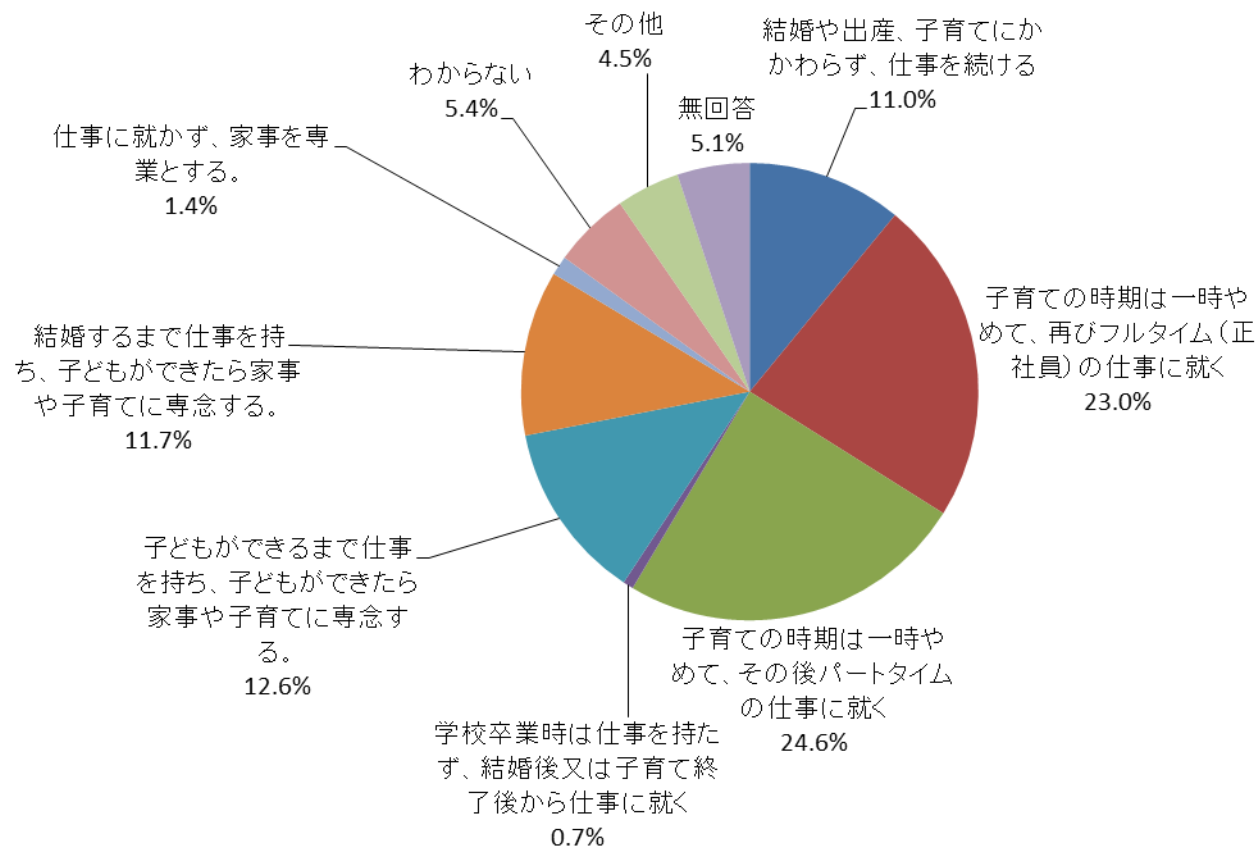
性・学歴別でみると、女性では「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」が専門学校・各種

学校と4年生大学、大学院で3割を越えています。男性では「子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」が専門学校・各種学校で3割となっています。



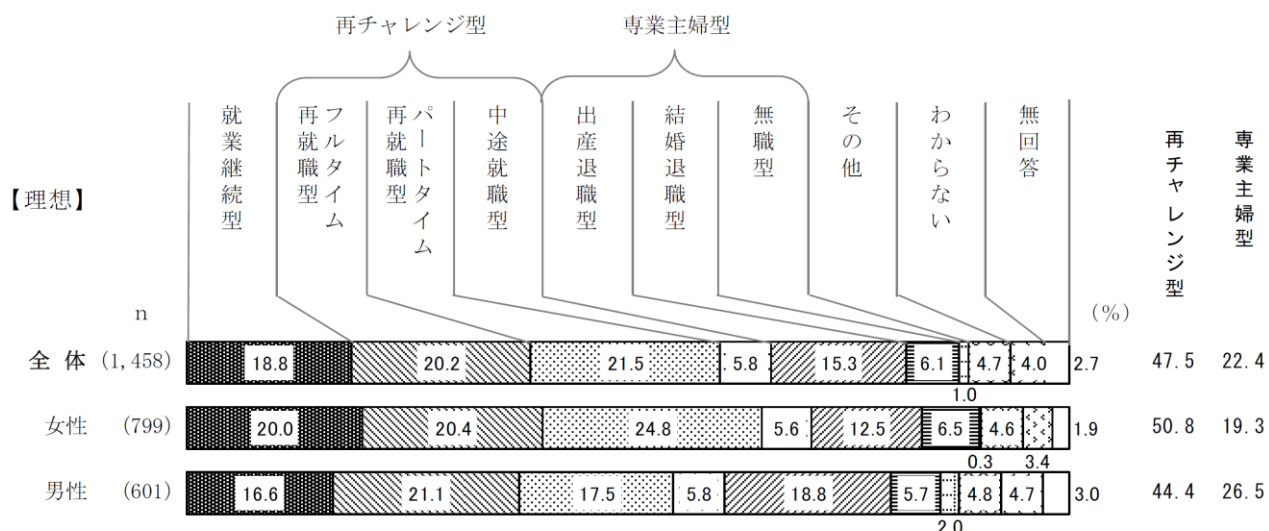
◇前回

問6 一般的に、女性の働き方について、あなたが望ましいと思うものはどれですか。



◇埼玉県

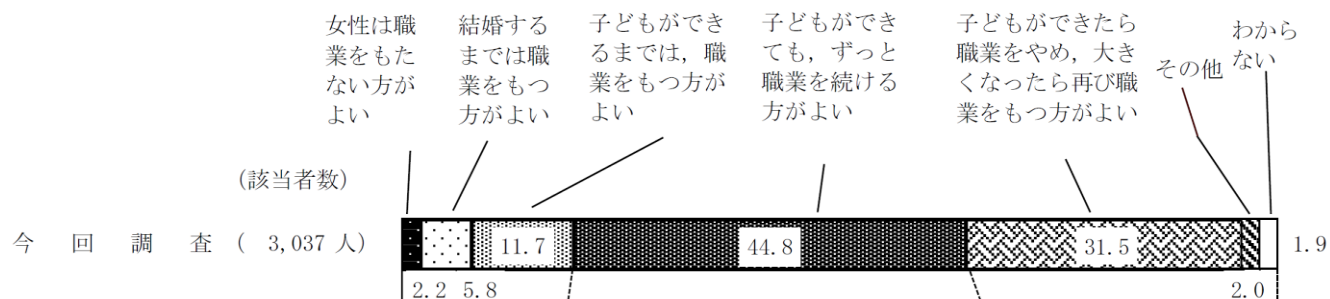
図表 3－1 女性の働き方の理想と現実



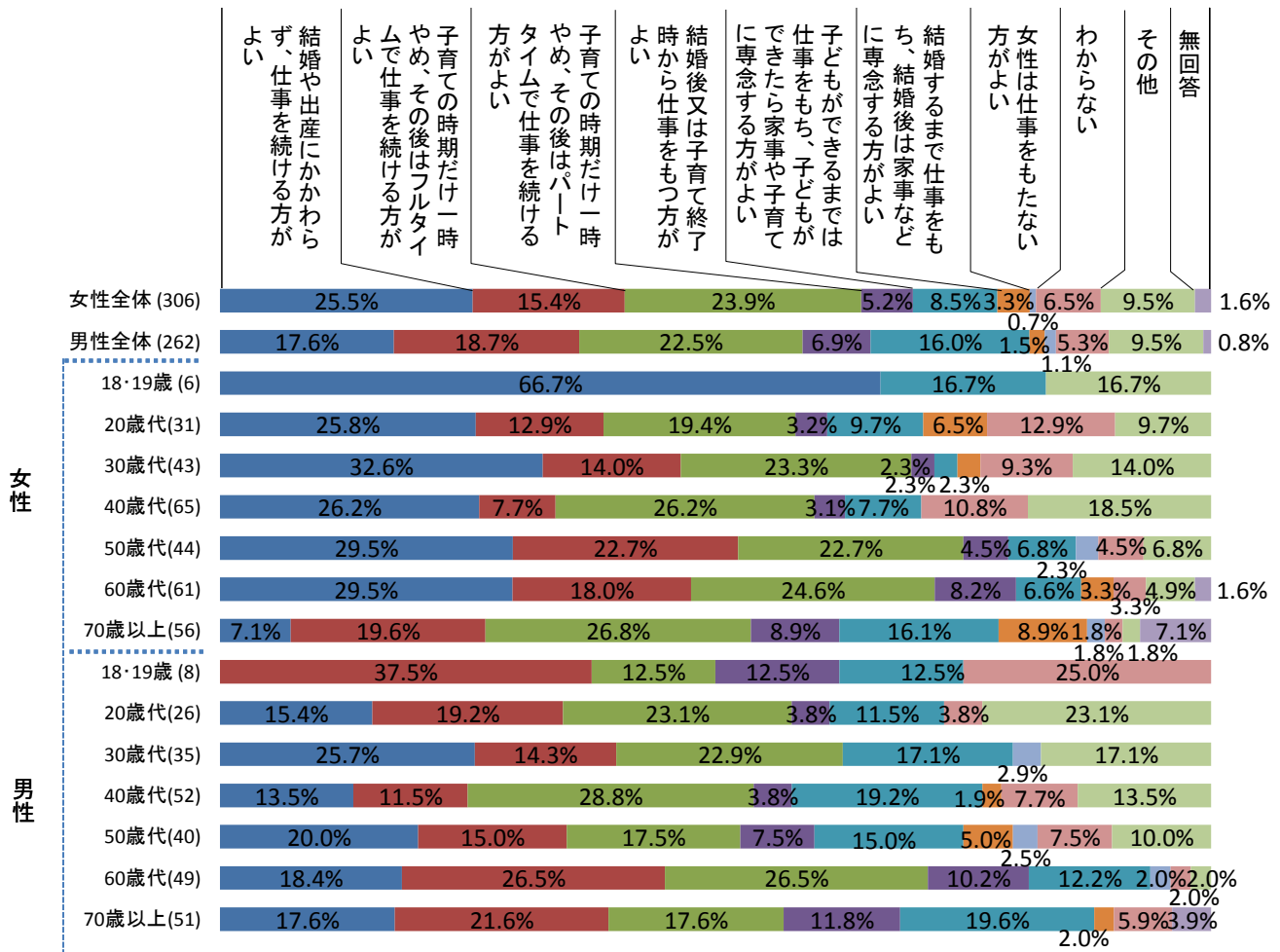
※説明を簡略化するため、以下のように選択肢を再定義している。

| 本来の選択肢                               | 再定義した選択肢      |
|--------------------------------------|---------------|
| 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける                   | 就業継続 (型)      |
| 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける        | フルタイム再就職 (型)  |
| 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける       | パートタイム再就職 (型) |
| 結婚後または子育て終了時から仕事をもつ                  | 中途就職 (型)      |
| 子どもができるまでは仕事をもち、子どもができたなら家事や子育てに専念する | 出産退職 (型)      |
| 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事などに専念する            | 結婚退職 (型)      |
| 仕事はもたない                              | 無職 (型)        |

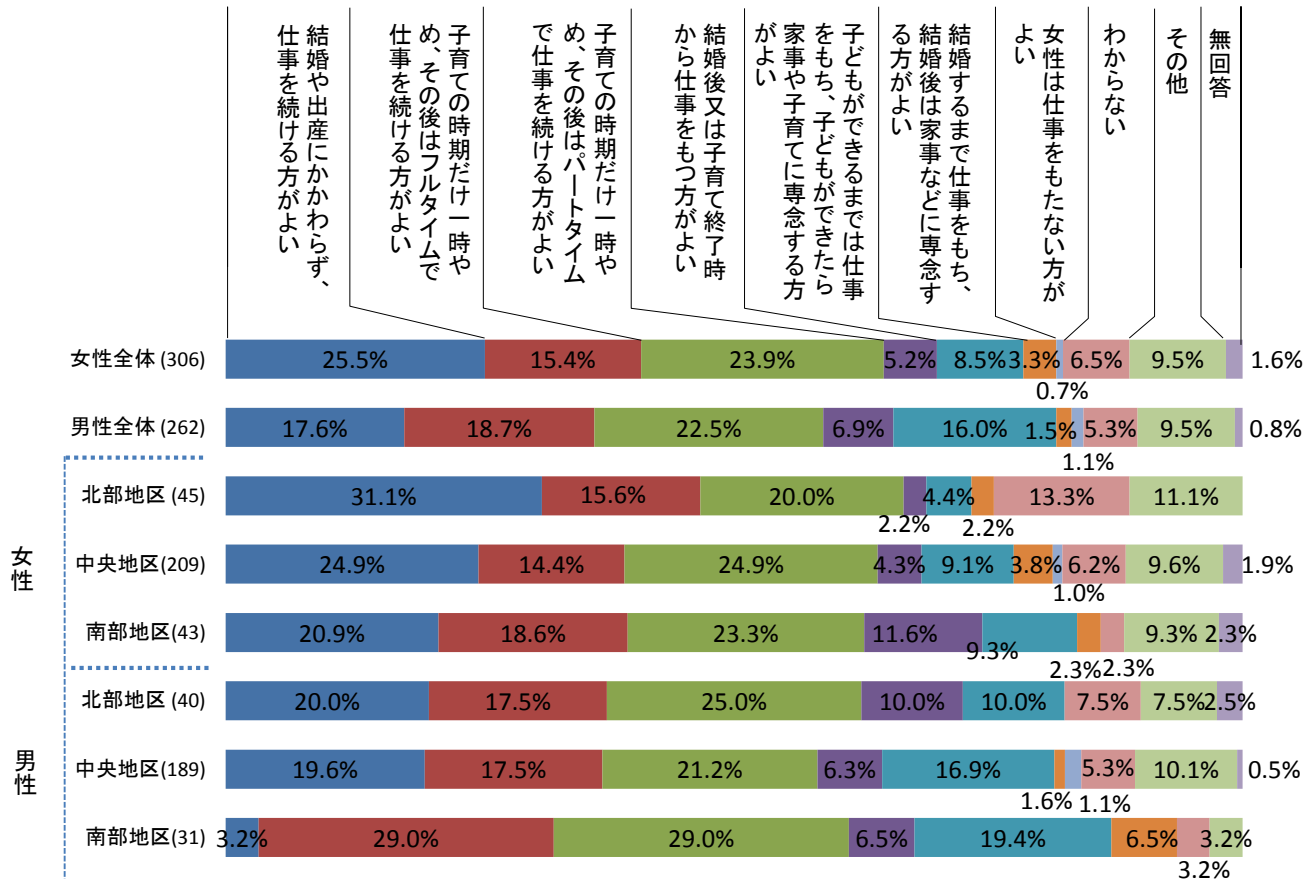
◇内閣府



## ◇性別と年齢別の結果

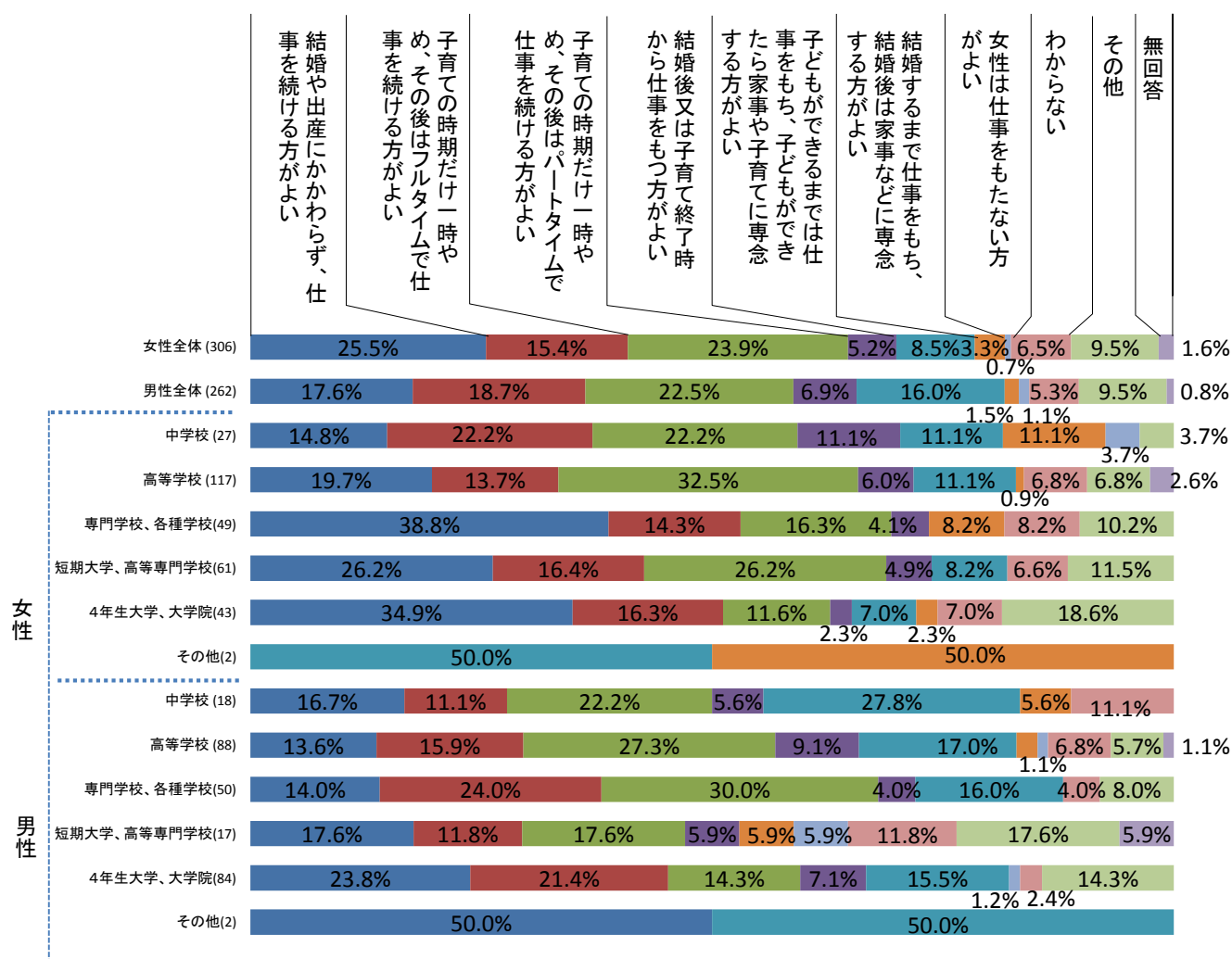


## ◇性別と地区別の結果





## ◇性別と学歴別の結果





## 問7 自分自身の働き方

問7 あなたは、現在の自分自身の働き方について、どうお考えですか。

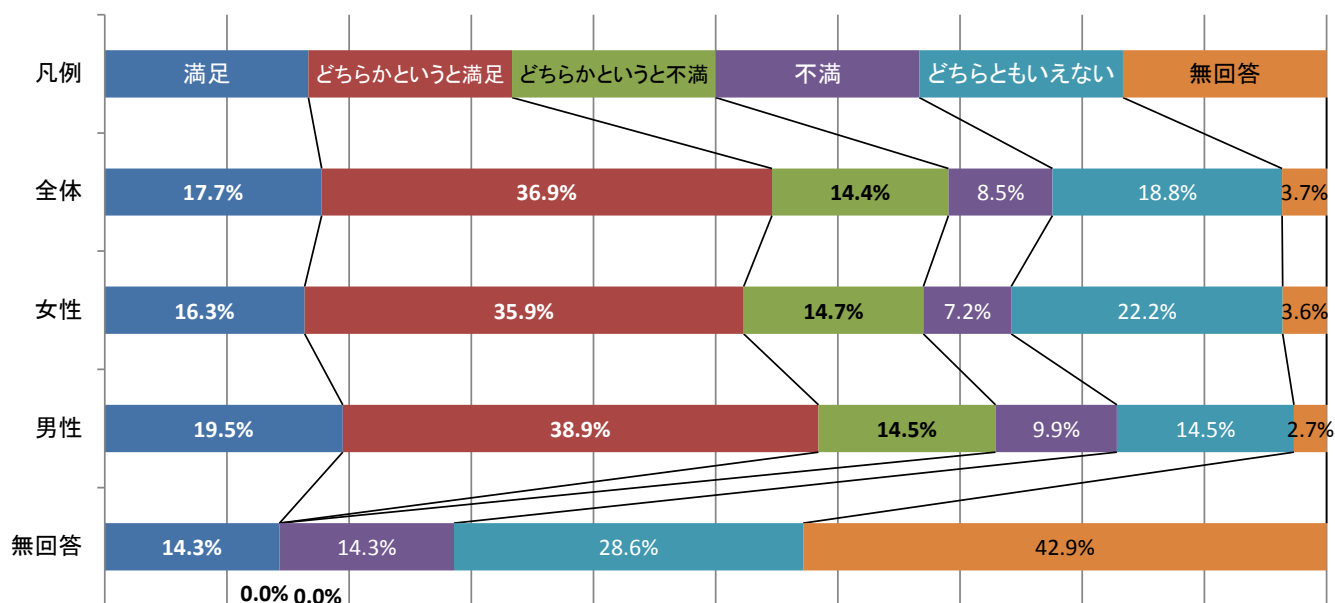
|               | 回答数 | 構成比    |
|---------------|-----|--------|
| (1) 満足        | 102 | 17.7%  |
| (2) どちらかという満足 | 212 | 36.9%  |
| (3) どちらかという不満 | 83  | 14.4%  |
| (4) 不満        | 49  | 8.5%   |
| (5) どちらともいえない | 108 | 18.8%  |
| 無回答           | 21  | 3.7%   |
| 計             | 575 | 100.0% |

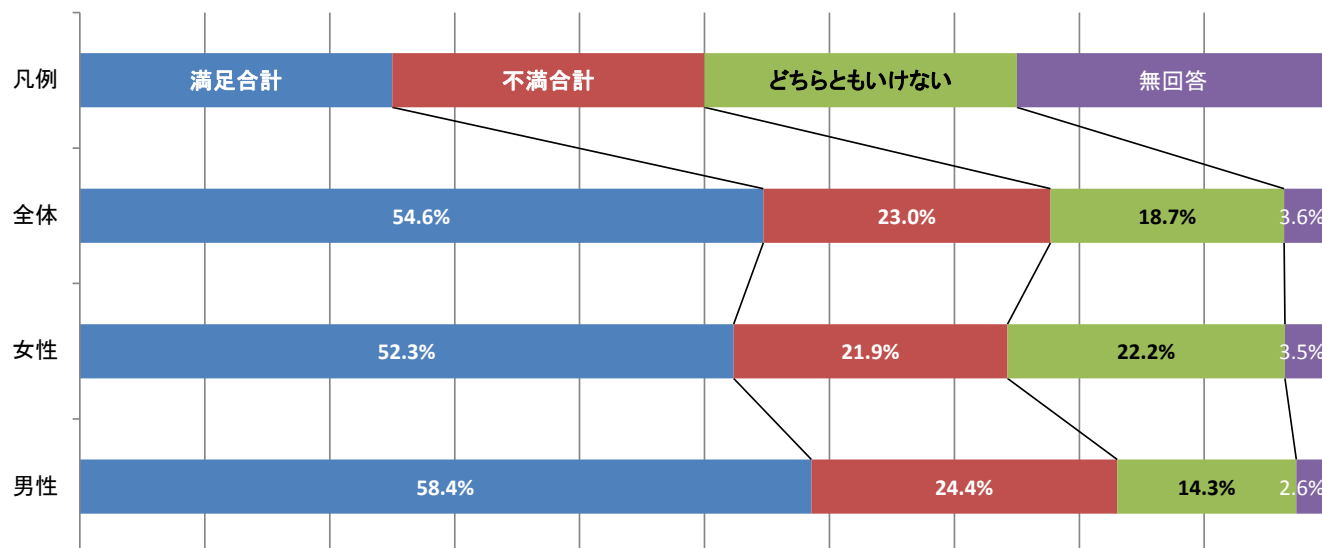
自分自身の働き方について聞いたところ、自分自身の働き方については、5割を超えた満足度がありました。不満は2割程度となっています。しかし、男性の満足度は58.4%に対し、女性は52.3%と6ポイント開きがありました。

性・年齢別でみると、女性では「満足合計」が最も高いのは40歳代の58.5%となっています。男性では60歳代が73.5%と最も高くなっています。

性・地区別でみると、「満足合計」はどの地区でも女性の方が男性に比べ、満足合計が13.6%～3.0%低い状況となっています。

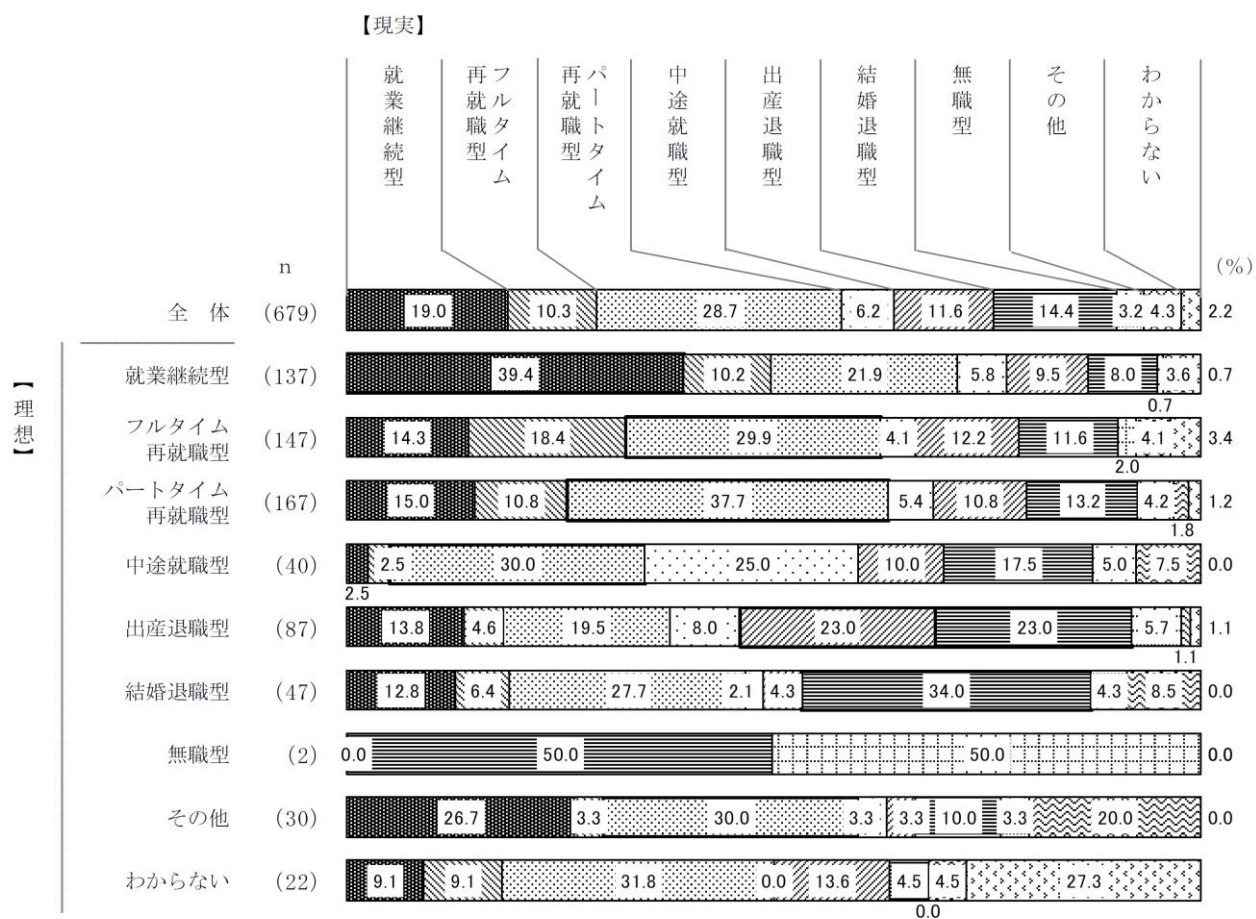
性・学歴別でみると、「満足合計」ではその他が男女とも100%となっており、次いで女性では短期大学・高等専門学校が65.6%、男性は4年生大学、大学院が66.7%と高くなっています。



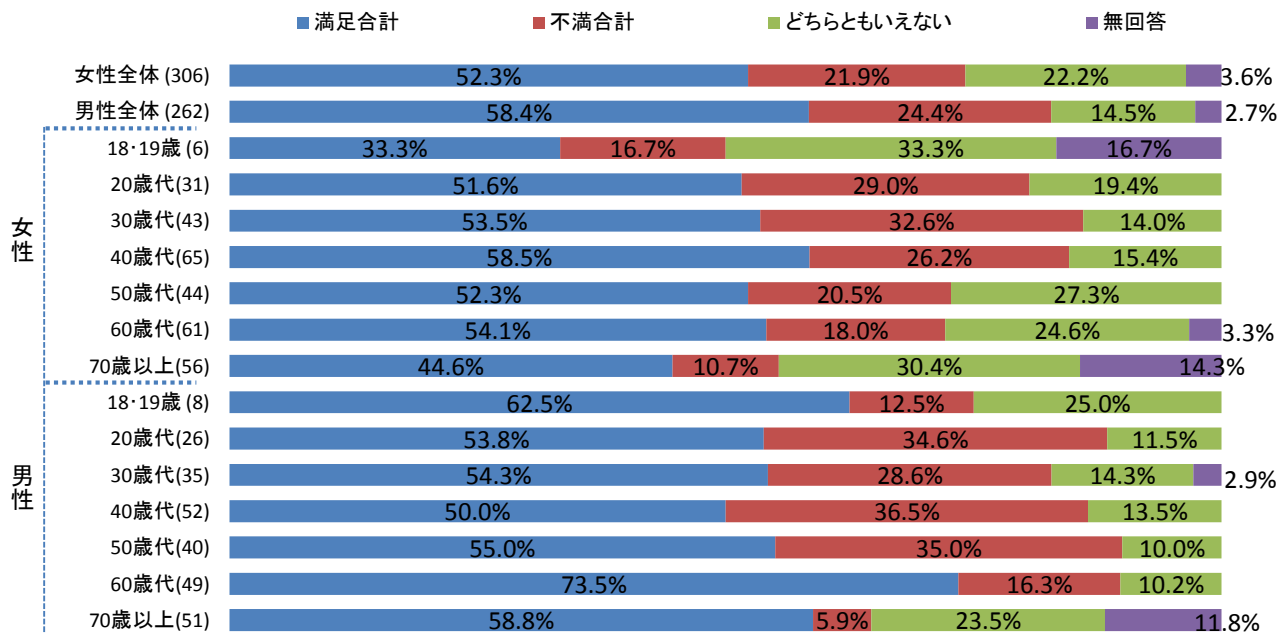


# ◇埼玉県

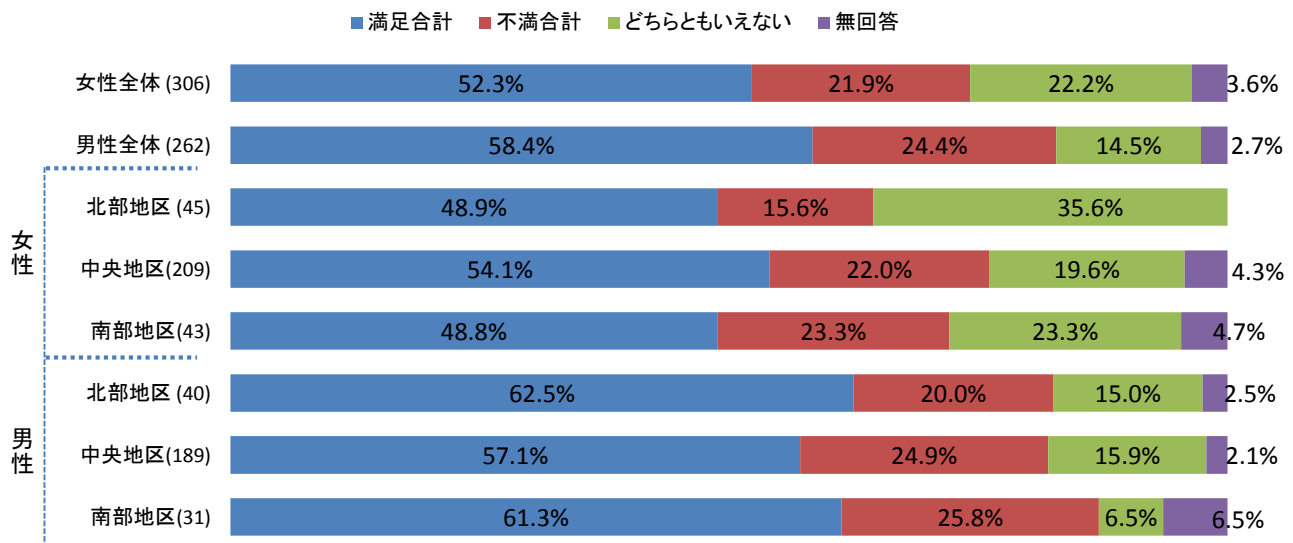
図表 3－6 女性の働き方の理想と現実（結婚経験のある女性）



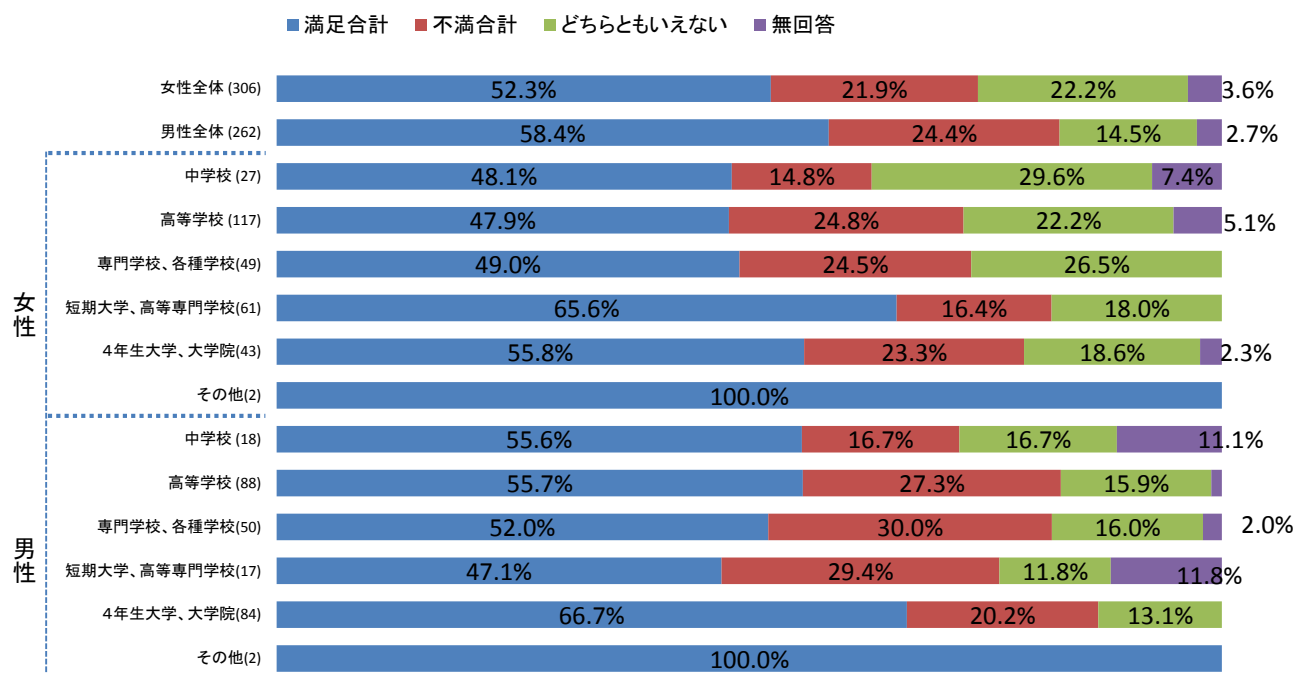
## ◇性別と年齢別の結果



## ◇性別と地区別の結果



## ◇性別と学歴別の結果



## 問8 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと

問8 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。

|                               | とても重要 | 重要    | あまり重要でない | まったく重要でない | 無回答  |
|-------------------------------|-------|-------|----------|-----------|------|
| パートナー(男性)の理解や家事・育児などへの参加      | 61.7% | 30.6% | 2.3%     | 1.2%      | 4.2% |
| パートナー(男性)以外の家族の理解や家事・育児などへの参加 | 32.9% | 52.9% | 8.2%     | 1.0%      | 5.0% |
| 保育施設や学童保育の充実                  | 59.7% | 33.6% | 1.9%     | 0.5%      | 4.3% |
| 福祉施設やホームヘルパーの充実               | 36.9% | 47.5% | 10.1%    | 0.7%      | 4.9% |
| 労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入         | 34.3% | 47.0% | 11.5%    | 1.9%      | 5.4% |
| 企業経営者や職場の理解                   | 58.3% | 34.8% | 1.6%     | 1.0%      | 4.3% |
| 育児・介護休業などの休暇制度の充実             | 49.0% | 43.1% | 3.0%     | 0.5%      | 4.3% |
| 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保           | 34.6% | 45.4% | 13.2%    | 1.9%      | 4.9% |

女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なことについて聞いたところ、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」、「保育施設や学童保育の充実」、「企業経営者や職場の理解」が6割程度となっています。埼玉県調査も同様であり、内閣府調査も同様の傾向にあります。

年齢別でみると、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」では、「とても重要」が18・19歳、20歳代で7割台、30歳代、40歳代、60歳代で6割台となっています。

「パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」では、「とても重要」が18・19歳、20歳代で5割台と高くなっています。また70歳以上では1割台と最も低くなっています。

「保育施設や学童保育の充実」では、30歳代で「とても重要」と「重要」を合せて100%となっています。

「福祉施設やホームヘルパーの充実」では、「とても重要」と「重要」を合せた割合が70歳以上を除く年代で8割を超えて高くなっています。

「労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入」では、「とても重要」と「重要」を合せた割合が20歳代で93.1%と最も高くなっています。

「企業経営者や職場の理解」では、「とても重要」が20歳代で77.6%と最も高くなっています。

「育児・介護休業などの休暇制度の充実」では、「とても重要」が20歳代で65.5%と最も高く、次いで30歳代が56.4%と高くなっています。

「昇進・昇給などの職場での男女平等の確保」では、「あまり重要ではない」と「まったく重要でない」の合計が50歳代で最も高く21.5%となっています。

地区別でみると、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」では、「とても重要」と「重要」の合計が全ての地区で9割を超えて高くなっています。

「パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」では、全ての地区で「とても重要」が3割台、「重要」が5割台となっています。

「保育施設や学童保育の充実」では、「とても重要」が北部地区で6割台半ばと最も高くなっています。

「福祉施設やホームヘルパーの充実」では、「とても重要」と「重要」の合計が北部地区で89.5%と最も高くなっています。

「労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入」では、全ての地区で「とても重要」が3割台、「重要」が4割台となっています。

「企業経営者や職場の理解」では、全ての地区で「とても重要」と「重要」の合計が9割台半ばとなっています。

「育児・介護休業などの休暇制度の充実」では、「とても重要」と「重要」の合計で北部地区が最も高く93.0%となっています。

「昇進・昇給などの職場での男女平等の確保」では、「とても重要」と「重要」の合計が中央地区、南部地区で8割台、北部地区で7割台となっています。

学歴別でみると、「パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加」では、「とても重要」で短期大学・高等専門学校が80.8%と最も高くなっています。

「パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加」では、「あまり重要でない」で中学校が1割台半ばと最も高くなっています。

「保育施設や学童保育の充実」では、「とても重要」が専門学校・各種学校と短期大学・高等専門学校、4年生大学・大学院が6割台と高く、次いで高等学校が5割台、中学校が4割台となっています。

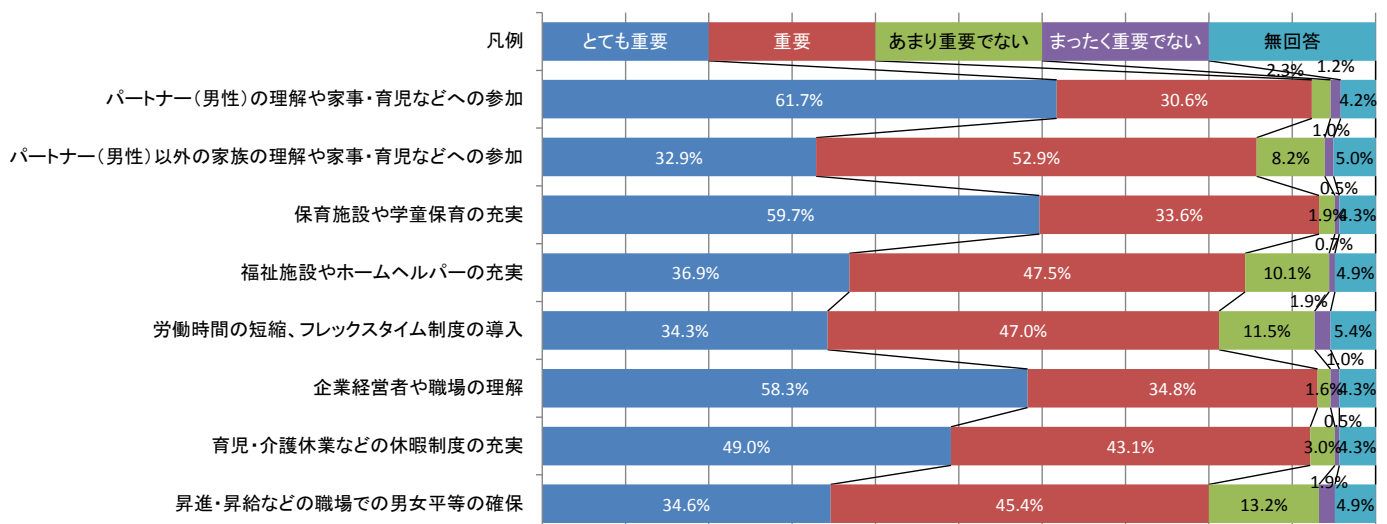
「福祉施設やホームヘルパーの充実」では、「とても重要」と「重要」の合計で4年生大学・大学院が88.9%と最も高くなっています。

「労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入」では、「とても重要」と「重要」の合計で短期大学・高等専門学校が91.0%と最も高くなっています。

「企業経営者や職場の理解」では、「とても重要」が専門学校・各種学校と短期大学・高等専門学校が6割台、次いで4年生大学・大学院、高等学校が5割台、中学校が3割台となっています。

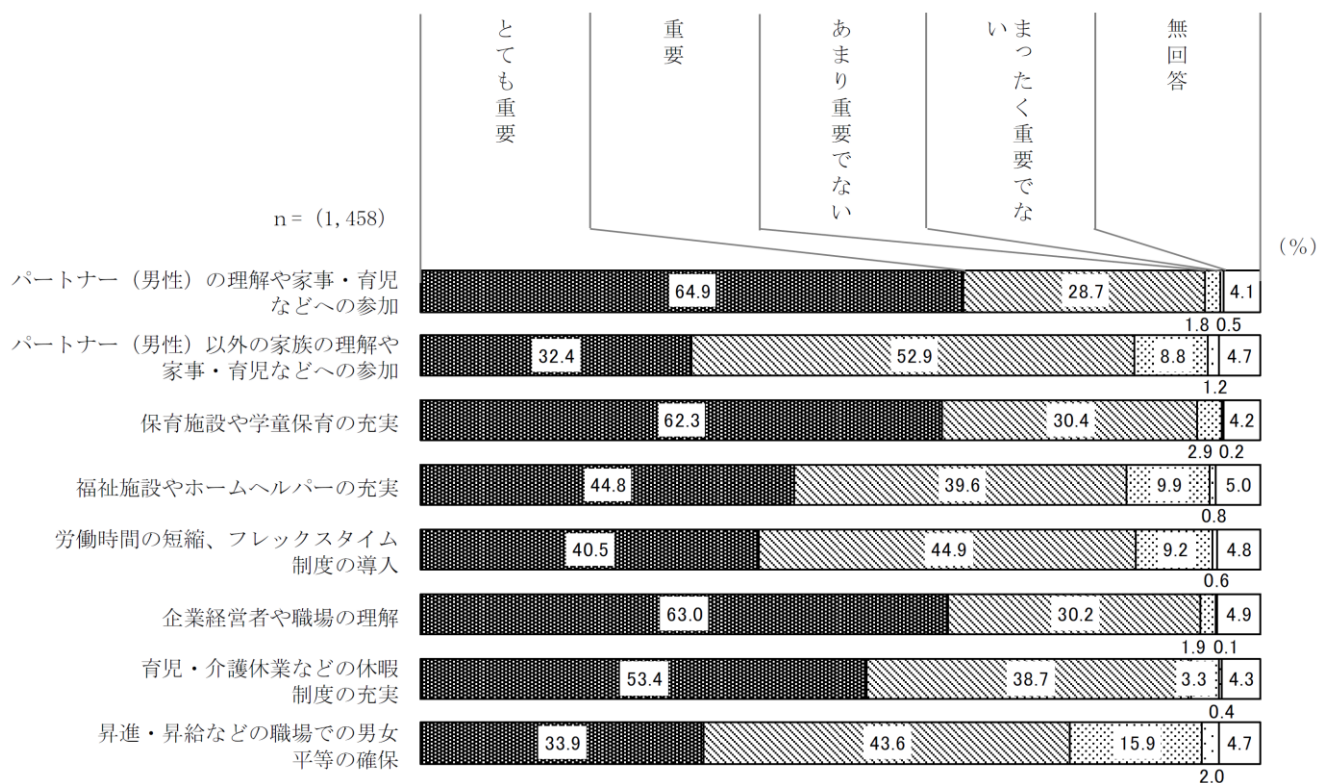
「育児・介護休業などの休暇制度の充実」では、「とても重要」と「重要」の合計で短期大学・高等専門学校が96.1%と最も高くなっています。

「昇進・昇給などの職場での男女平等の確保」では、「あまり重要でない」で4年生大学・大学院が2割と最も高くなっています。



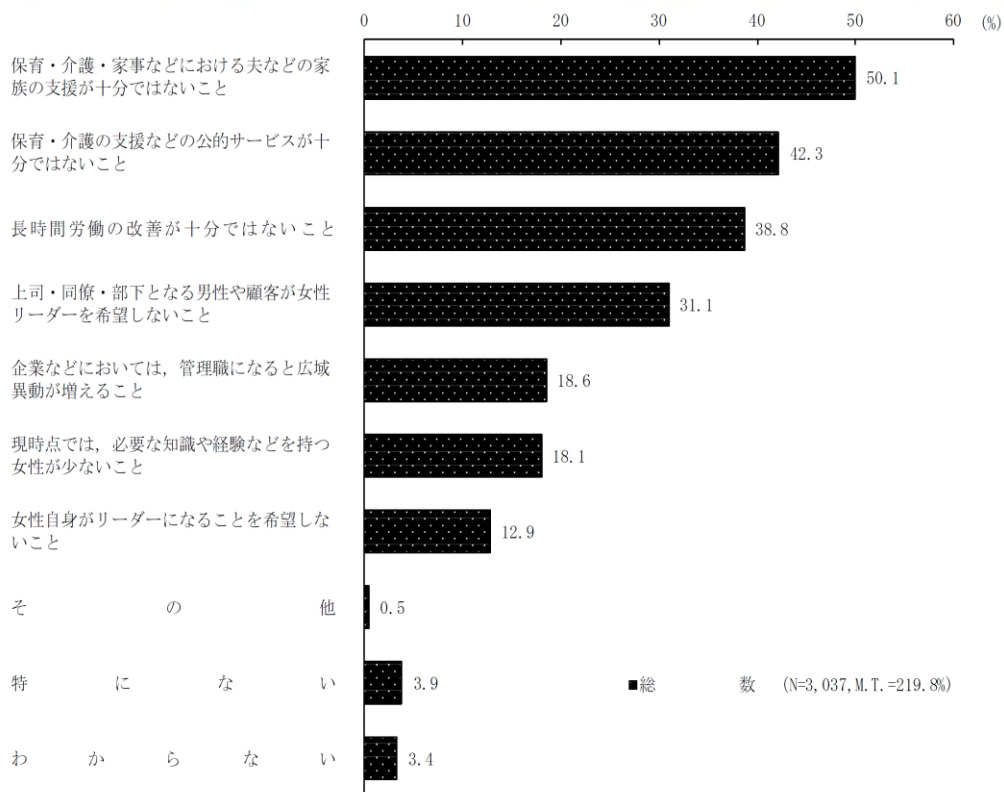
## ◇埼玉県

図表 3-13 女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるために重要なこと



## ◇内閣府

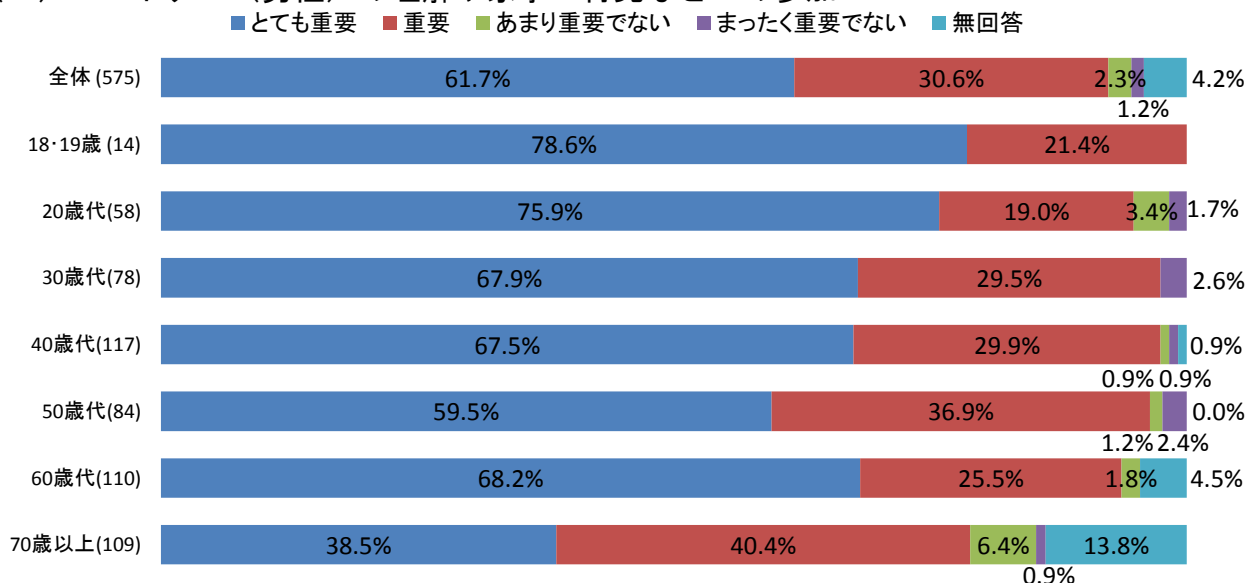
問 4 あなたは、政治・経済・地域などの各分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。（複数回答）



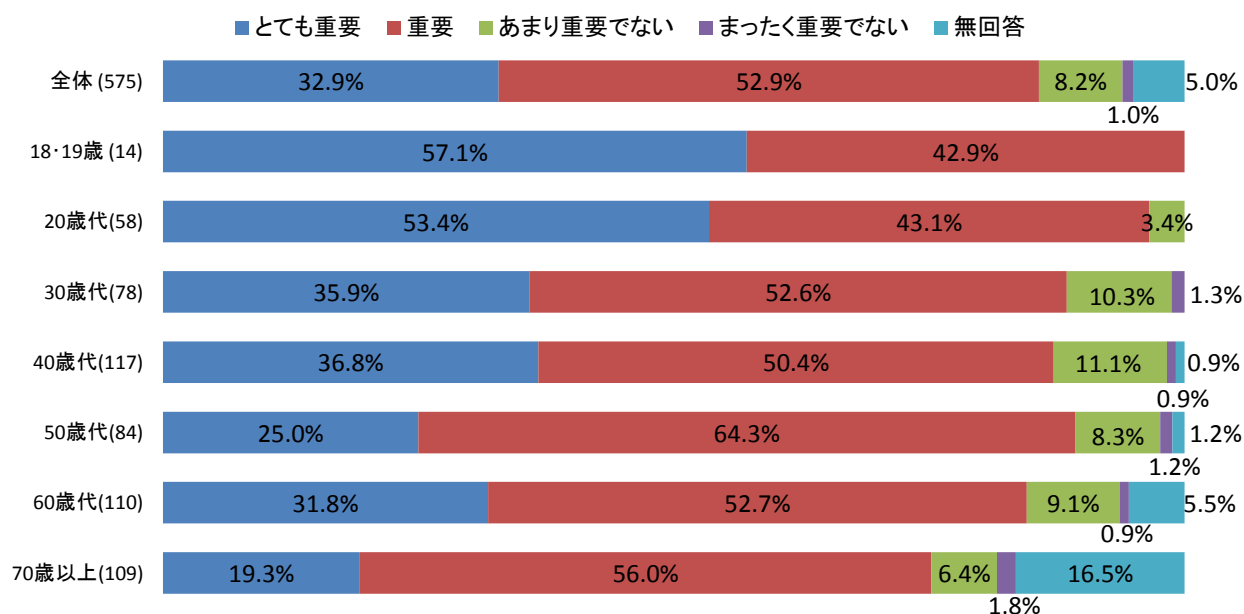


## ◇年齢別の結果

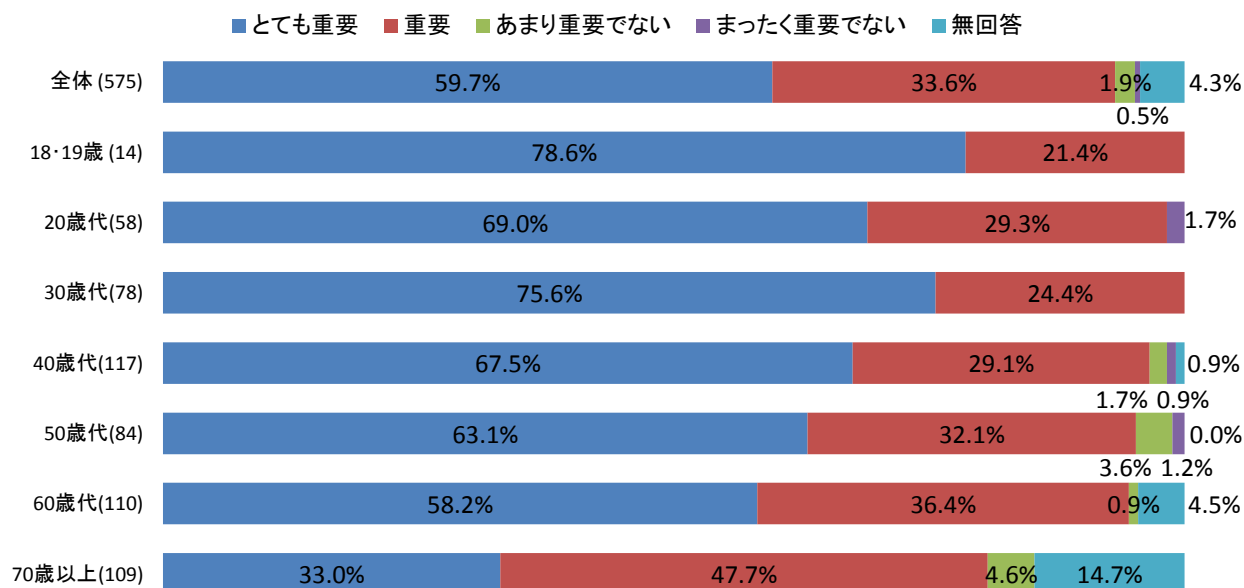
### (1) パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加



### (2) パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加

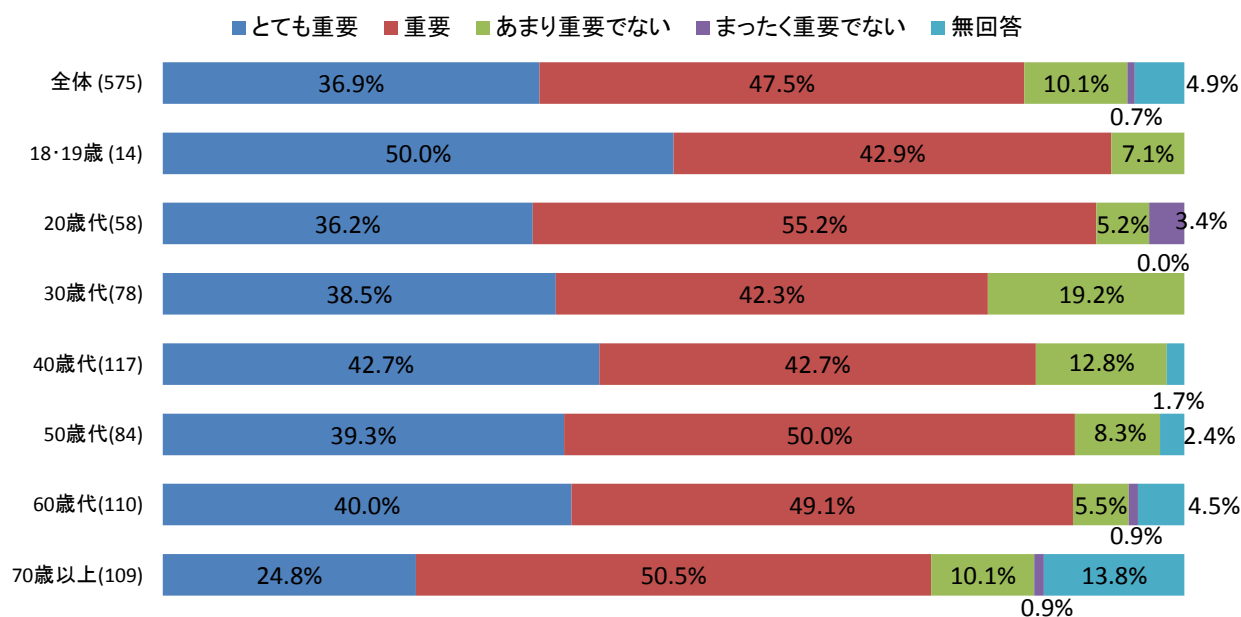


### (3) 保育施設や学童保育の充実

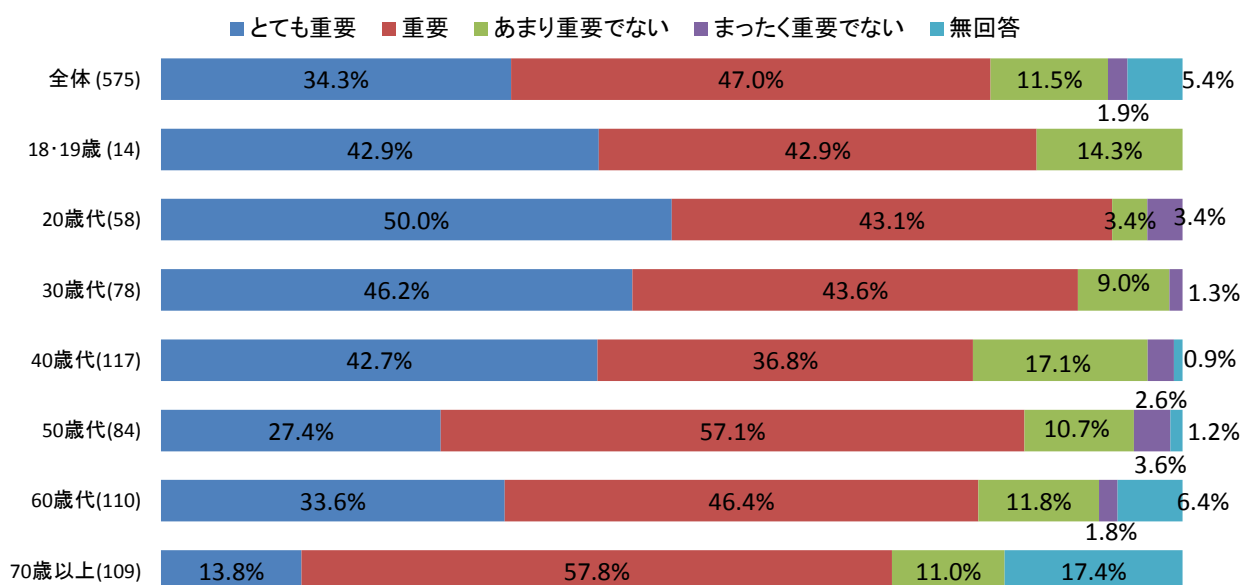




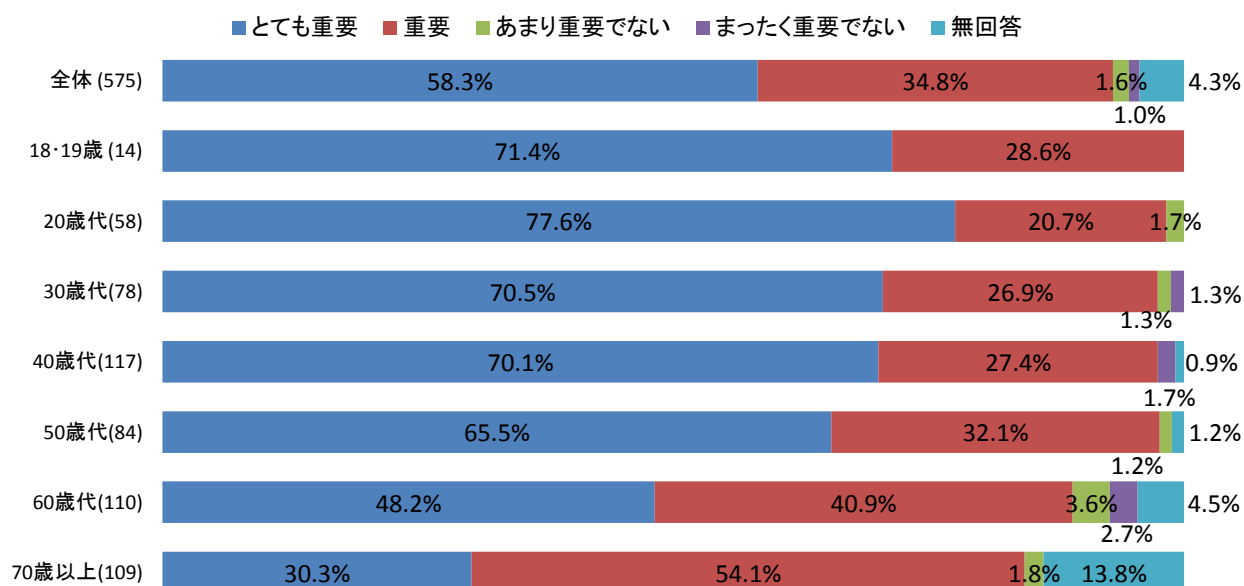
#### (4) 福祉施設やホームヘルパーの充実



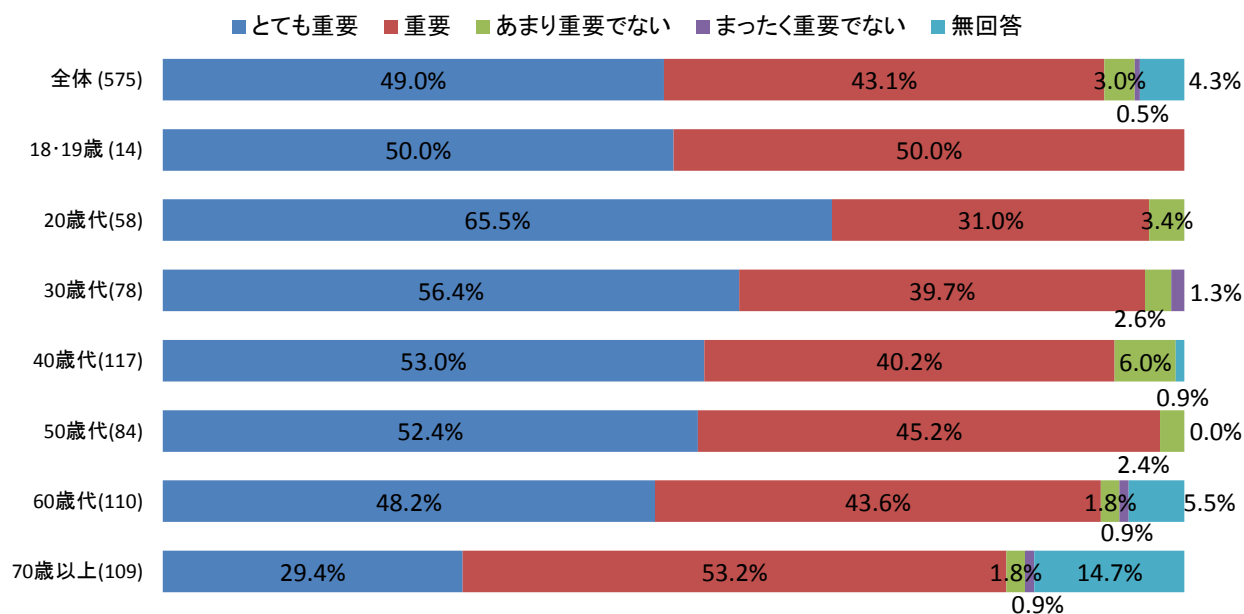
#### (5) 労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入



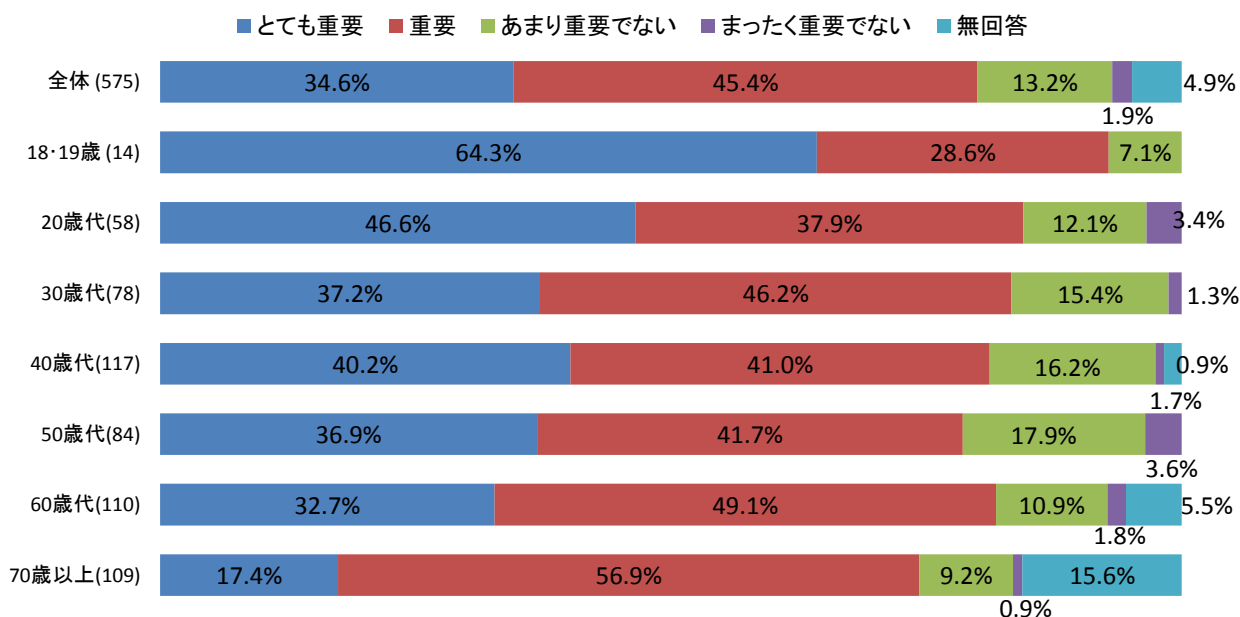
#### (6) 企業経営者や職場の理解



## （７）育児・介護休業などの休暇制度の充実

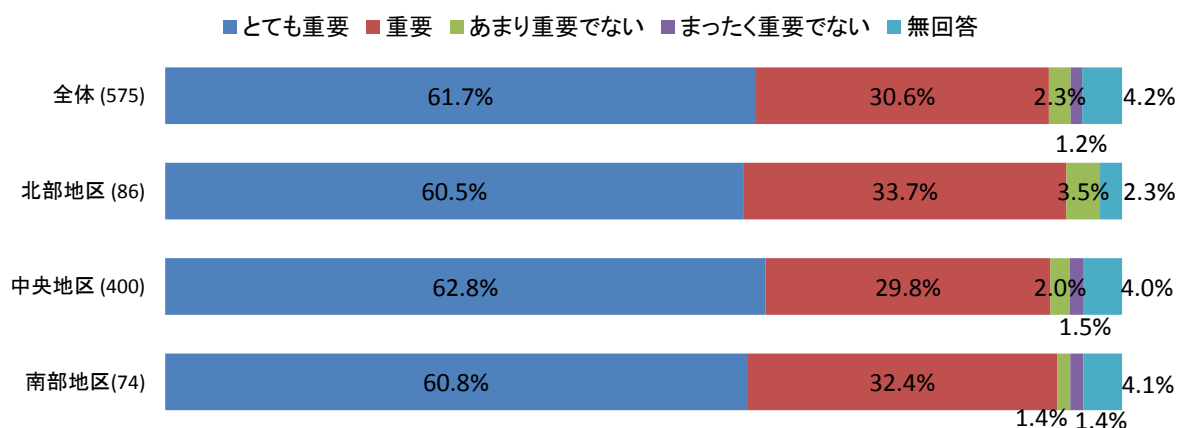


## （８）昇進・昇給などの職場での男女平等の確保

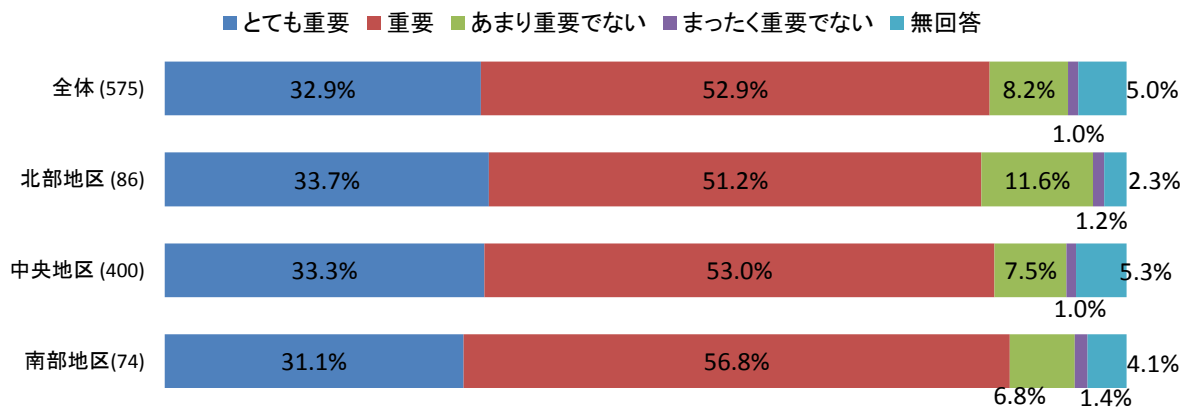


## ◇地区別の結果

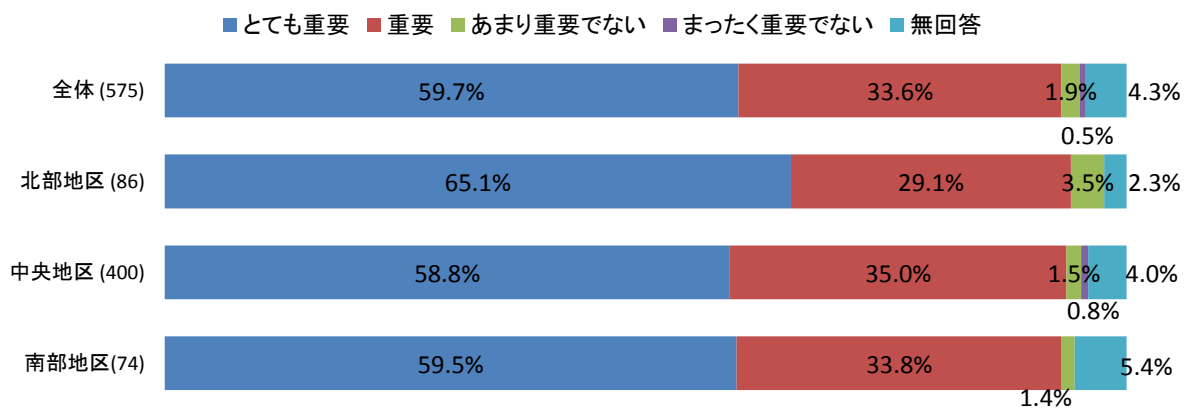
### （１）パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加



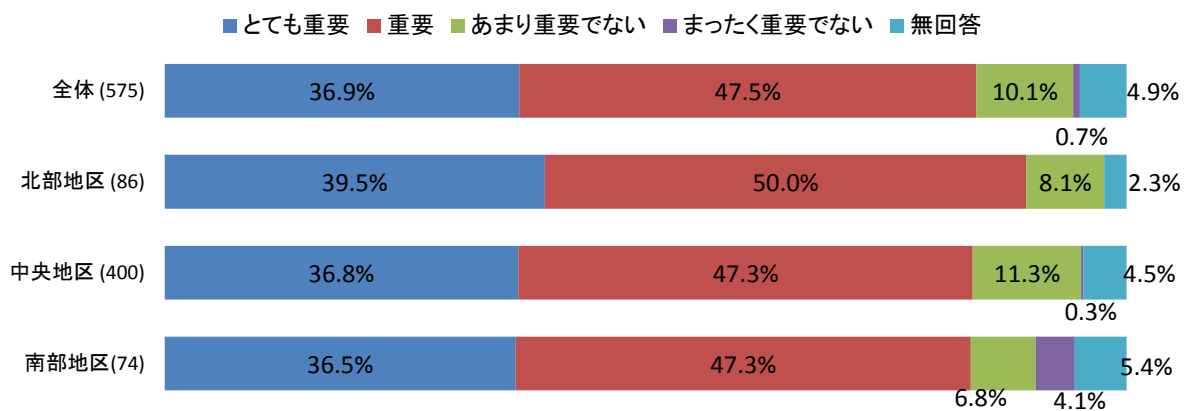
## （２）パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加



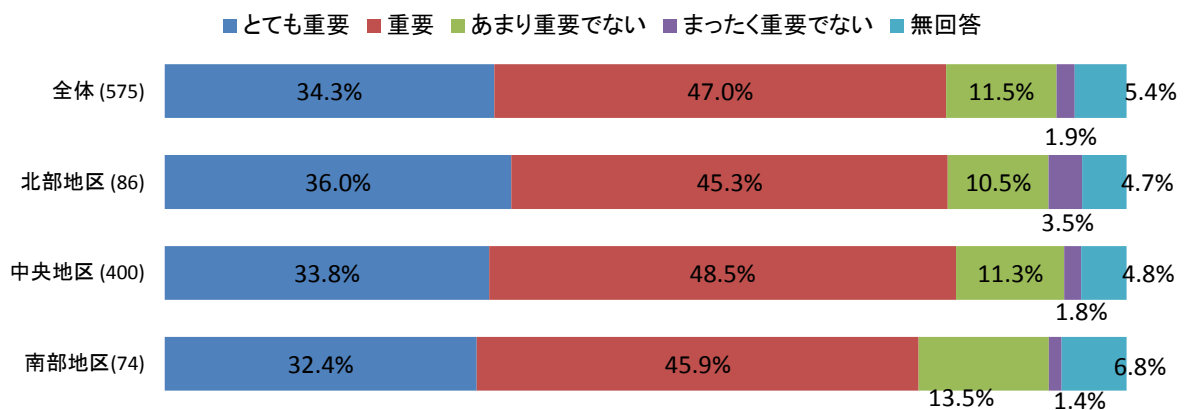
## （３）保育施設や学童保育の充実



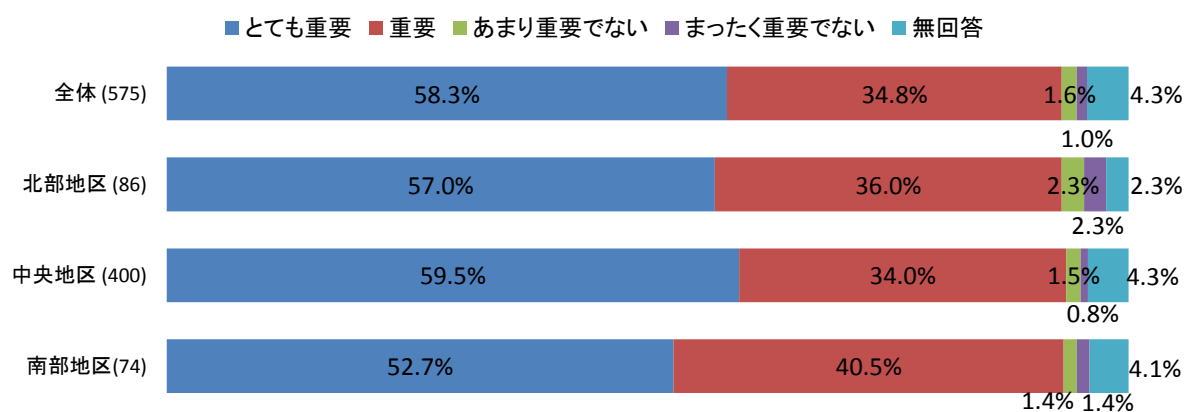
## （４）福祉施設やホームヘルパーの充実



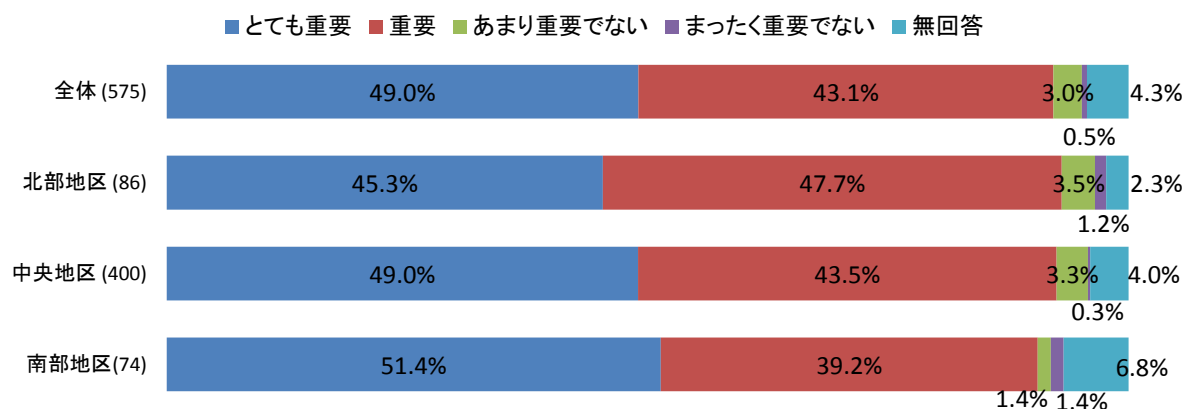
## （５）労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入



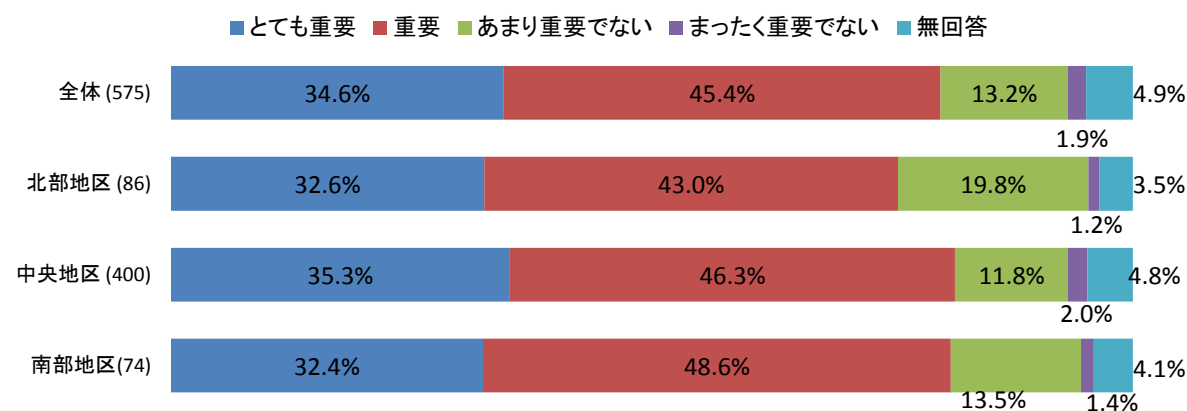
## (6) 企業経営者や職場の理解



## (7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実

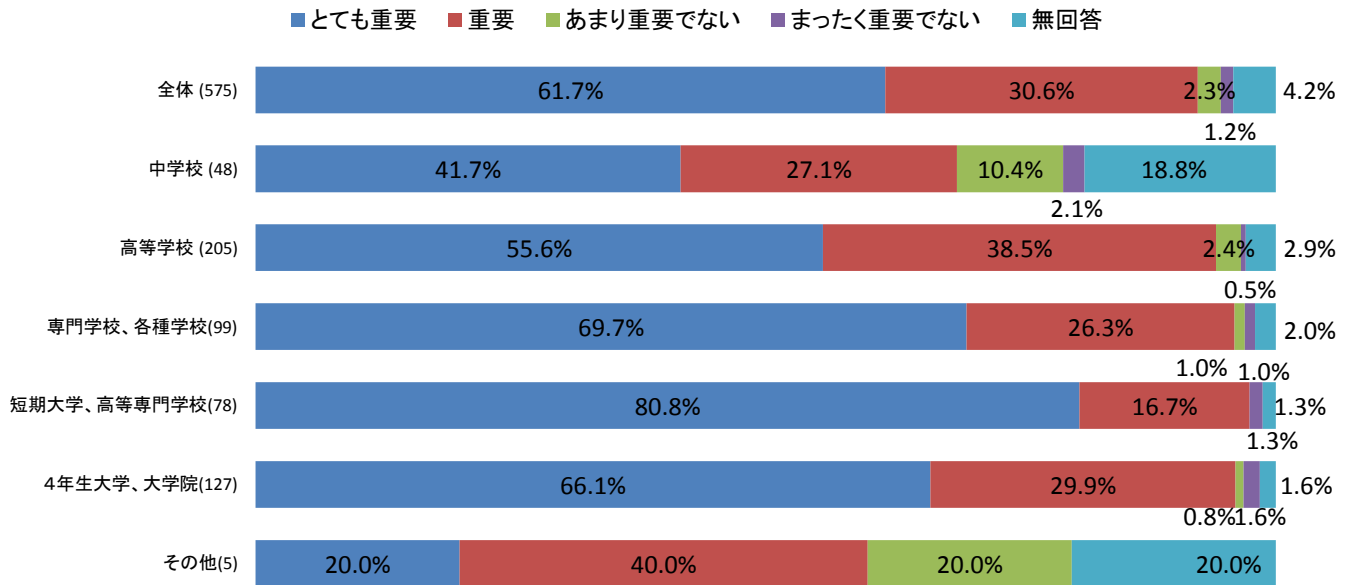


## (8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保

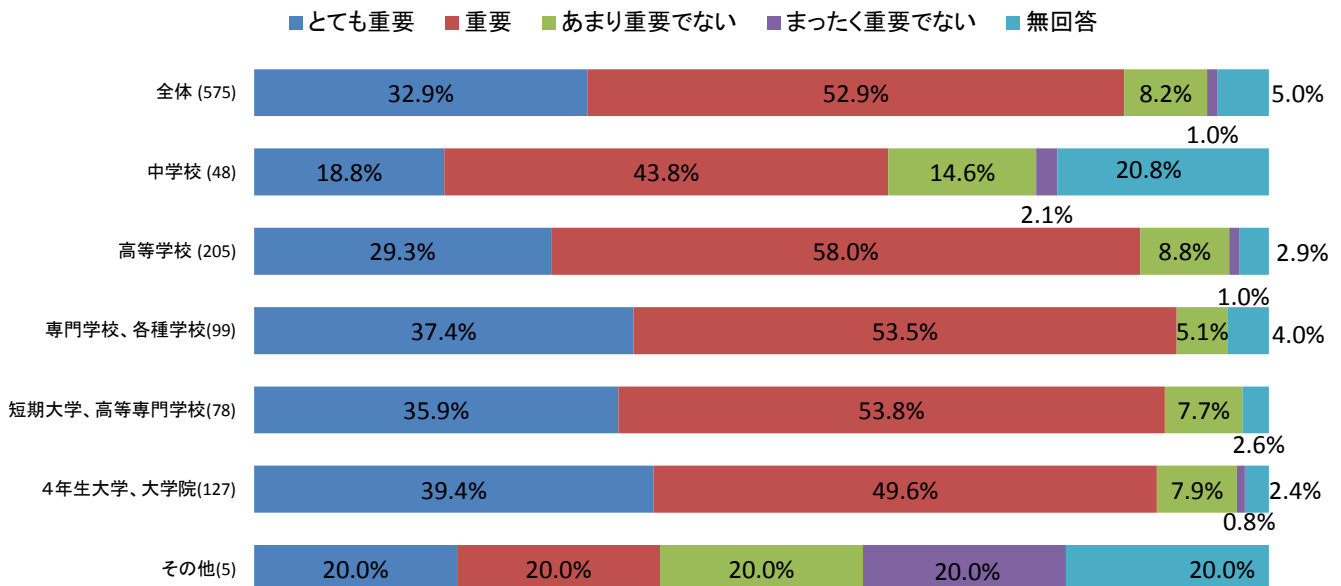


## ◇学歴別の結果

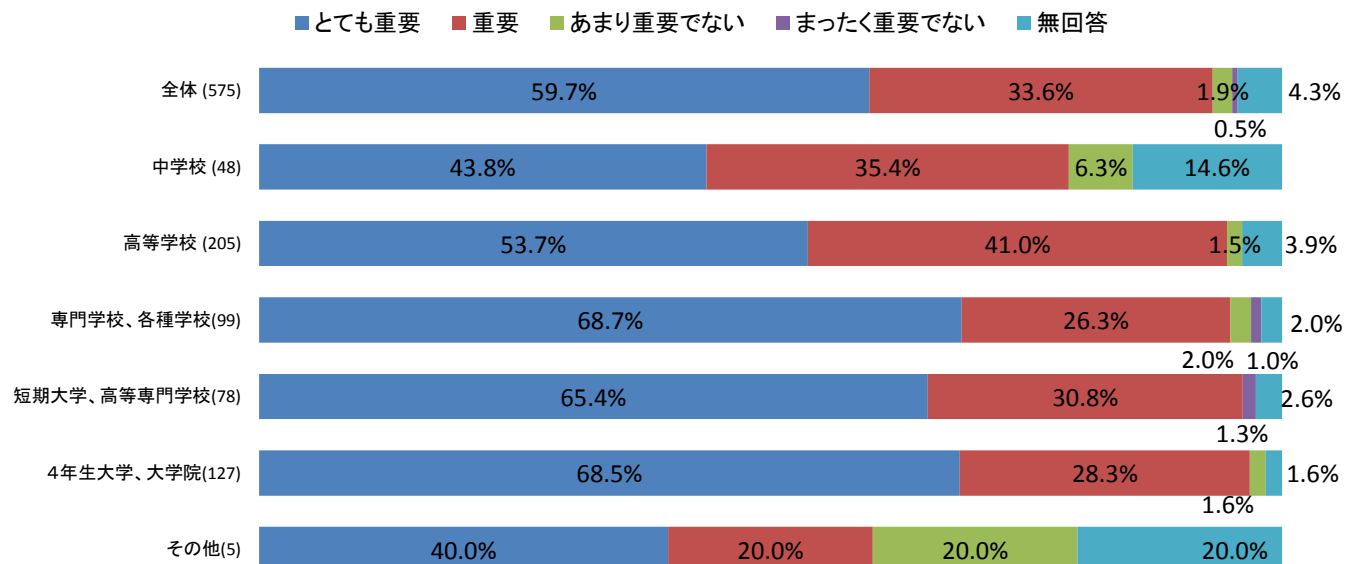
### (1) パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加



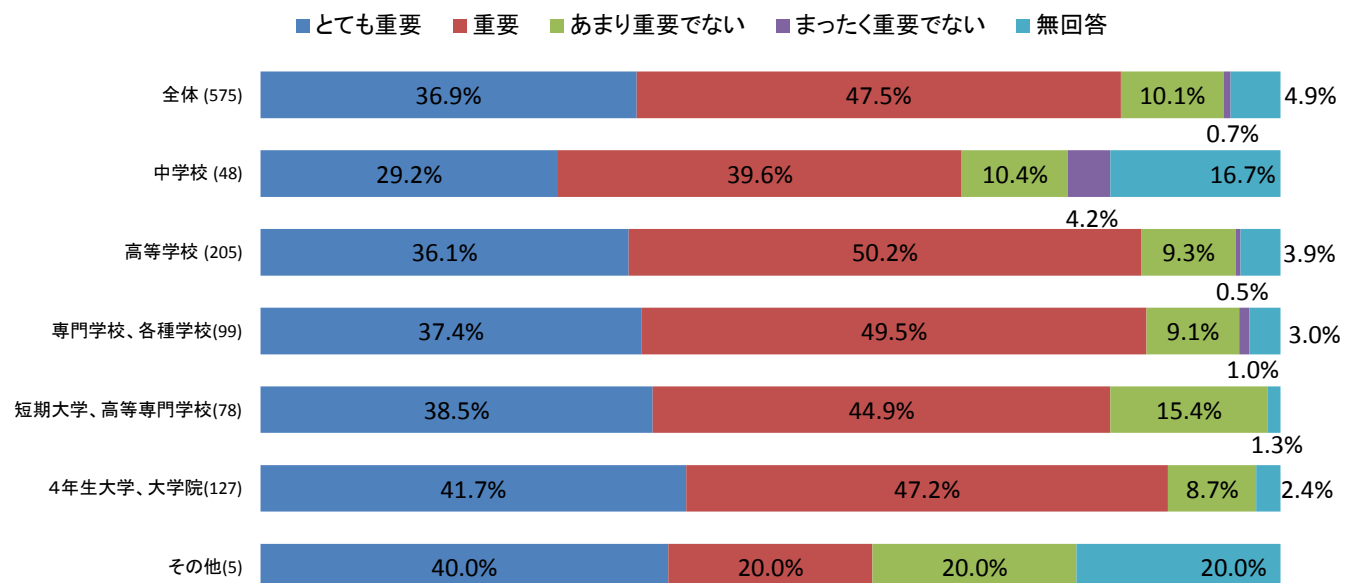
### (2) パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加



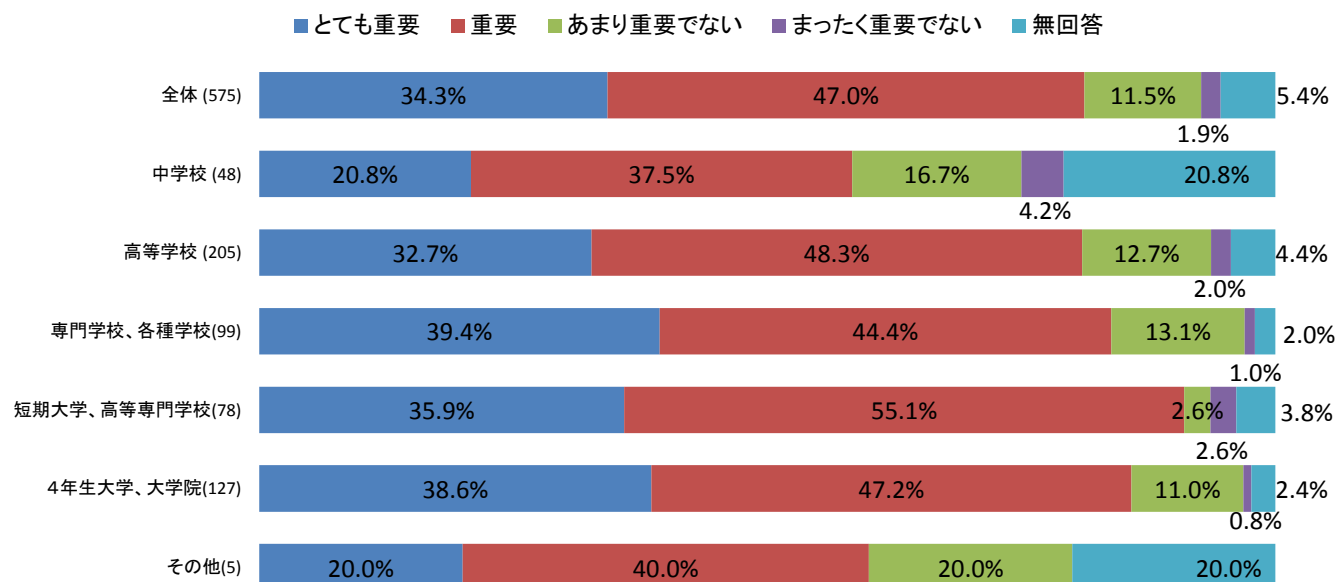
### (3) 保育施設や学童保育の充実



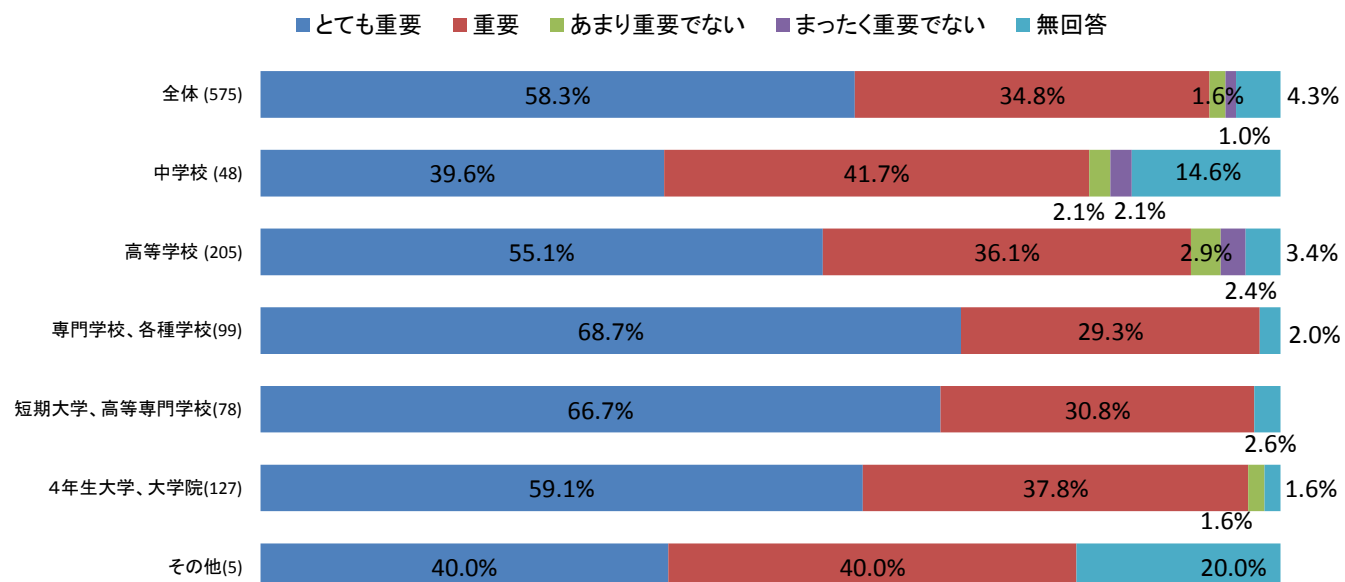
#### (4) 福祉施設やホームヘルパーの充実



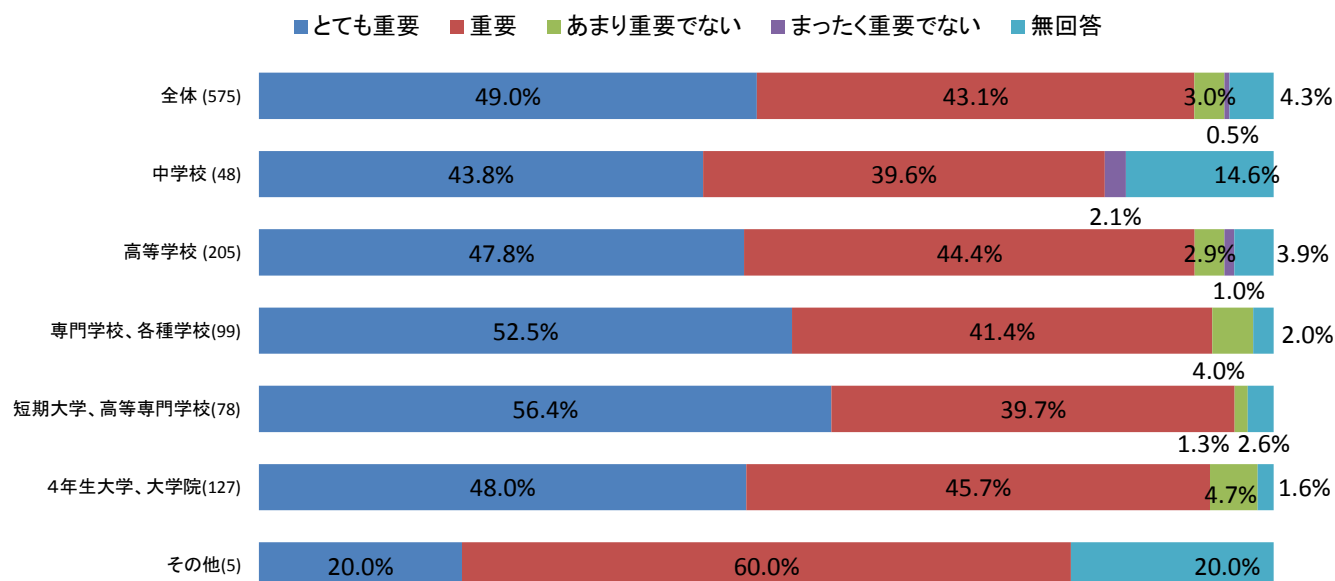
#### (5) 労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入



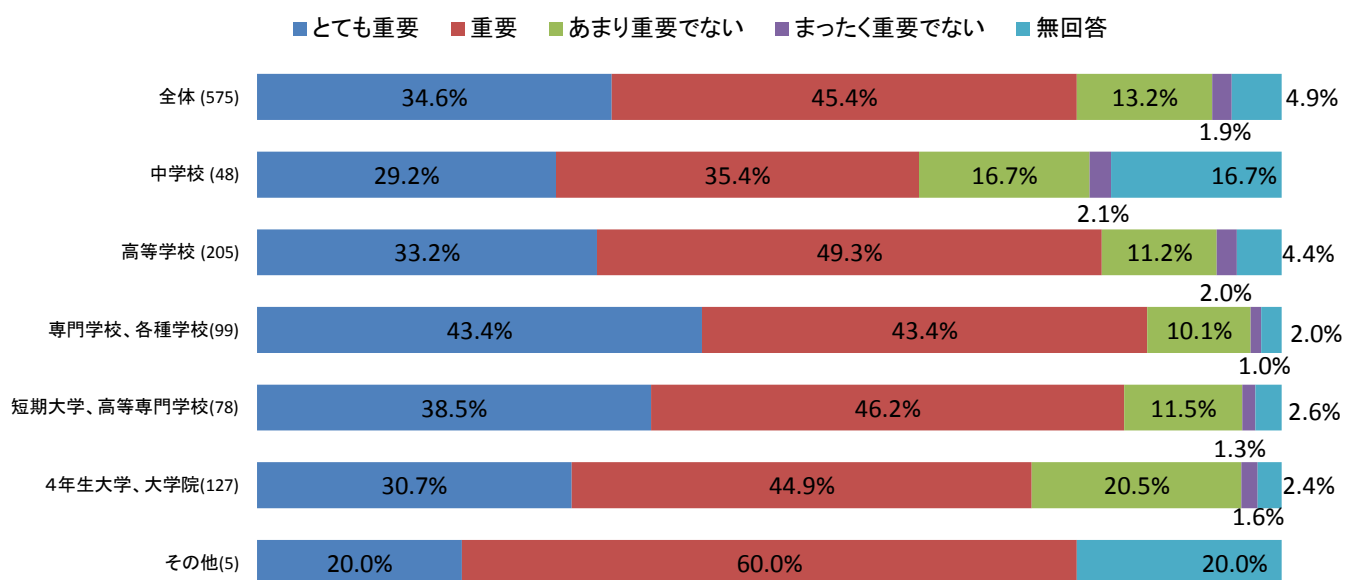
#### (6) 企業経営者や職場の理解



## (7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実



## (8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保



## 問9 仕事と家庭の両立の条件

問9 あなたは、男女共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。

|                                          | 回答数   | 構成比    |
|------------------------------------------|-------|--------|
| (1) 給与等の男女間格差をなくすこと                      | 138   | 8.6%   |
| (2) 年間労働時間を短縮すること                        | 115   | 7.1%   |
| (3) 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境を作ること | 239   | 14.9%  |
| (4) 育児や介護のために退職した職員を、元の会社で再雇用する制度を導入すること | 145   | 9.0%   |
| (5) 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること        | 143   | 8.9%   |
| (6) 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること         | 196   | 12.2%  |
| (7) 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること     | 146   | 9.1%   |
| (8) 職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること            | 22    | 1.4%   |
| (9) 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること          | 231   | 14.4%  |
| (10) 男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること   | 137   | 8.5%   |
| (11) 男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること              | 64    | 4.0%   |
| (12) わからない                               | 8     | 0.5%   |
| (13) その他                                 | 13    | 0.8%   |
| 無回答                                      | 12    | 0.7%   |
| 計                                        | 1,609 | 100.0% |

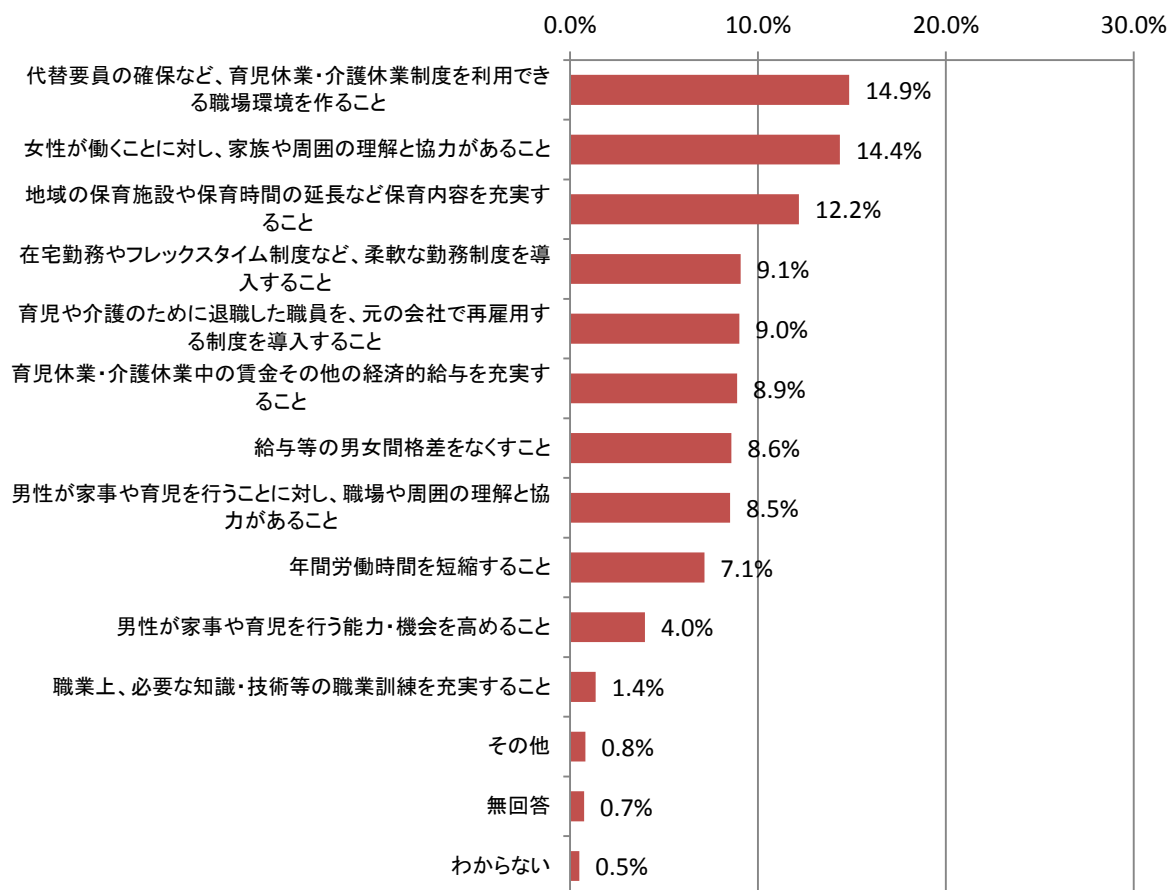
仕事と家庭の両立の条件について聞いたところ、男女と共に仕事と家庭の両立について必要な条件については、職場環境、周囲の理解、保育施設の充実の順となっています。埼玉県調査では、周囲の理解、職場環境、保育施設の充実の順となっていました。

年齢別でみると、20歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境を作ること」が高く、18・19歳代、30歳代では「地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること」が高く、40歳代では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が高くなっています。

地区別でみると、中央地区、南部地区では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境を作ること」が高く、北部地区では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が高くなっています。

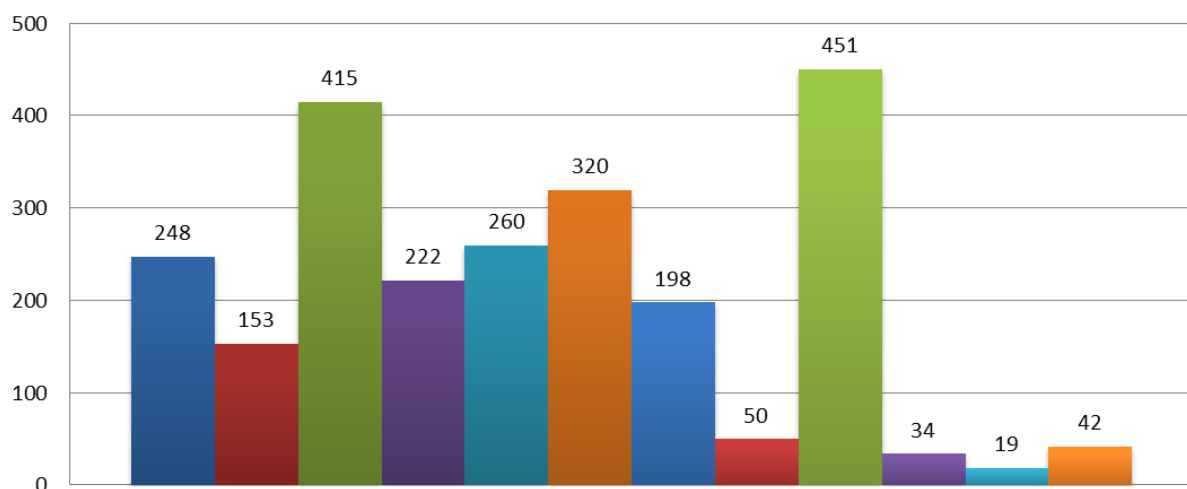
学歴別でみると、中学校、高等学校、専門学校・各種学校、短期大学・高等専門学校、その他では「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」が高くなっています。4年生大学、大学院では「代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境を作ること」が高くなっています。





◇前回

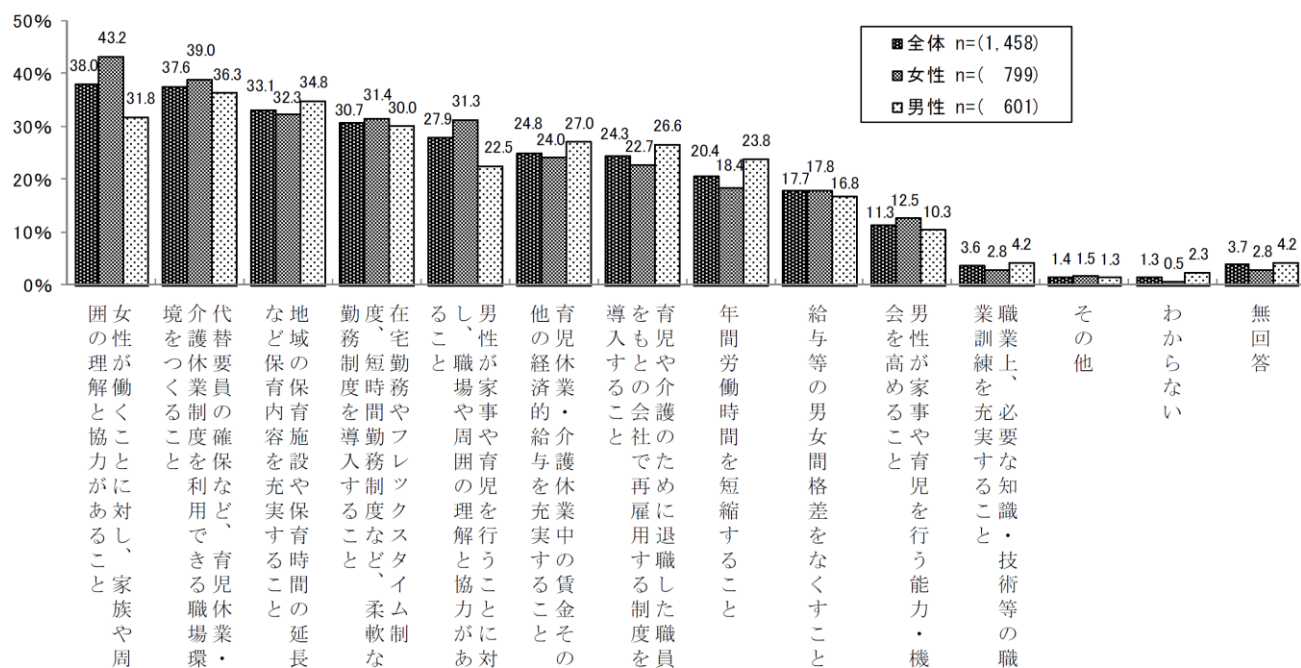
問7 一般的に、男女共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。



- (1) 給与等の男女間格差をなくすこと
- (2) 年間労働時間を短縮すること
- (3) 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境を作ること
- (4) 育児や介護のために退職した職員を、元の会社で再雇用する制度を導入すること
- (5) 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること
- (6) 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
- (7) 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
- (8) 職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること
- (9) 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること

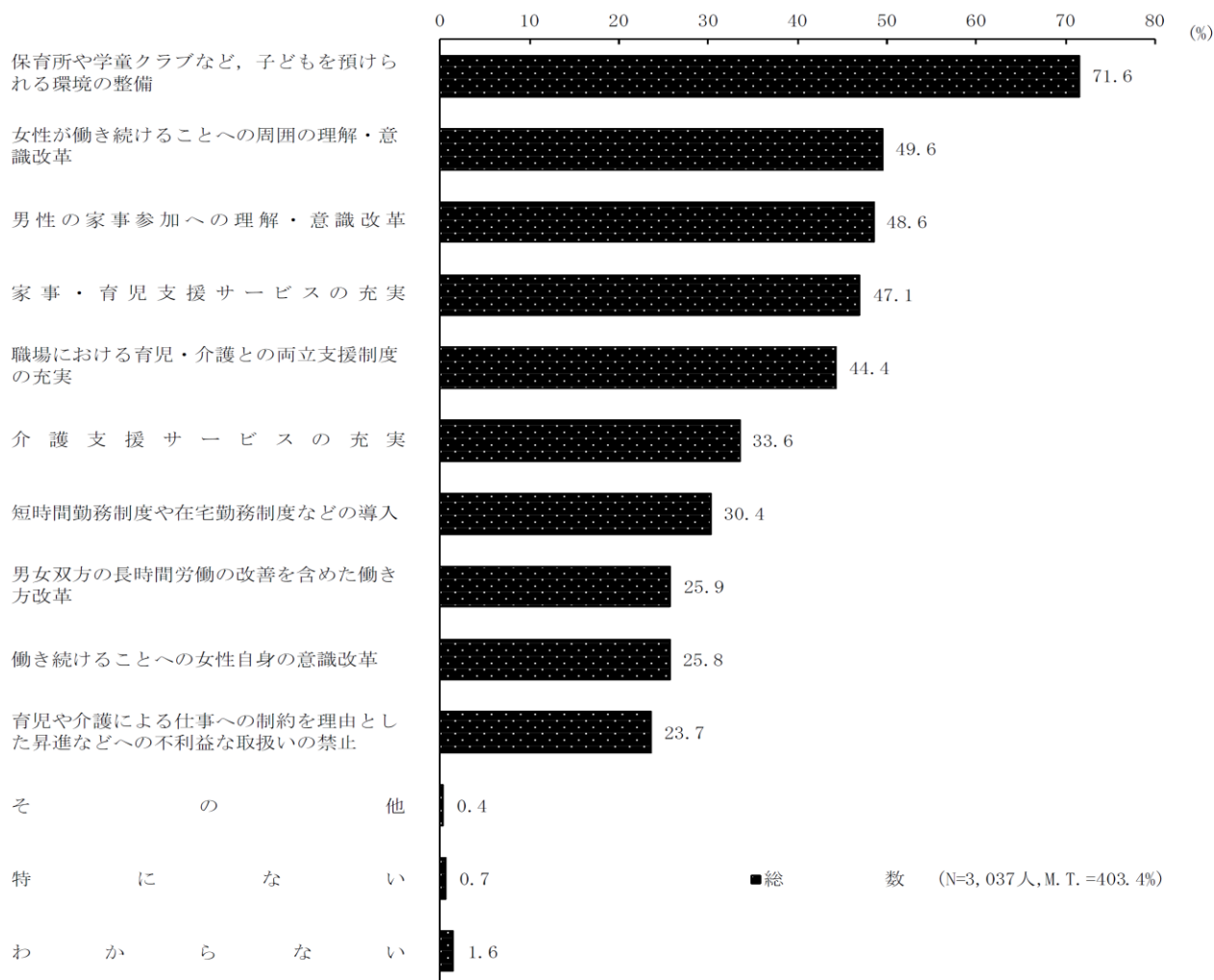
◇埼玉県

図表 3-17 仕事と家庭の両立に必要なこと

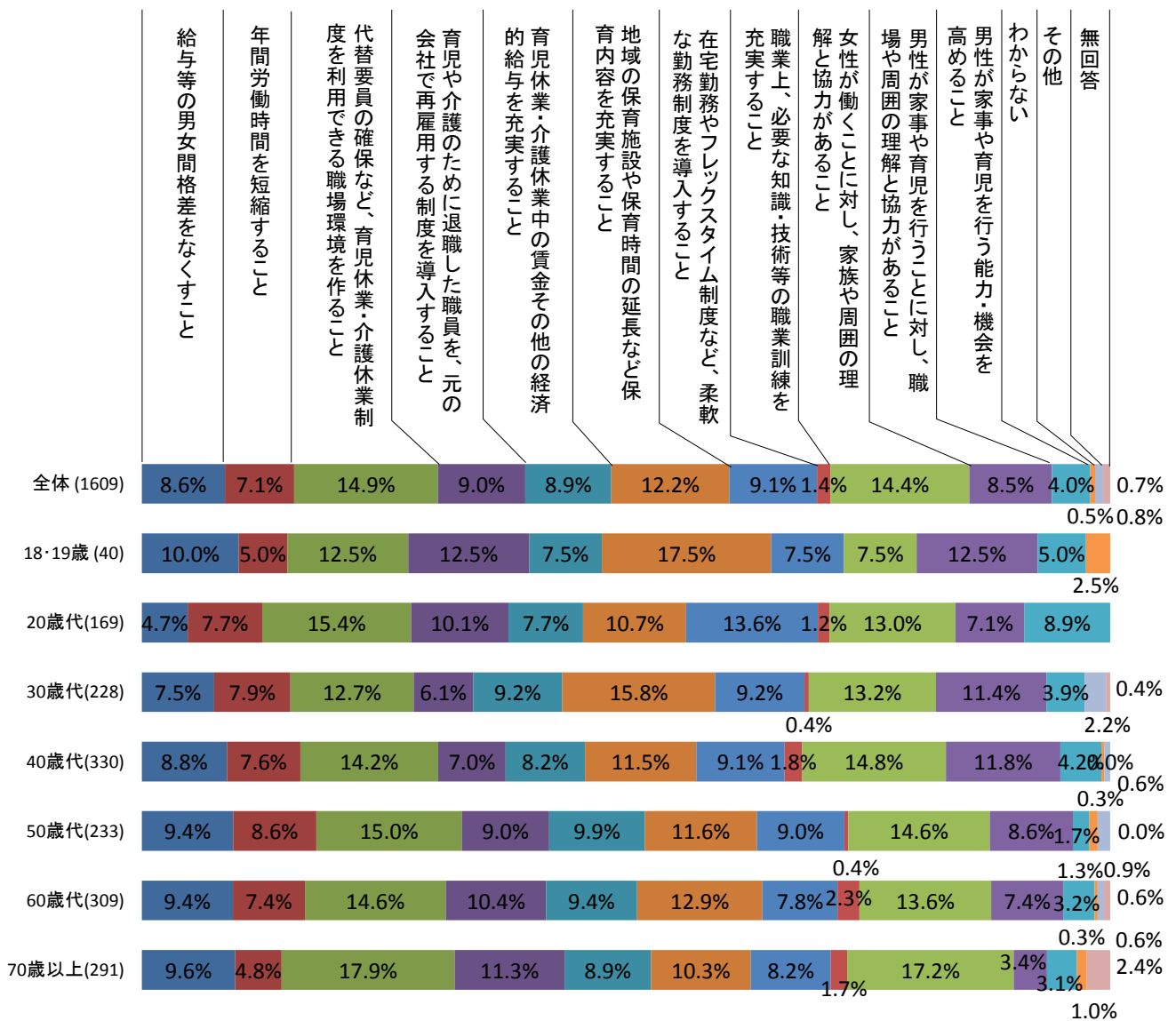


◇内閣府

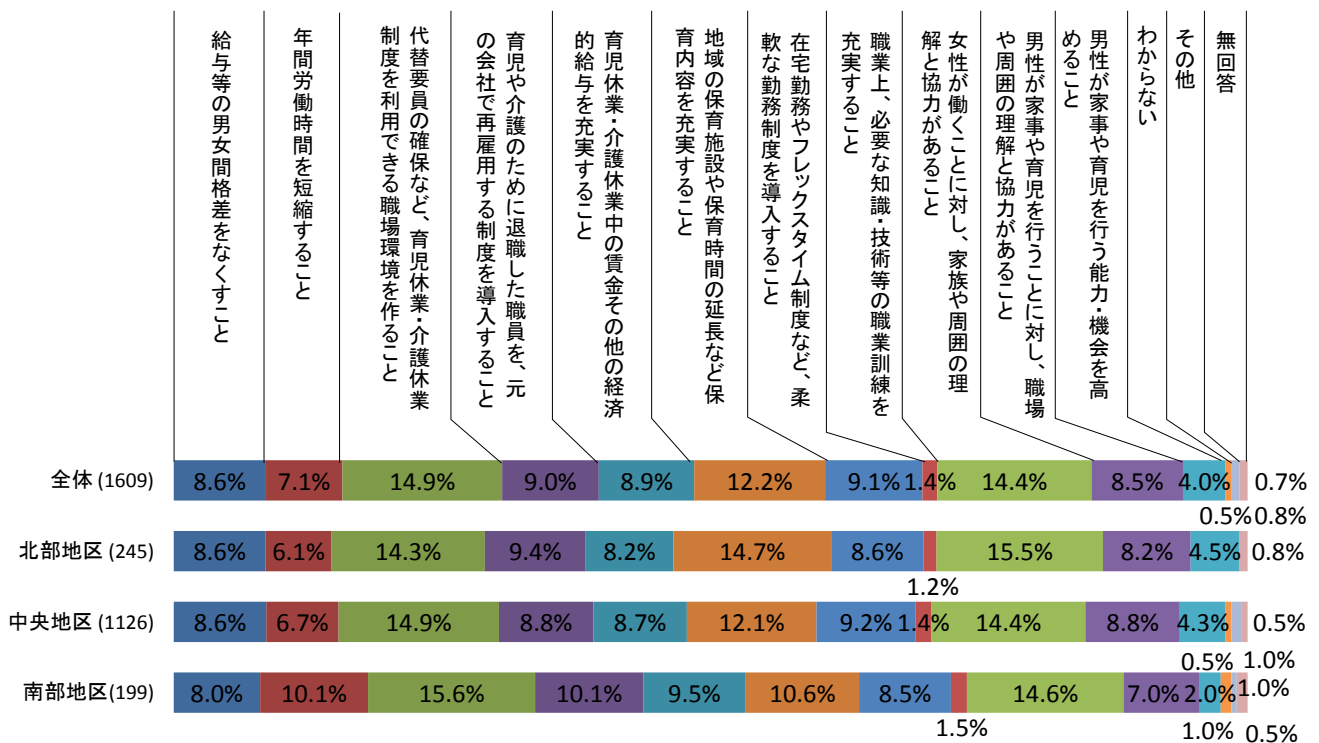
問 7 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思いますか。この中からいくつでもあげてください。



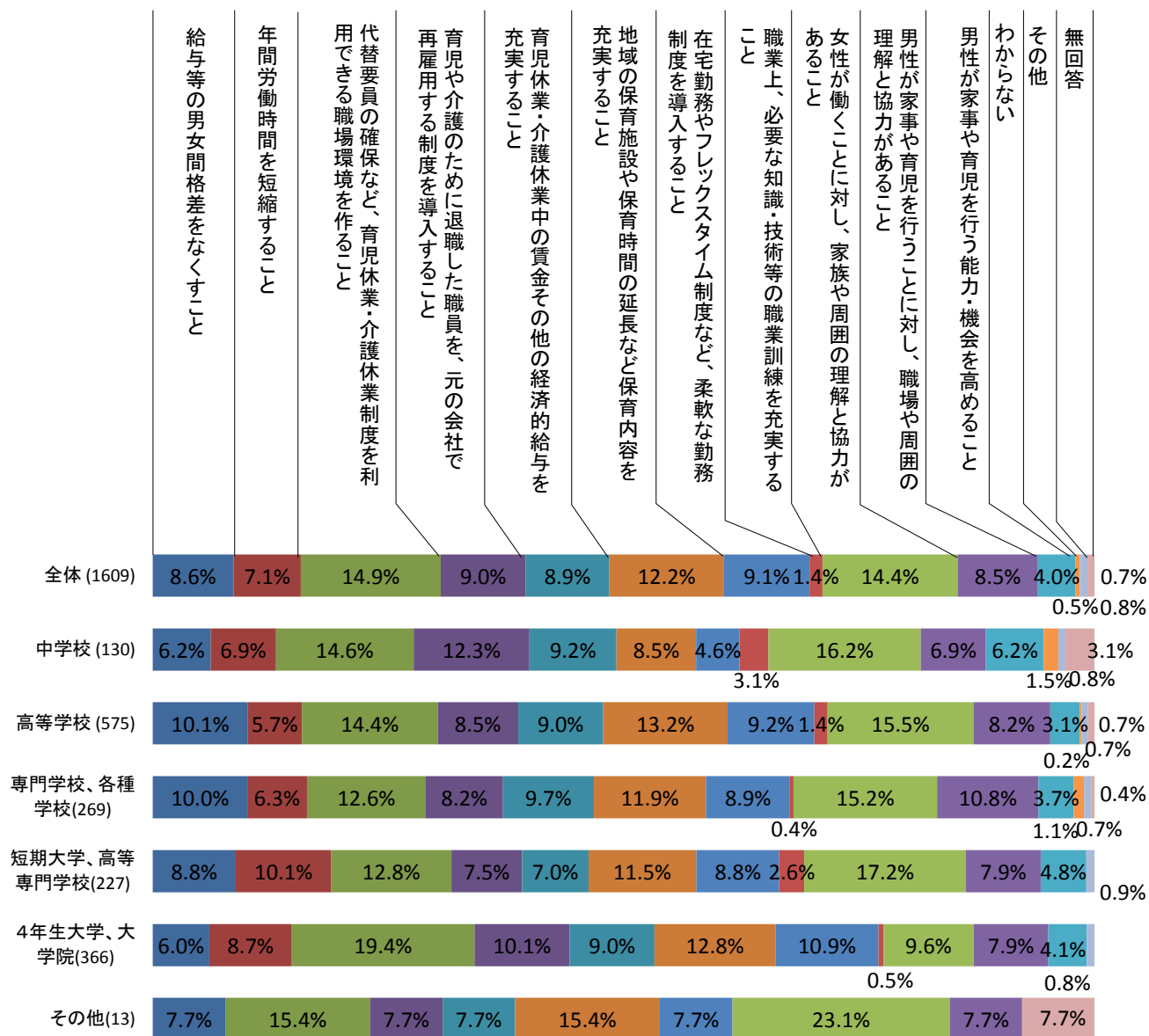
## ◇年齢別の結果



## ◇地区別の結果



## ◇学歴別の結果



#### 4 配偶者等に対する暴力について

##### 問 10 暴力と認識される行為

問 10 次の（１）～（１４）のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた場合、それをどう感じますか。

|                                       | どんな場合でも暴力にあたる | 暴力の場合とそうでない場合がある | 暴力にあたるとは思わない | 無回答  |
|---------------------------------------|---------------|------------------|--------------|------|
| 骨折させる                                 | 87.5%         | 8.9%             | 0.5%         | 3.1% |
| 打ち身や切り傷などのけがをさせる                      | 81.4%         | 15.0%            | 0.3%         | 3.3% |
| 刃物などを突きつけて、おどす                        | 94.8%         | 1.7%             | 0.3%         | 3.1% |
| 身体を傷つける可能性のある物でなぐる                    | 93.9%         | 2.8%             | 0.2%         | 3.1% |
| 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする                   | 91.8%         | 5.0%             | 0.3%         | 2.8% |
| 平手でたたく、足でける                           | 86.3%         | 10.3%            | 0.5%         | 3.0% |
| 物を投げつける、ドアをけったり、壁に物を投げておどす            | 75.8%         | 19.1%            | 1.7%         | 3.3% |
| 大声でどなる、「役立たず」とか「能なし」などという             | 70.4%         | 23.1%            | 3.7%         | 2.8% |
| 持ち物や大切にしているものをこわす                     | 67.5%         | 25.7%            | 3.3%         | 3.5% |
| いやがるのに性的な行為を強要する                      | 80.5%         | 15.1%            | 1.4%         | 3.0% |
| 見たくないのに卑わいな映像や雑誌を見せる                  | 71.7%         | 19.5%            | 5.7%         | 3.1% |
| 何を言っても、長時間無視し続ける                      | 52.7%         | 35.7%            | 8.9%         | 2.8% |
| 交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する              | 54.1%         | 34.1%            | 9.0%         | 2.8% |
| 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる | 75.8%         | 17.2%            | 3.8%         | 3.1% |

暴力と認識される行為について聞いたところ、暴力かどうかの質問に対しては、どの項目も５割を超えて暴力と感じています。埼玉県と比較しても差はあまりありませんでした。

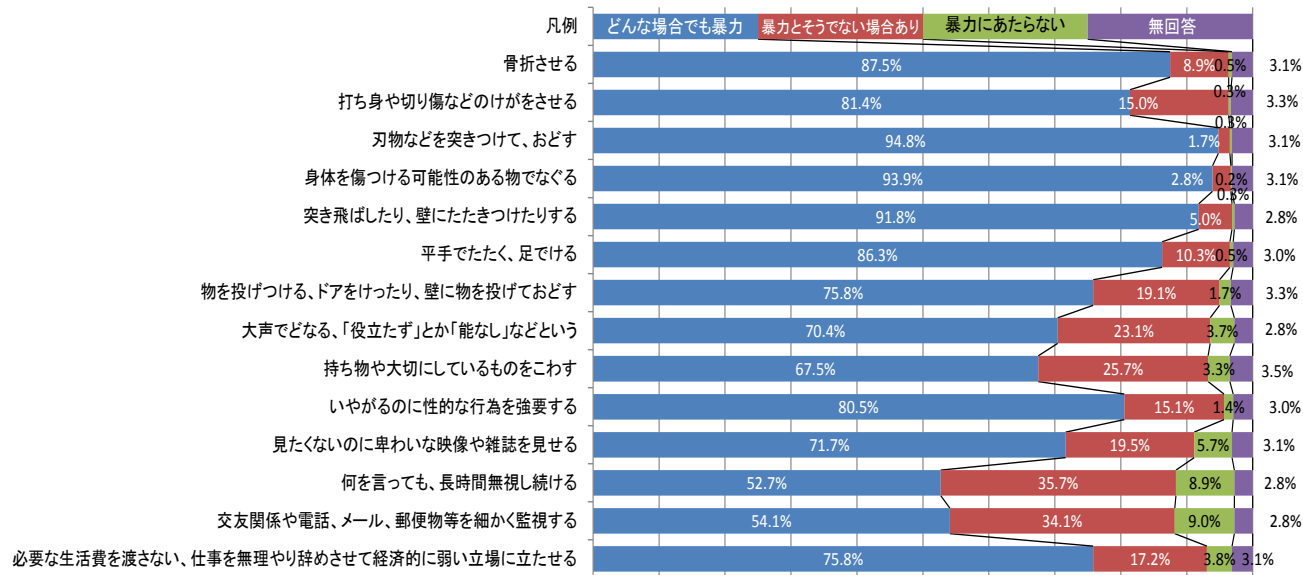
年齢別でみると、「骨折させる」、「打ち身や切り傷などのけがをさせる」、「刃物などを突きつけて、おどす」、「身体を傷つける可能性のある物でなぐる」、「突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする」、「平手でたたく、足でける」について全ての年代で７割代半ばから１０割割合で「どんな場合でも暴力にあたる」という認識となっています。

「物を投げつける、ドアをけったり、壁に物を投げておどす」、「大声でどなる、「役立たず」とか「能なし」などという」、「持ち物や大切にしているものをこわす」では全ての年代で８割台半ばから５割台で「どんな場合でも暴力にあたる」という認識となっています。

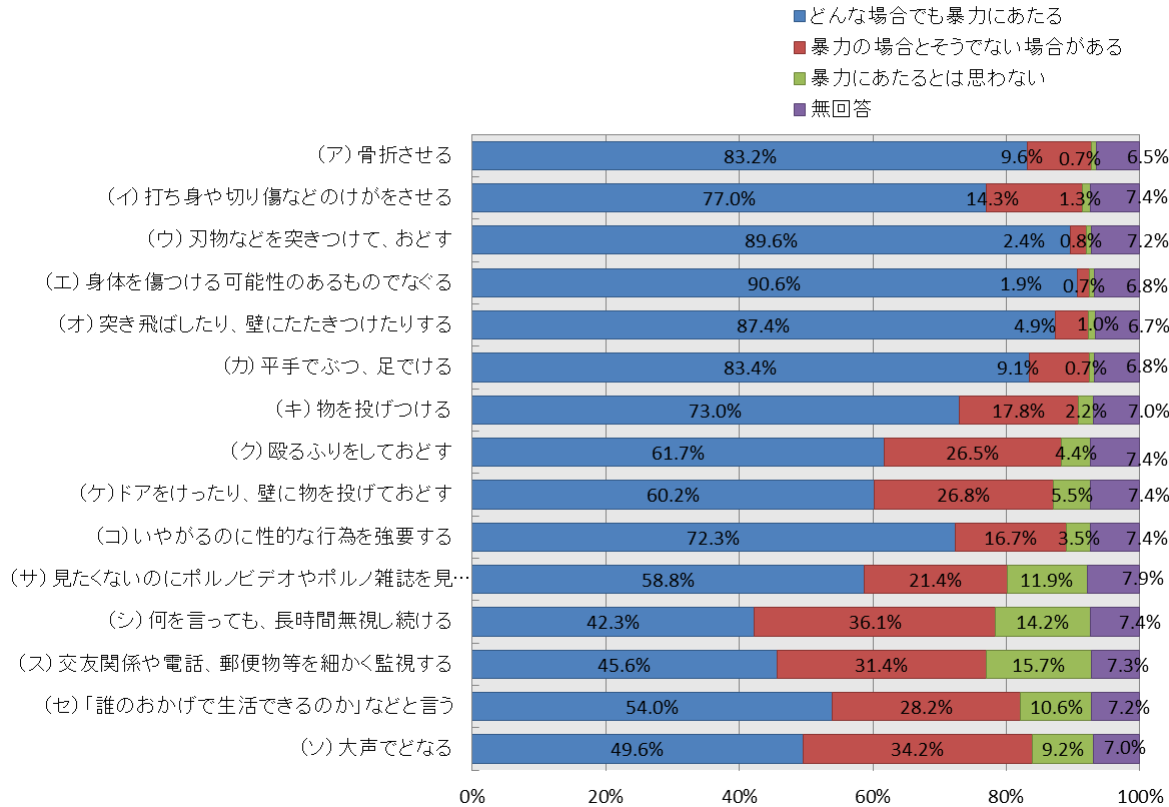
地区別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」は各地区の回答の差は「持ち物や大切にしているものをこわす」を除く全ての項目で１割の間に収まっており、大きな地域差は見られませんでした。「持ち

物や大切にしているものをこわす」では北部地区、中央地区で約 7 割となっており、南部地区は 5 割台半ばとなっています。

学歴別でみると、「骨折させる」、「突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする」、「平手でたたく、足でける」、「必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる」の項目で短期大学・高等専門学校が最も高く、それ以外の全ての項目で 4 年生大学・大学院が最も高くなっています。



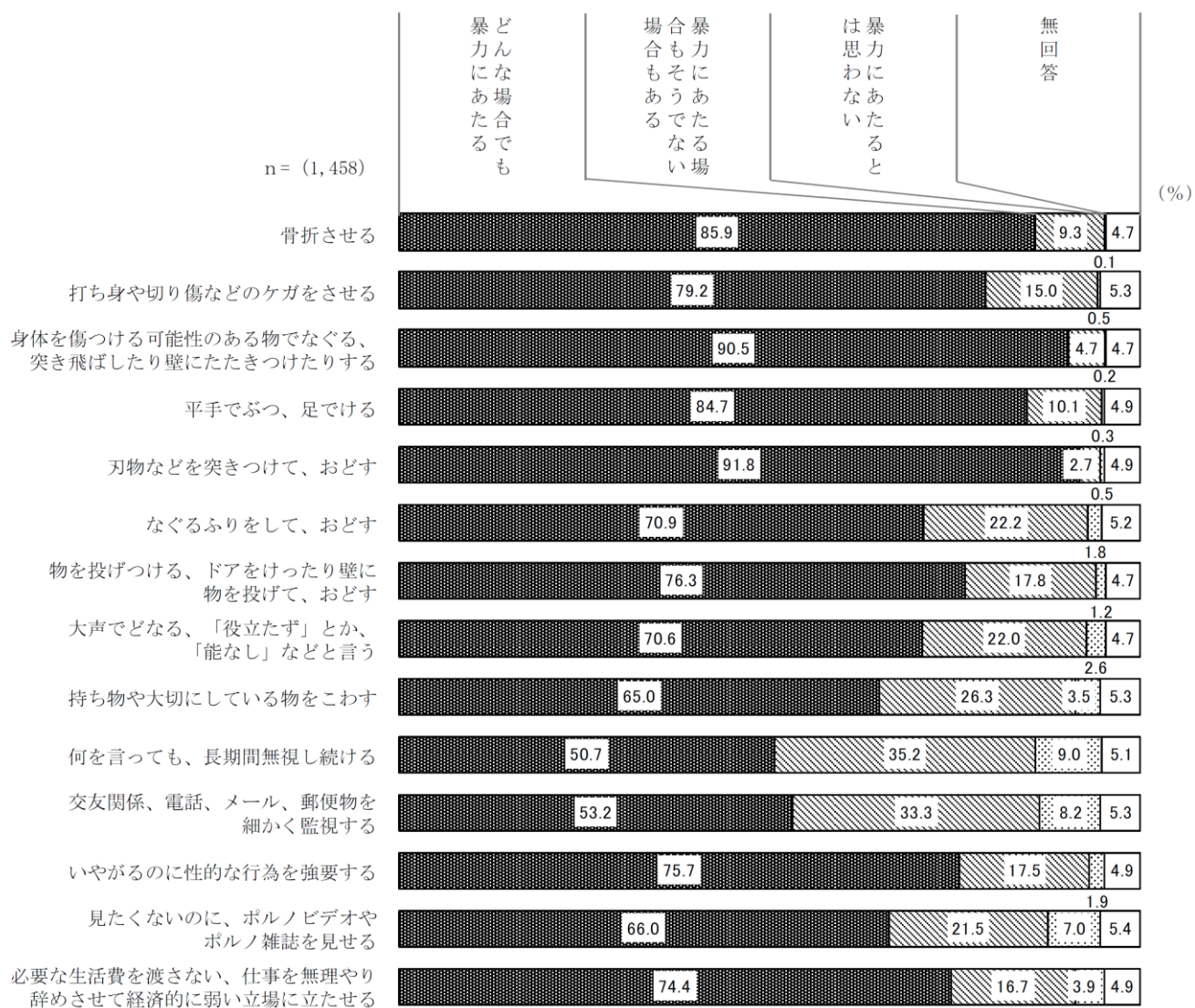
◇前回 問8 次の(ア)～(ソ)のようなことが夫婦(事実婚や別居中を含む)の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。





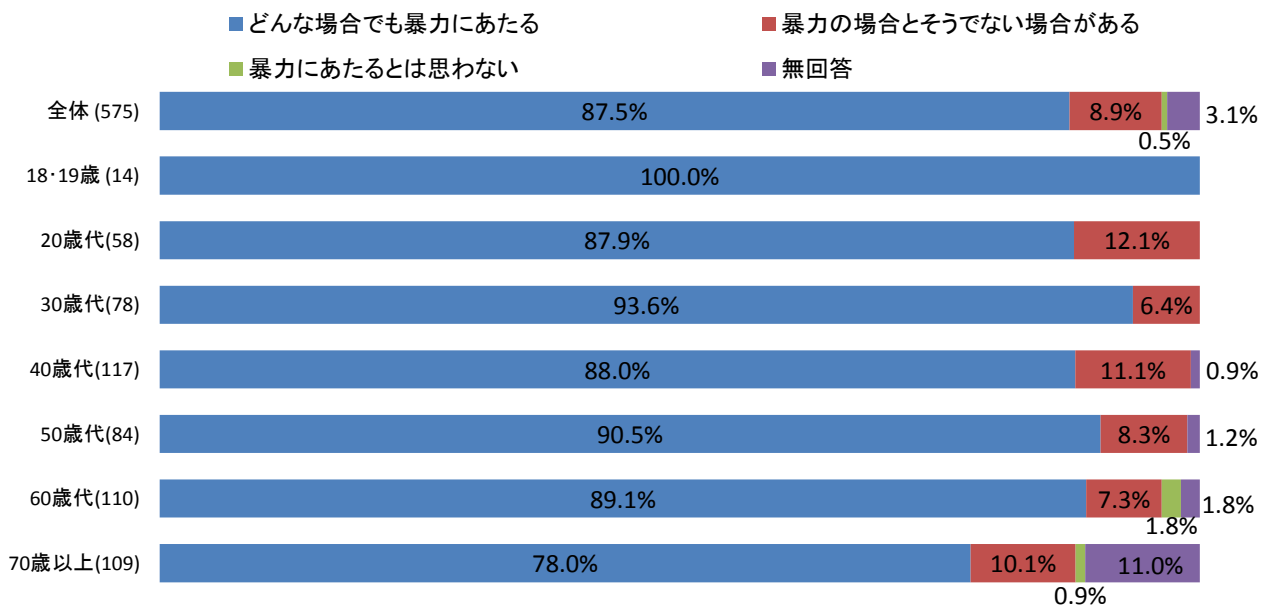
## ◇埼玉県

図表 5-1 夫婦間の暴力と認識される行為

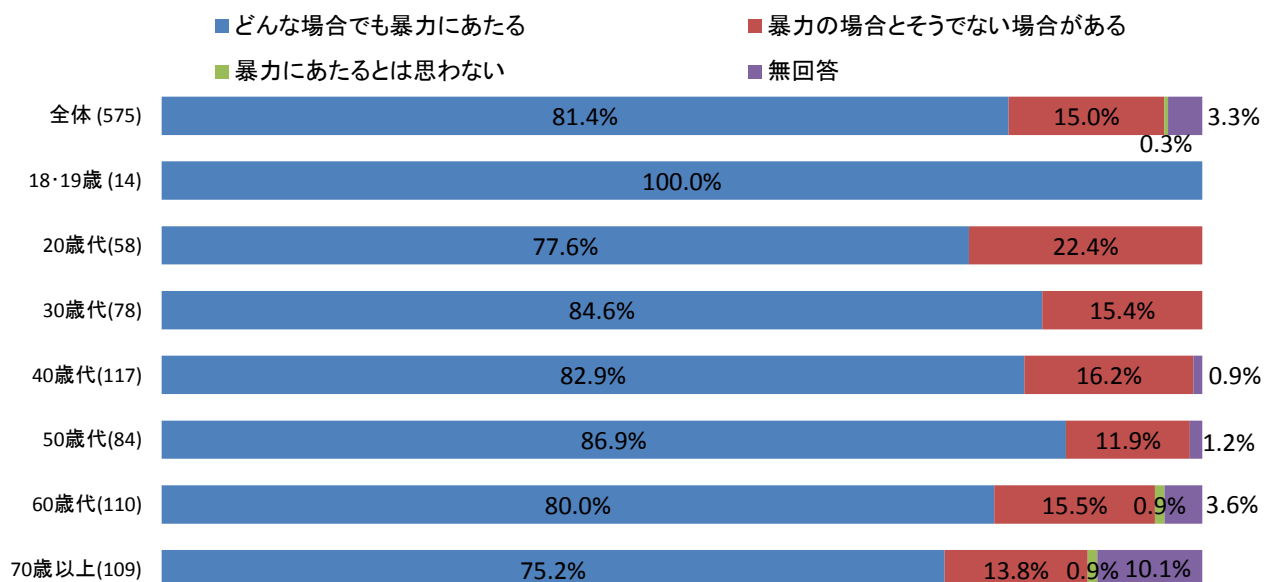


## ◇年齢別の結果

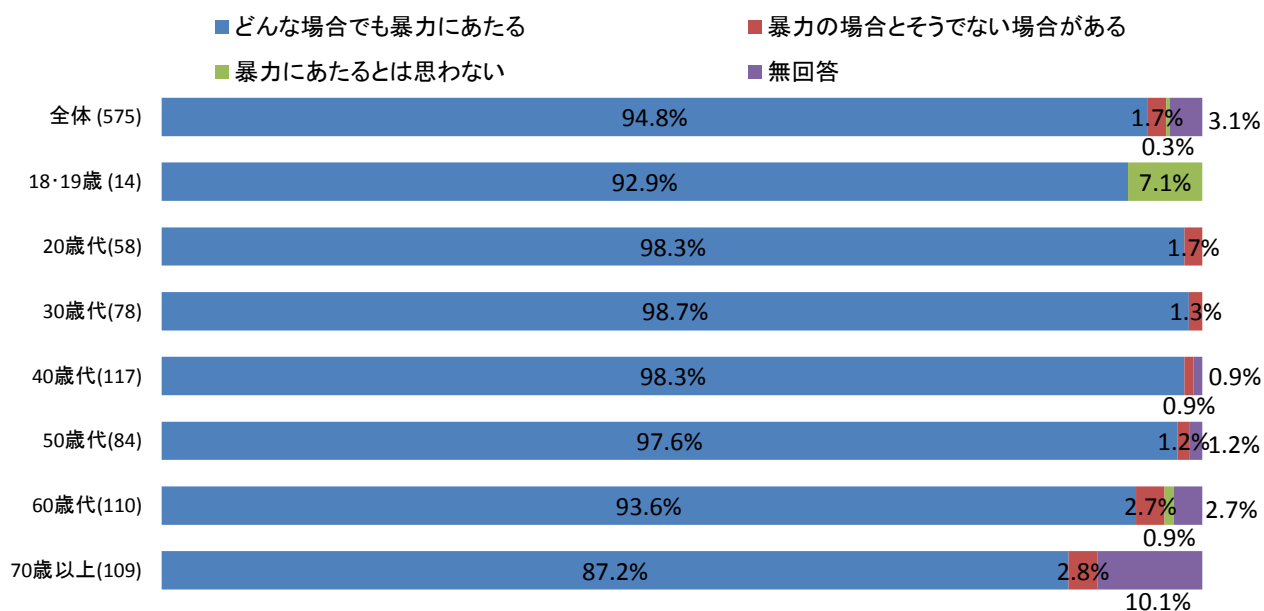
### (1) 骨折させる



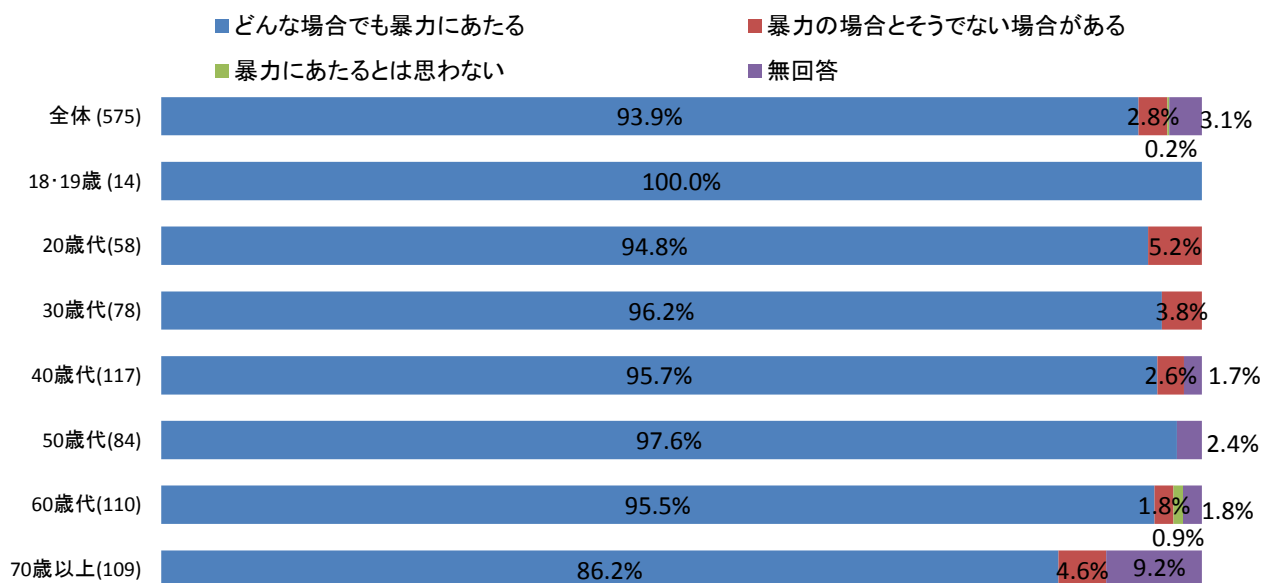
## (2) 打ち身や切り傷などのけがをさせる



## (3) 刃物などを突きつけて、おどす

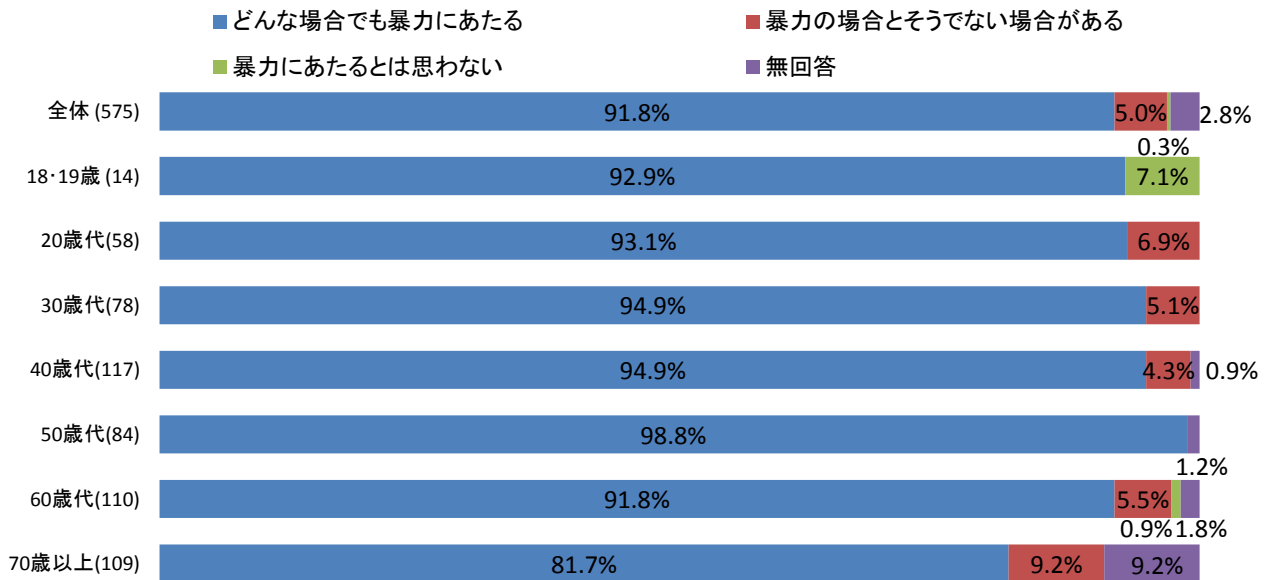


## (4) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる

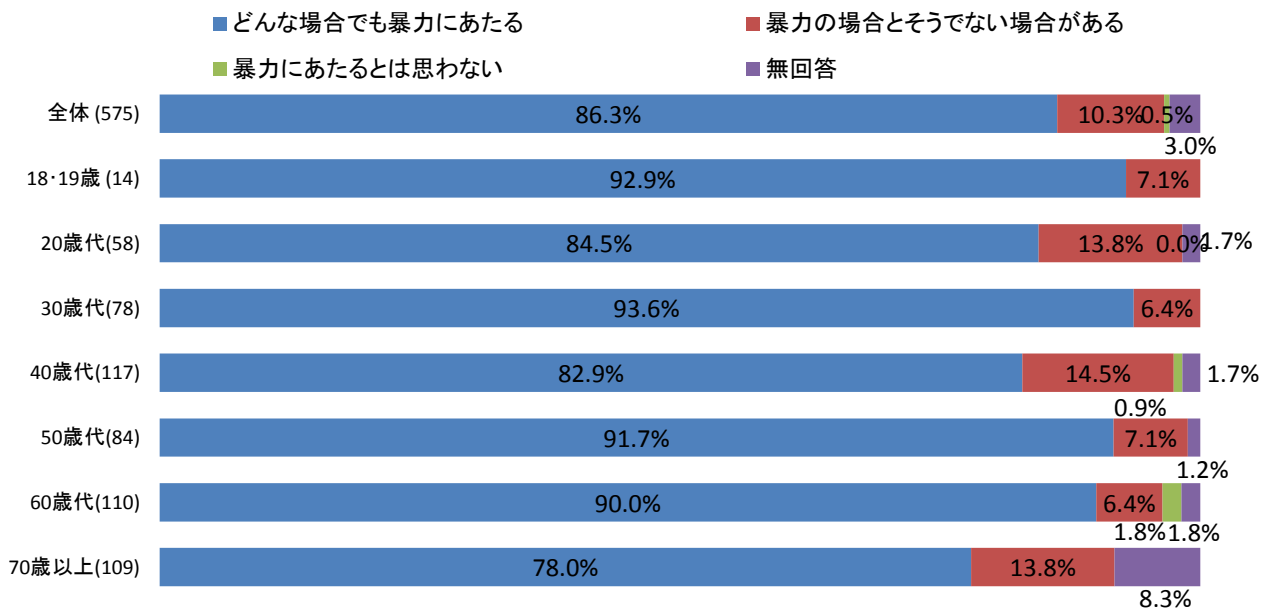




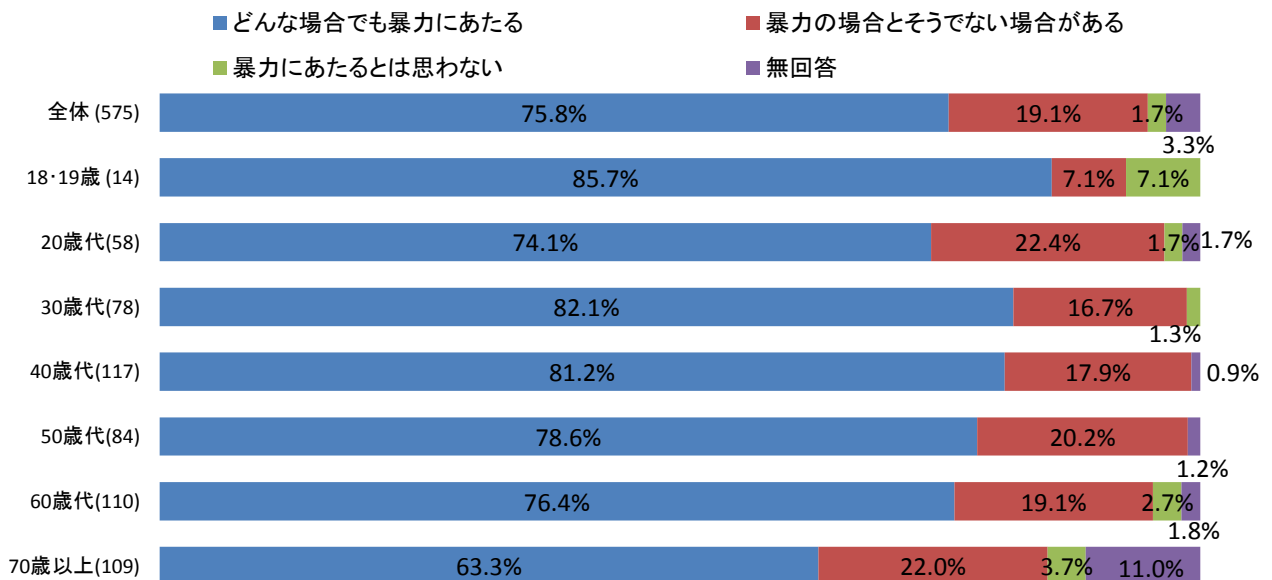
### (5) 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする



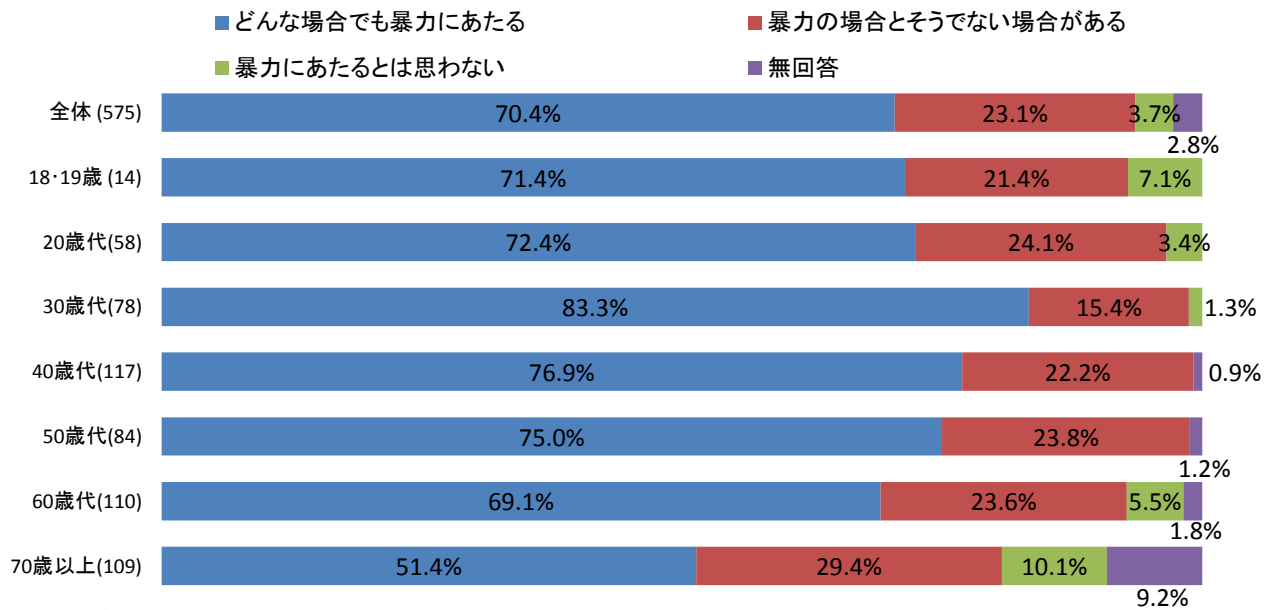
### (6) 平手でたたく、足でける



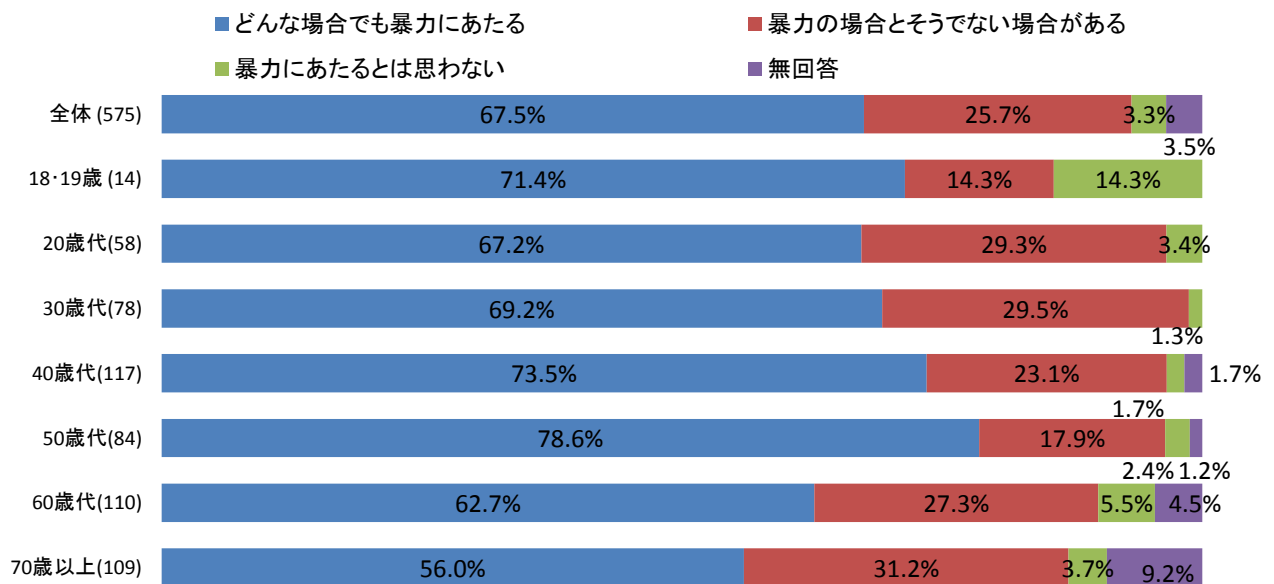
### (7) 物を投げつける、ドアをけったり、壁に物を投げておどす



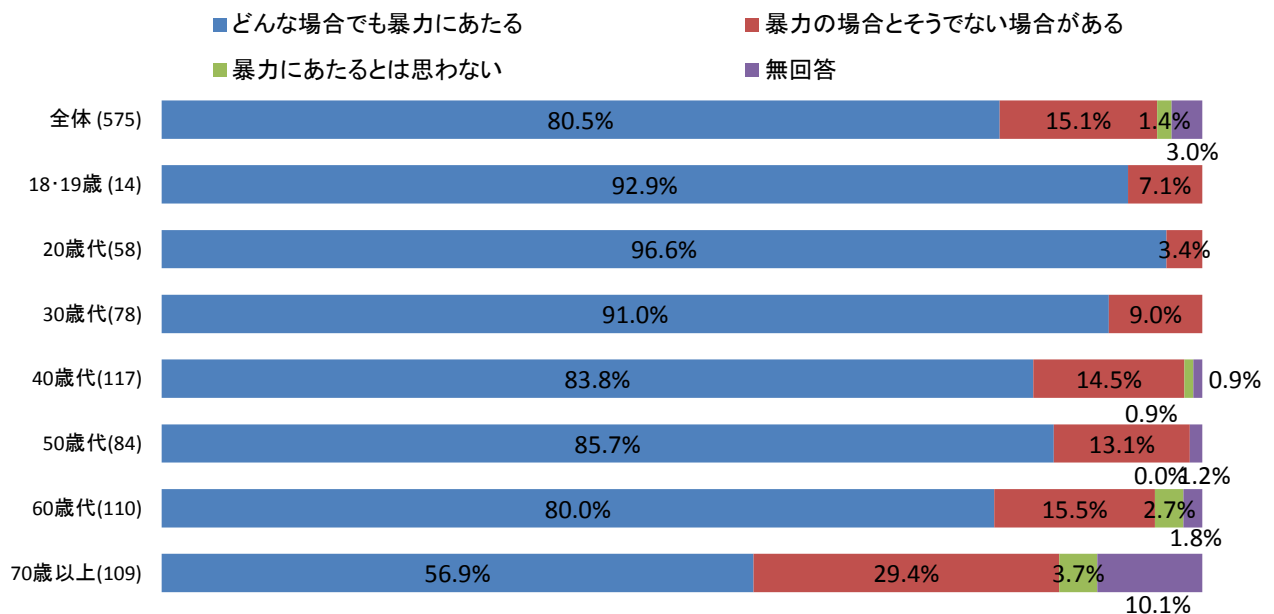
(8) 大声でどなる、「役立たず」とか「能なし」などという



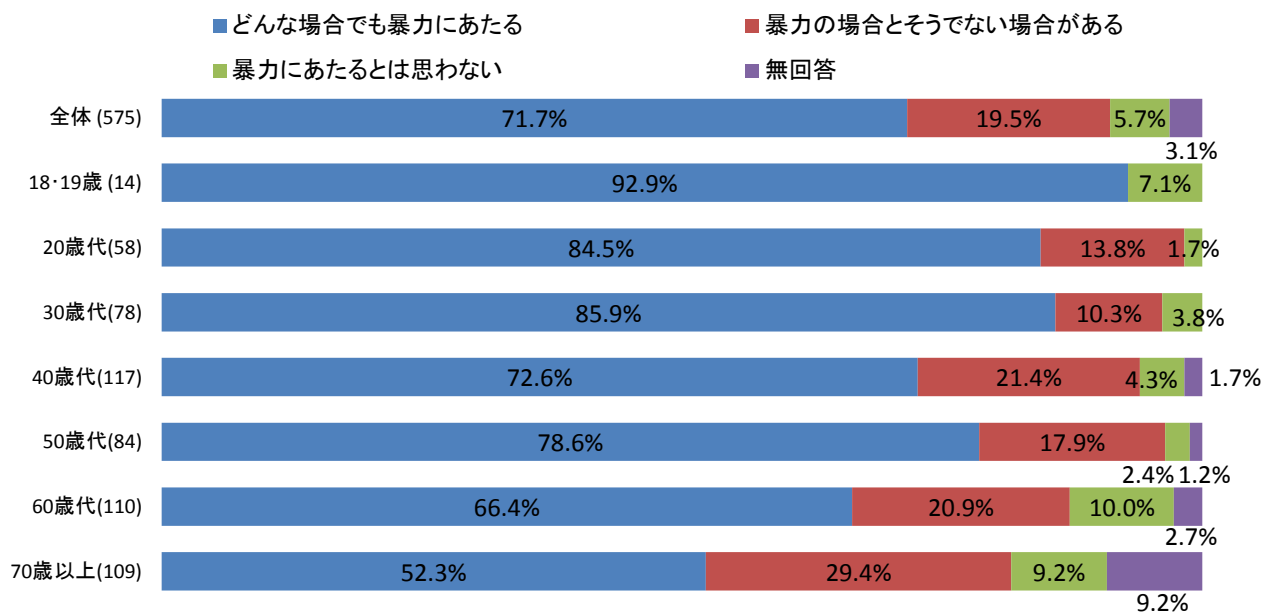
(9) 持ち物や大切にしているものをこわす



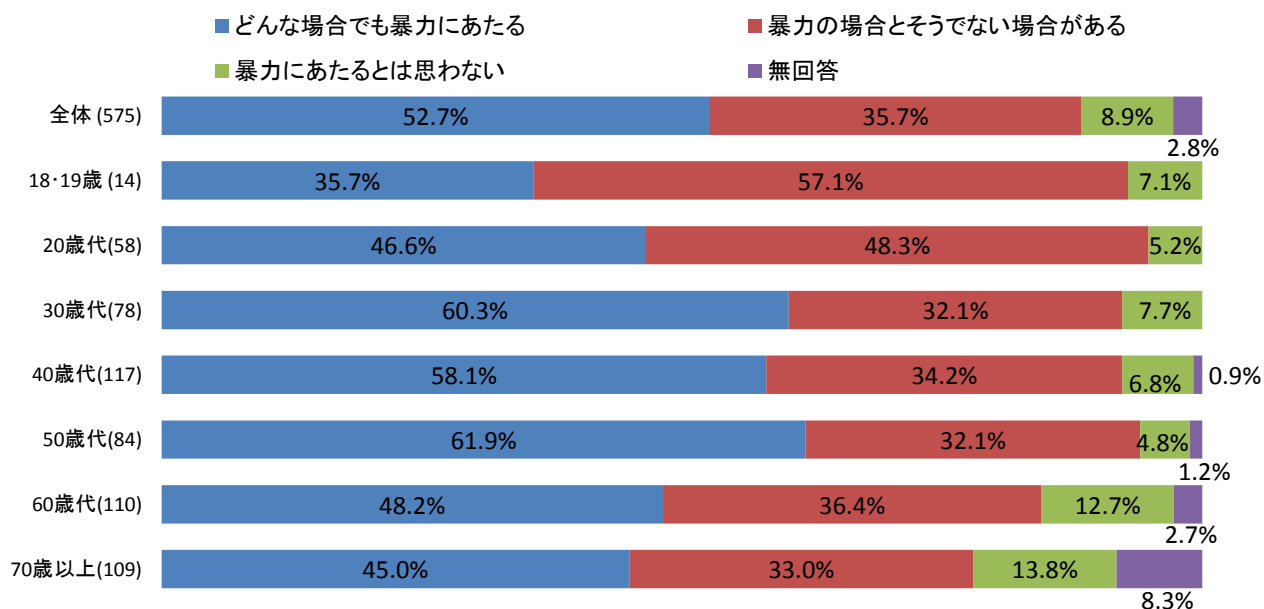
(10) いやがるのに性的な行為を強要する



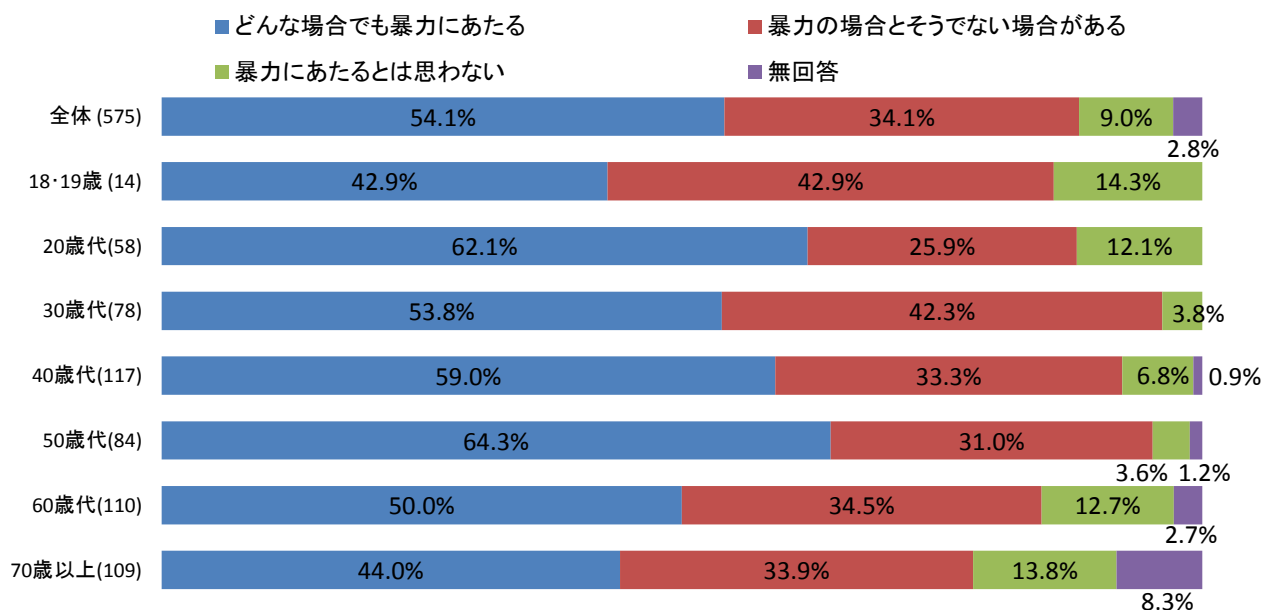
### ( 1 1 ) 見たくないのに卑わいな映像や雑誌を見せる



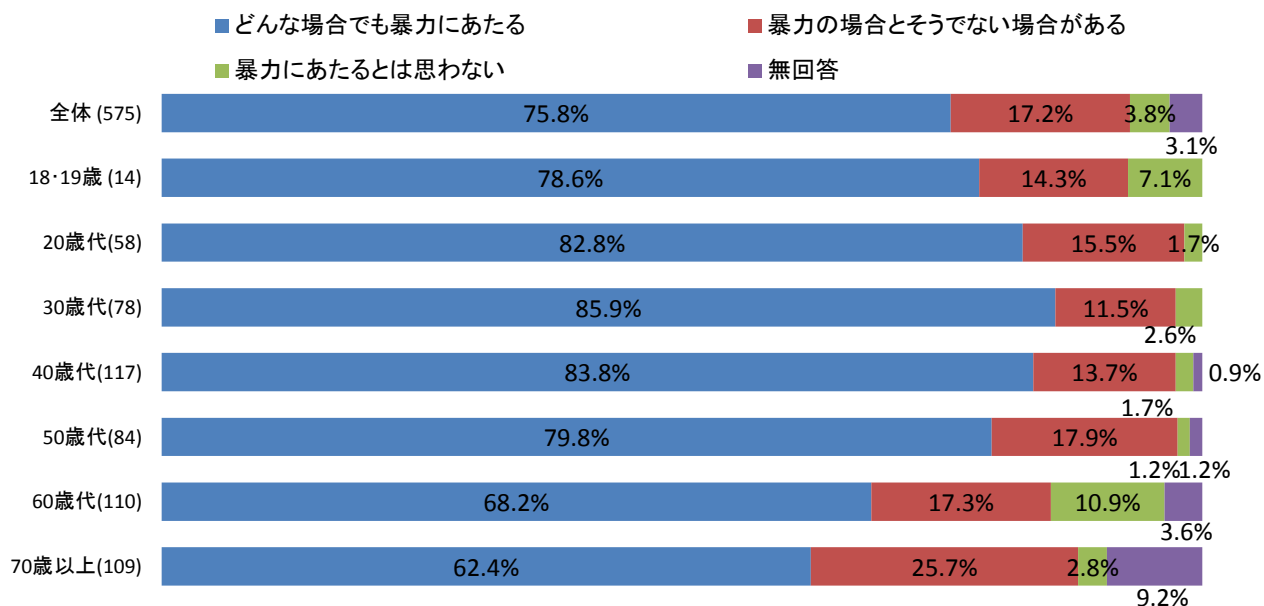
### ( 1 2 ) 何を言っても、長時間無視し続ける



### ( 1 3 ) 交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する

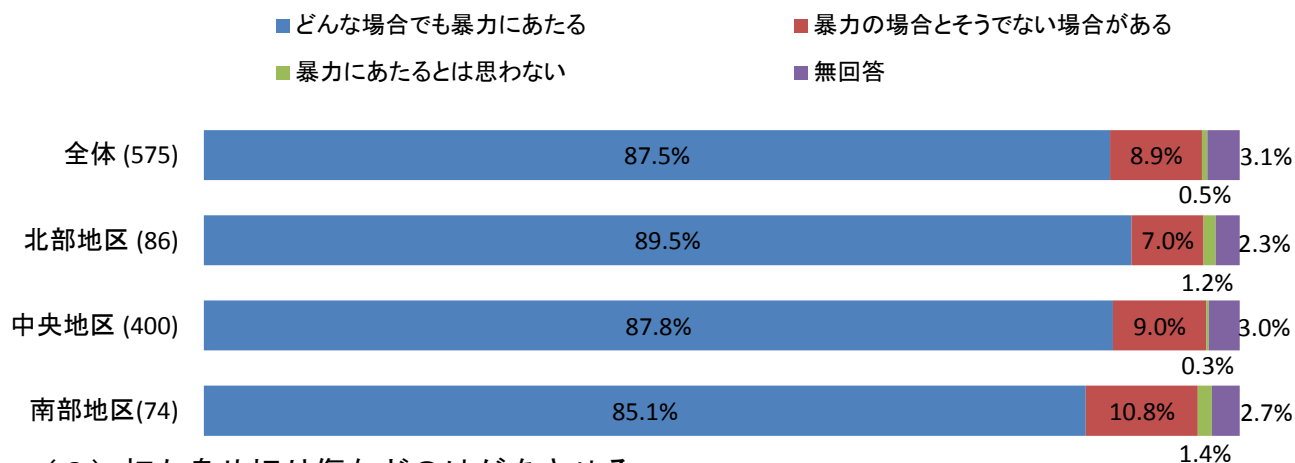


(14) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる

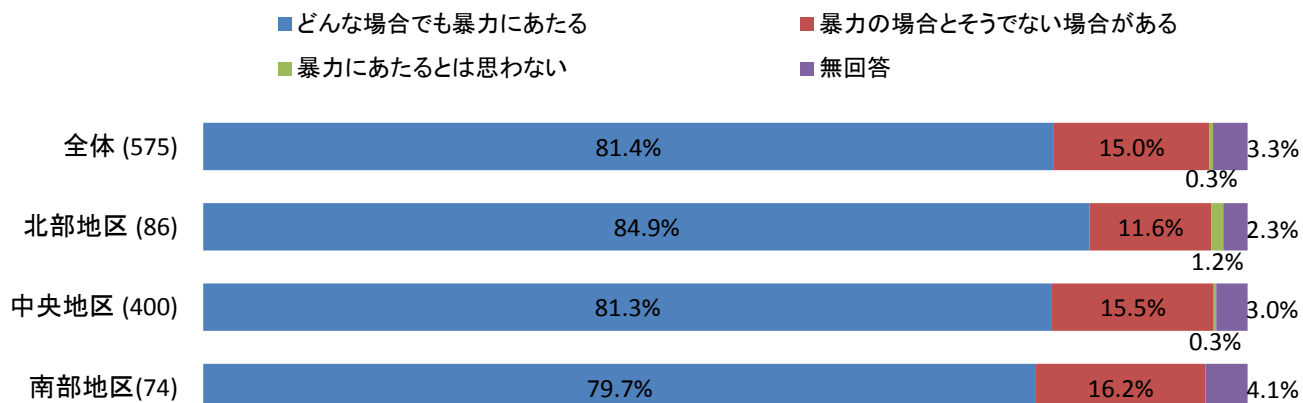


◇地区別の結果

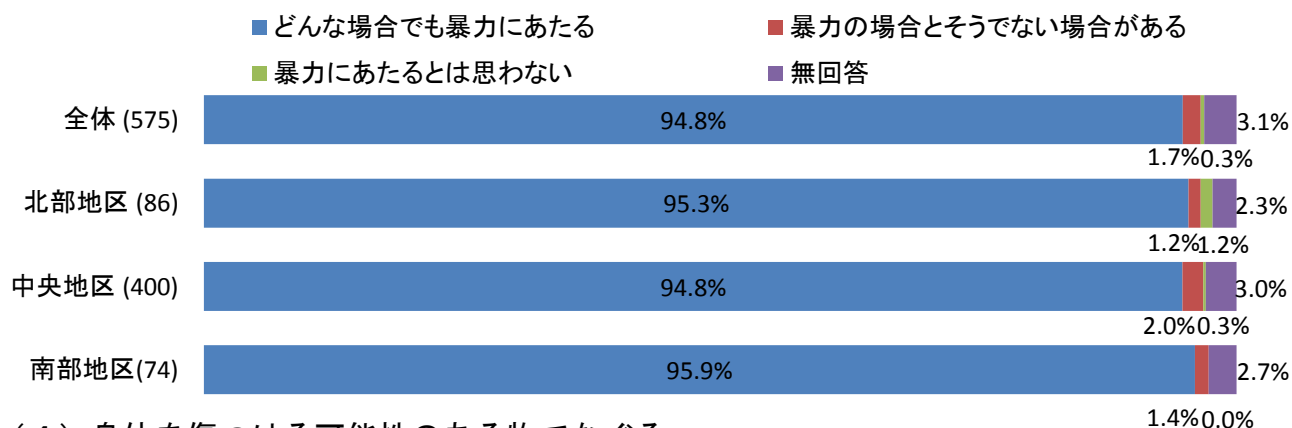
(1) 骨折させる



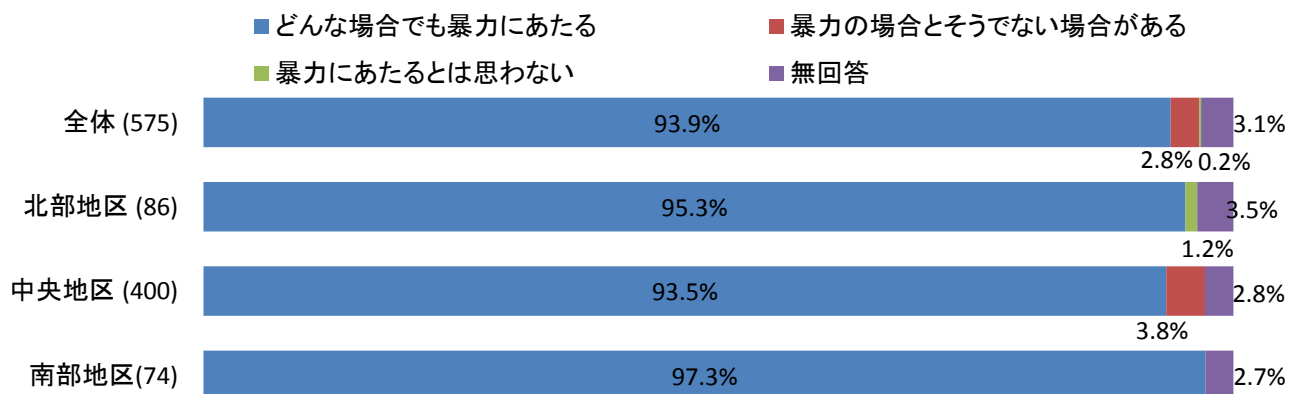
(2) 打ち身や切り傷などのけがをさせる



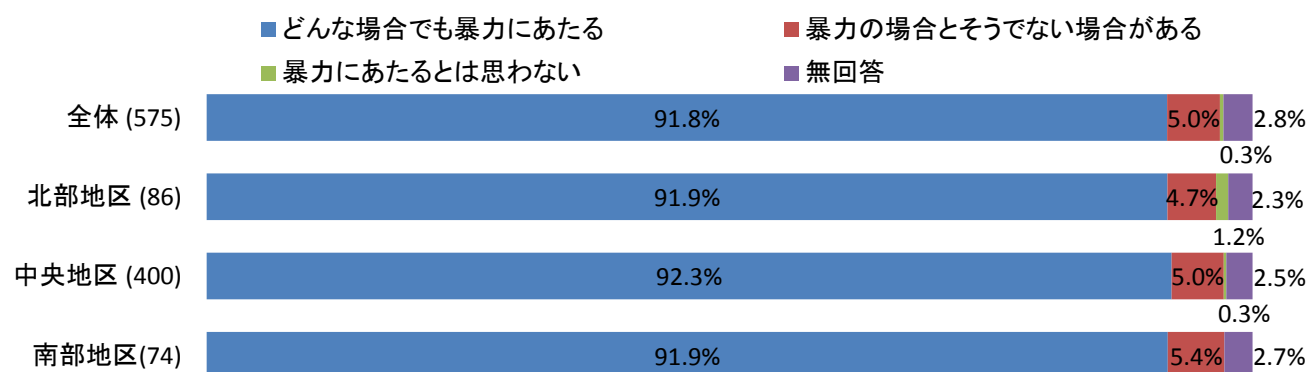
### (3) 刃物などを突きつけて、おどす



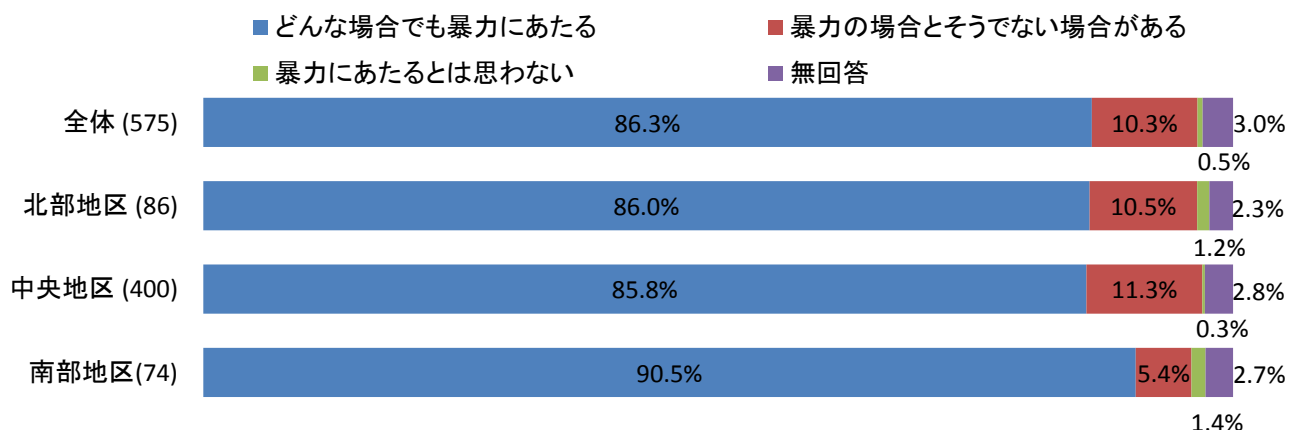
### (4) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる



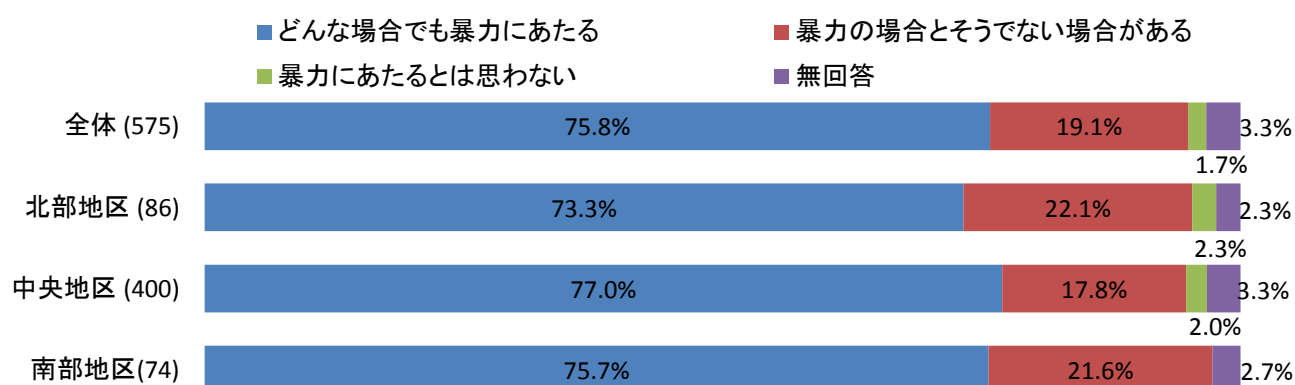
### (5) 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする



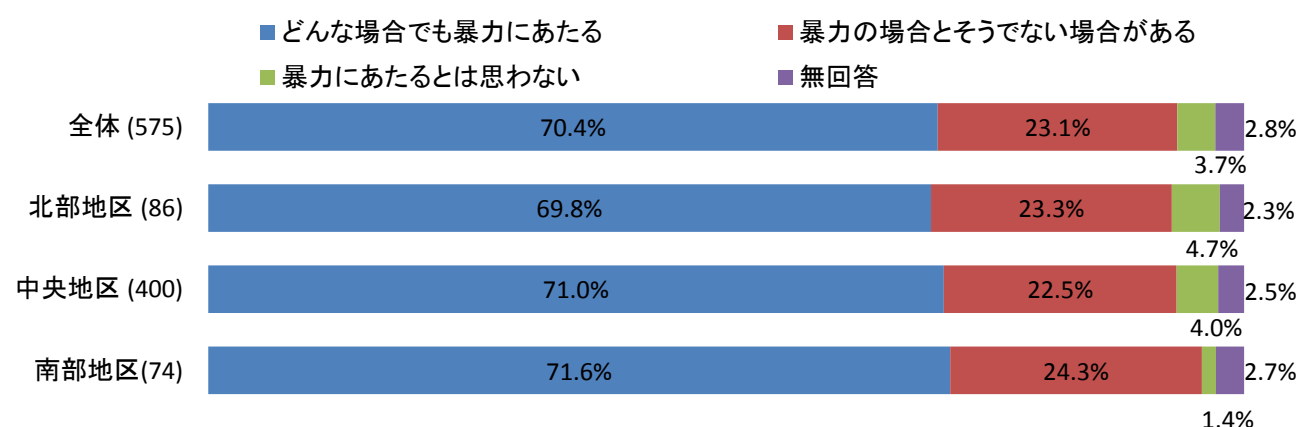
### (6) 平手でたたく、足でける



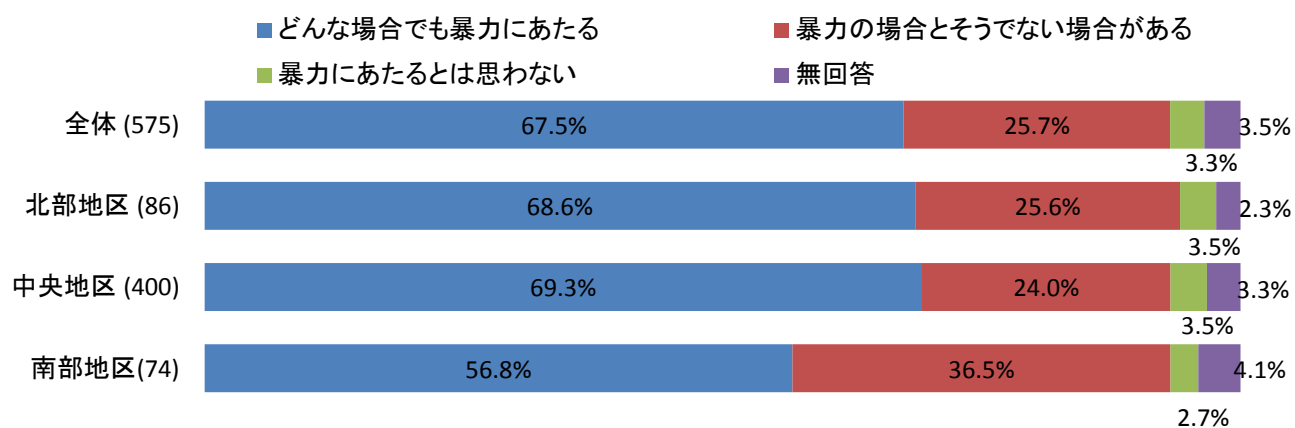
(7) 物を投げつける、ドアをけったり、壁に物を投げておどす



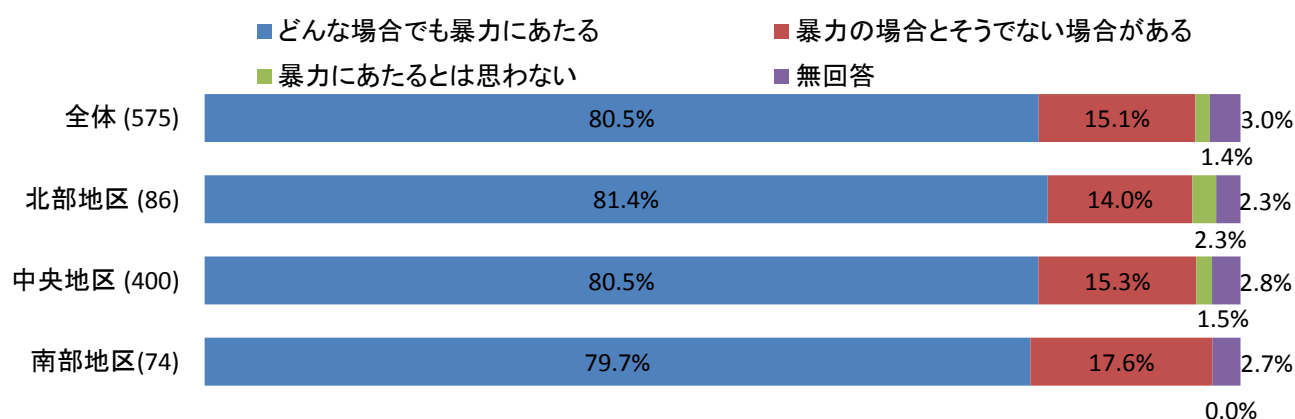
(8) 大声でどなる、「役立たず」とか「能なし」などという



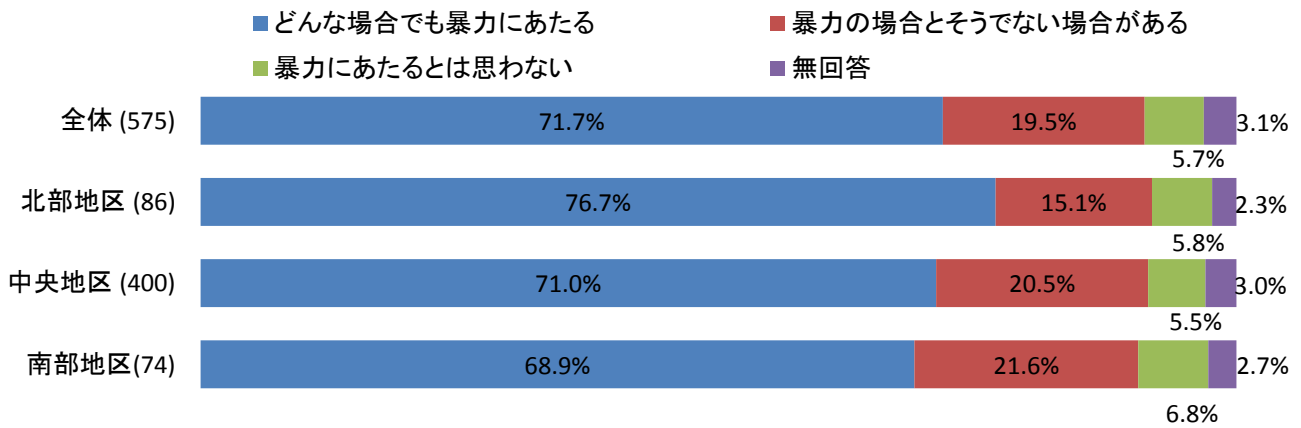
(9) 持ち物や大切にしているものをこわす



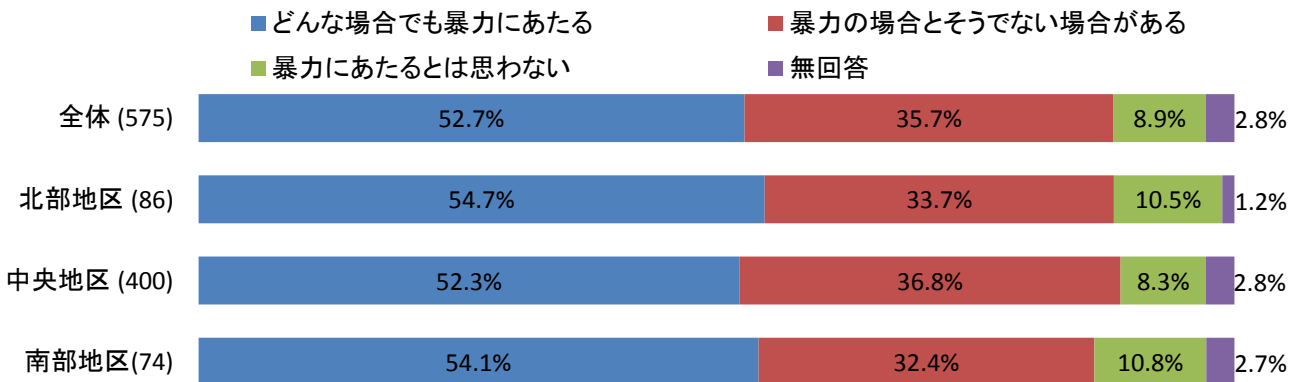
(10) いやがるのに性的な行為を強要する



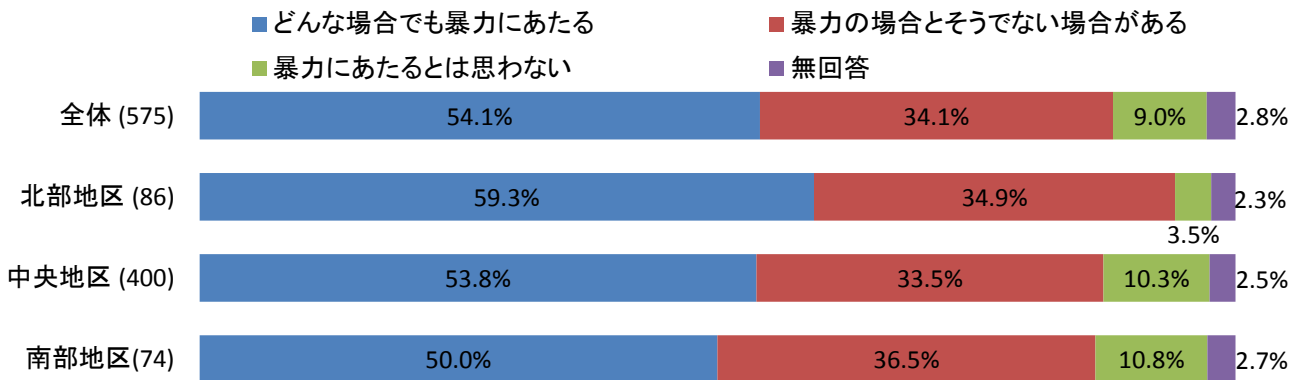
( 1 1 ) 見たくないのに卑わいな映像や雑誌を見せる



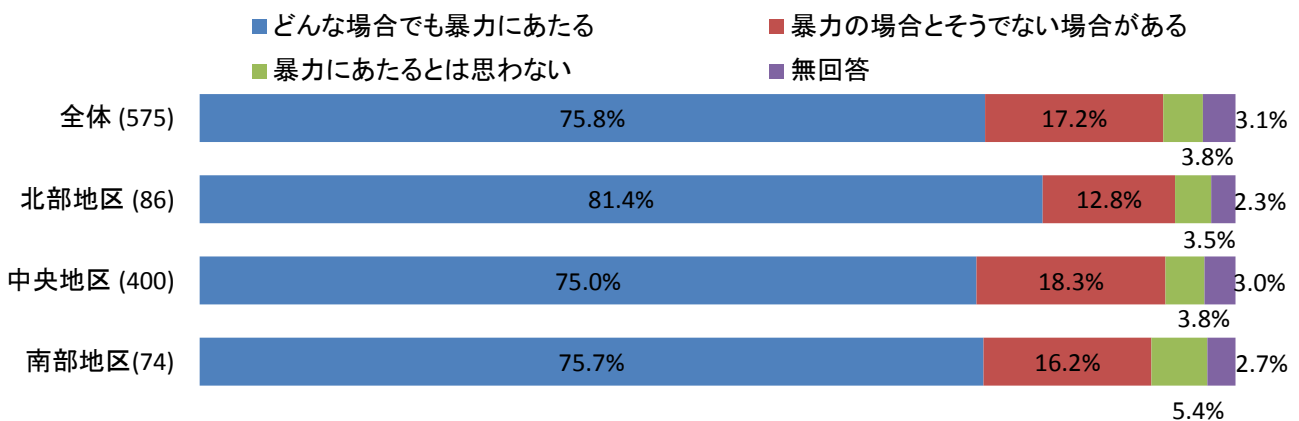
( 1 2 ) 何を言っても、長時間無視し続ける



( 1 3 ) 交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する

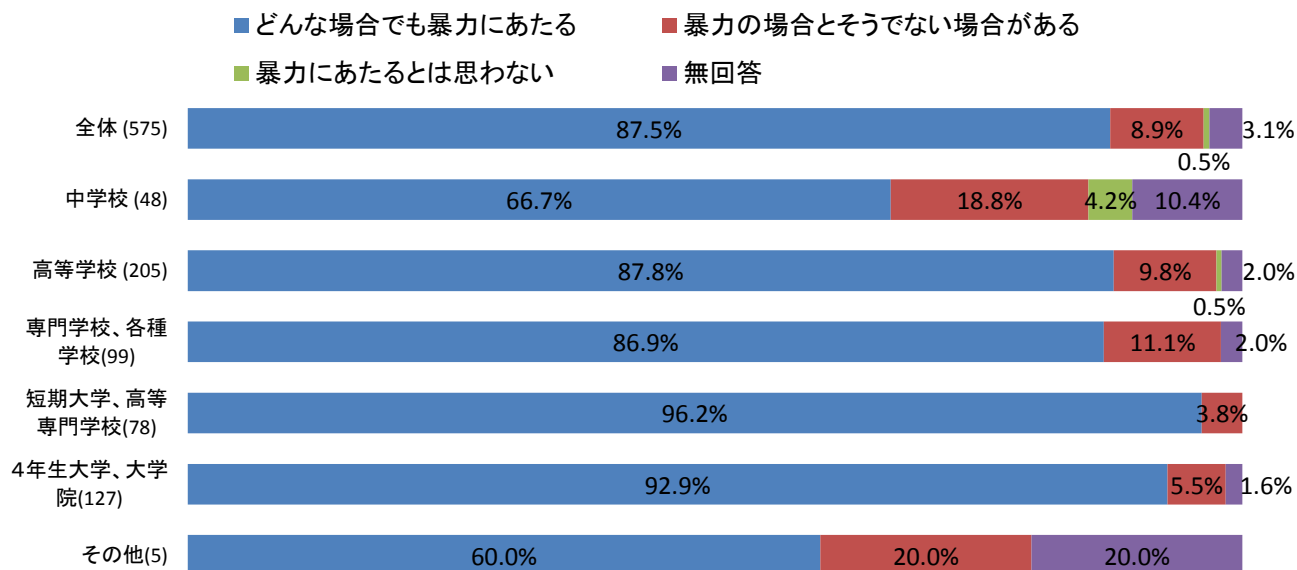


( 1 4 ) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる

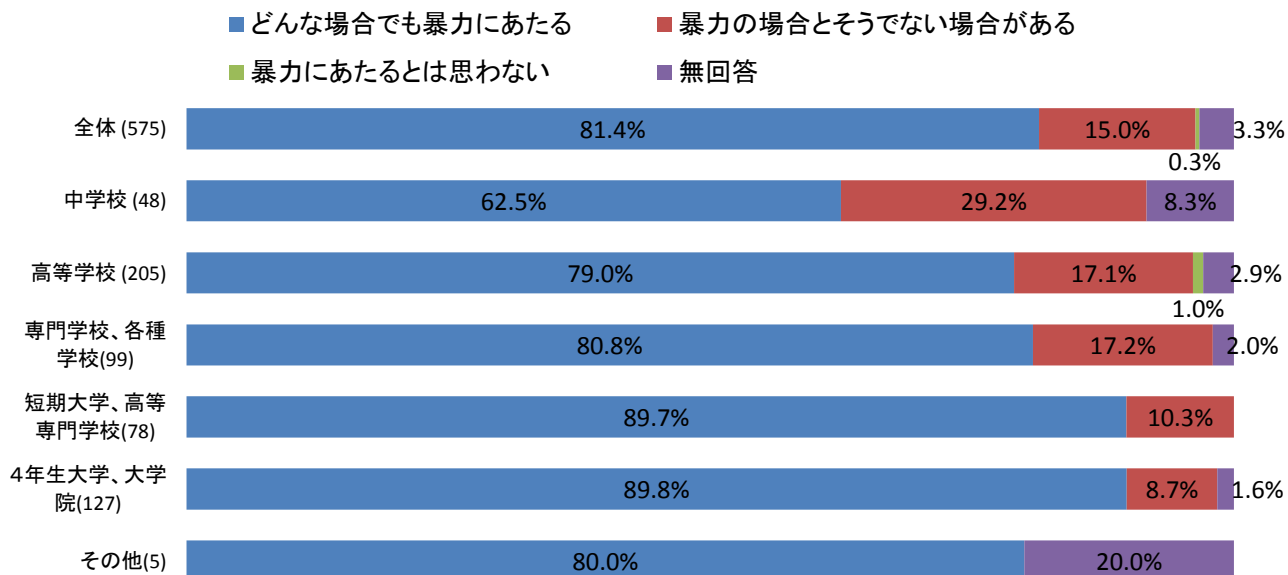


## ◇学歴別の結果

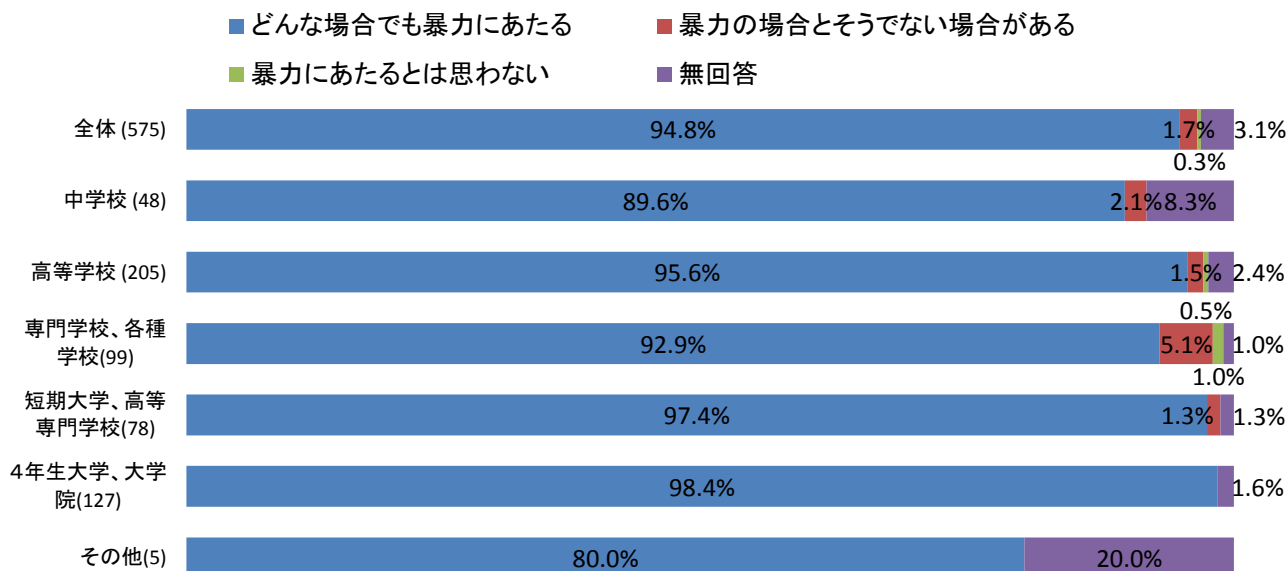
### (1) 骨折させる



### (2) 打ち身や切り傷などのけがをさせる

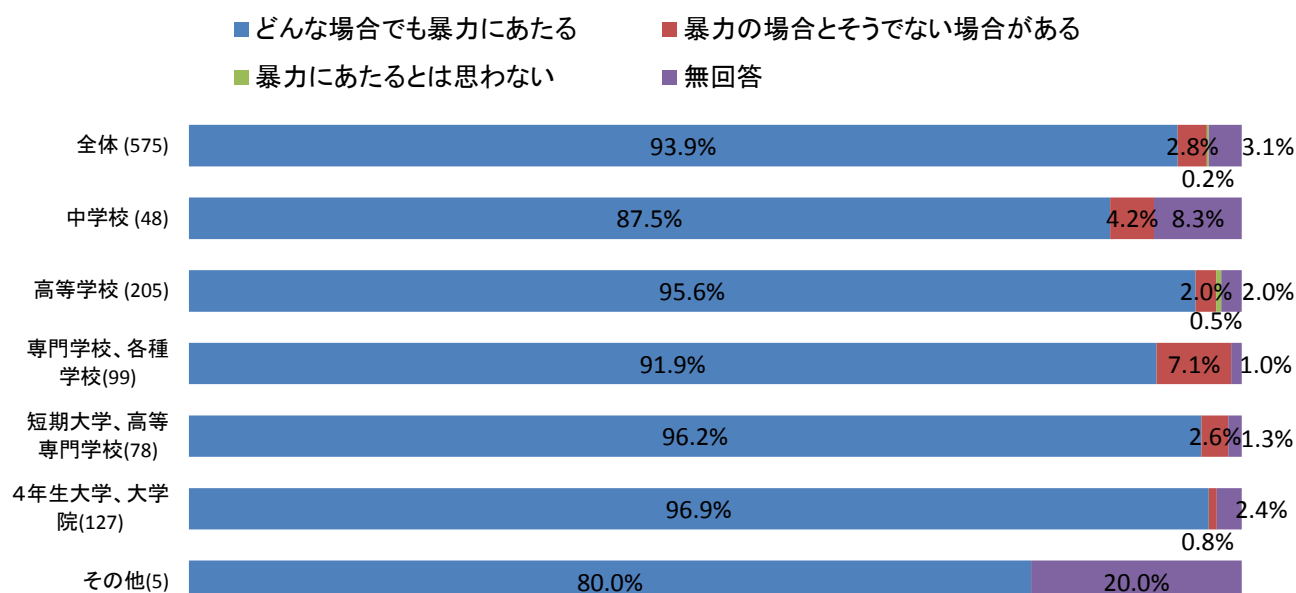


### (3) 刃物などを突きつけて、おどす

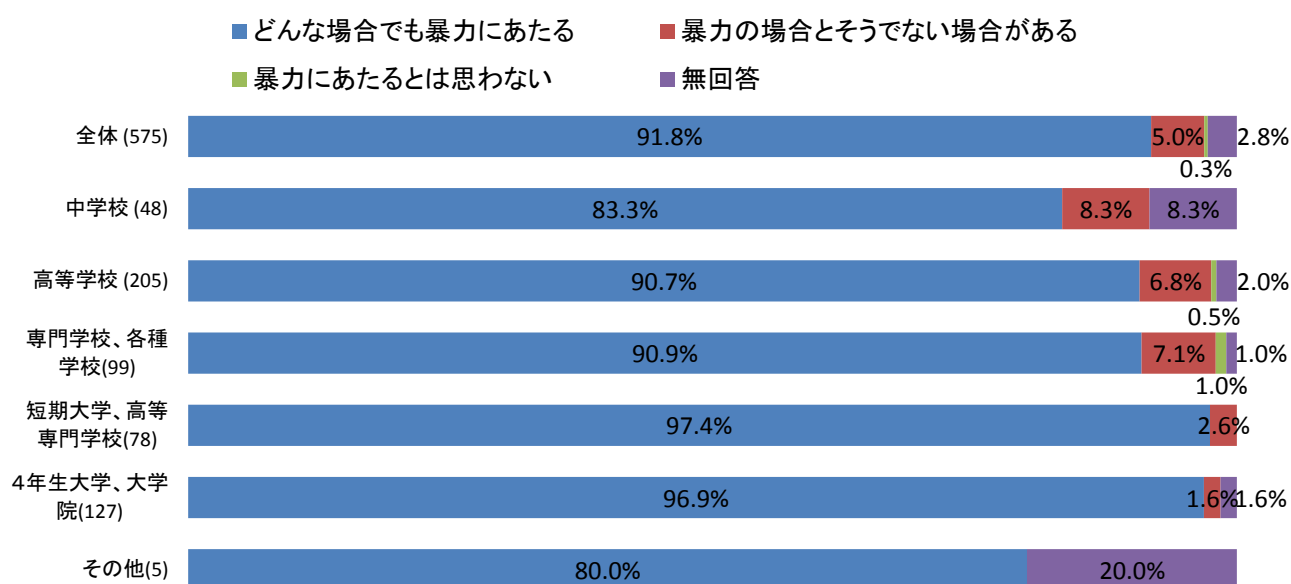




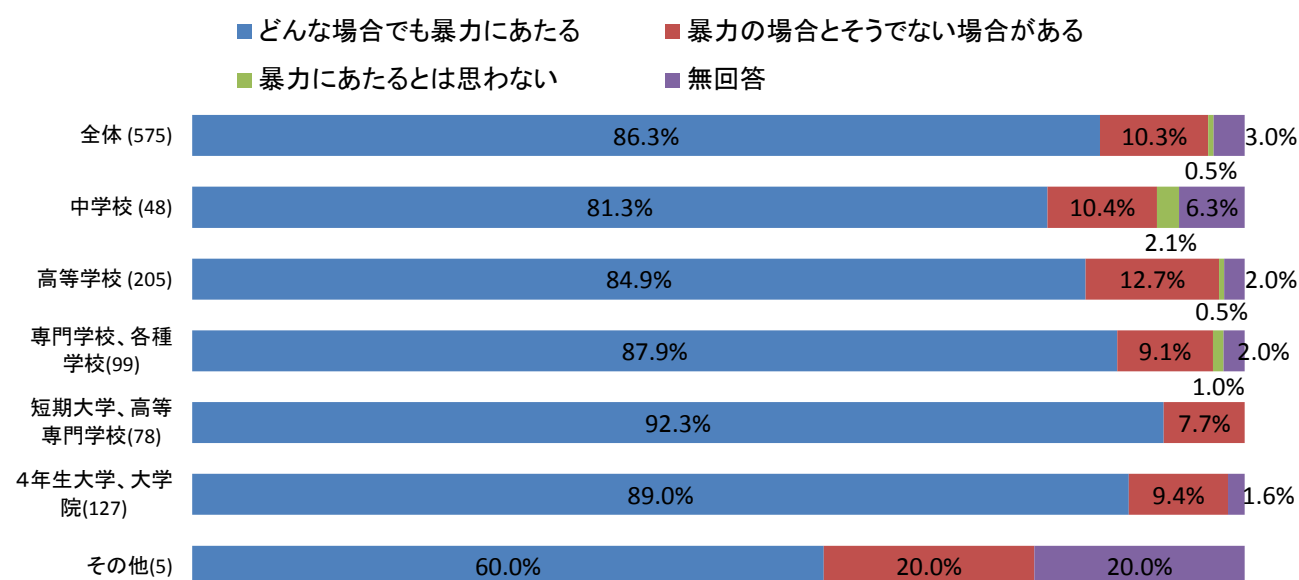
#### (4) 身体を傷つける可能性のある物でなぐる



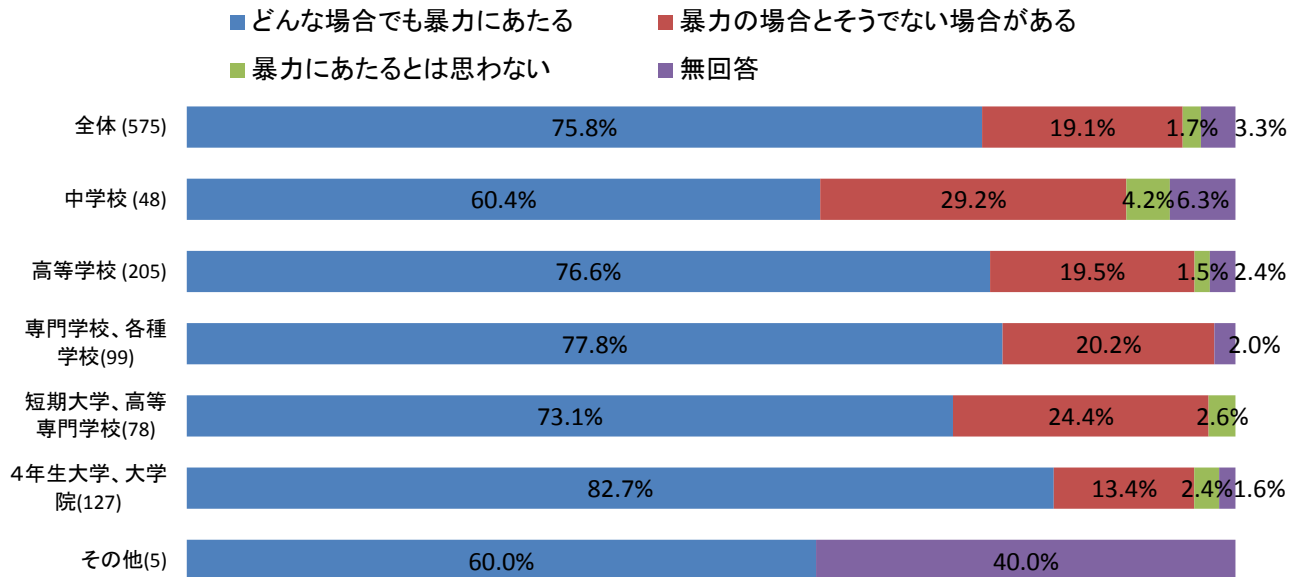
#### (5) 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする



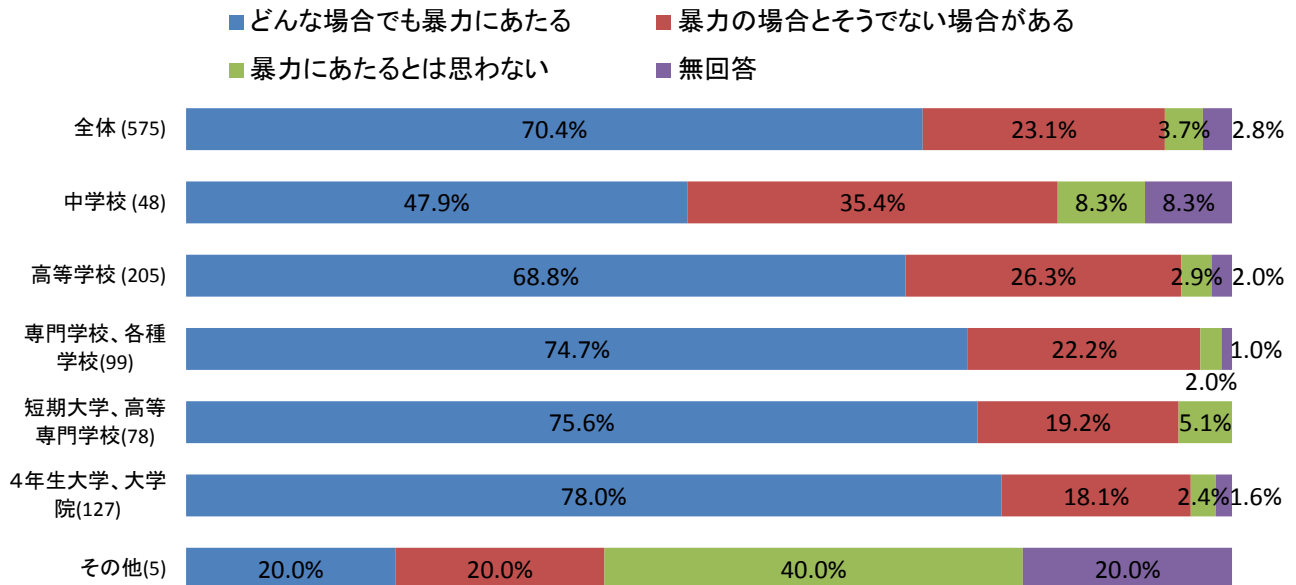
#### (6) 平手でたたく、足でける



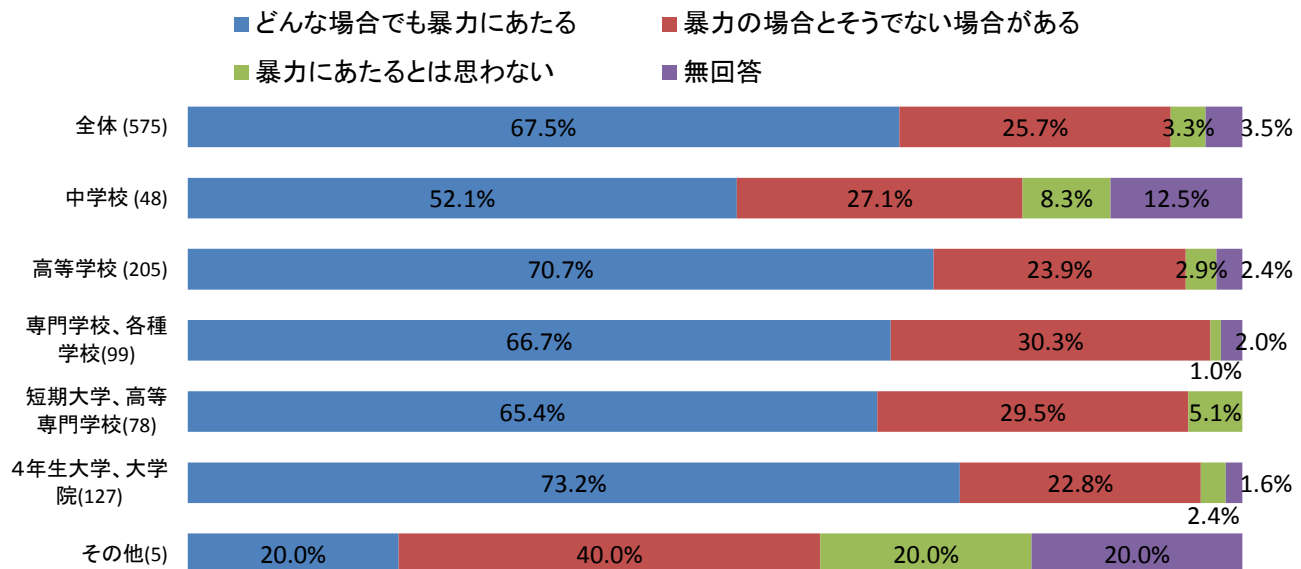
(7) 物を投げつける、ドアをけったり、壁に物を投げておどす



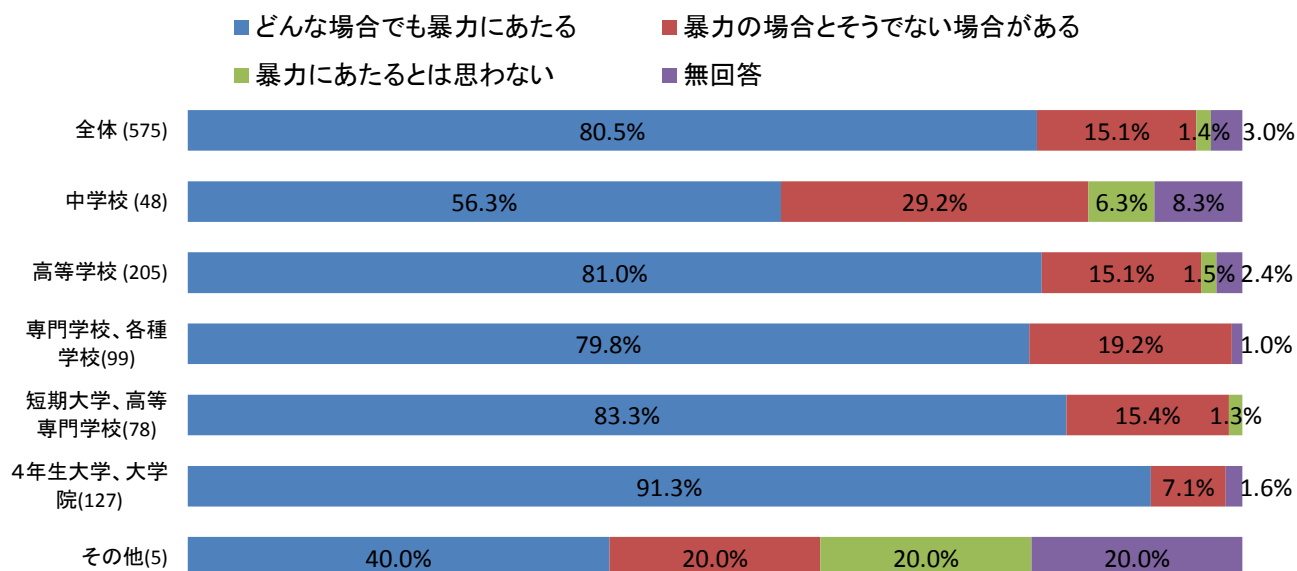
(8) 大声でどなる、「役立たず」とか「能なし」などという



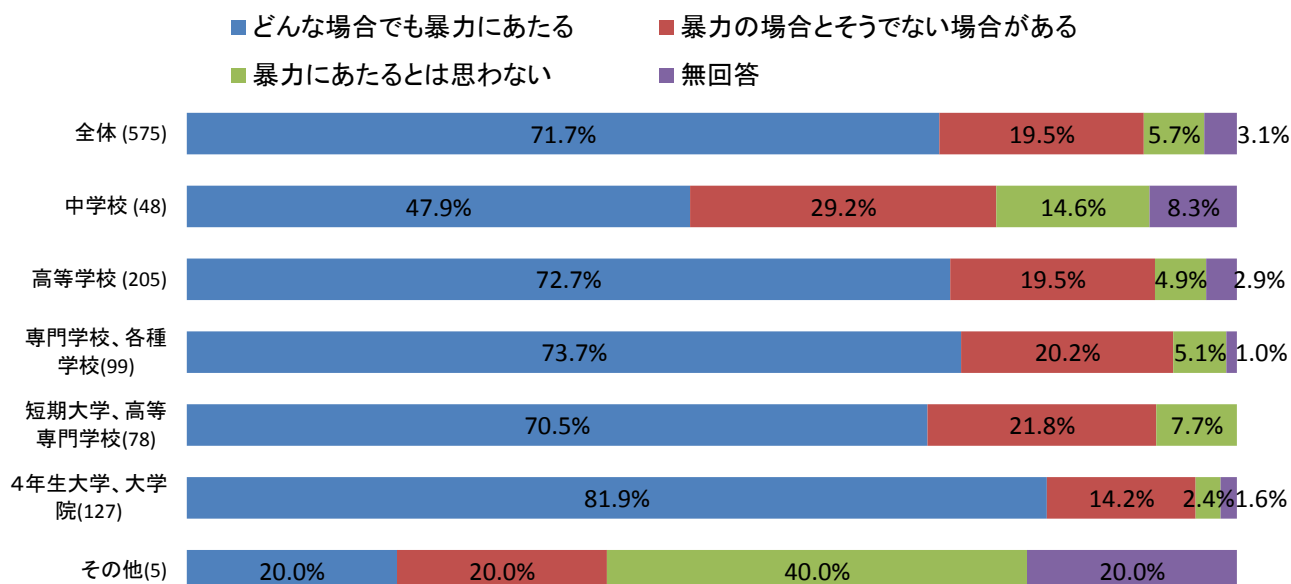
(9) 持ち物や大切にしているものをこわす



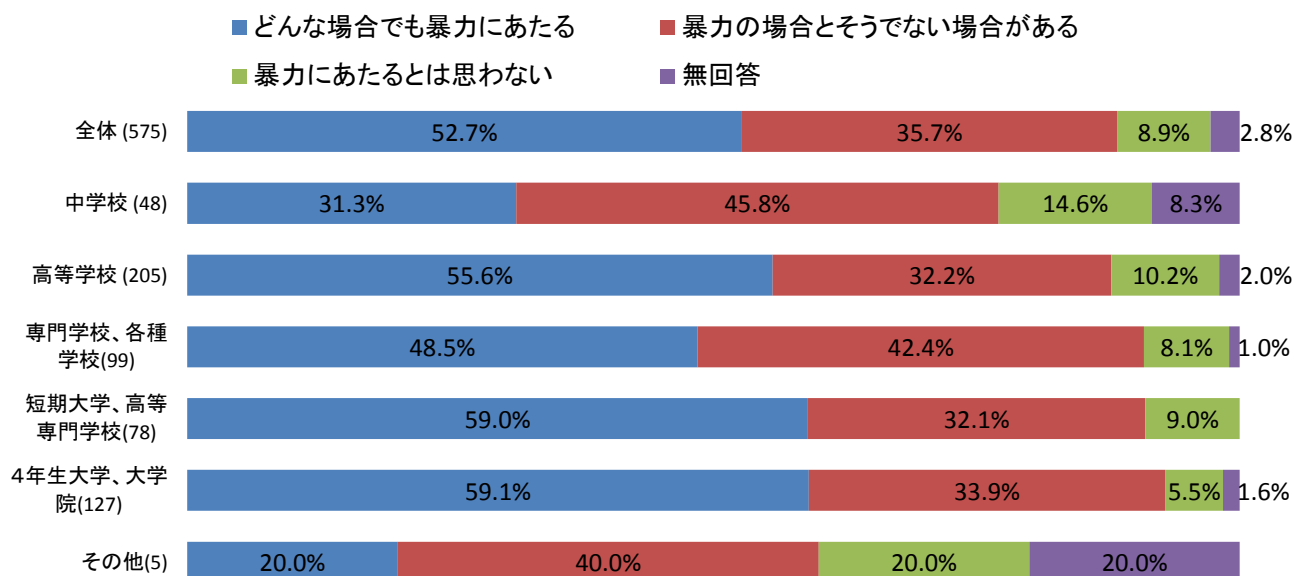
### (10) いやがるのに性的な行為を強要する



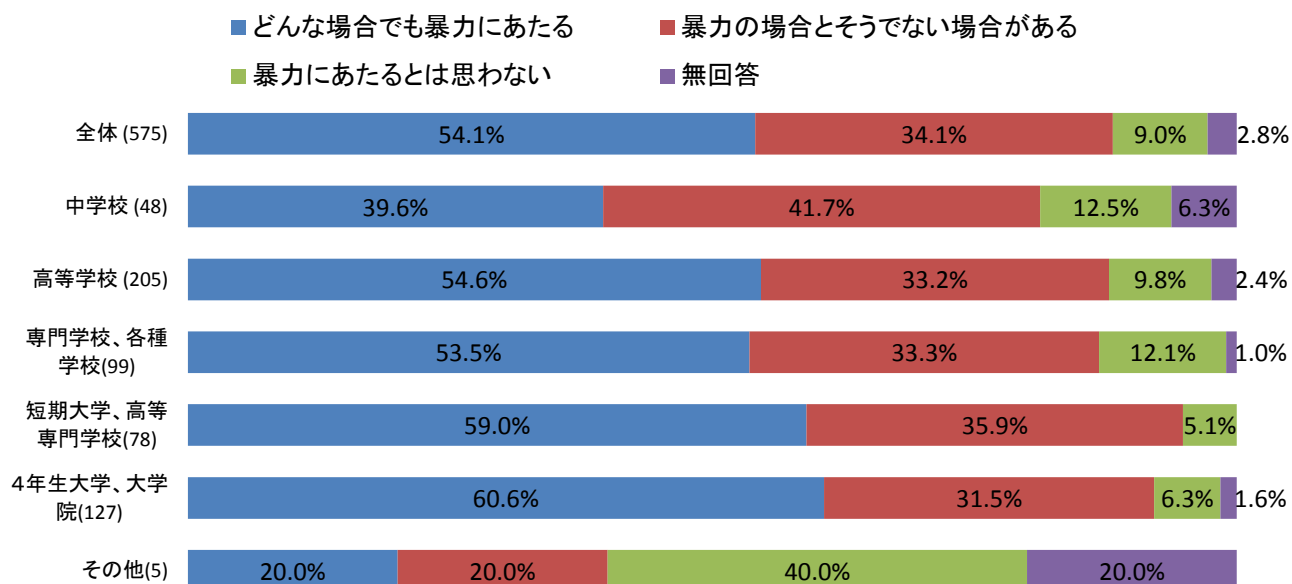
### (11) 見たくないのに卑わいな映像や雑誌を見せる



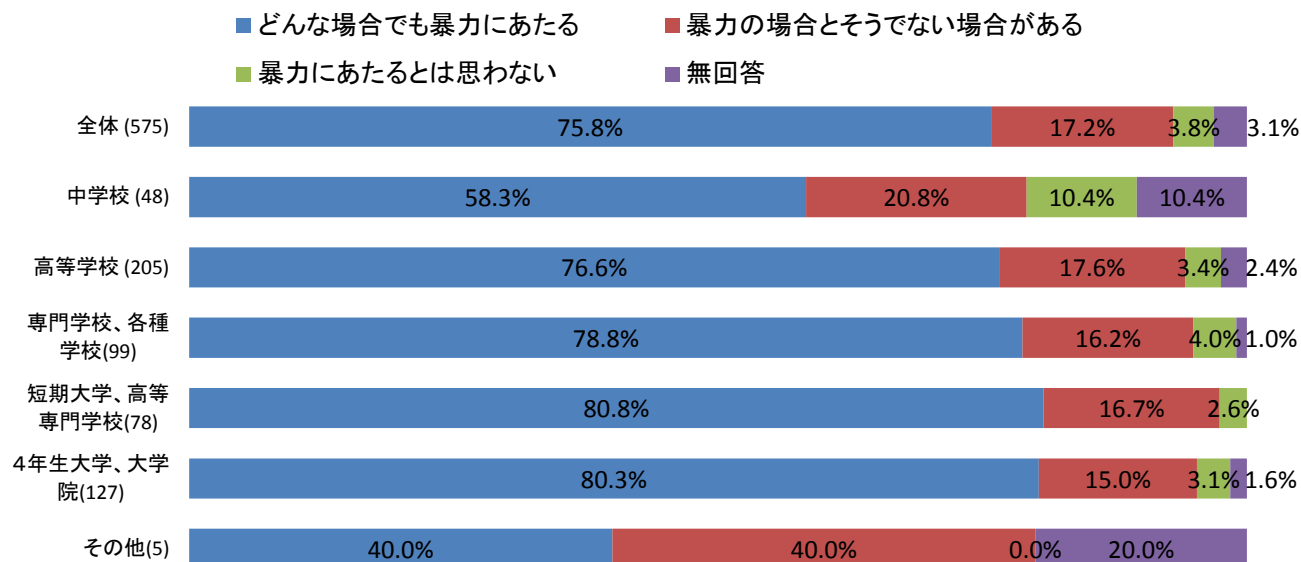
### (12) 何を言っても、長時間無視し続ける



### (13) 交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視する



### (14) 必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさせて経済的に弱い立場に立たせる

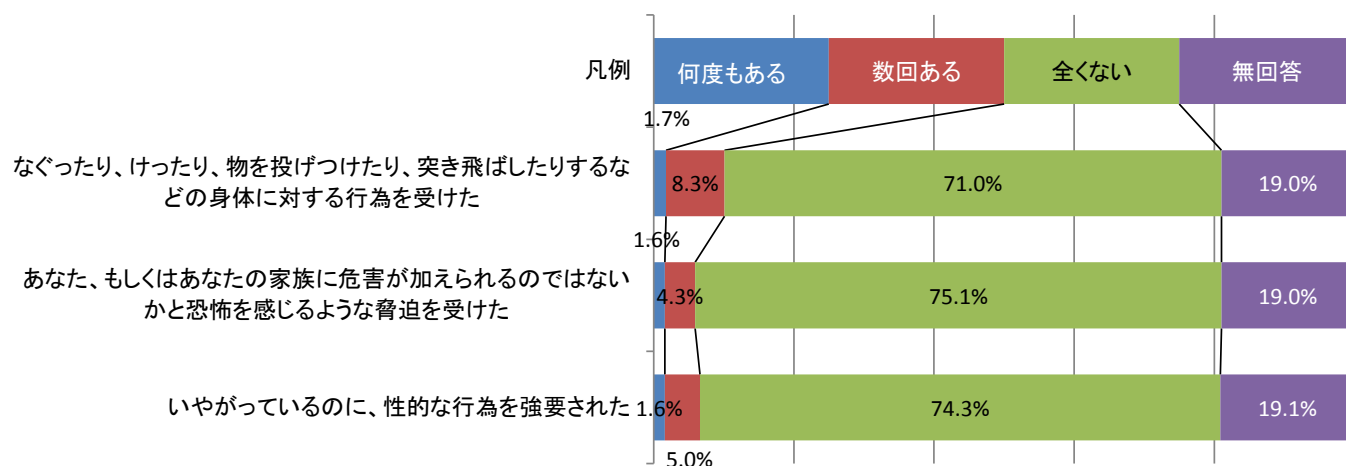


## 問 1 1 配偶者・パートナーからの行為

問 1 1 あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナーから次の（１）～（３）のような行為をされたことがありますか。（現在配偶者・パートナー（親密な関係の異性）がいる方、または過去に配偶者・パートナーがいた方）

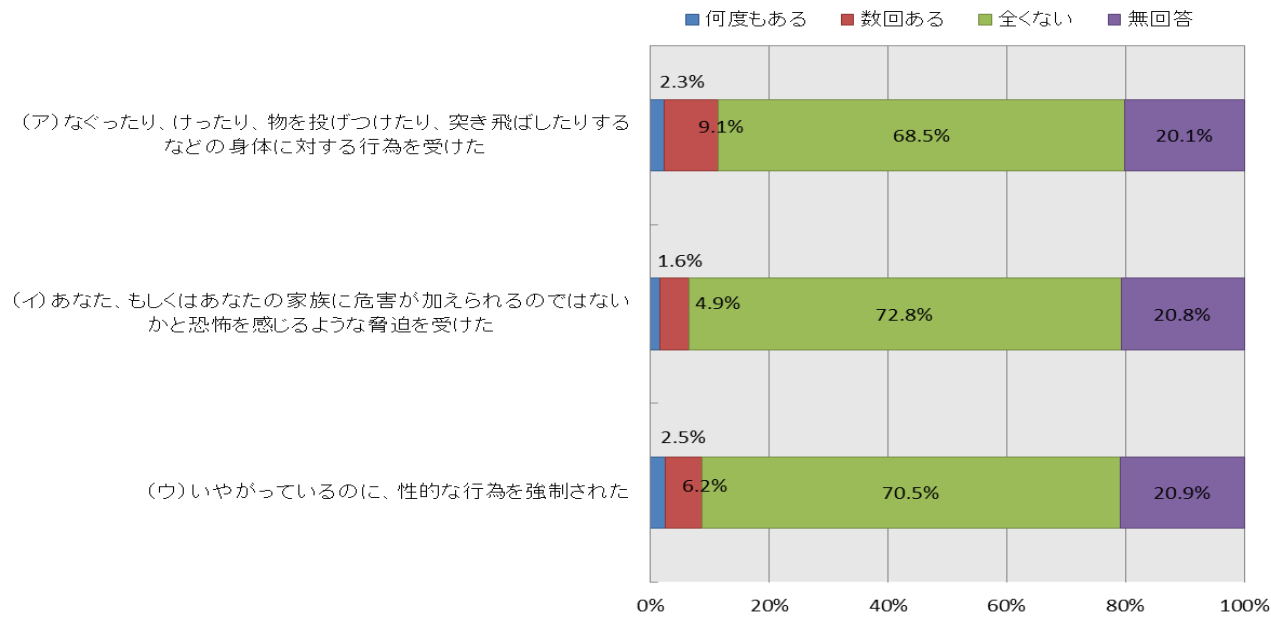
|                                               | 何度もある | 数回ある | 全くない  | 無回答   |
|-----------------------------------------------|-------|------|-------|-------|
| なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた  | 1.7%  | 8.3% | 71.0% | 19.0% |
| あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた | 1.6%  | 4.3% | 75.1% | 19.0% |
| いやがっているのに、性的な行為を強要された                         | 1.6%  | 5.0% | 74.3% | 19.1% |

配偶者・パートナーからの行為について聞いたところ、身体的暴力では 10%程度の方であるが、経験がある方がいました。全くないは 7 割程度でした。前回より 1 ポイント程度下がっています。埼玉県調査では経験がある方は 14.0%となっています。



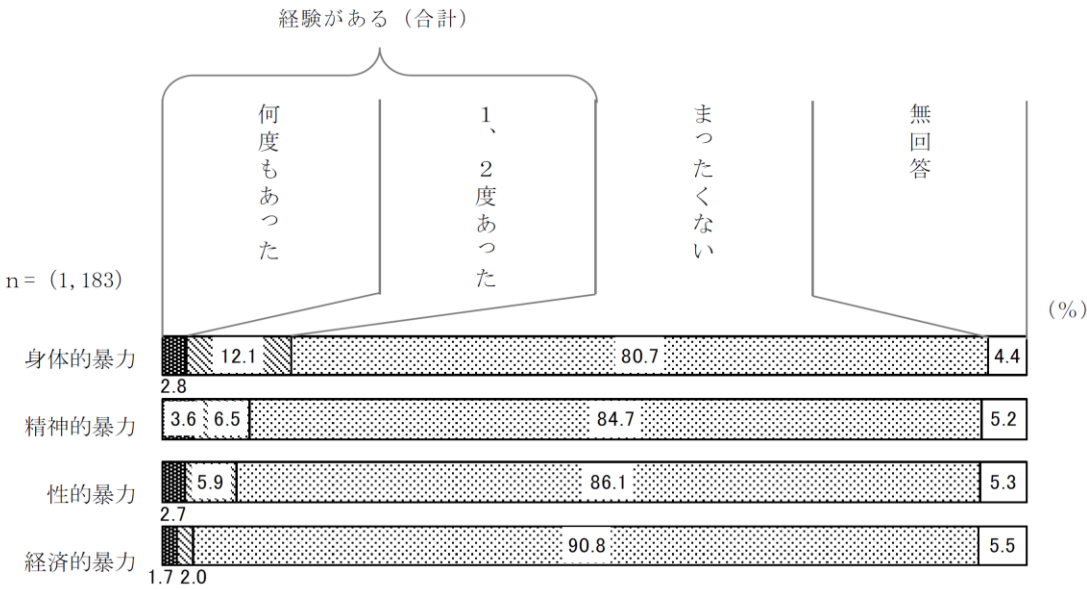
◇前回

問9 現在配偶者・パートナー（親密な関係の異性）がいる方、または過去に配偶者・パートナーがいた方におたずねします。あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナーから次の(ア)～(ウ)のような行為をされたことがありますか。



◇埼玉県

図表 5-11 配偶者等からの被害経験の有無



※この設問は『F5 結婚の有無』で「結婚している」、「結婚していたが、離別・死別した」と回答した人のみを対象とした。

※説明を簡略化するため、以下のように各行為を略称している。

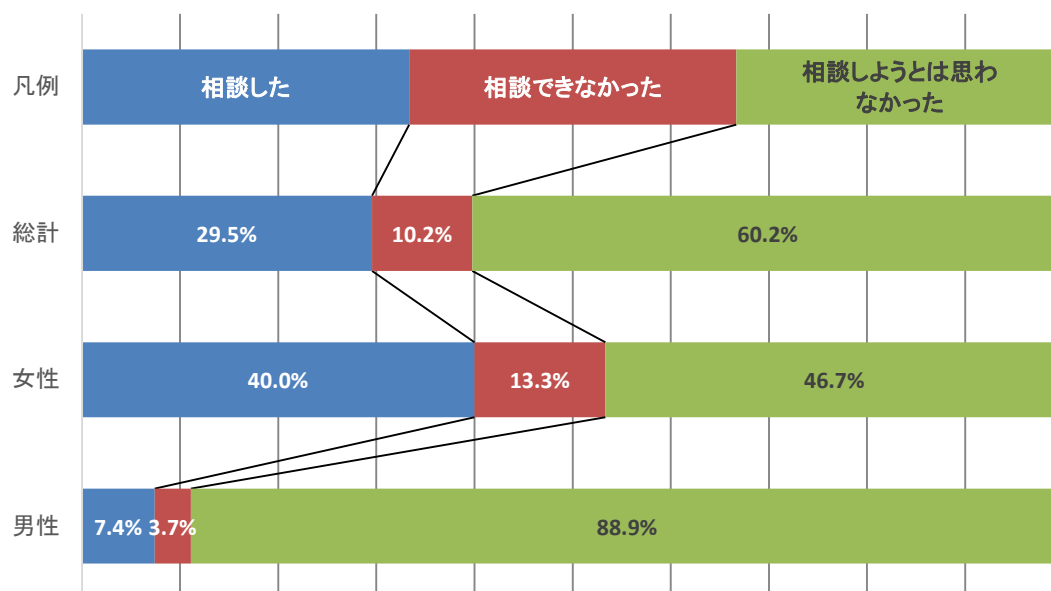
| 行為                                                                                         | 略称    |
|--------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた                                               | 身体的暴力 |
| 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた | 精神的暴力 |
| いやがっているのに、性的な行為を強要された                                                                      | 性的暴力  |
| 必要な生活費を渡されない、仕事を無理やり辞めさせられて経済的に弱い立場に立たされた                                                  | 経済的暴力 |

## 問 1 1 - 1 暴力に関する相談

問 1 1 - 1 これまでに誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。(質問 1 1 で、「何度もある」または「数回ある」と答えた方)

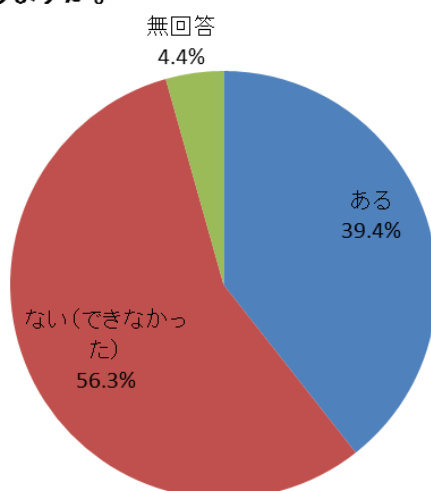
|                   | 回答数 | 構成比    |
|-------------------|-----|--------|
| (1) 相談した          | 26  | 29.5%  |
| (2) 相談できなかった      | 9   | 10.2%  |
| (3) 相談しようとは思わなかった | 53  | 60.2%  |
| 計                 | 88  | 100.0% |

暴力に関する相談について暴力を受けた経験のある方に聞いたところ、29.5%は相談したことがあるという結果となりました。前回は 39.4%となっており、大幅に下がっています。埼玉県調査では 30.1%となっており、傾向は同じです。

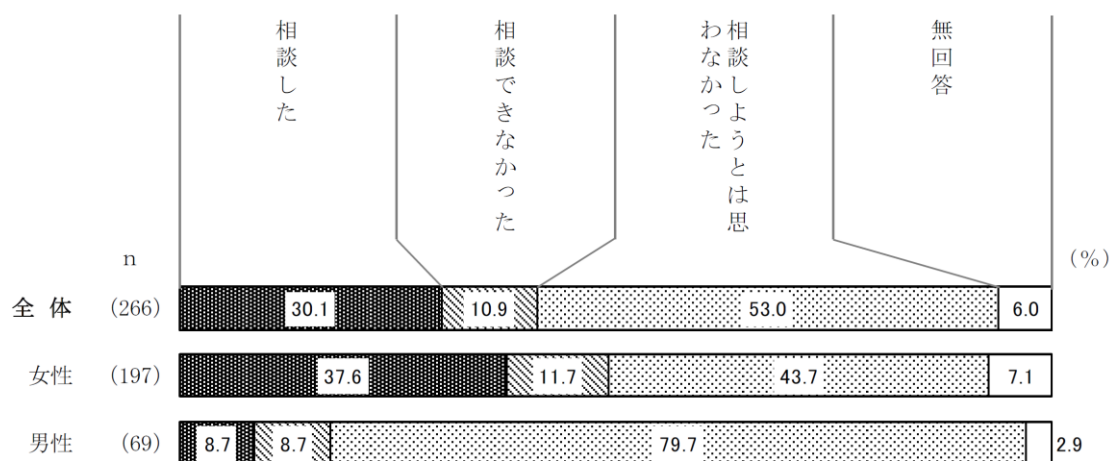


## ◇前回

問10 質問9で、「何度もある」または「数回ある」と答えた方におたずねします。これまでに誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。



図表 5-26 暴力に関する相談



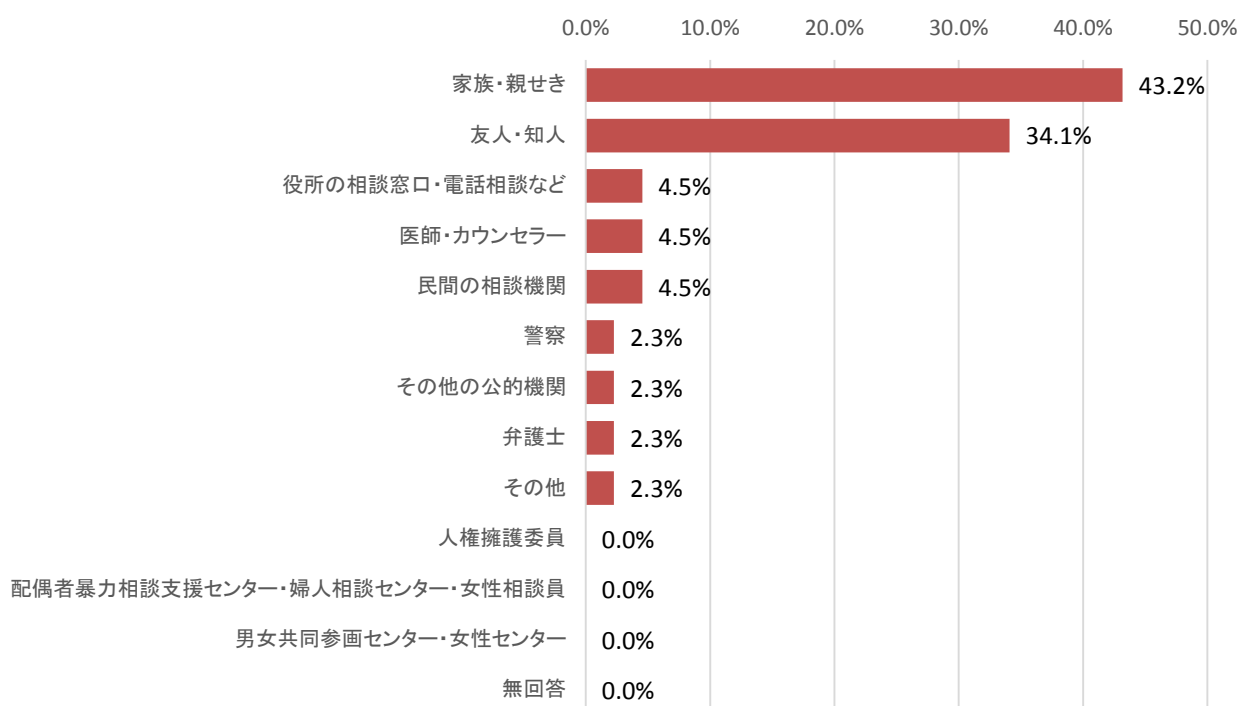


## 問 1 1 - 2 相談した人（場所）

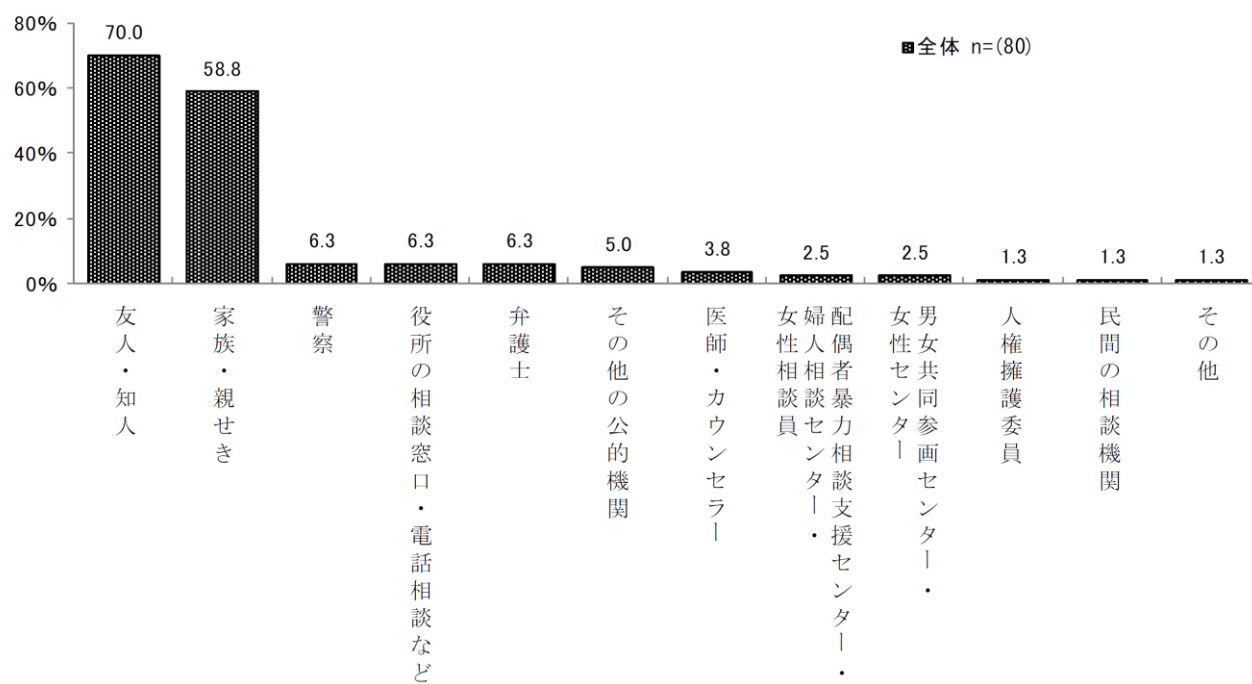
問 1 1 - 2 あなたが、相談した人（場所）を教えてください。（問 1 1 - 1 で、「相談した」と答えた方）

|                                  | 回答数 | 構成比    |
|----------------------------------|-----|--------|
| (1) 家族・親せき                       | 19  | 43.2%  |
| (2) 友人・知人                        | 15  | 34.1%  |
| (3) 警察                           | 1   | 2.3%   |
| (4) 人権擁護委員                       | 0   | 0.0%   |
| (5) 役所の相談窓口・電話相談など               | 2   | 4.5%   |
| (6) 配偶者暴力相談支援センター・婦人相談センター・女性相談員 | 0   | 0.0%   |
| (7) 男女共同参画センター・女性センター            | 0   | 0.0%   |
| (8) その他の公的機関                     | 1   | 2.3%   |
| (9) 弁護士                          | 1   | 2.3%   |
| (10) 医師・カウンセラー                   | 2   | 4.5%   |
| (11) 民間の相談機関                     | 2   | 4.5%   |
| (12) その他                         | 1   | 2.3%   |
| 無回答                              | 0   | 0.0%   |
| 計                                | 44  | 100.0% |

暴力を受けた経験のある方のうち暴力を相談した方に相談した人（場所）について聞いたところ、相談した相手は、「家族・親戚」が最も多くなっています。次いで「友人・知人」となっています。埼玉県調査では、「友人・知人」が1位、次いで「家族・親族」でした。



図表５－２８ 相談した相手

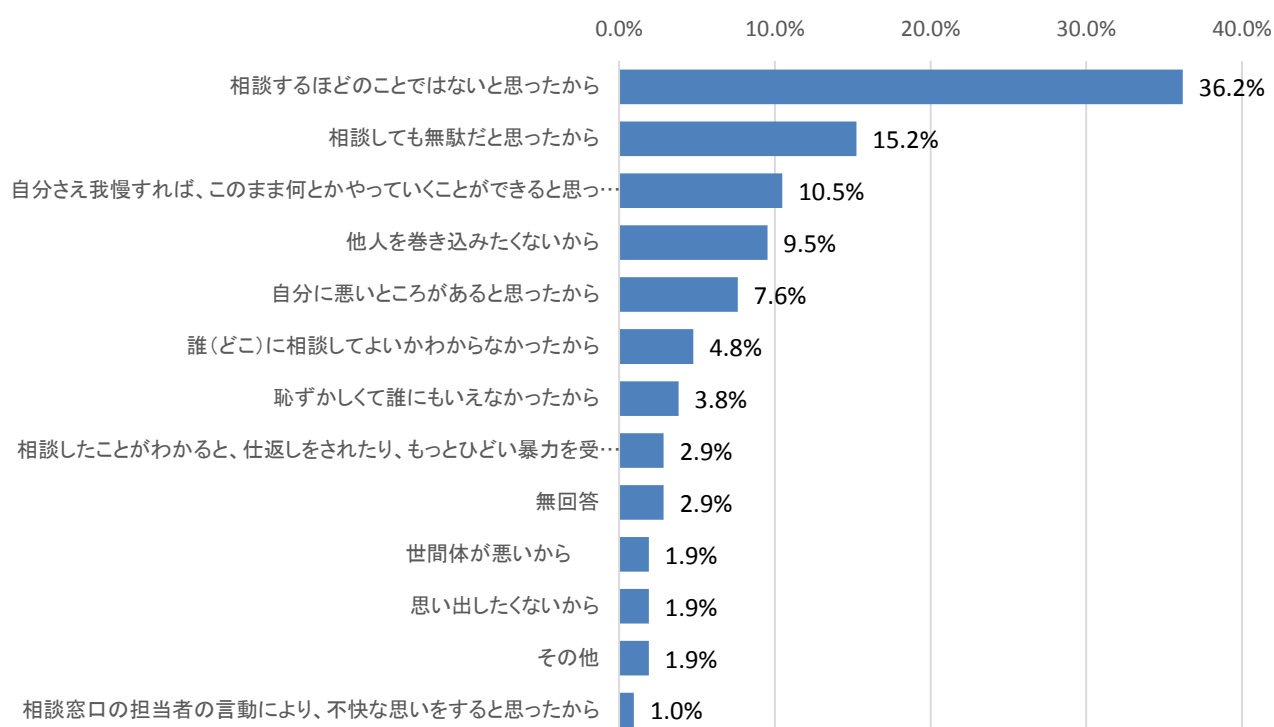


### 問 1 1－3 相談しなかった理由

問 1 1－3 相談しなかった（できなかった）理由はどれですか。（問 1 1－1 で、「相談できなかった」、「相談しようとは思わなかった」と答えた方）

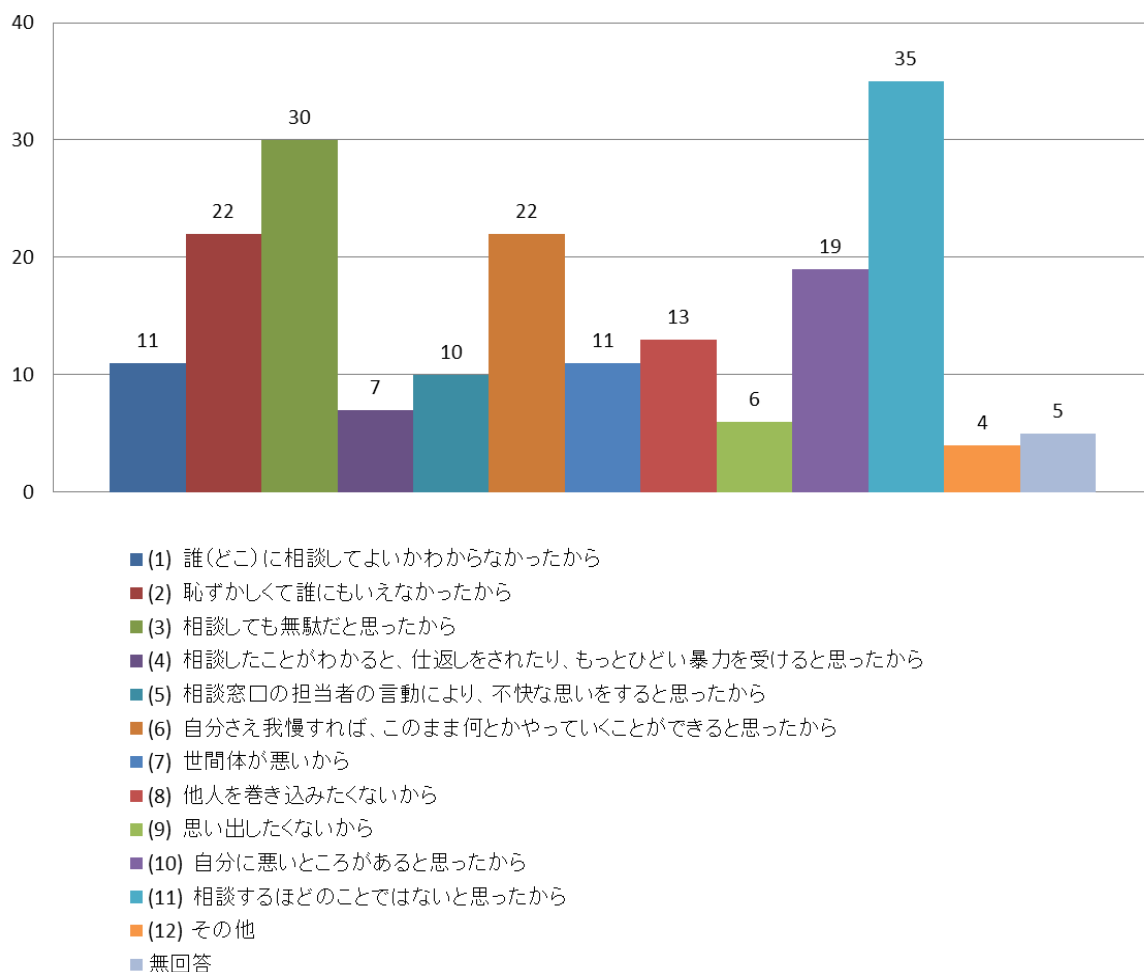
|                                             | 回答数 | 構成比   |
|---------------------------------------------|-----|-------|
| (1) 誰(どこ)に相談してよいかわからなかったから                  | 5   | 4.8%  |
| (2) 恥ずかしくて誰にもいえなかったから                       | 4   | 3.8%  |
| (3) 相談しても無駄だと思ったから                          | 16  | 15.2% |
| (4) 相談したことがわかると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから | 3   | 2.9%  |
| (5) 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをと思ったから             | 1   | 1.0%  |
| (6) 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから      | 10  | 9.5%  |
| (7) 世間体が悪いから                                | 2   | 1.9%  |
| (8) 他人を巻き込みたくないから                           | 11  | 10.5% |
| (9) 思い出したくないから                              | 2   | 1.9%  |
| (10) 自分に悪いところがあると思ったから                      | 8   | 7.6%  |
| (11) 相談するほどのことではないと思ったから                    | 38  | 36.2% |
| (12) その他                                    | 2   | 1.9%  |
| 無回答                                         | 3   | 2.9%  |

暴力を受けた経験のある方のうち相談をしなかった方に相談しなかった理由について聞いたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」が最も多くなっています。



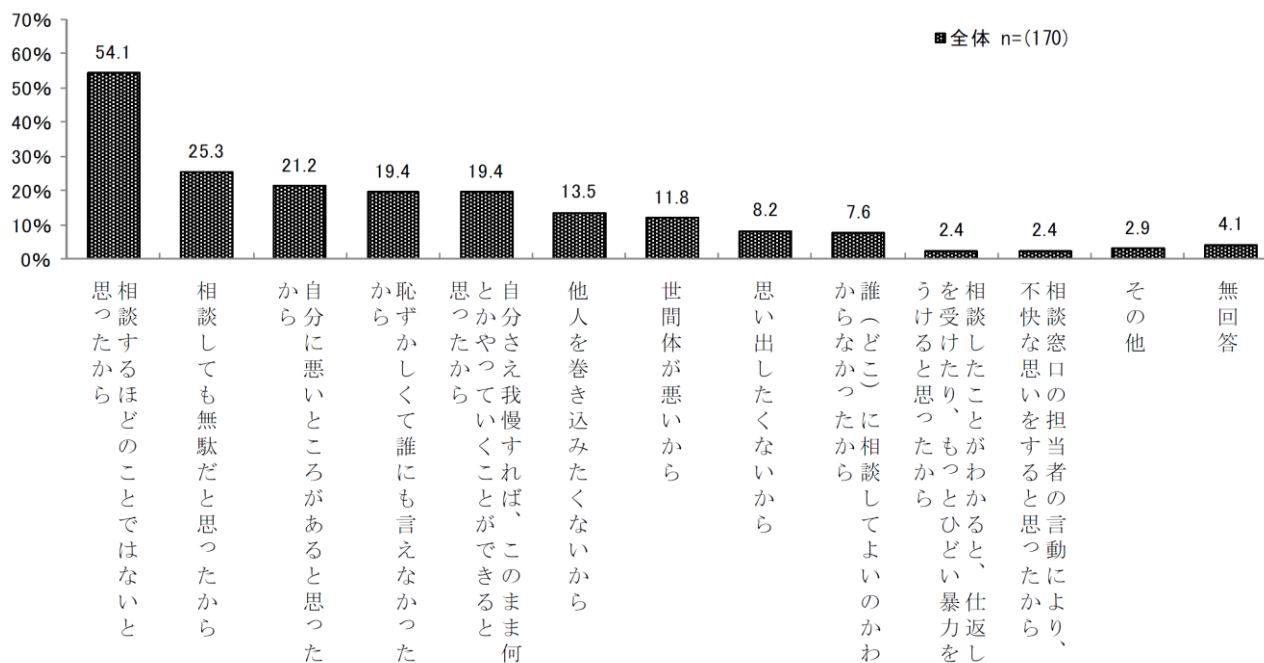
## ◇前回

問11 質問10で、「ない(できなかった)」と答えた方におたずねします。相談しなかった(できなかった)理由はどれですか。



## ◇埼玉県

図表5-29 相談できなかった理由

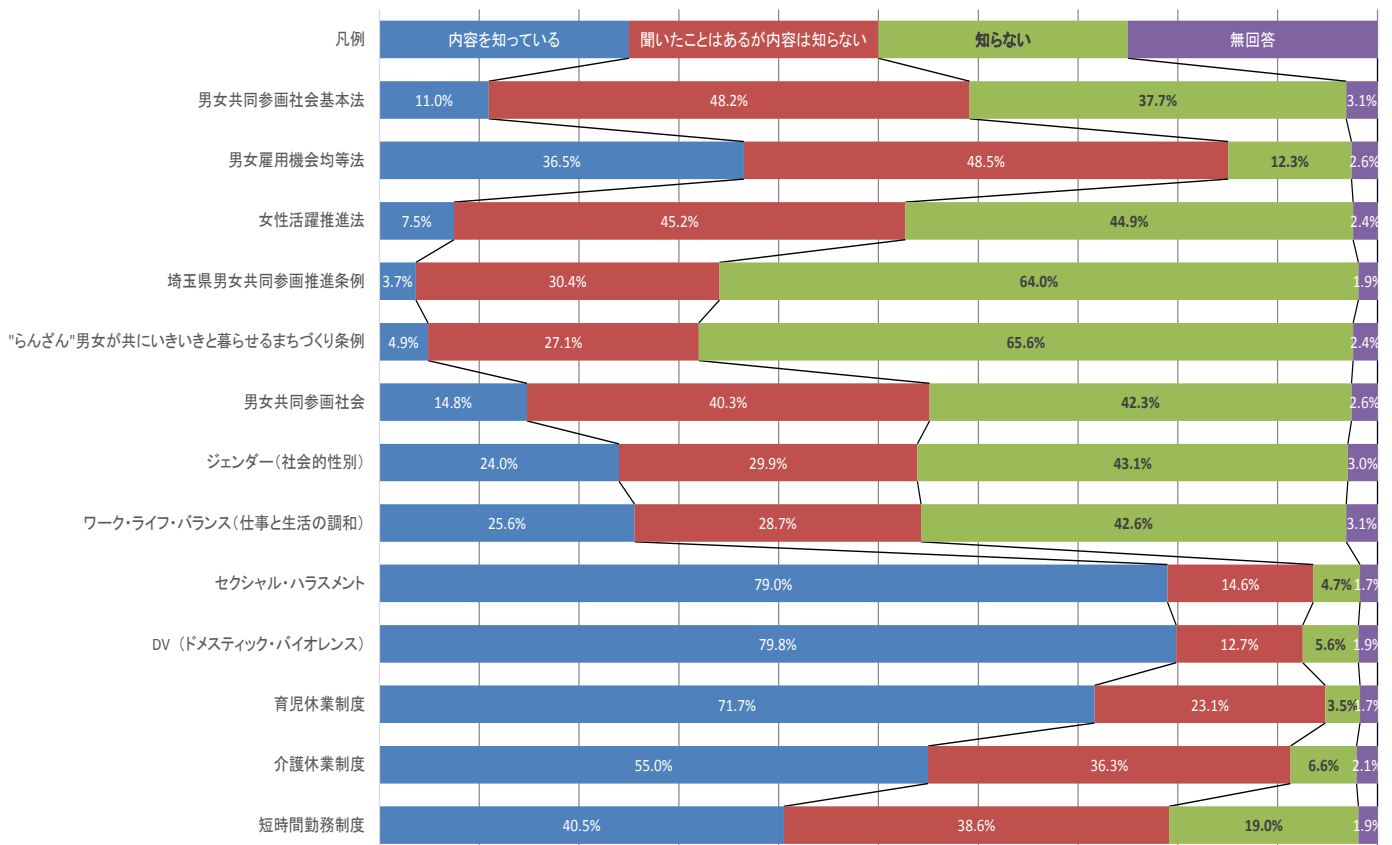


## 5 男女共同参画を推進するための取組について

### 問 1 2 男女共同参画に関する社会の動向

問 1 2 あなたは、(1)～(13)の男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見た  
り聞いたりしたことがありますか。

|                             | 内容を知<br>っている | 聞いたこ<br>とはある<br>が内容は<br>知らない | 知らない  | 無回答  |
|-----------------------------|--------------|------------------------------|-------|------|
| 男女共同参画社会基本法                 | 11.0%        | 48.2%                        | 37.7% | 3.1% |
| 男女雇用機会均等法                   | 36.5%        | 48.5%                        | 12.3% | 2.6% |
| 女性活躍推進法                     | 7.5%         | 45.2%                        | 44.9% | 2.4% |
| 埼玉県男女共同参画推進条例               | 3.7%         | 30.4%                        | 64.0% | 1.9% |
| “らんざん”男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例 | 4.9%         | 27.1%                        | 65.6% | 2.4% |
| 男女共同参画社会                    | 14.8%        | 40.3%                        | 42.3% | 2.6% |
| ジェンダー(社会的性別)                | 24.0%        | 29.9%                        | 43.1% | 3.0% |
| ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)      | 25.6%        | 28.7%                        | 42.6% | 3.1% |
| セクシャル・ハラスメント                | 79.0%        | 14.6%                        | 4.7%  | 1.7% |
| DV(ドメスティック・バイオレンス)          | 79.8%        | 12.7%                        | 5.6%  | 1.9% |
| 育児休業制度                      | 71.7%        | 23.1%                        | 3.5%  | 1.7% |
| 介護休業制度                      | 55.0%        | 36.3%                        | 6.6%  | 2.1% |
| 短時間勤務制度                     | 40.5%        | 38.6%                        | 19.0% | 1.9% |



男女共同参画に関する認知度について聞いたところ、前回同様、「埼玉県男女共同参画推進条例」、「らんざん」男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例」の認知度は大変低くなっています。「女性活躍推進法」においては 44.9%の方が知らない結果となりました。

性・年齢別でみると、「男女共同参画社会基本法」については「内容を知っている」が女性は 18・19 歳で半数となっており、次いで 20 歳代で 22.6%となっています。

「男女雇用機会均等法」では、「内容を知っている」が男性では 60 歳代が 59.2%と最も高く、次いで男性の 20 歳代が 42.3%となっています。

「女性活躍推進法」、「らんざん」男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例」では「内容を知っている」が男女ともに全ての年代で 2 割に達していません。

「埼玉県男女共同参画推進条例」では「内容を知っている」が男女ともに全ての年代で 1 割にも達していません。

「男女共同参画社会」については、「内容を知っている」が男女とも 20 歳代で 2 割を超えています。

「ジェンダー（社会的性別）」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」では、「内容を知っている」が女性では年代が低くなるにつれて割合が高くなっています。

「セクシャル・ハラスメント」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」では、「内容を知っている」が男女とも 20 歳代～50 歳代で 8 割を超えています。

「育児休業制度」については、「内容を知っている」が女性では 50 歳代、70 歳以上を除く年代で 8 割を超えており、男性では 30 歳代が 8 割を超えています。

「介護休暇制度」では、「内容を知っている」が女性は 18・19 歳～40 歳代で 5 割を超えており、男性では 30 歳代、50 歳代で 7 割を越えて高くなっています。

「短時間勤務制度」では、「知らない」が男性では全ての年代で 1 割台となっています。

性・地区別でみると、「男女共同参画社会基本法」では、「内容を知っている」が女性の北部地区で 15.6%、男性の南部地区で 12.9%となっています。

「男女雇用機会均等法」では、「内容を知っている」が男女とも北部地区が高くなっています。

「女性活躍推進法」、「埼玉県男女共同参画推進条例」、「らんざん」男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例」では、「内容を知っている」が男女とも全ての地区で 1 割以下となっています。

「男女共同参画社会」では、「知らない」が女性の南部地区で 5 割を越えており、男性では中央地区で 4 割を超えています。

「ジェンダー（社会的性別）」では、「知らない」が男性の中央地区で 5 割を超えて最も高く、女性では南部地区、中央地区で 4 割を越えています。

「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」では、「内容を知っている」が女性の北部地区と男性の南部地区が 5 割を越えています。

「セクシャル・ハラスメント」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」では、「内容を知っている」が男女とも全ての地区で 7 割を超えています。

「育児休業制度」では、「内容を知っている」が女性の北部地区、中央地区で 7 割を越えており、男性でも中央地区で 7 割を越えています。

「短時間勤務制度」では、「内容を知っている」が男女とも全ての地区で約 4 割となっています。

性・学歴別でみると、「男女共同参画社会基本法」では、「内容をしっている」が男女とも 4 年生大学・大学院で 2 割を超えています。

「男女雇用機会均等法」では、「内容を知っている」が男女とも4年生大学・大学院で5割を超えています。

「女性活躍推進法」は、「知らない」が男性の専門学校・各種学校で51.9%と最も高くなっています。

「埼玉県男女共同参画推進条例」では、「知らない」が男女とも短期大学・高等専門学校で7割を超えています。

「“らんざん”男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例」では、「知らない」が男女とも専門学校・各種学校、4年生大学・大学院で7割を超えています。

「男女共同参画社会」、「ジェンダー（社会的性別）」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」、「セクシャル・ハラスメント」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」では、「内容を知っている」については4年生大学・大学院が最も高く、女性のほうが男性よりも高くなっています。

「育児休業制度」では、「内容を知っている」が女性の短期大学・高等専門学校、4年生大学・大学院で9割を超えています。

「介護休業制度」では、「内容を知っている」が4年生大学・大学院で女性が6割、男性で7割を超えています。

「短時間勤務制度」では、「内容を知っている」が女性の専門学校・各種学校が53.1%と最も高く、次いで女性、男性ともに4年生大学・大学院が51.2%となっています。

職業別でみると、「男女共同参画社会基本法」では、「内容を知っている」が学生（予備校含む）で33.3%と最も高くなっています。

「男女雇用機会均等法」では、「内容を知っている」が会社員・公務員（非常勤）で5割と最も高くなっています。

「女性活躍推進法」では、全ての職種で「内容を知っている」が1割に達していません。

「埼玉県男女共同参画推進条例」では、「内容を知っている」が学生（予備校含む）で3割台と最も高くなっています。

「男女共同参画社会」では、「内容を知っている」が学生（予備校含む）で4割台と最も高くなっています。

「ジェンダー（社会的性別）」と「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」では、「内容を知っている」が学生（予備校含む）で5割台と最も高くなっています。

「“らんざん”男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例」では、「知らない」が学生（予備校含む）で9割を超えています。

「セクシャル・ハラスメント」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」では、「内容を知っている」が会社員・公務員（常勤）で最も高く9割を超えています。

「育児休業制度」では、自営業で「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」が4割半ばとなっています。

「介護休業制度」、「短時間勤務制度」では、自営業が「聞いたことはあるが内容は知らない」が最も割合が高くなっています。

婚姻状況別でみると、「男女共同参画社会基本法」では、「内容を知っている」が結婚していない方で18.3%と最も高くなっています。

「男女雇用機会均等法」では、「内容を知っている」が全ての結婚状況において3割台半ばから4割となっています。

「女性活躍推進法」、「男女共同参画社会」、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」では、

「知らない」が全ての結婚状況において4割台となっています。

「埼玉県男女共同参画推進条例」では、「知らない」が全ての結婚状況において6割台となっています。

「“らんざん”男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例」では、「知らない」が結婚していない方で8割を超えています。

「ジェンダー（社会的性別）」では、「内容を知っている」が結婚していない方で34.6%と最も高くなっています。

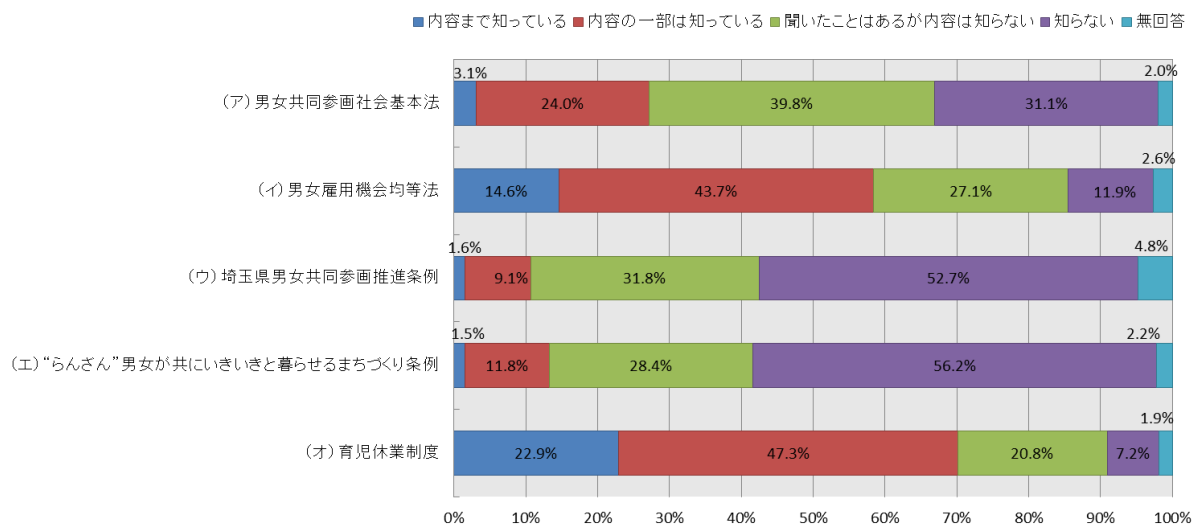
「セクシャル・ハラスメント」、「DV（ドメスティック・バイオレンス）」、「育児休暇制度」では「内容を知っている」が全ての結婚状況で7割を超えています。

「介護休業制度」では、「内容を知っている」が結婚している方と結婚していない方で同率となっています。

「短時間勤務制度」では、「内容を知っている」が結婚している方で4割を超えています。

## ◇前回

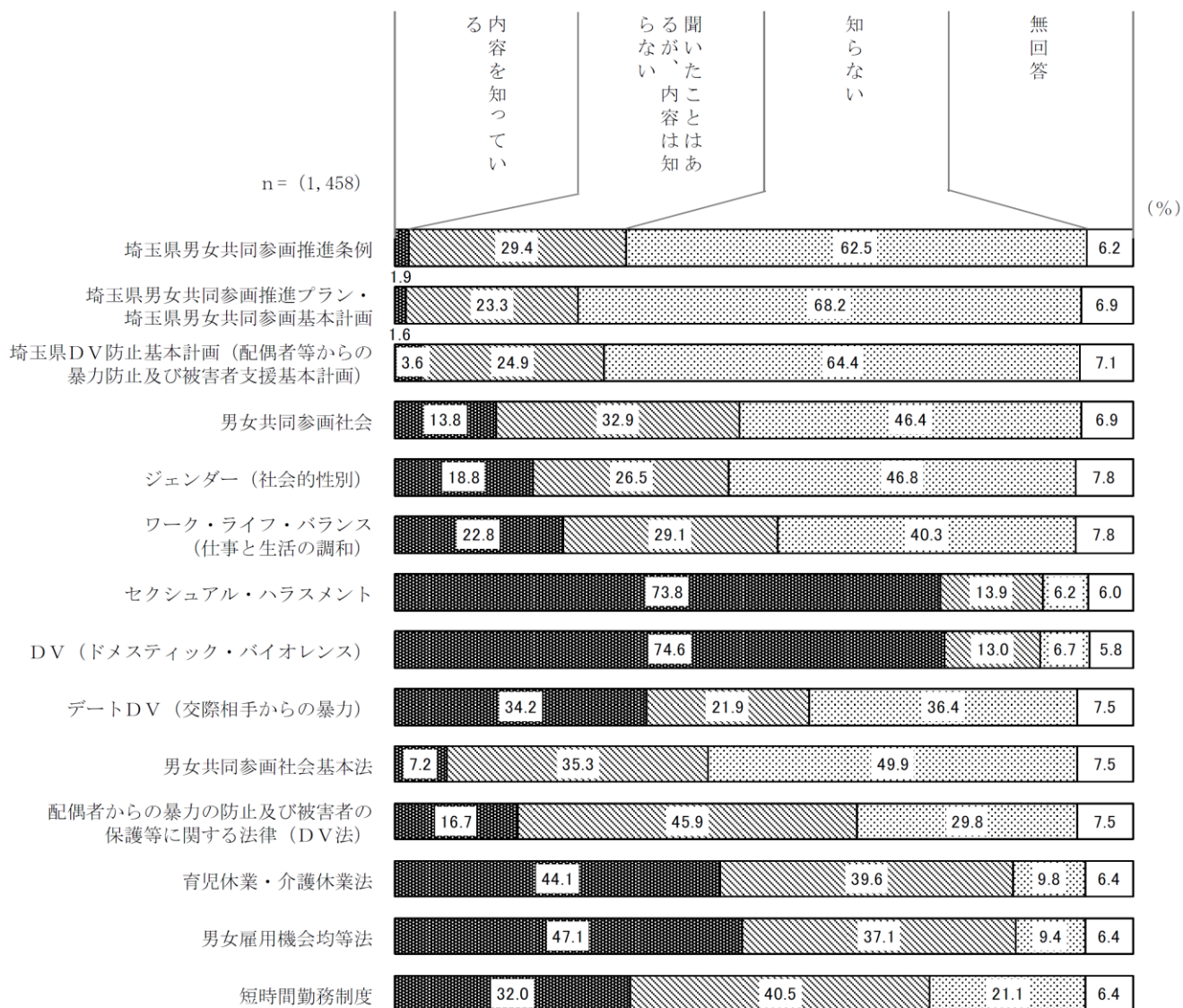
問3 次の(ア)～(カ)の法律や制度をどの程度ご存じですか。





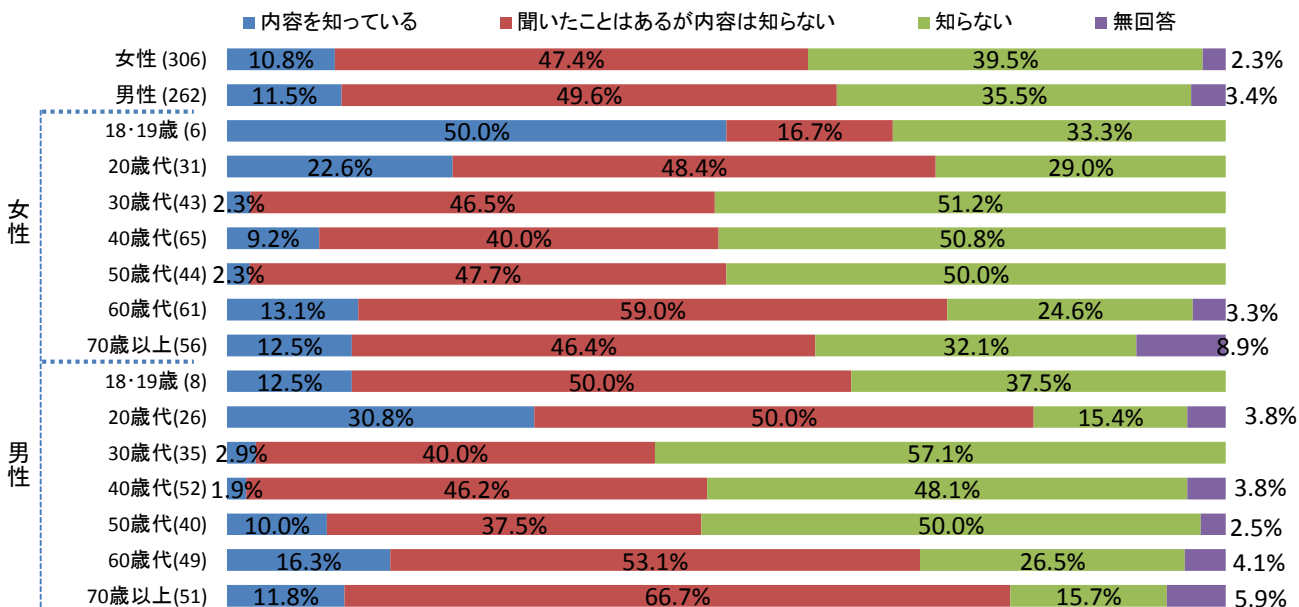
## ◇埼玉県

図表 6－1 男女共同参画に関する言葉の認知度

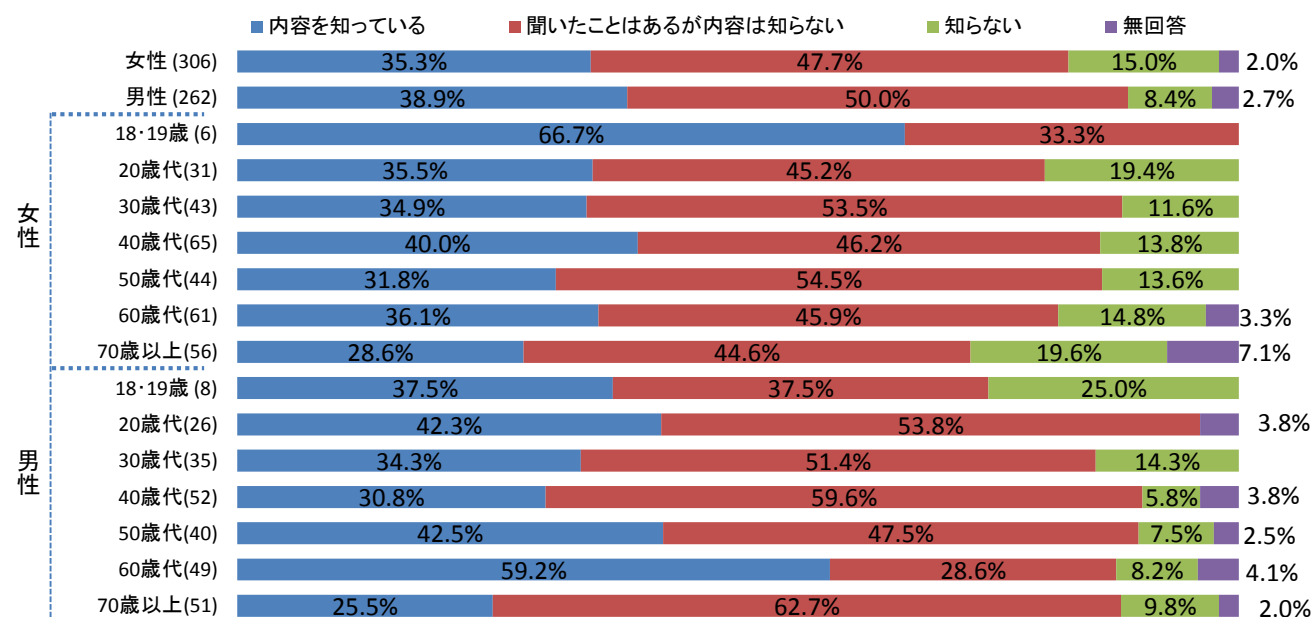


## ◇性別と年齢別の結果

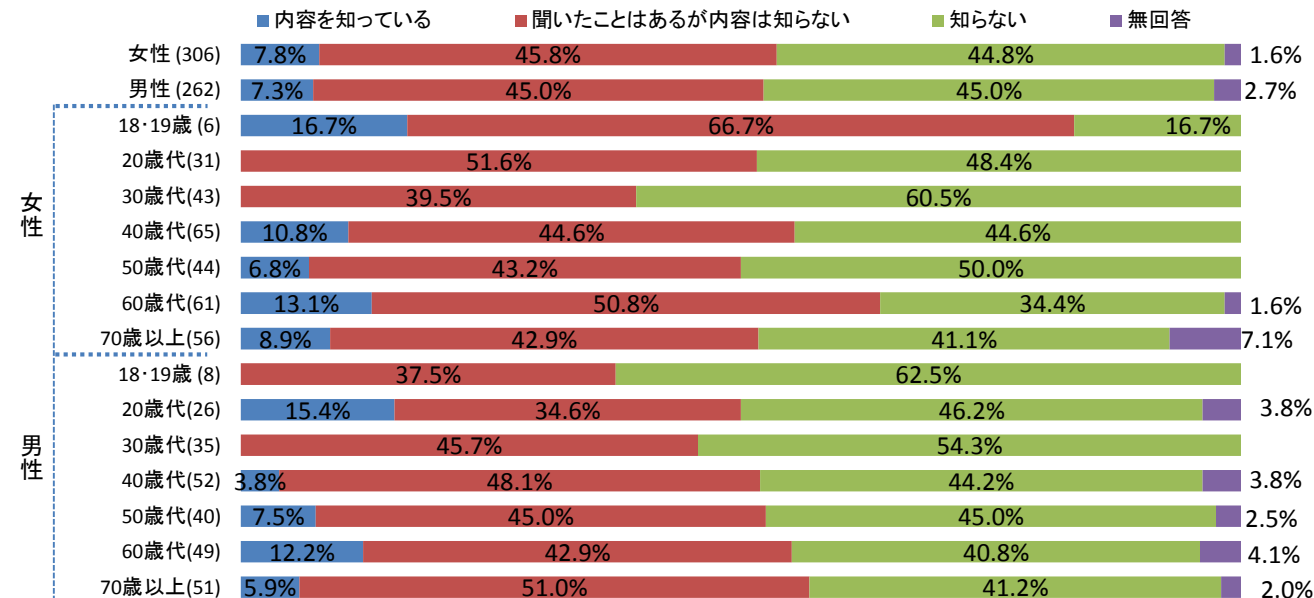
### （１）男女共同参画社会基本法



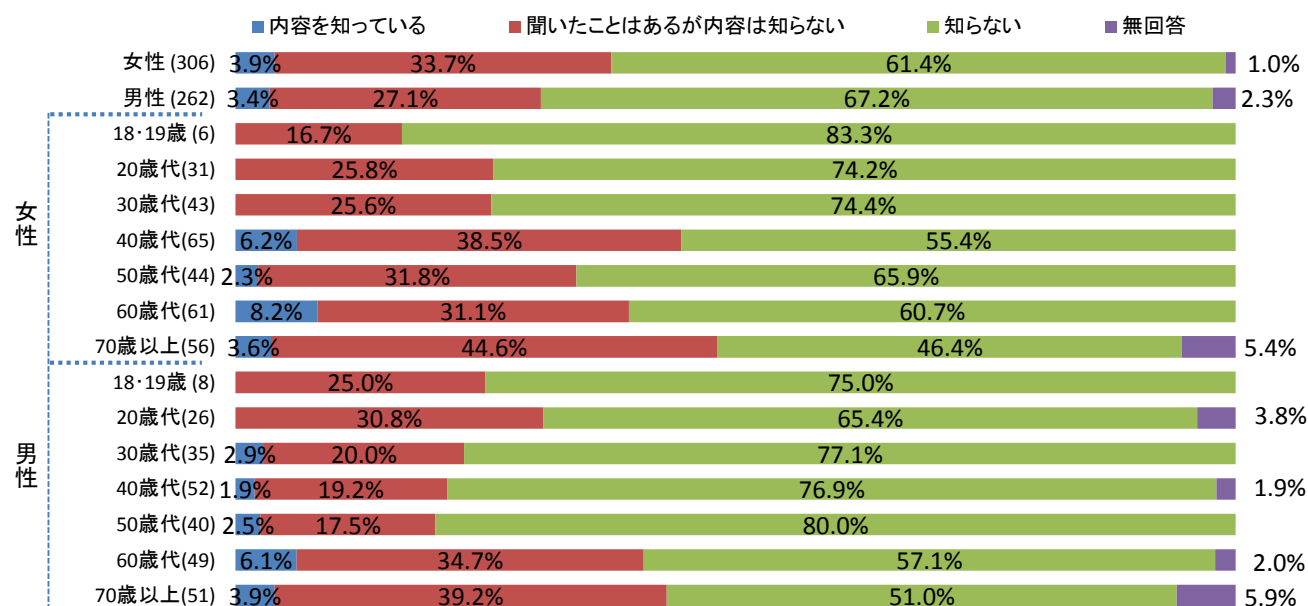
## (2) 男女雇用機会均等法



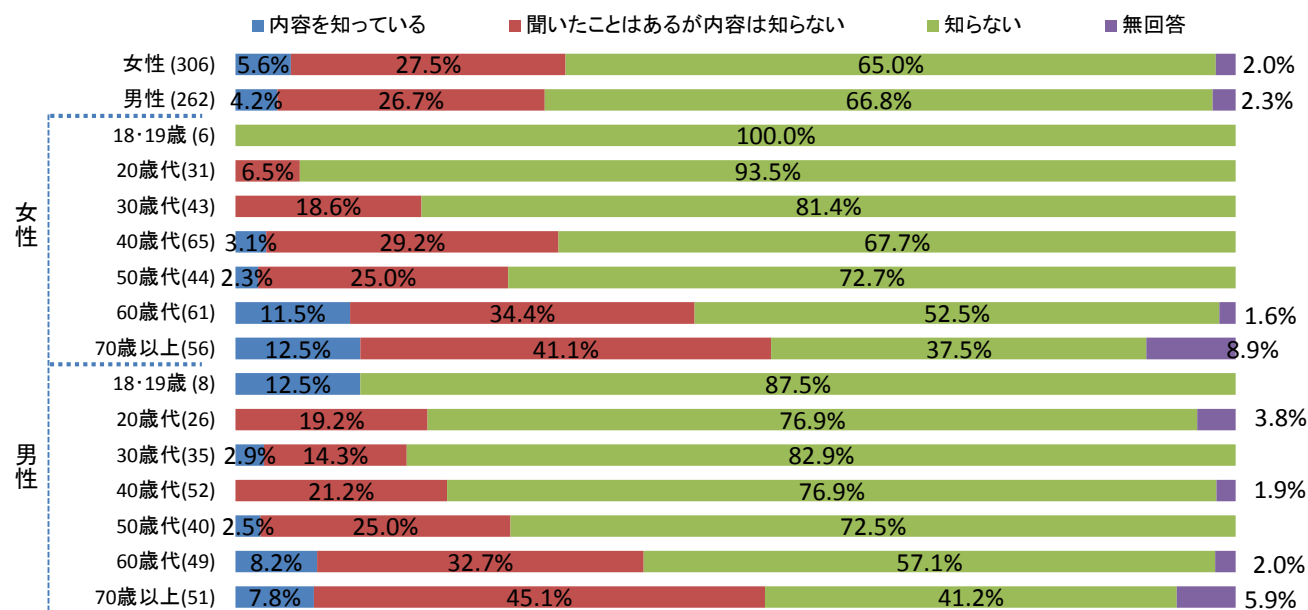
## (3) 女性活躍推進法



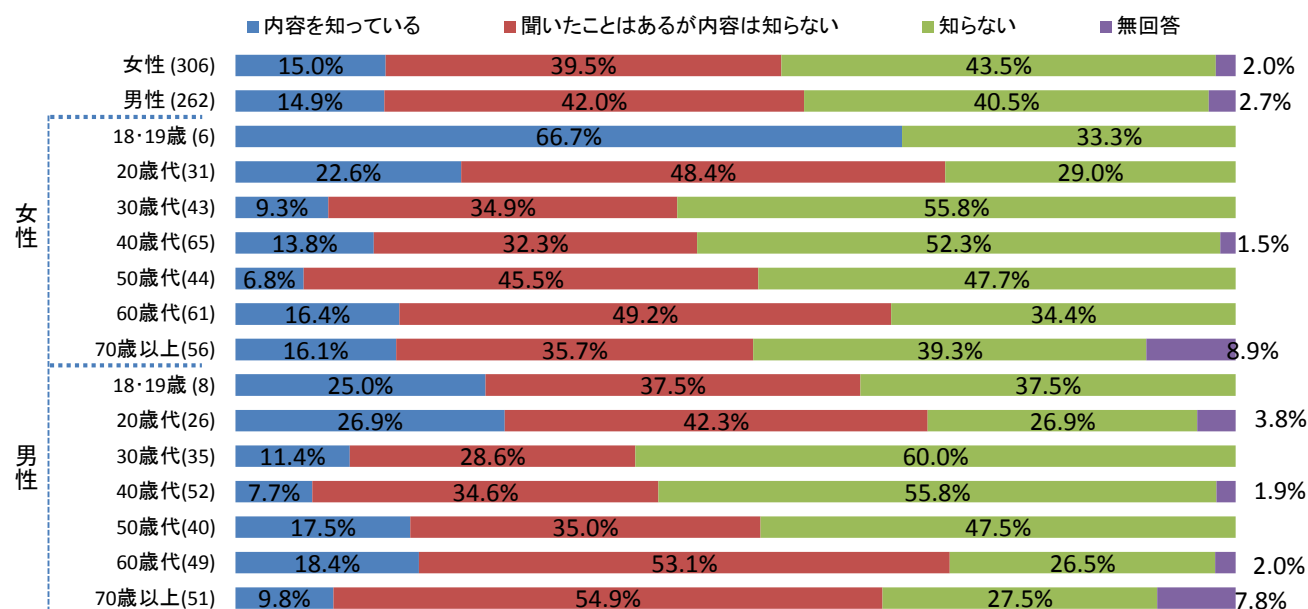
## (4) 埼玉県男女共同参画推進条例



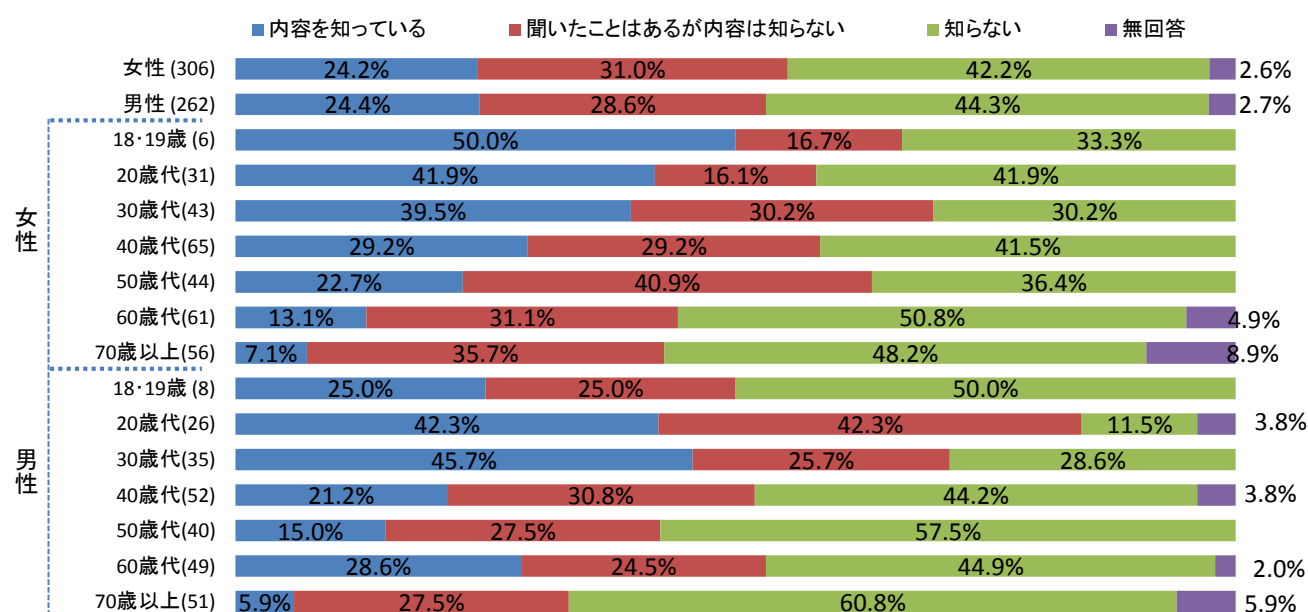
## (5) “らんざん” 男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例



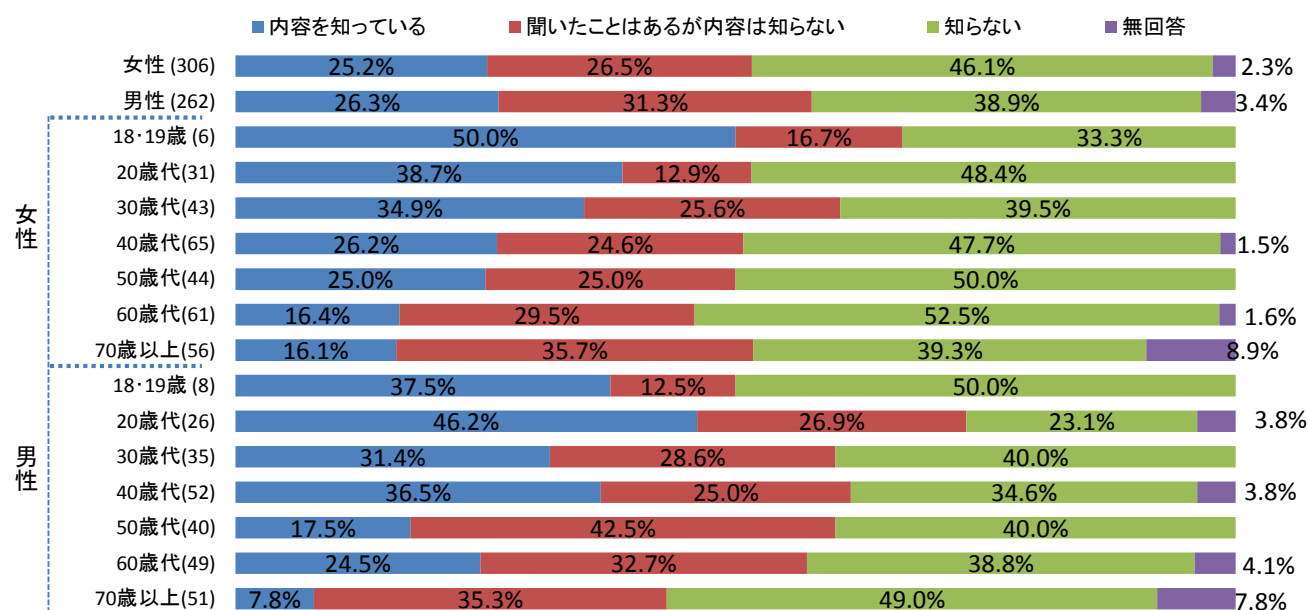
## (6) 男女共同参画社会



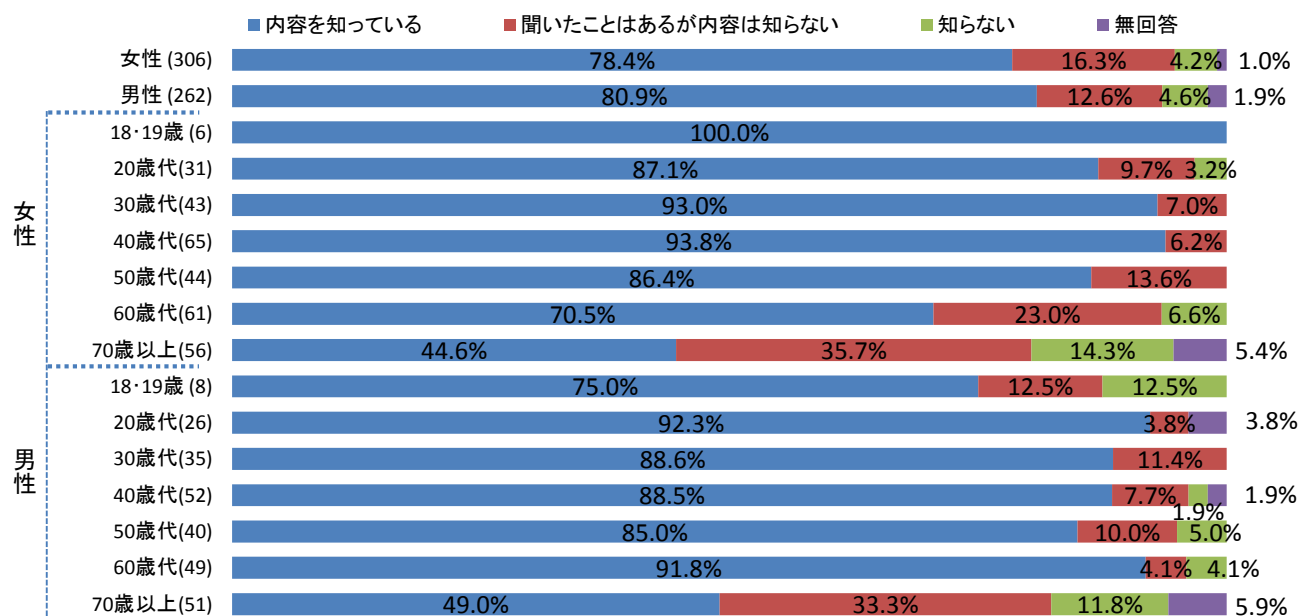
## (7) ジェンダー（社会的性別）



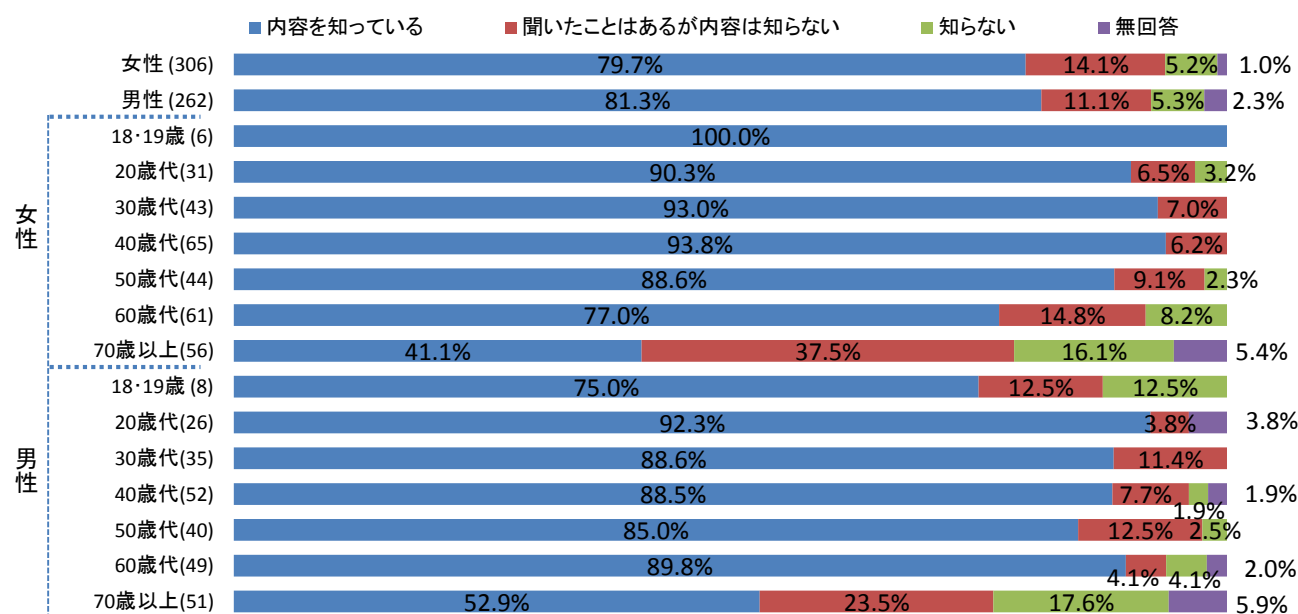
## (8) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



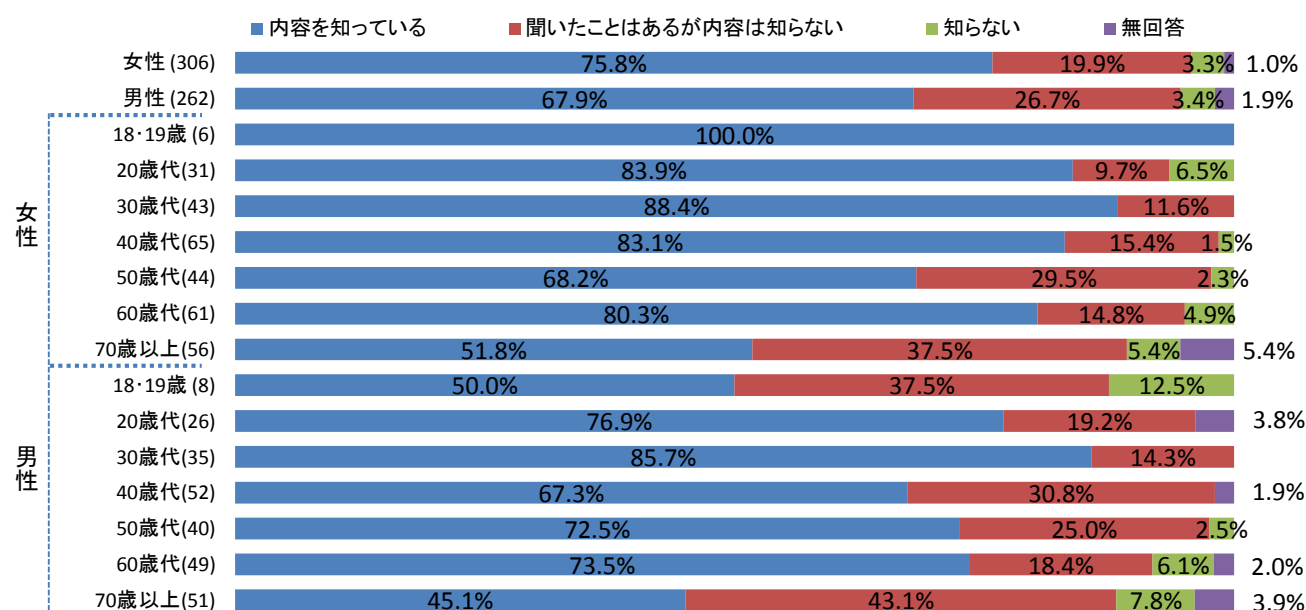
## (9) セクシャル・ハラスメント



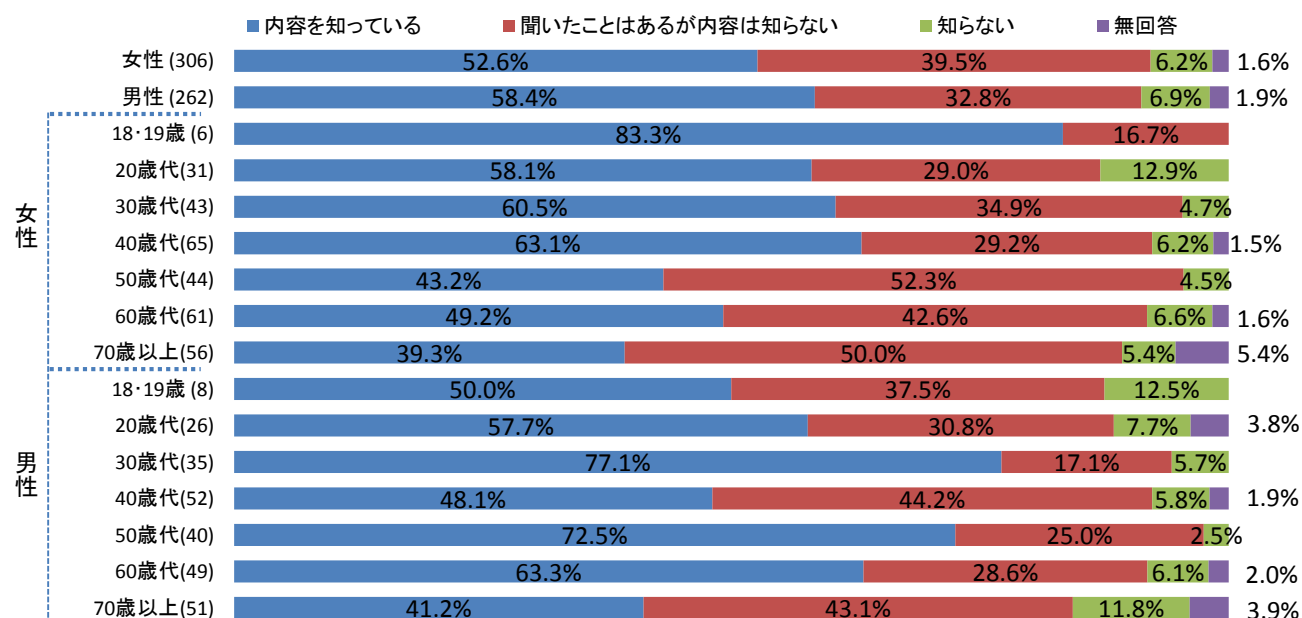
## (10) DV（ドメスティック・バイオレンス）



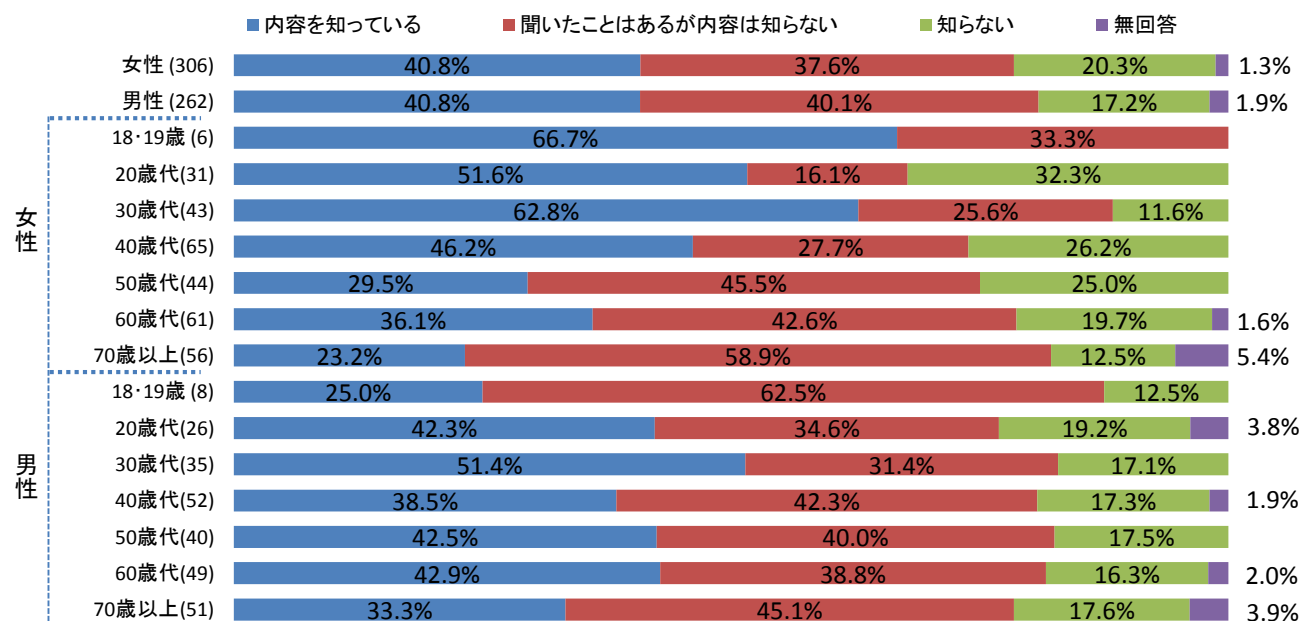
## (1 1) 育児休業制度



## (1 2) 介護休業制度

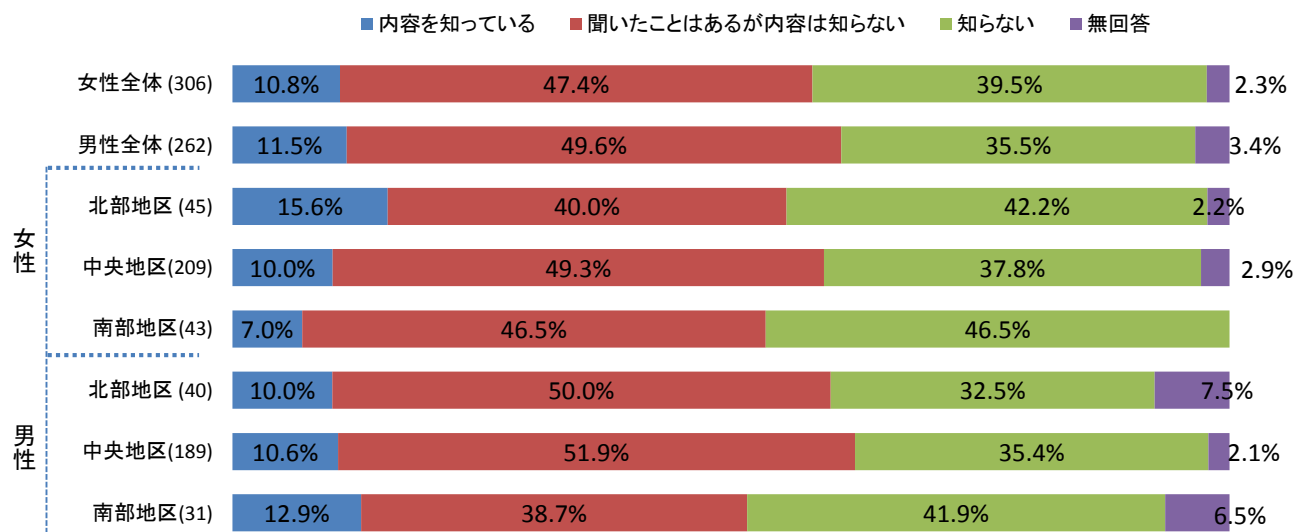


## (1 3) 短時間勤務制度

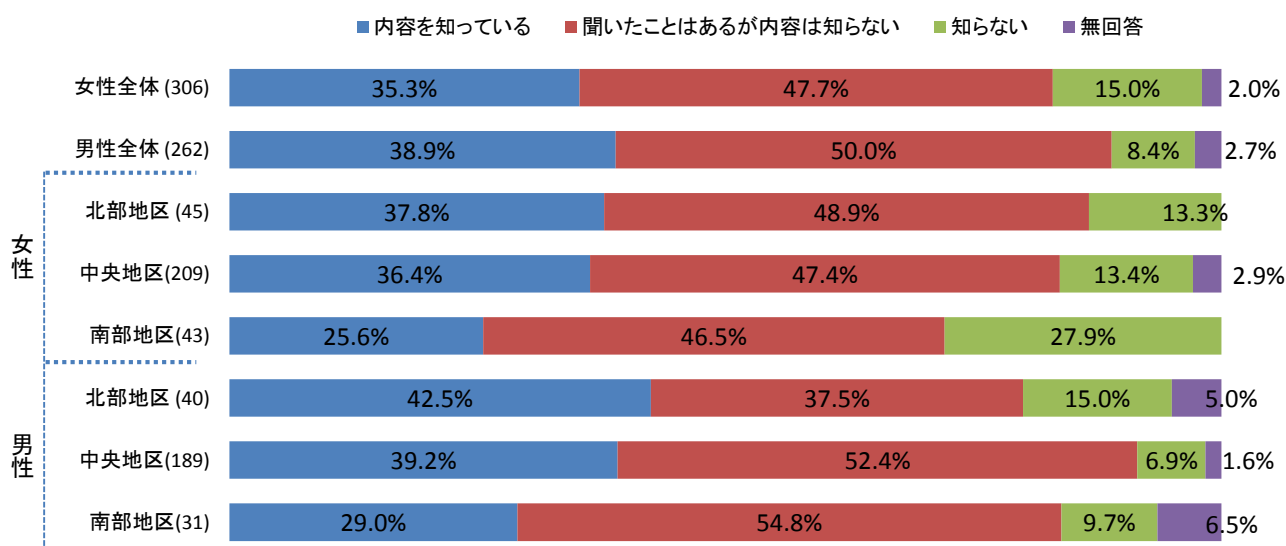


## ◇性別と地区別の結果

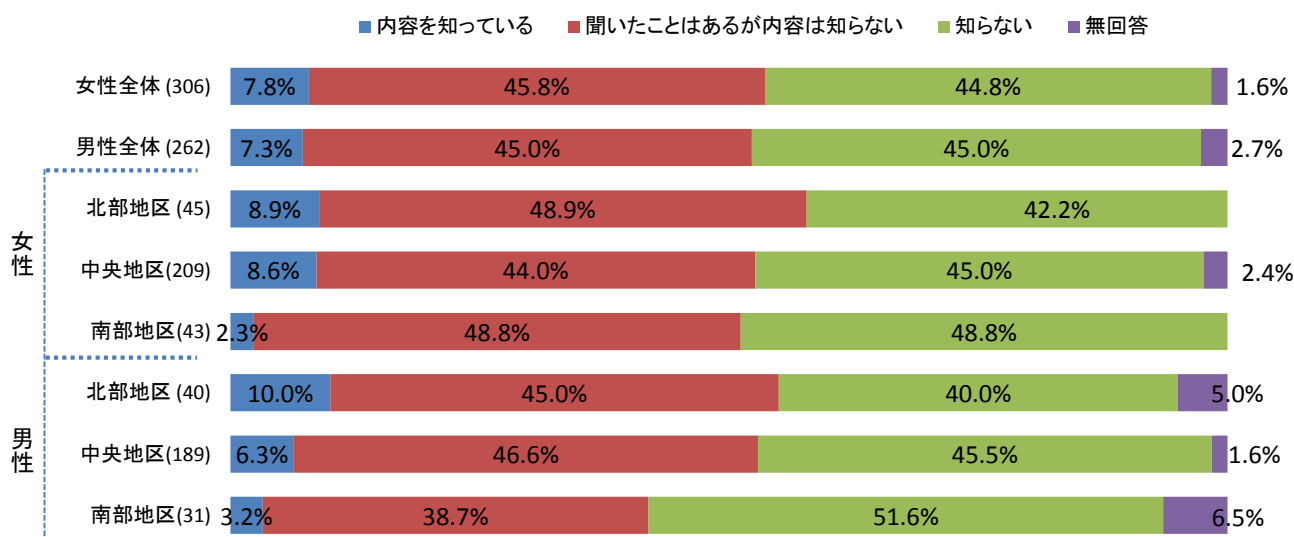
### (1) 男女共同参画社会基本法



### (2) 男女雇用機会均等法

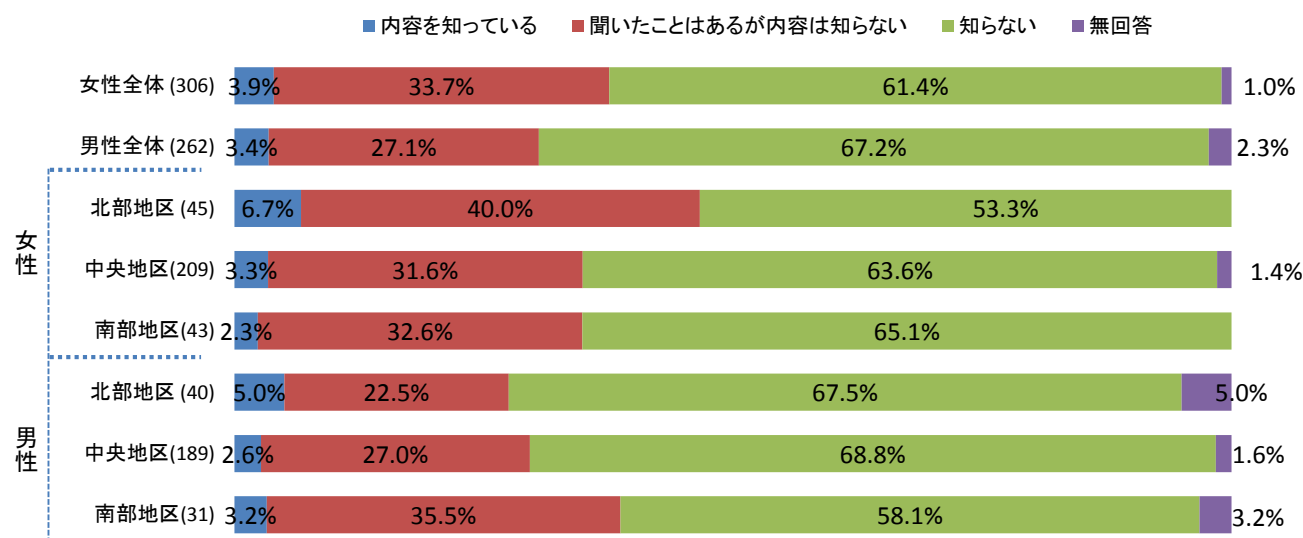


### (3) 女性活躍推進法

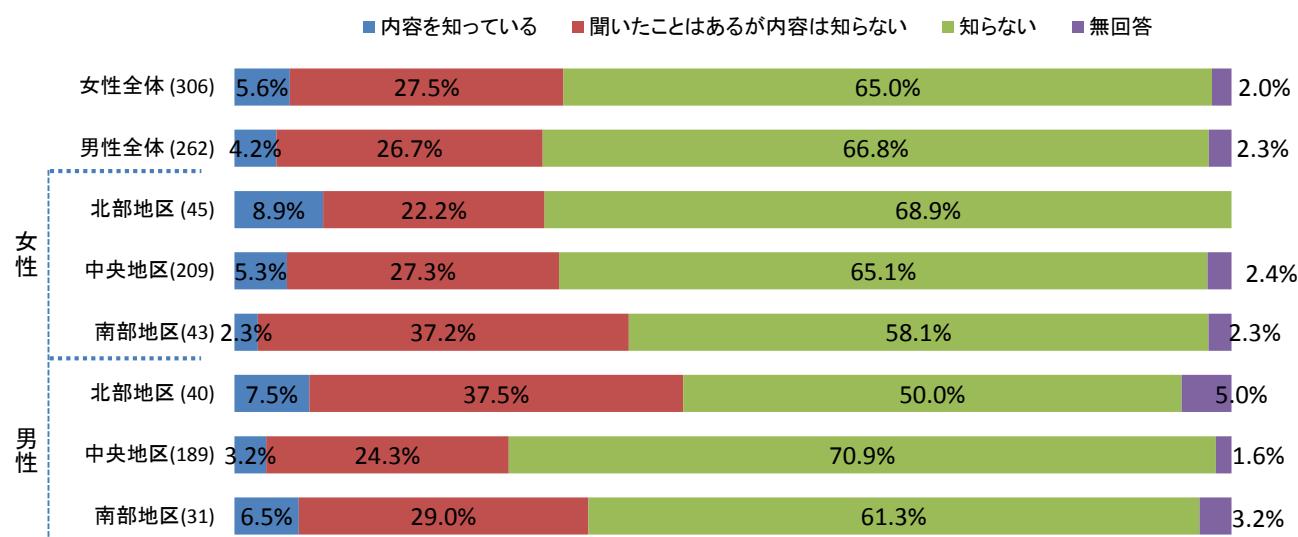




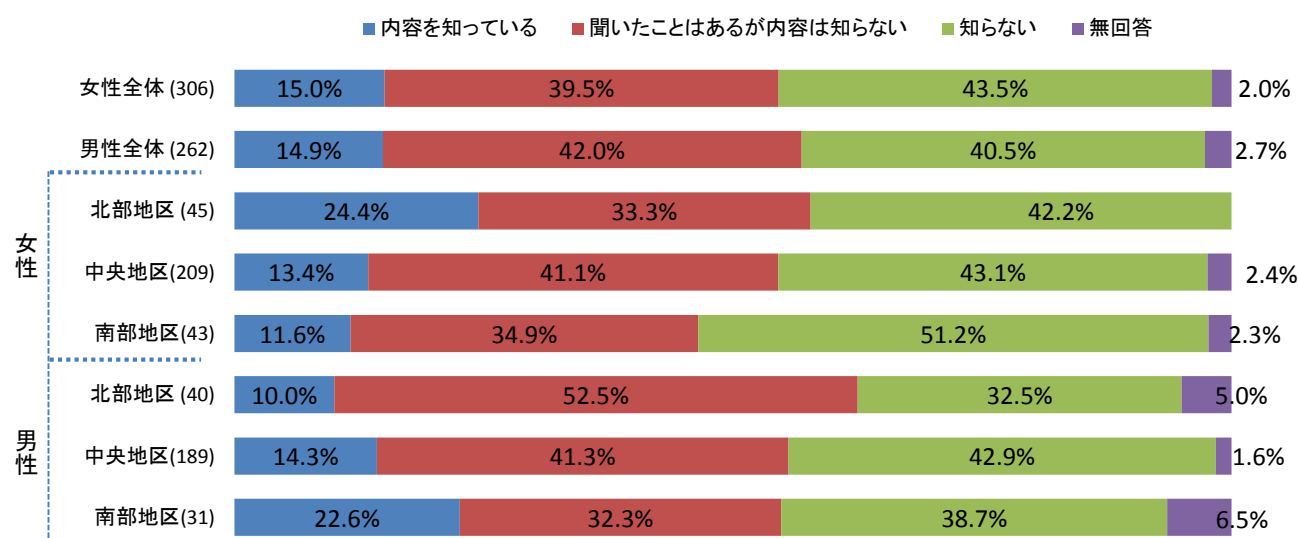
#### (4) 埼玉県男女共同参画推進条例



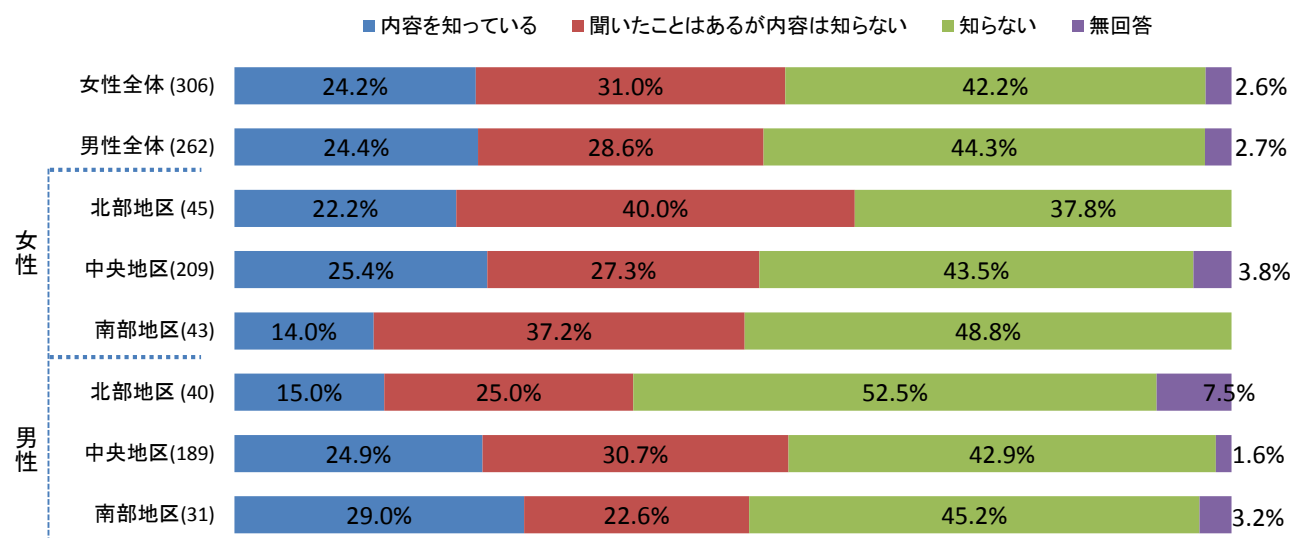
#### (5) “らんざん” 男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例



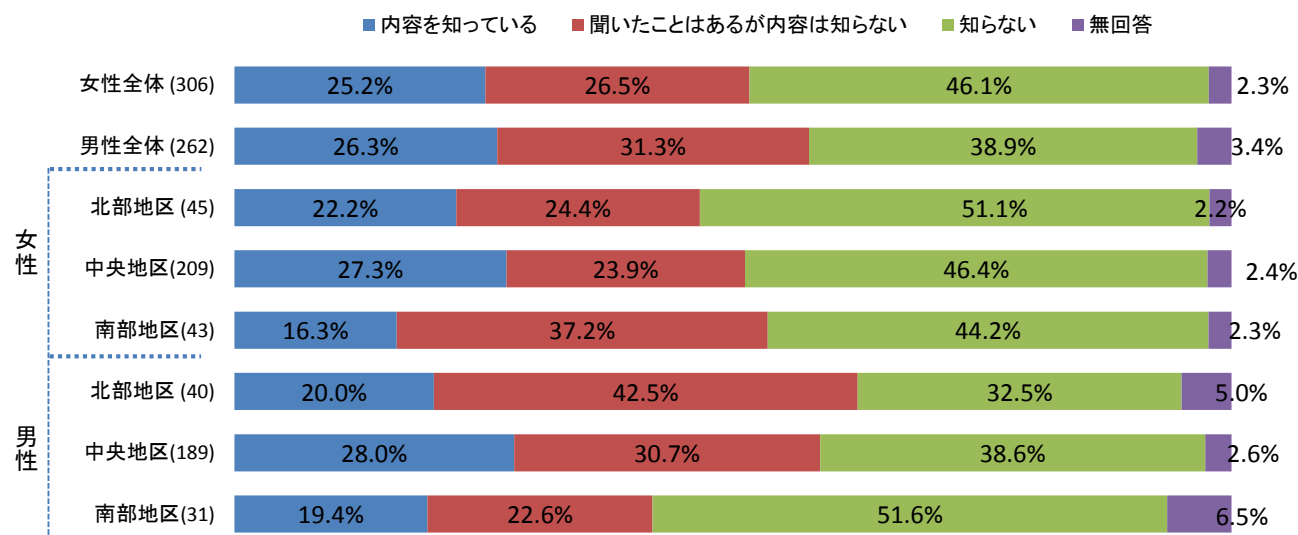
#### (6) 男女共同参画社会



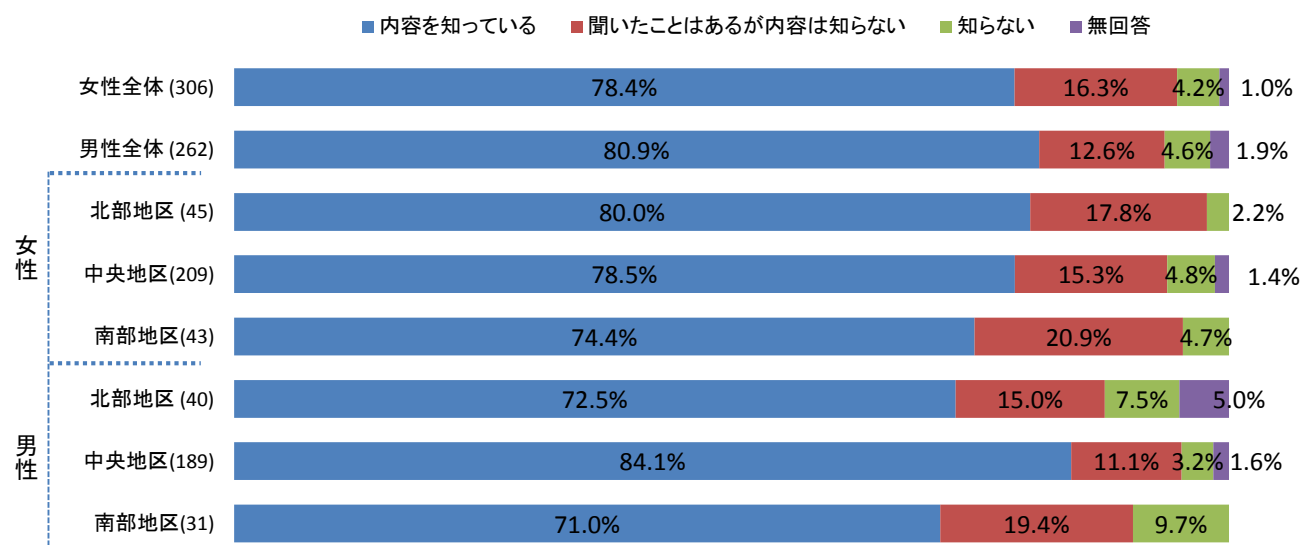
## (7) ジェンダー（社会的性別）



## (8) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

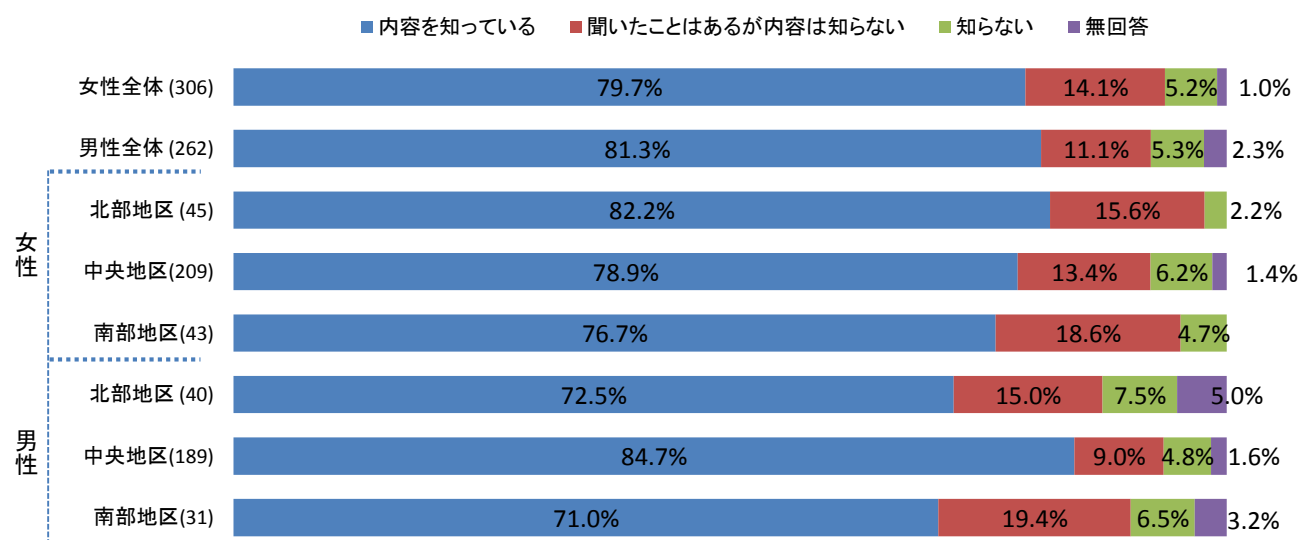


## (9) セクシャル・ハラスメント

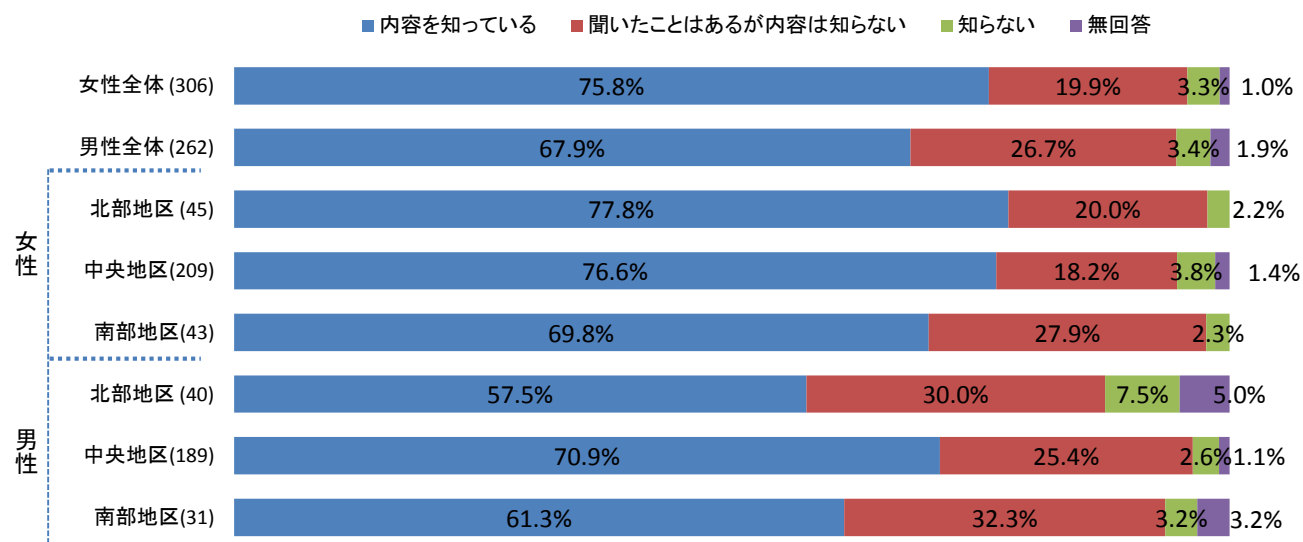




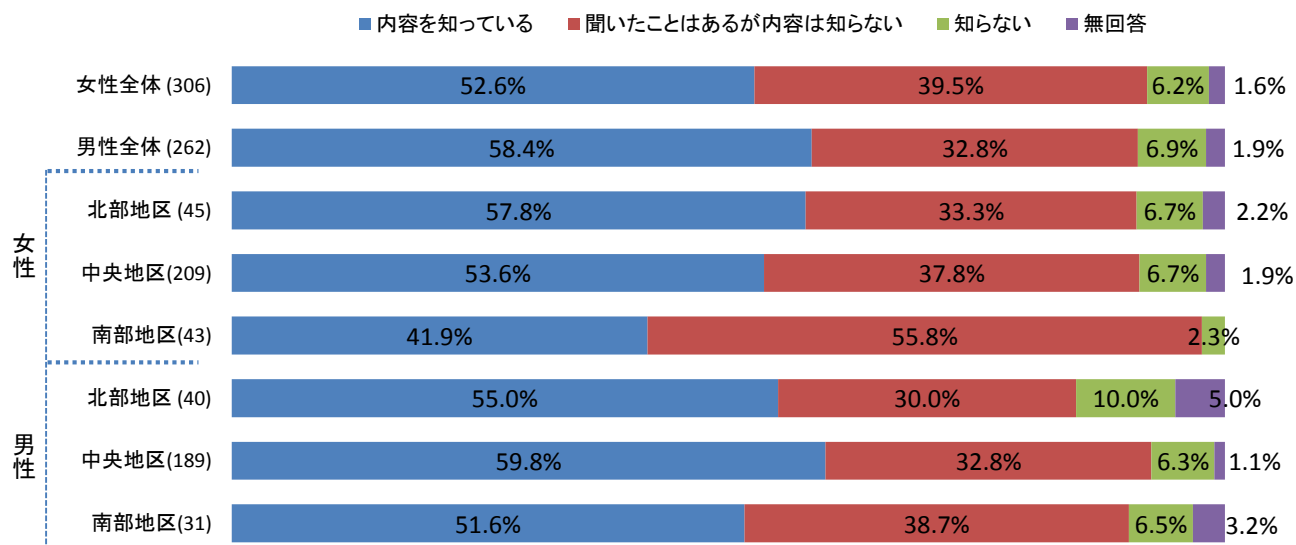
## (10) DV (ドメスティック・バイオレンス)



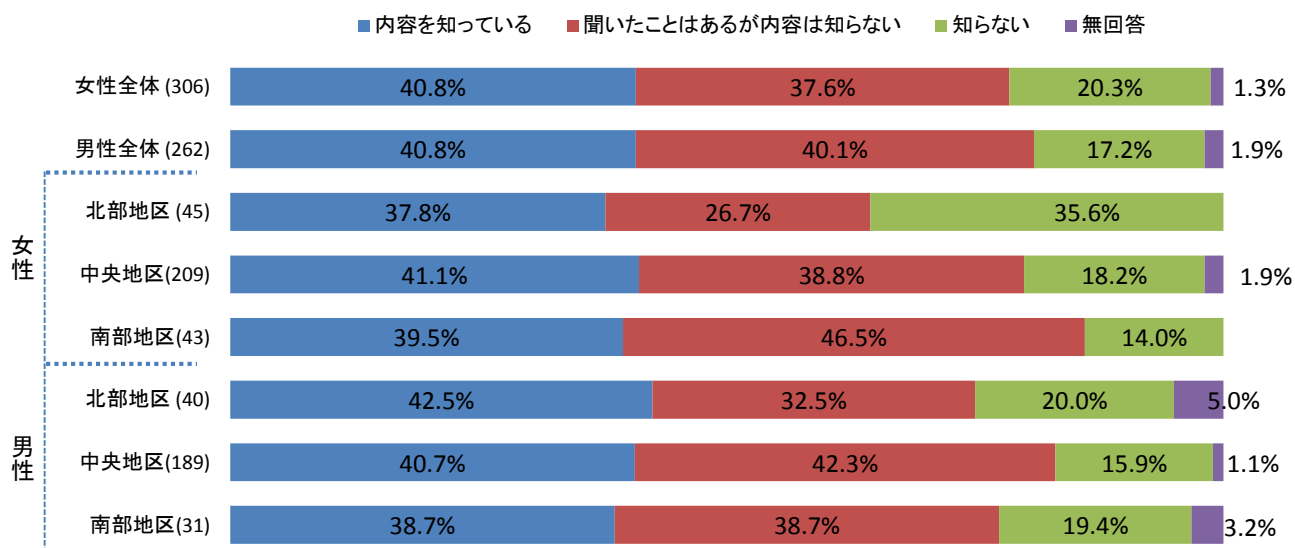
## (11) 育児休業制度



## (12) 介護休業制度

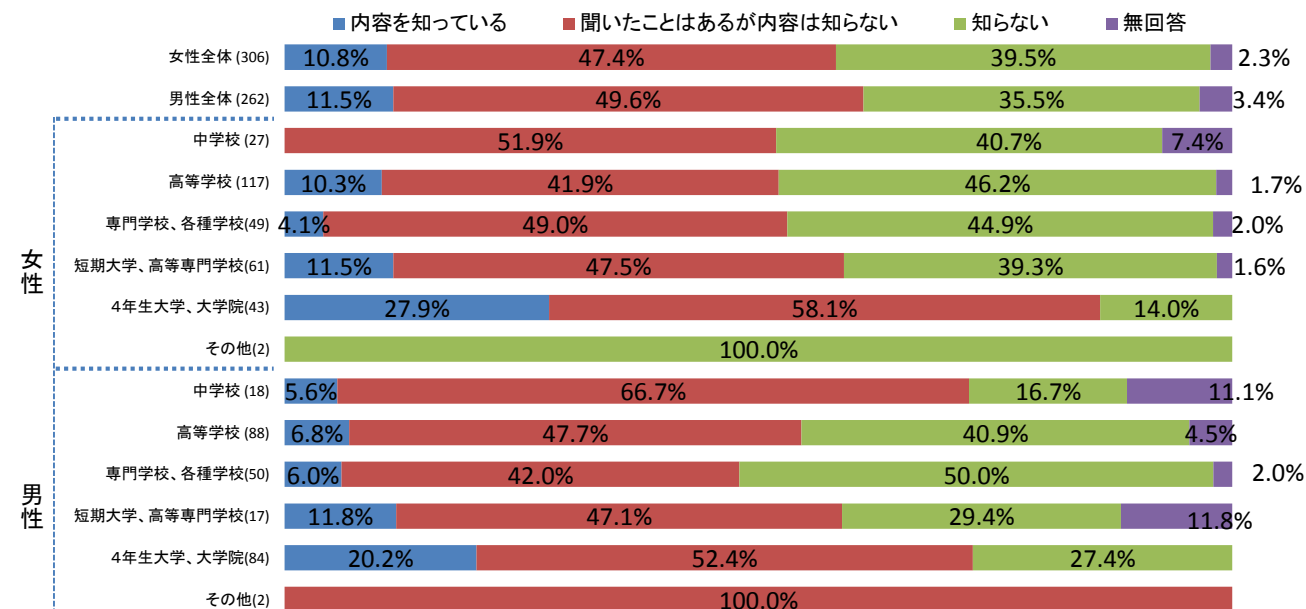


### (13) 短時間勤務制度

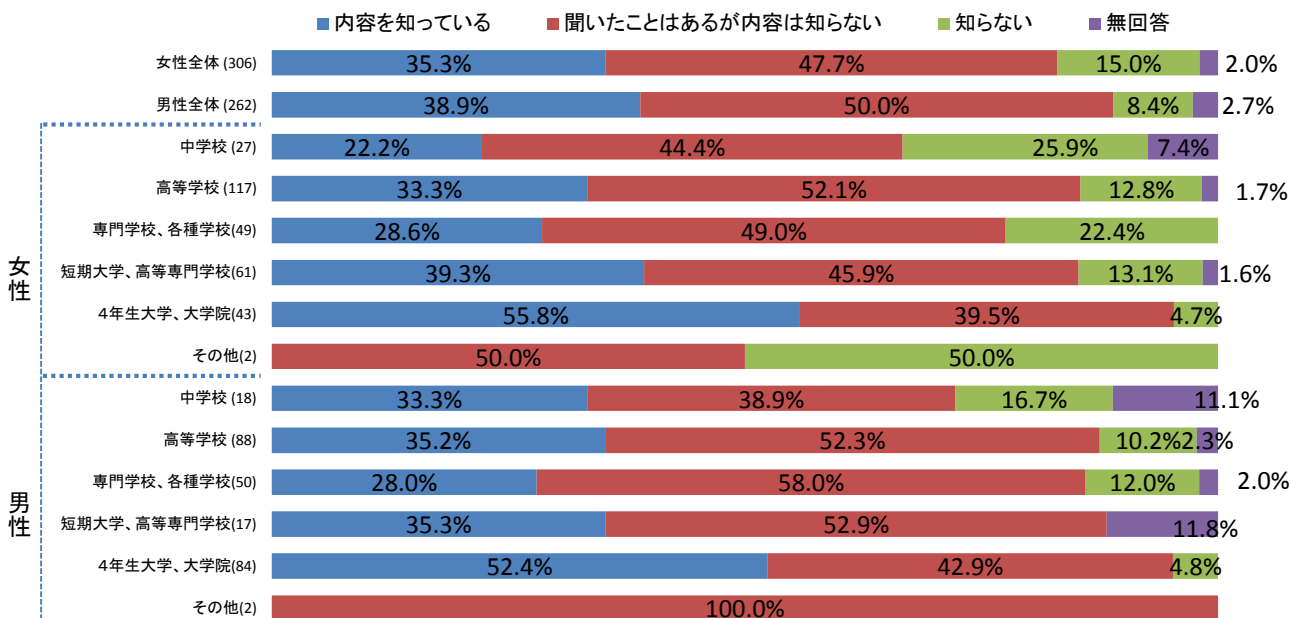


### ◇性別と学歴別の結果

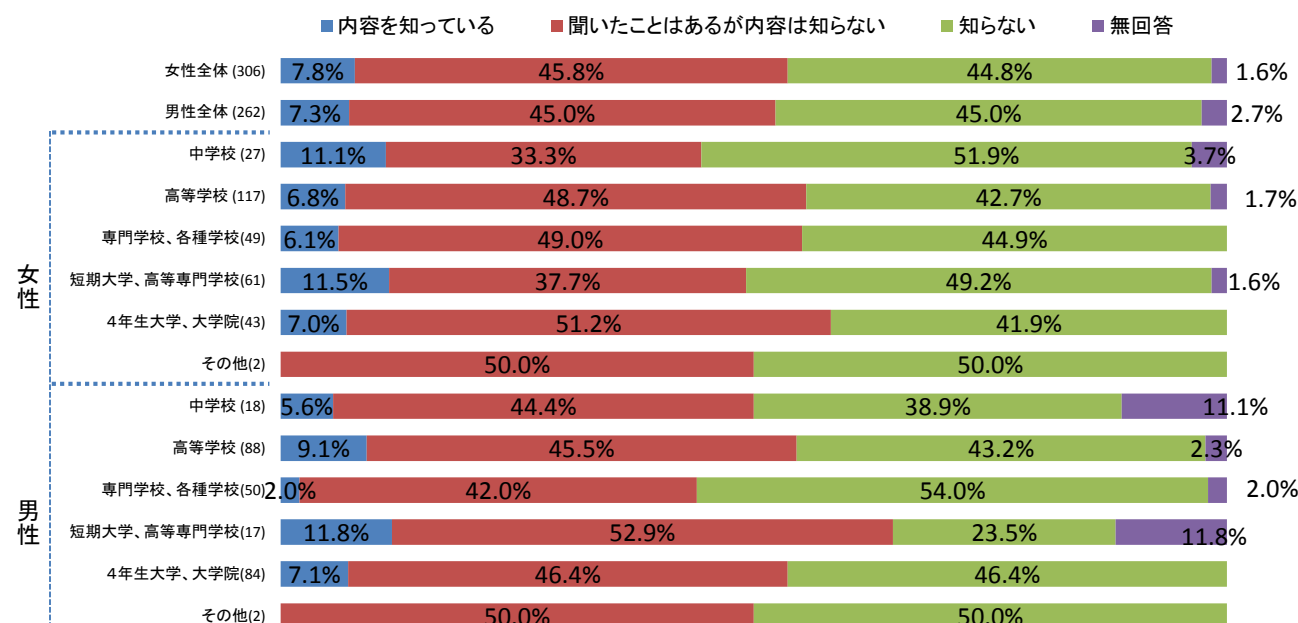
#### (1) 男女共同参画社会基本法



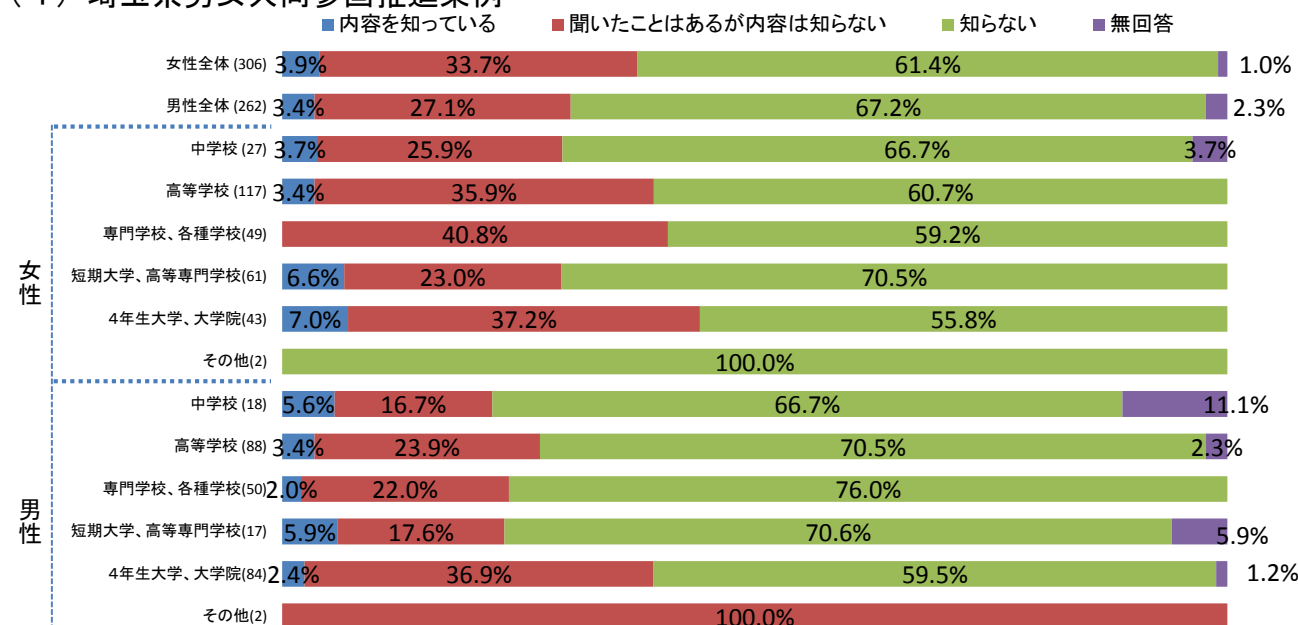
#### (2) 男女雇用機会均等法



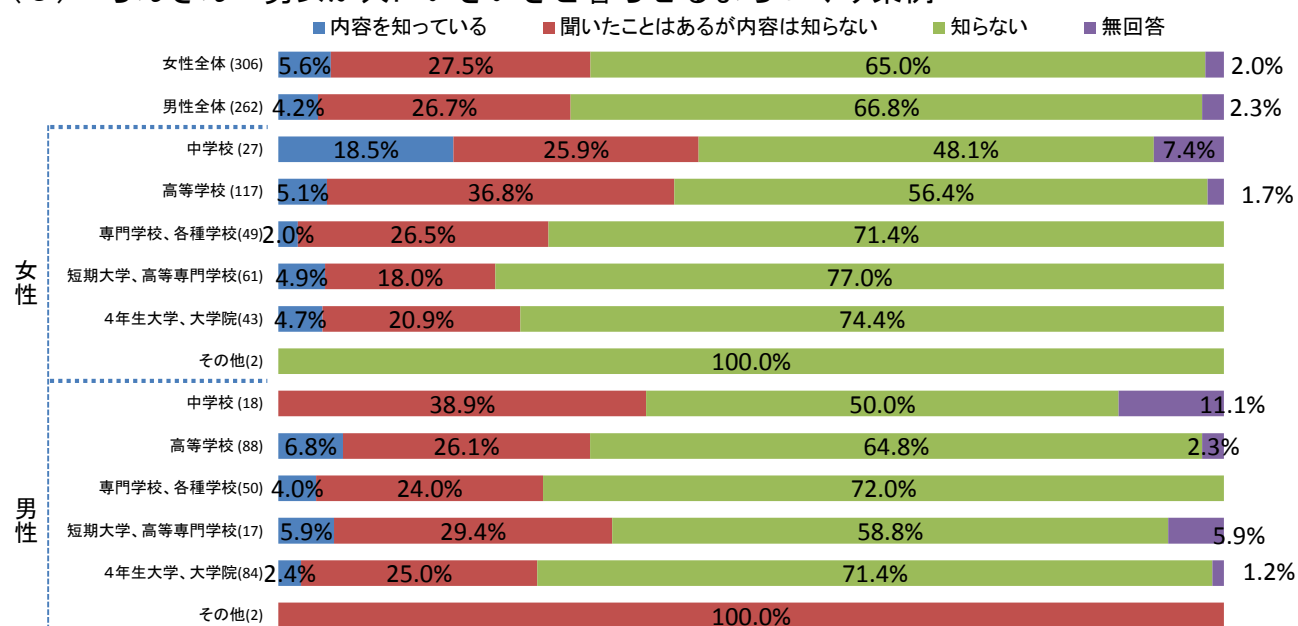
### (3) 女性活躍推進法



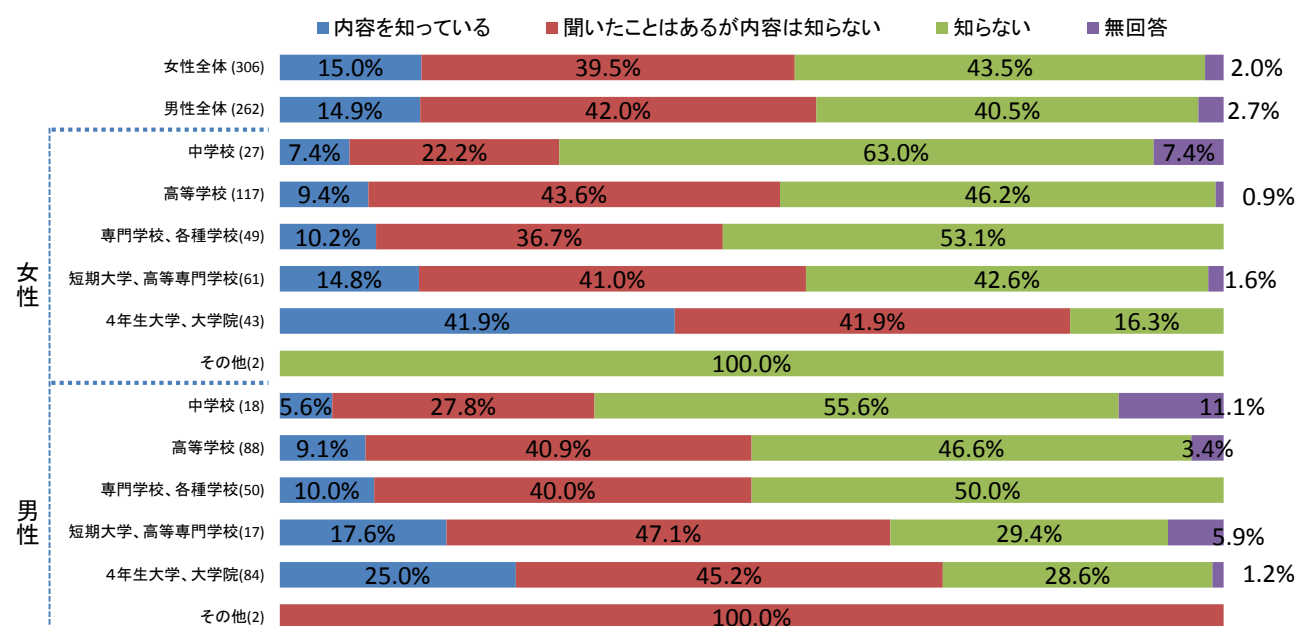
### (4) 埼玉県男女共同参画推進条例



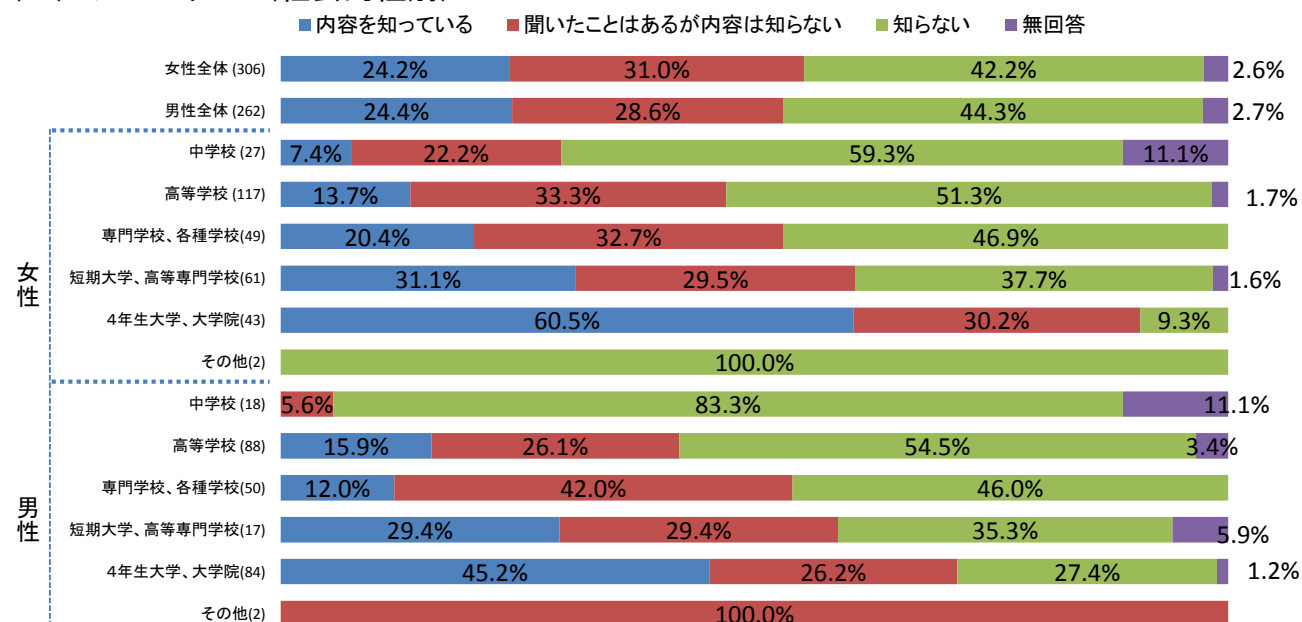
### (5) “らんざん” 男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例



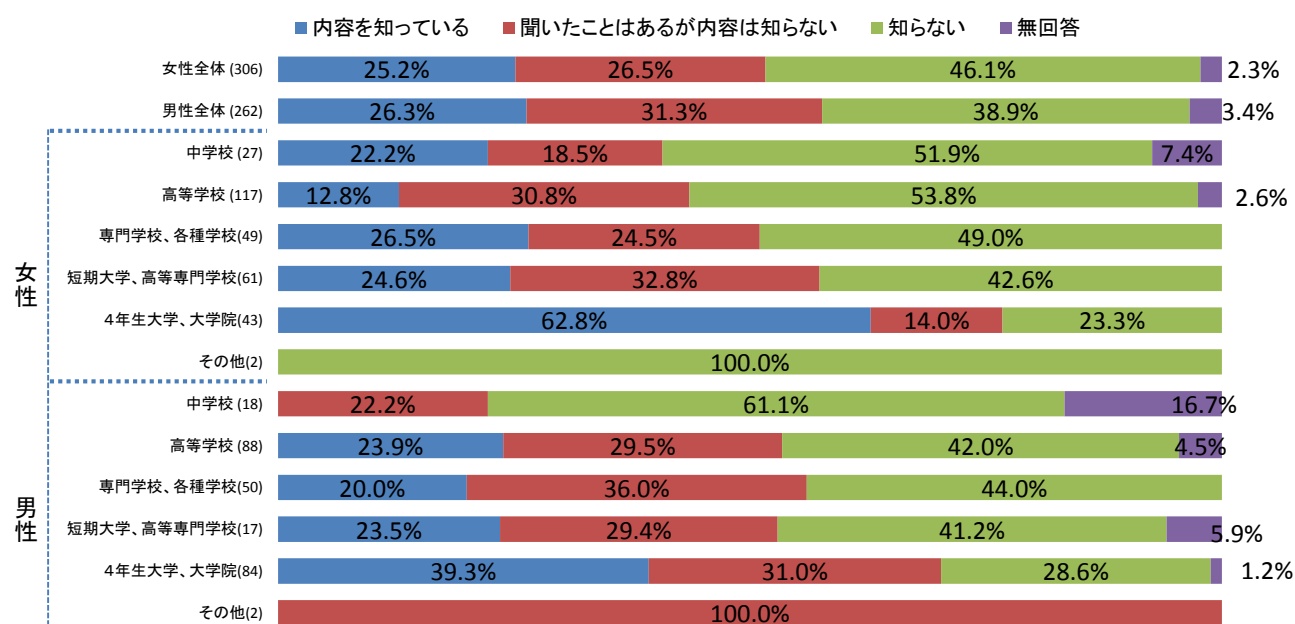
## (6) 男女共同参画社会



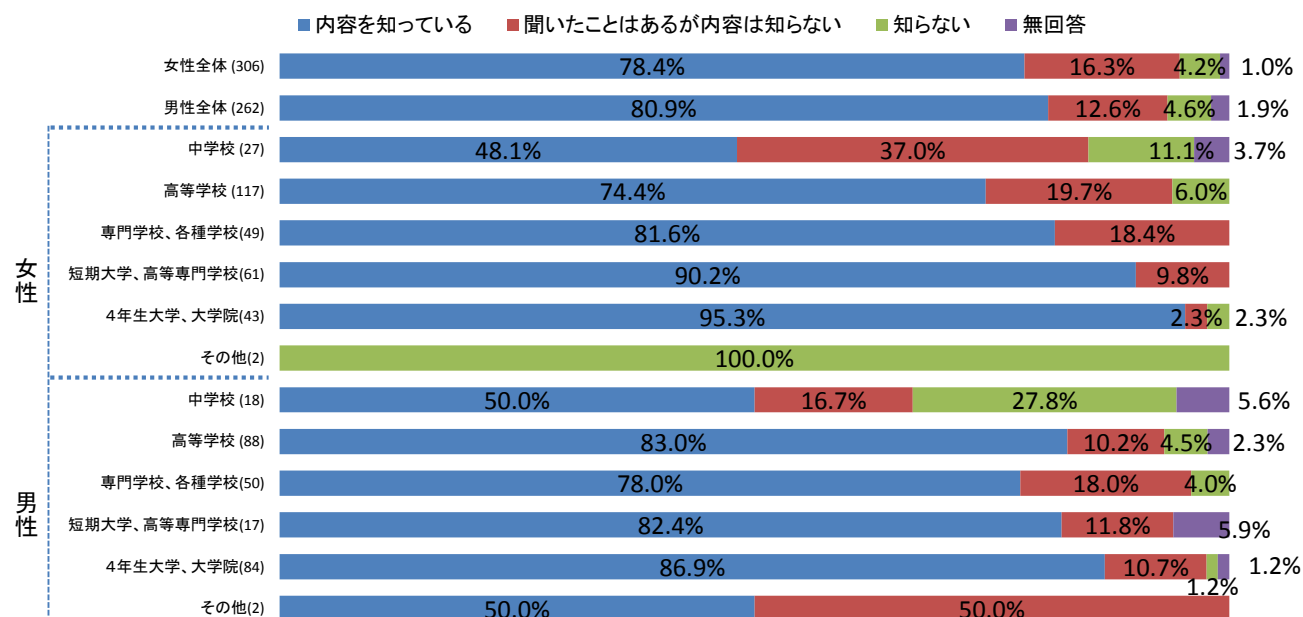
## (7) ジェンダー（社会的性別）



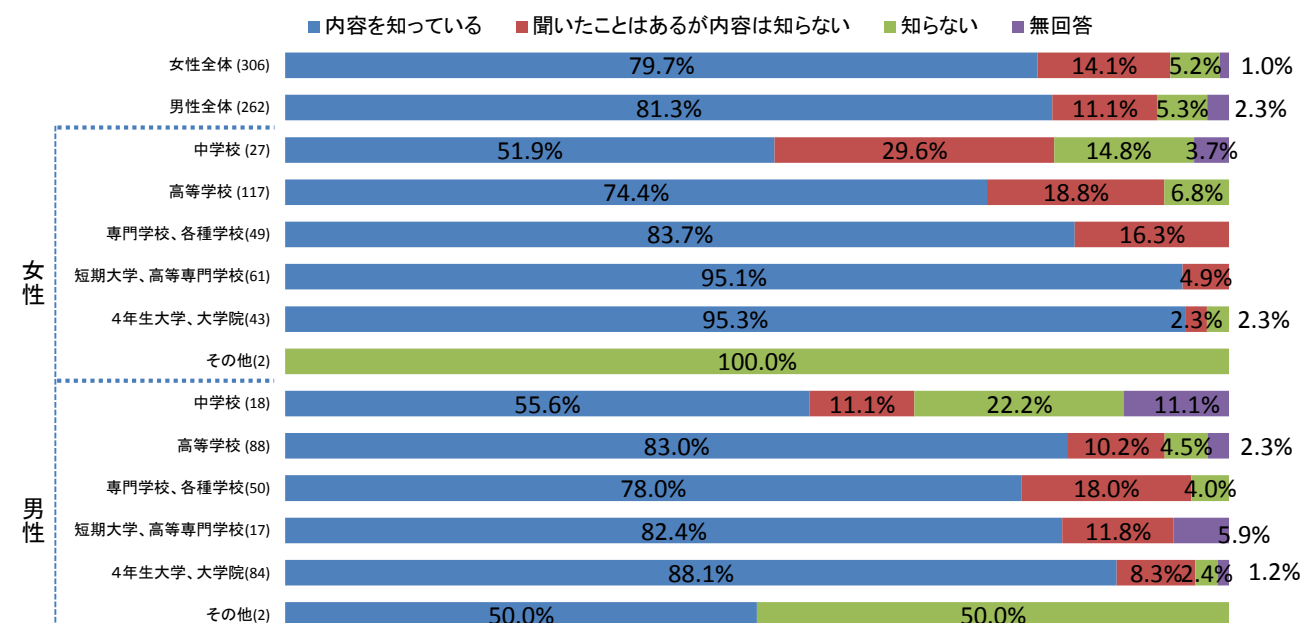
## (8) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



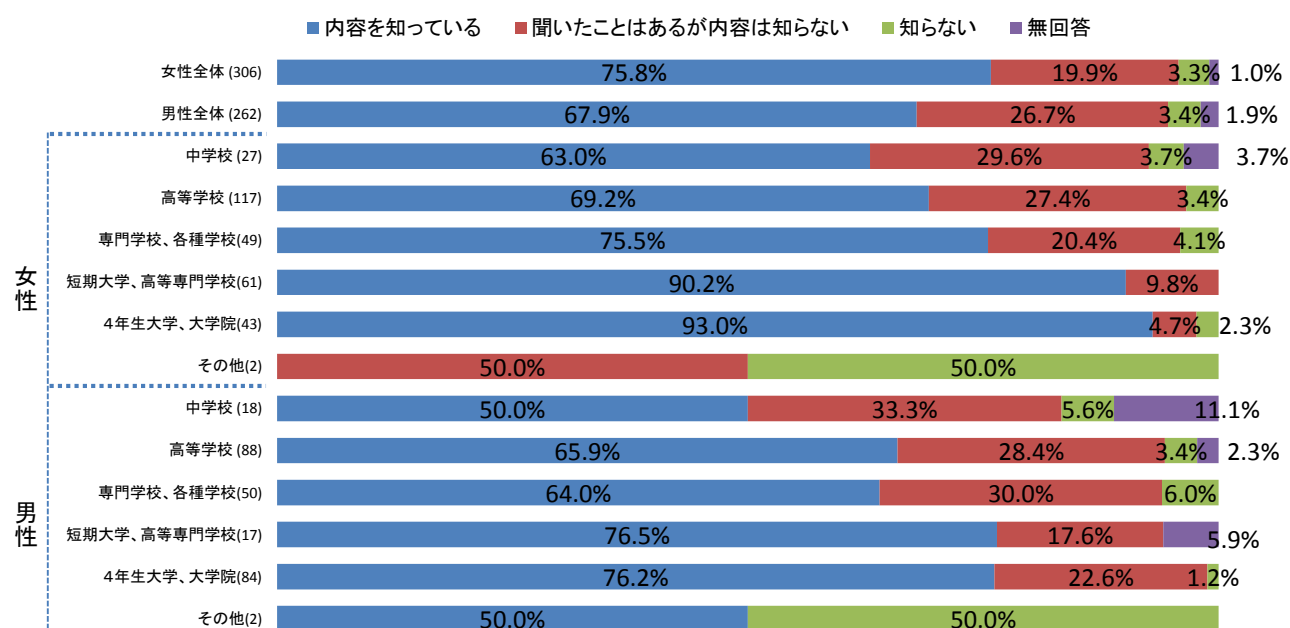
## (9) セクシャル・ハラスメント



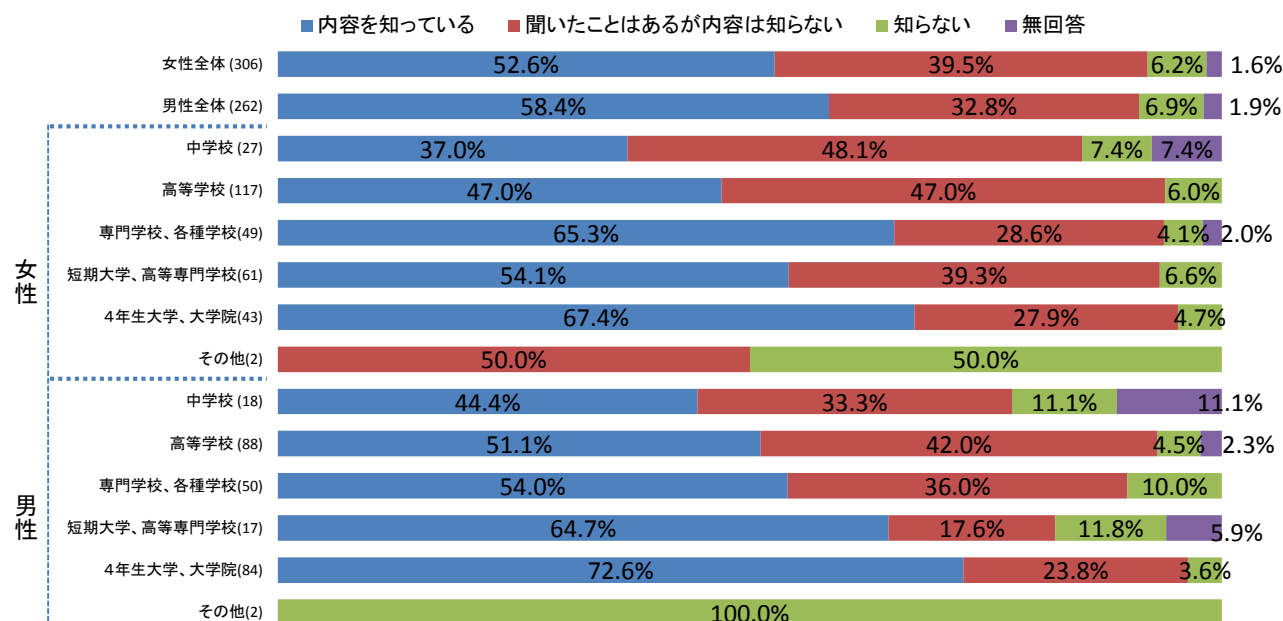
## (10) DV (ドメスティック・バイオレンス)



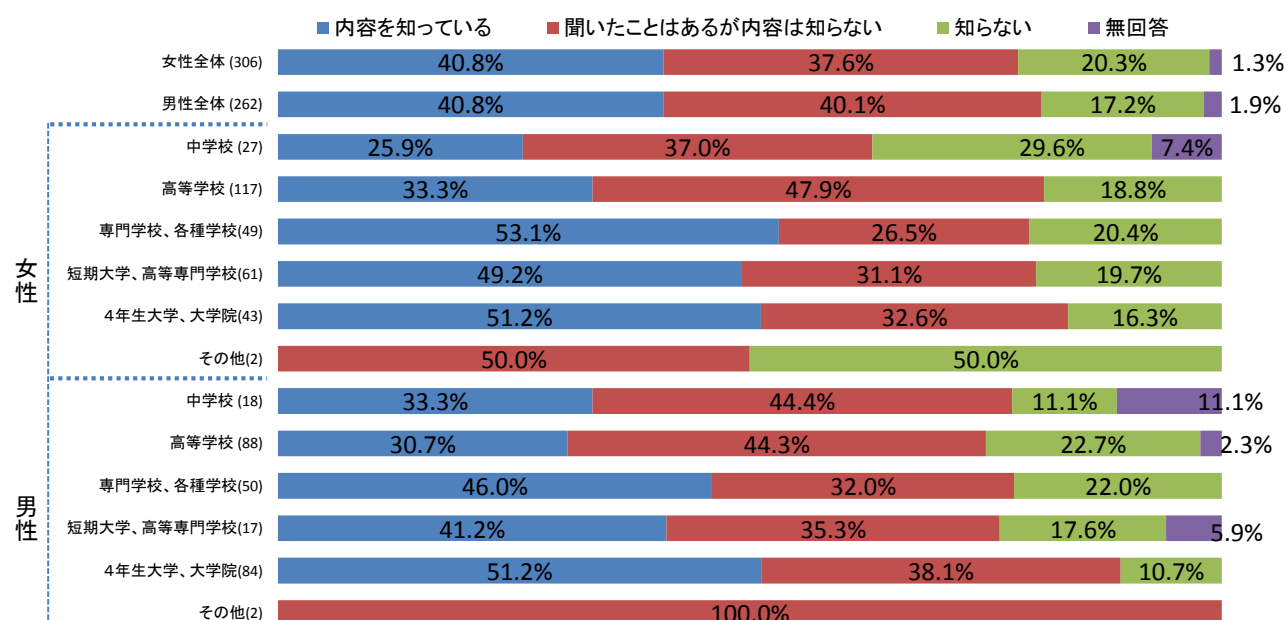
## (11) 育児休業制度



## (12) 介護休業制度

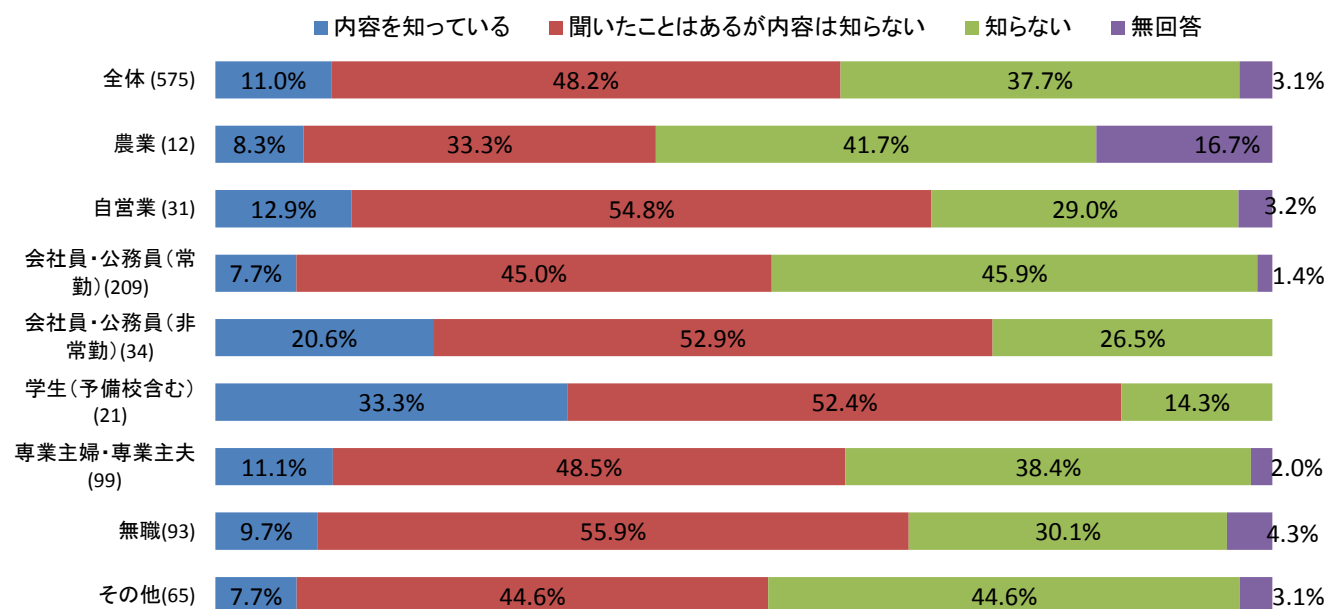


## (13) 短時間勤務制度

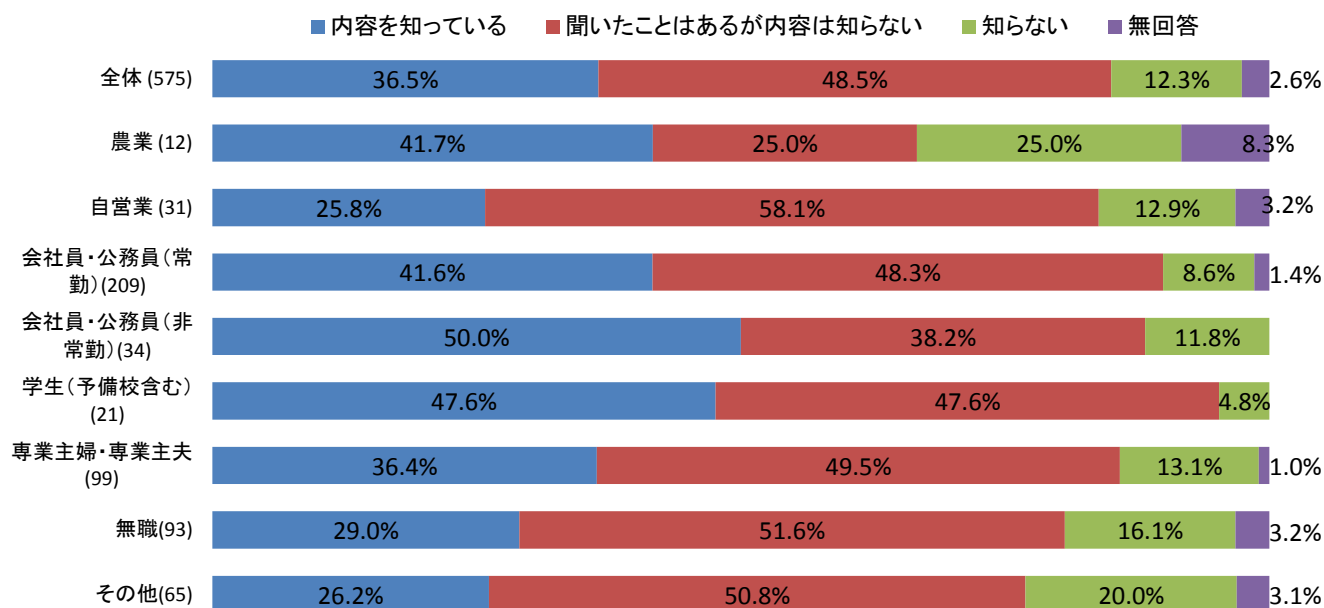


## ◇職業別の結果

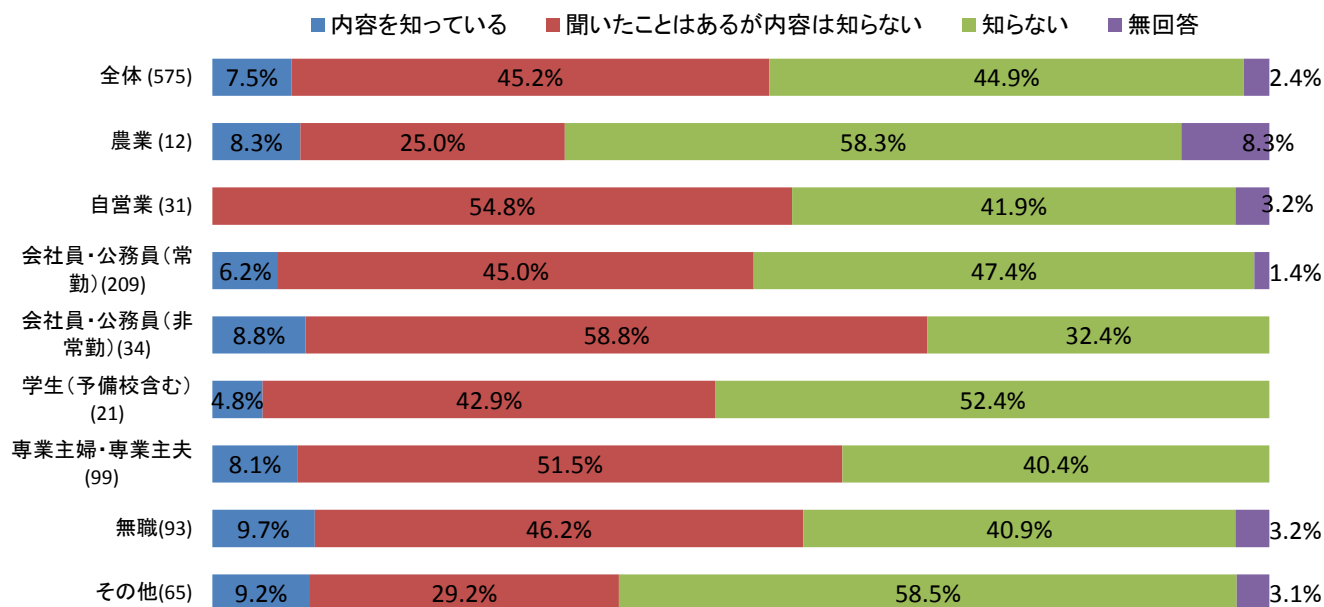
### (1) 男女共同参画社会基本法



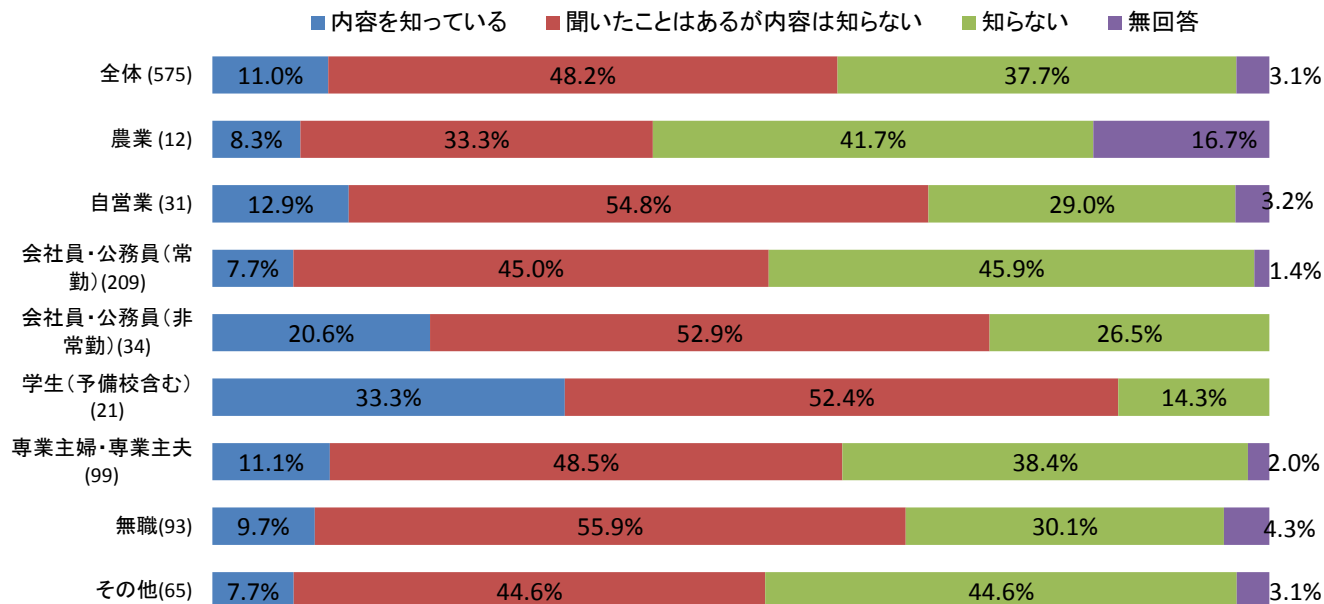
## (2) 男女雇用機会均等法



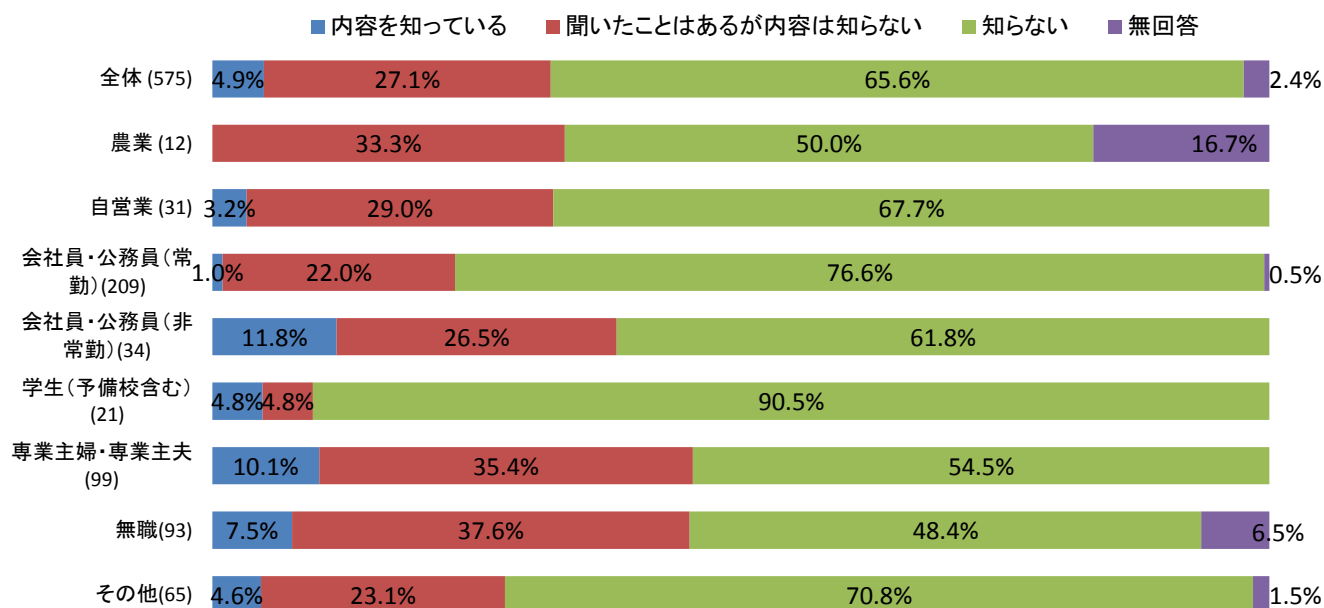
## (3) 女性活躍推進法



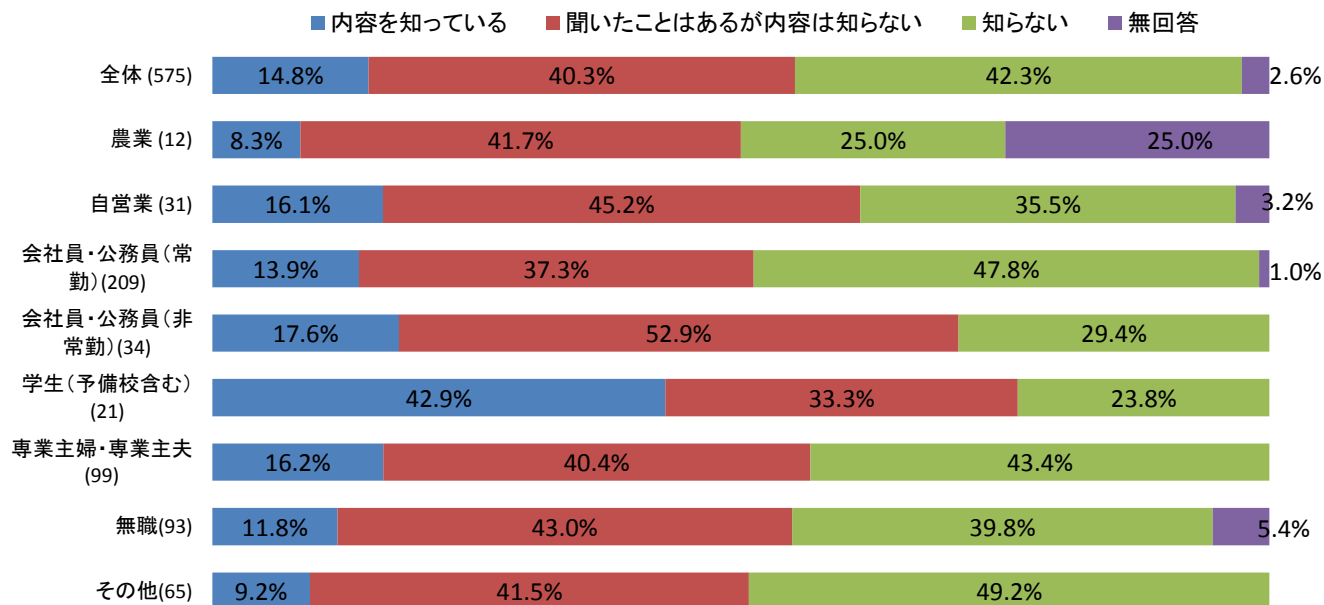
## (4) 埼玉県男女共同参画推進条例



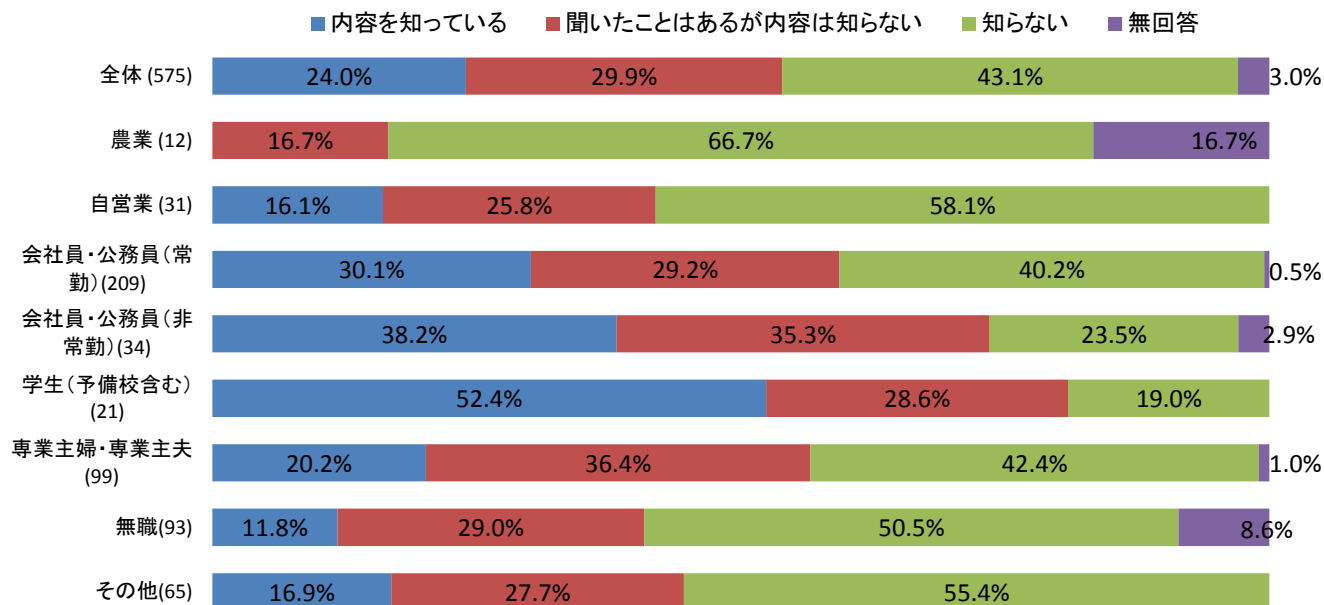
## (5) “らんざん” 男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例



## (6) 男女共同参画社会

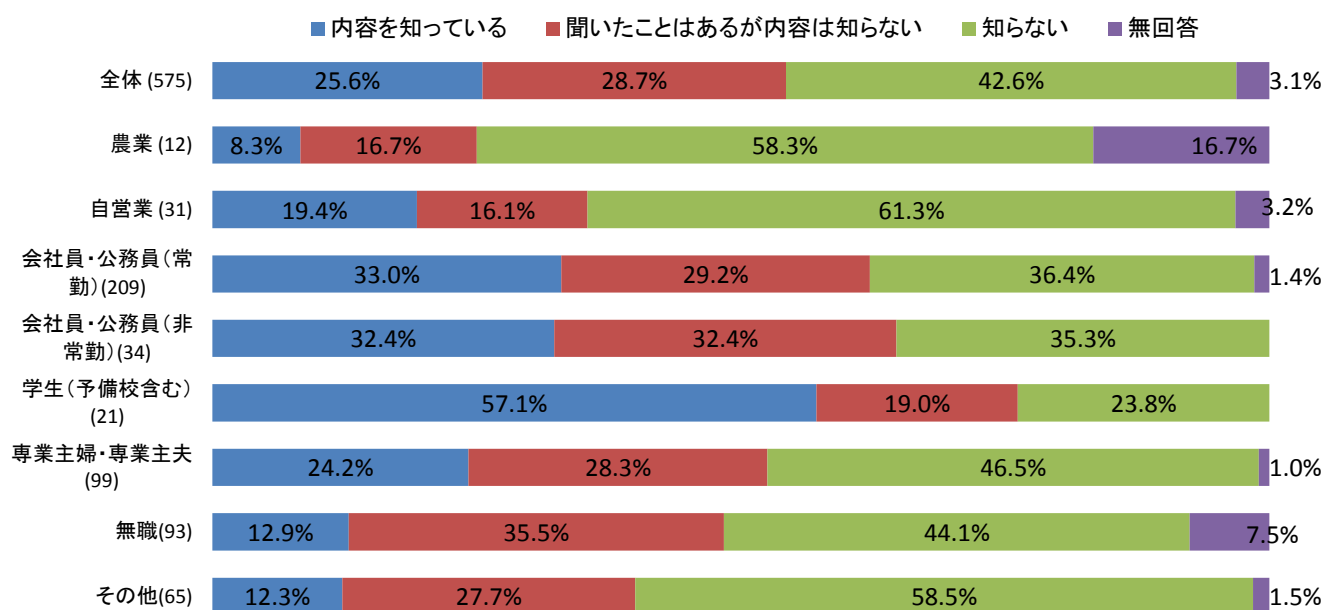


## (7) ジェンダー（社会的性別）

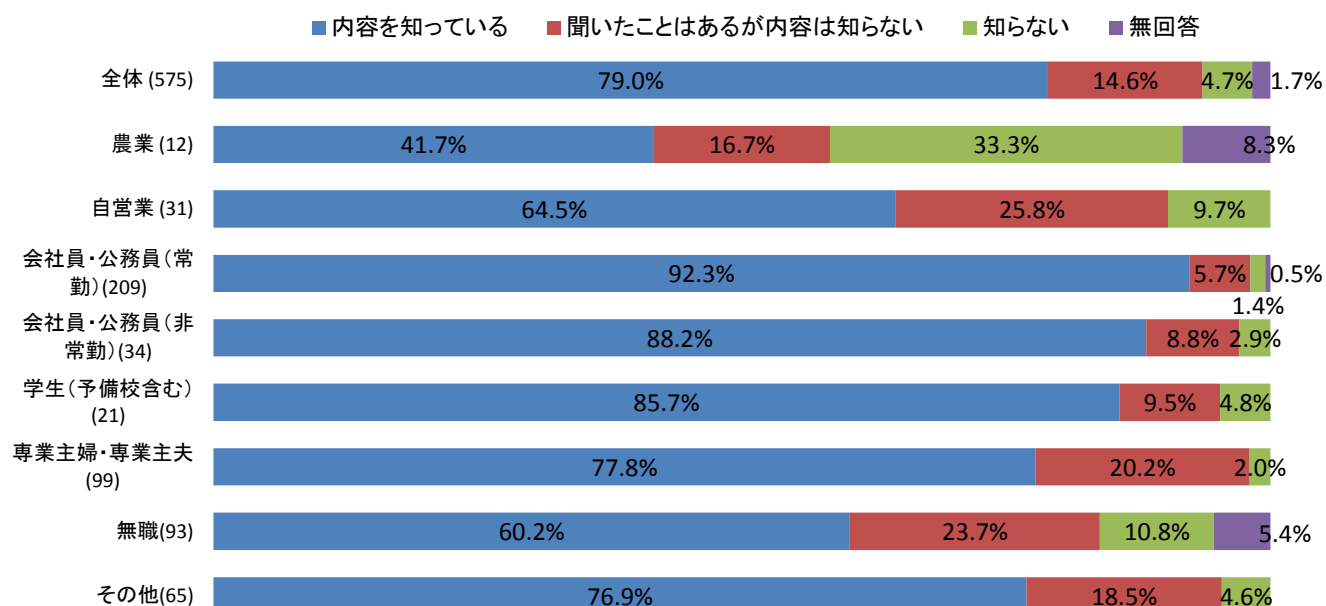




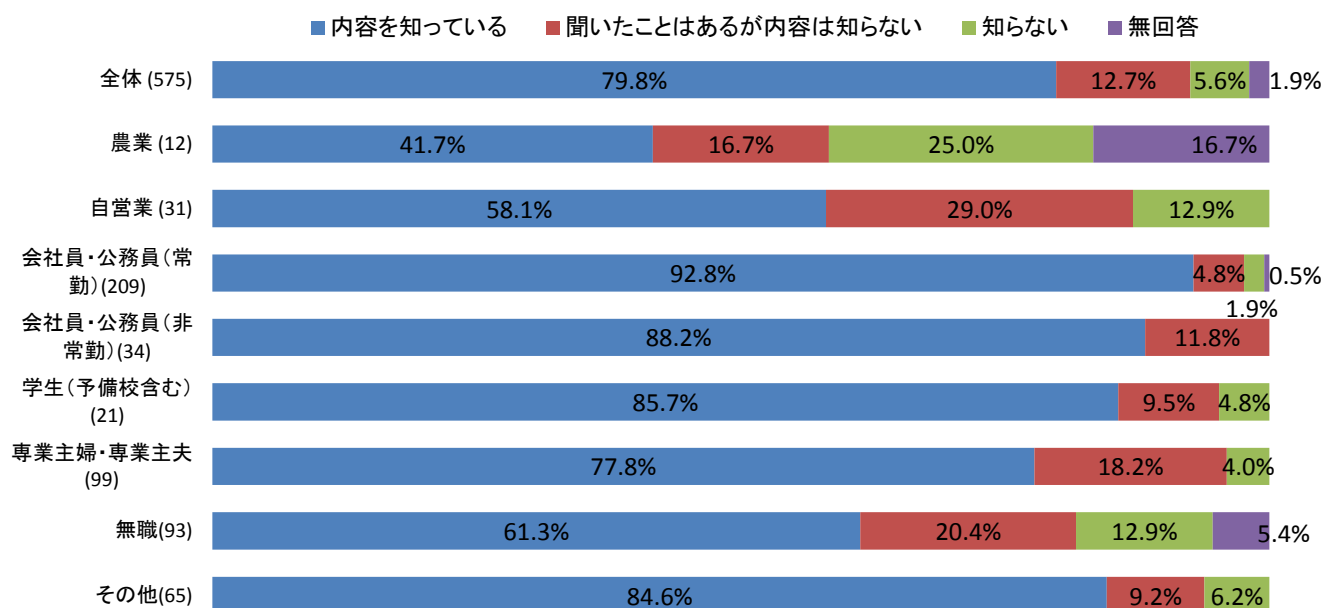
## (8) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



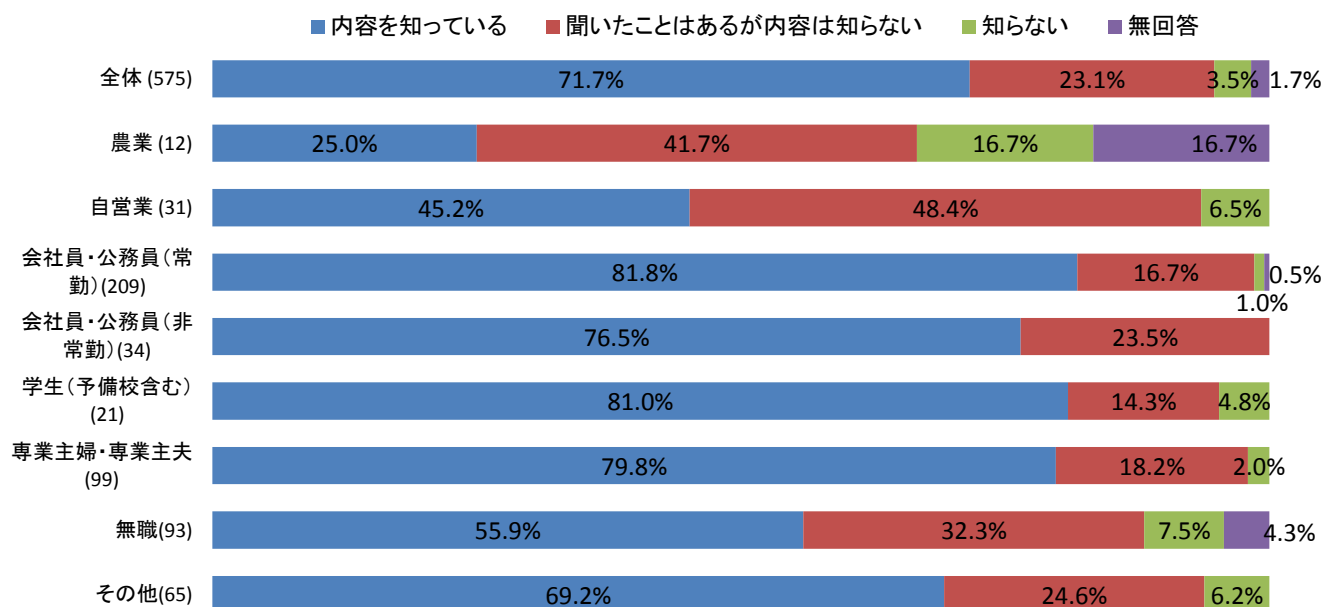
## (9) セクシャル・ハラスメント



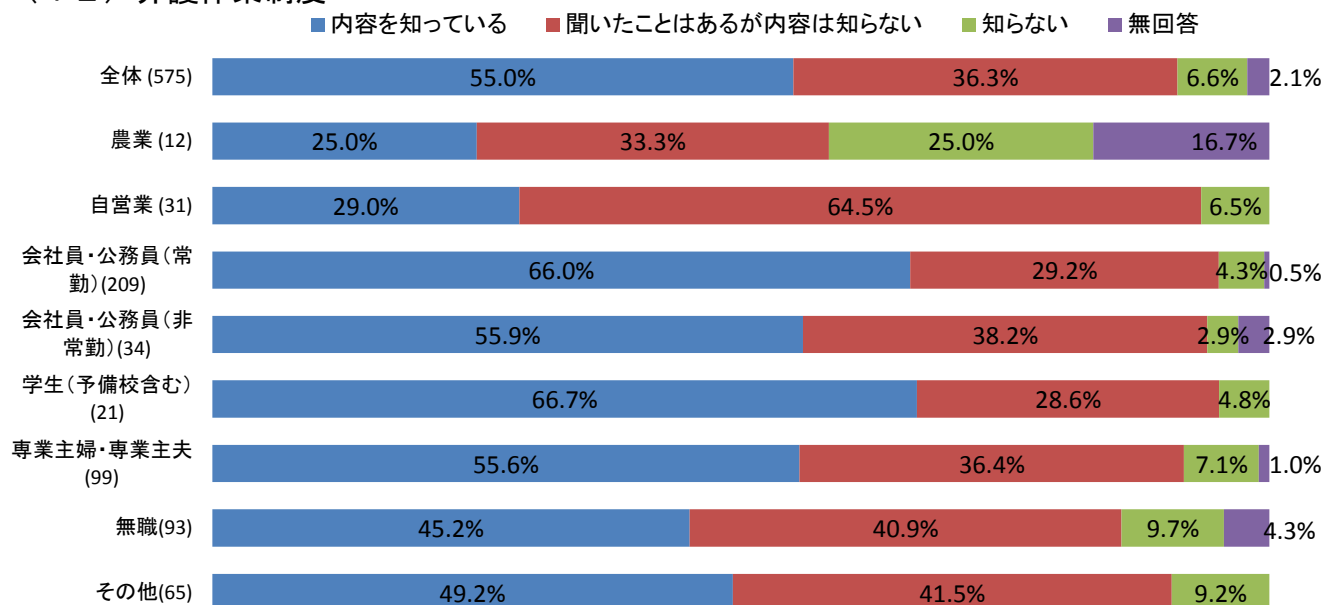
## (10) DV（ドメスティック・バイオレンス）



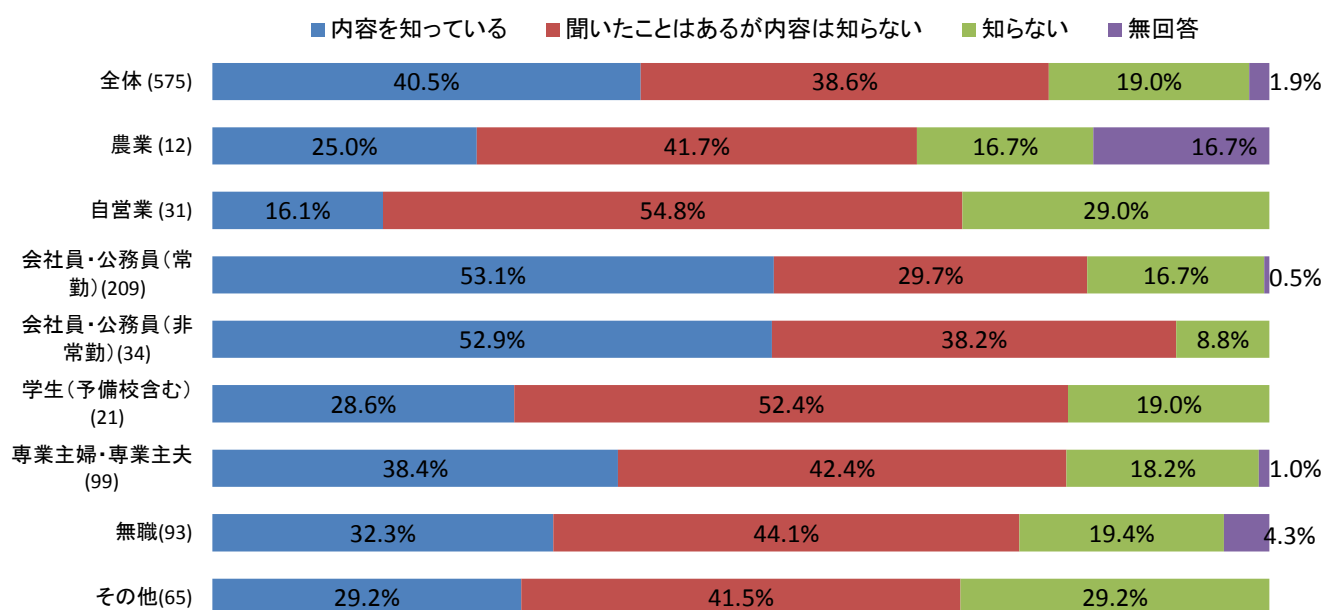
### ( 1 1 ) 育児休業制度



### ( 1 2 ) 介護休業制度

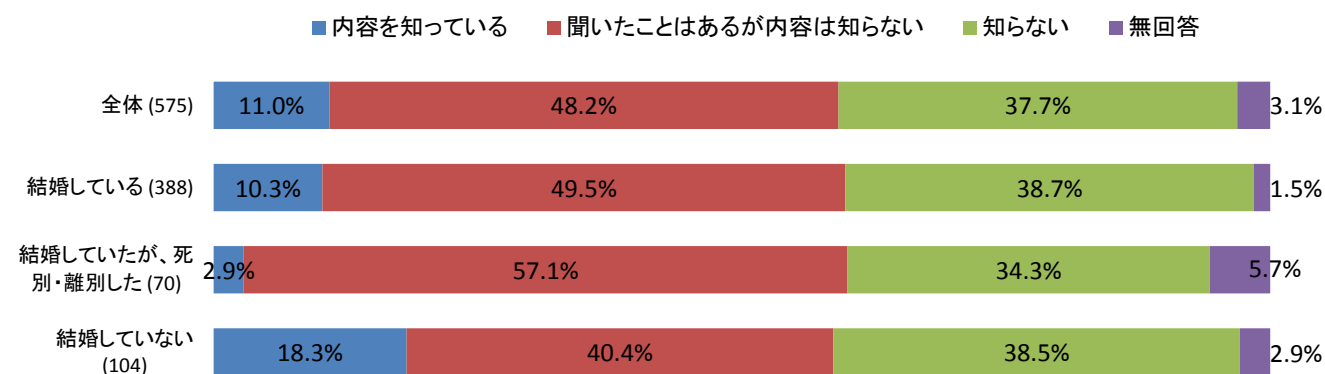


### ( 1 3 ) 短時間勤務制度

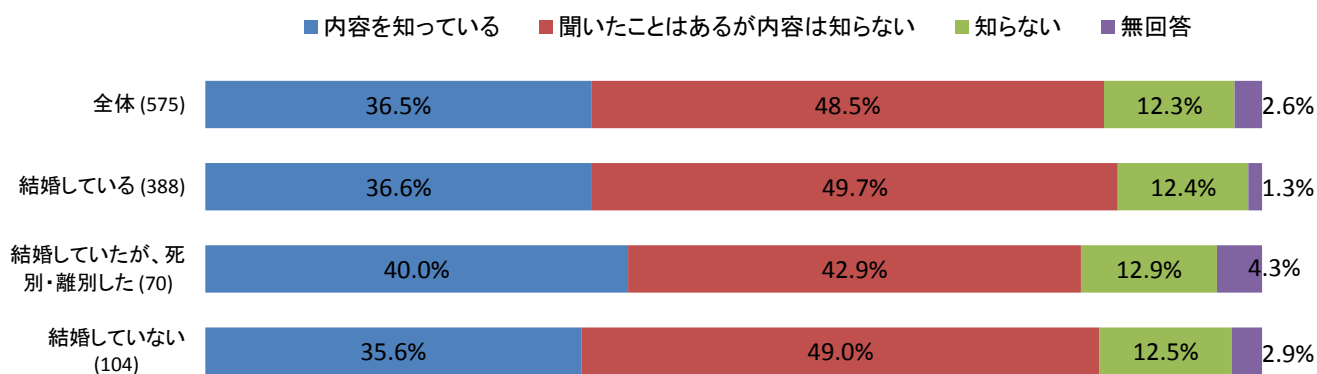


## ◇婚姻状況別の結果

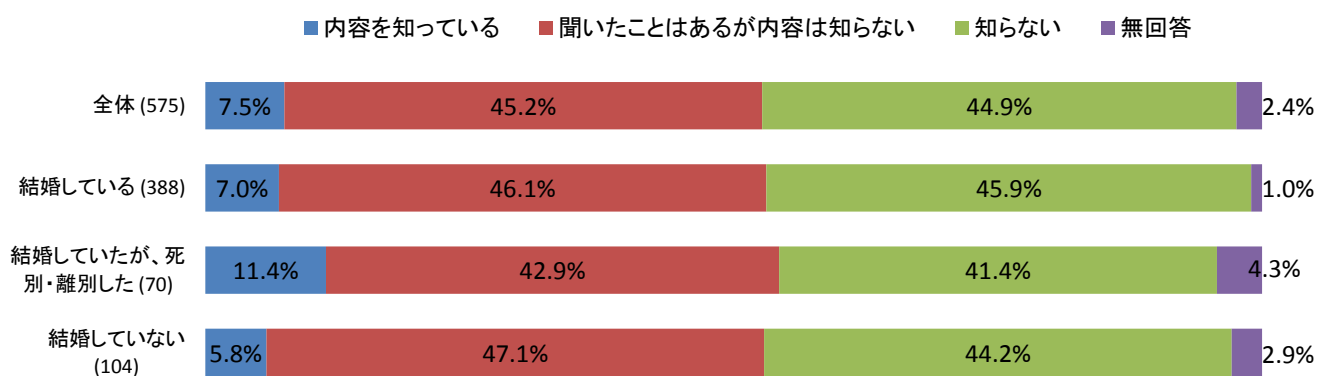
### (1) 男女共同参画社会基本法



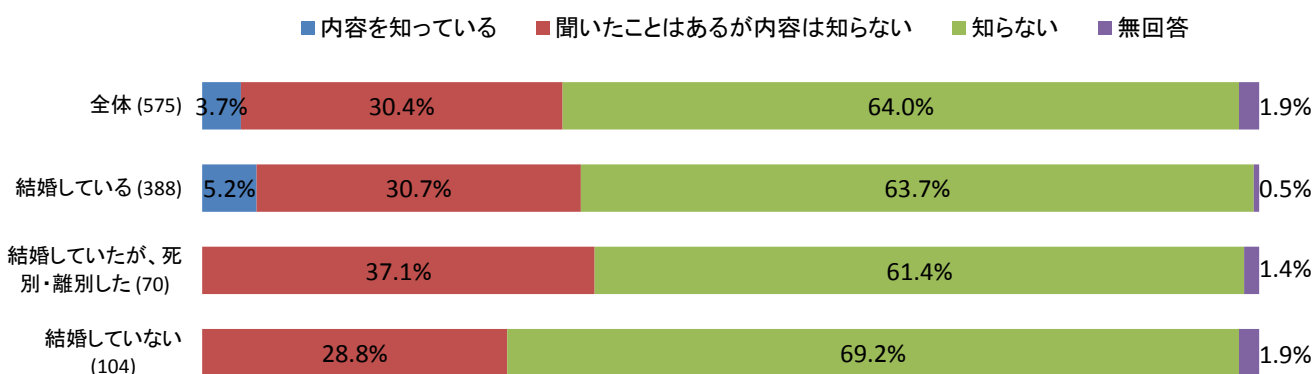
### (2) 男女雇用機会均等法



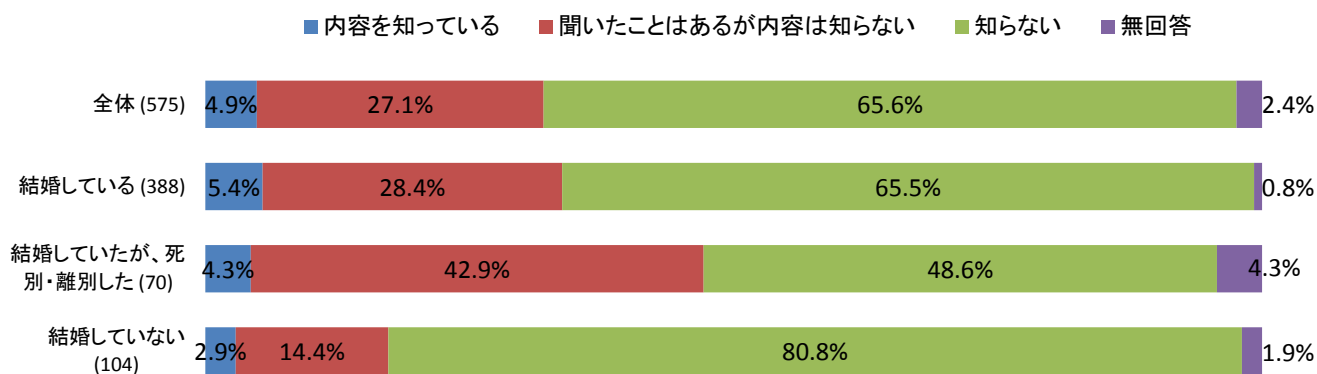
### (3) 女性活躍推進法



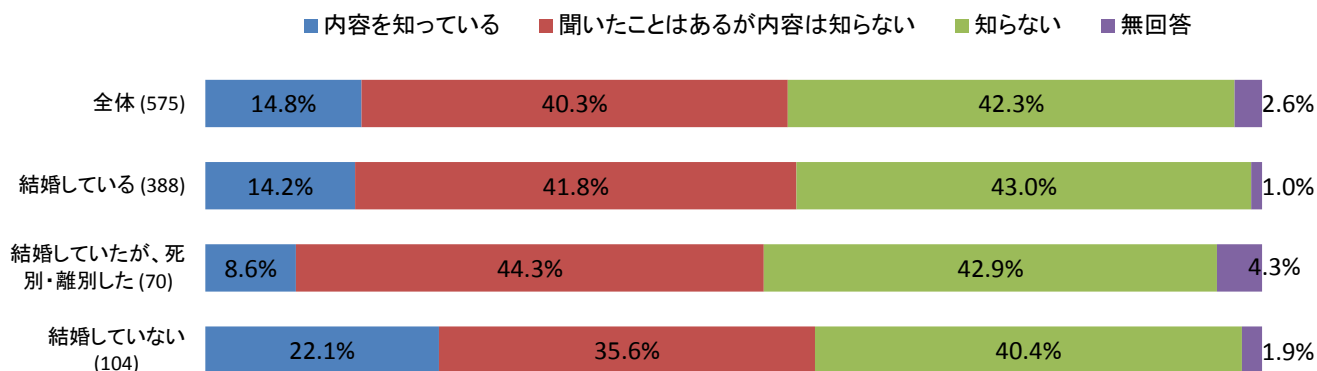
### (4) 埼玉県男女共同参画推進条例



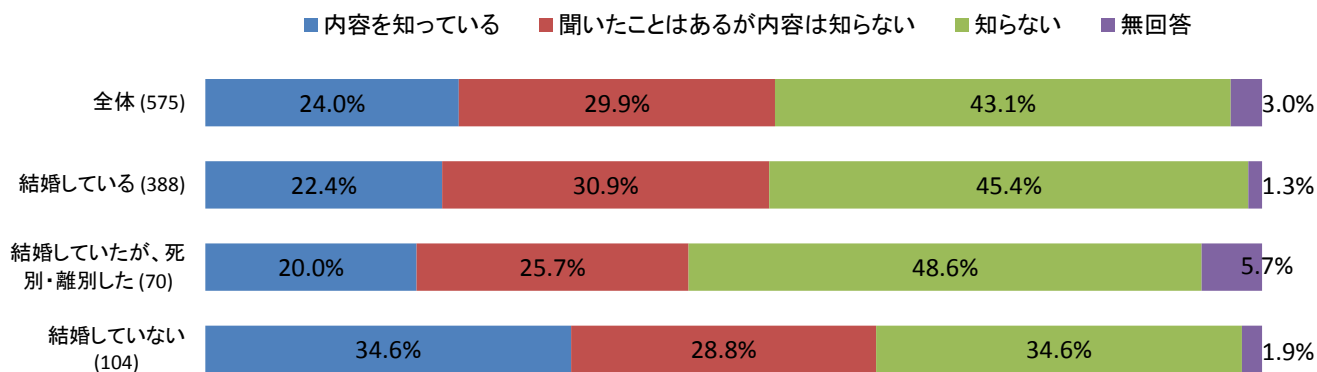
## (5) “らんざん” 男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例



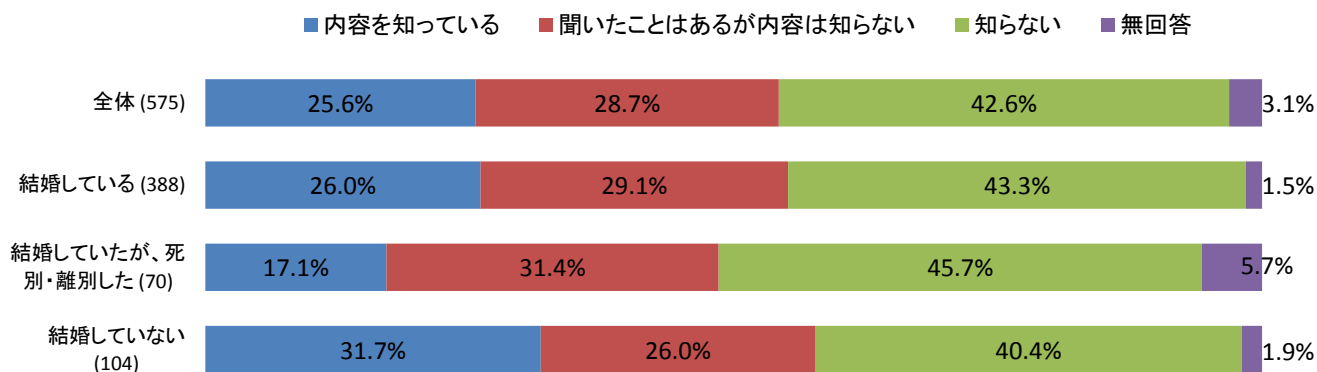
## (6) 男女共同参画社会



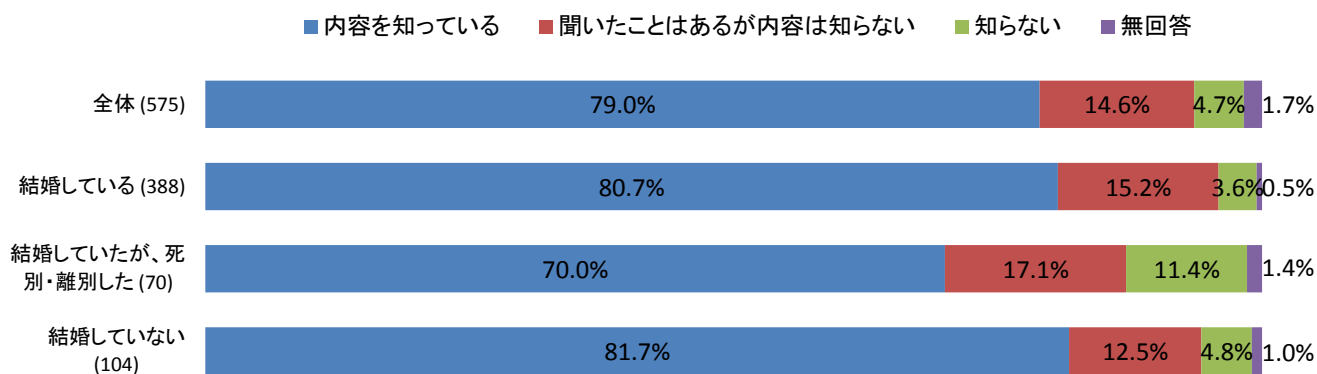
## (7) ジェンダー（社会的性別）



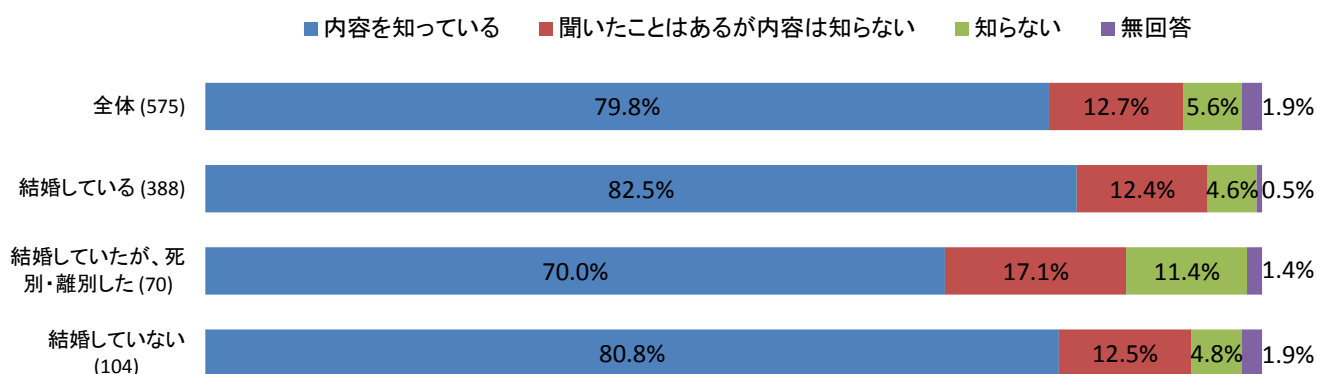
## (8) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）



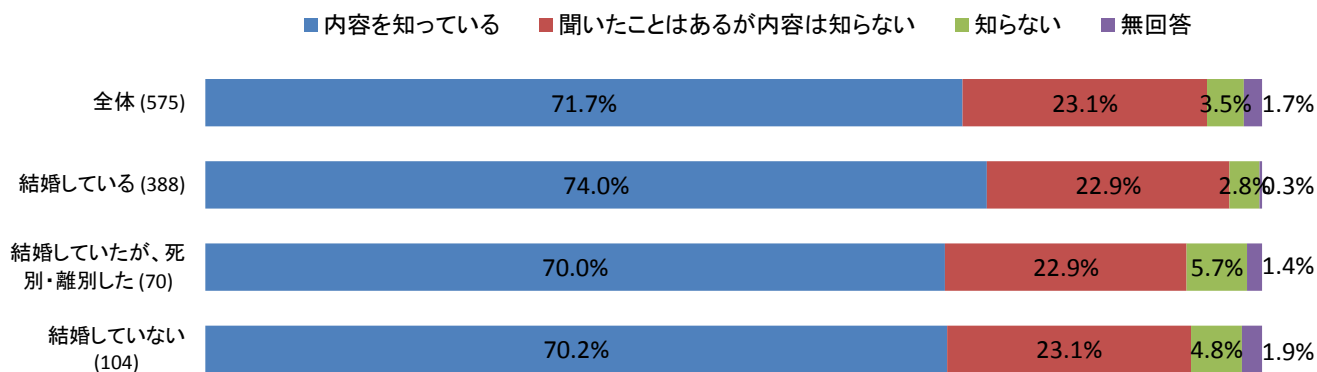
## (9) セクシャル・ハラスメント



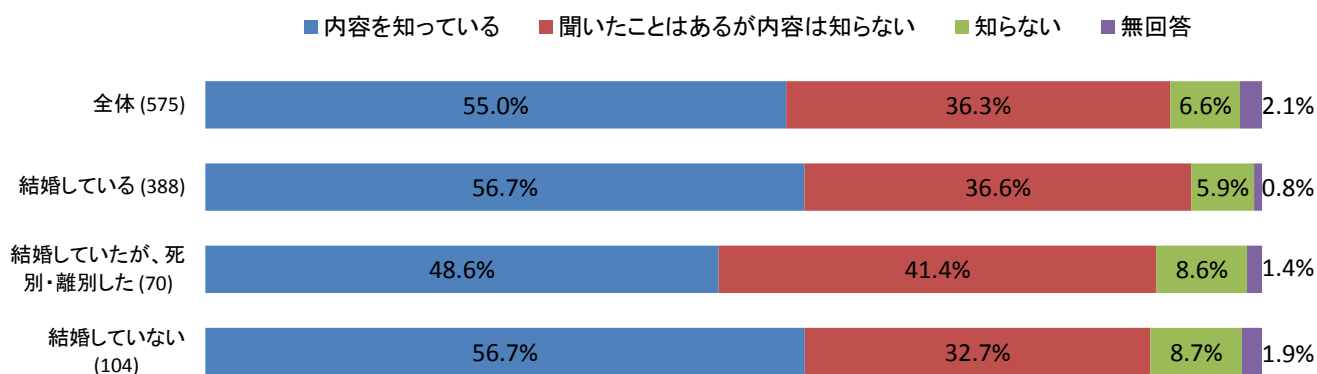
## (10) DV (ドメスティック・バイオレンス)



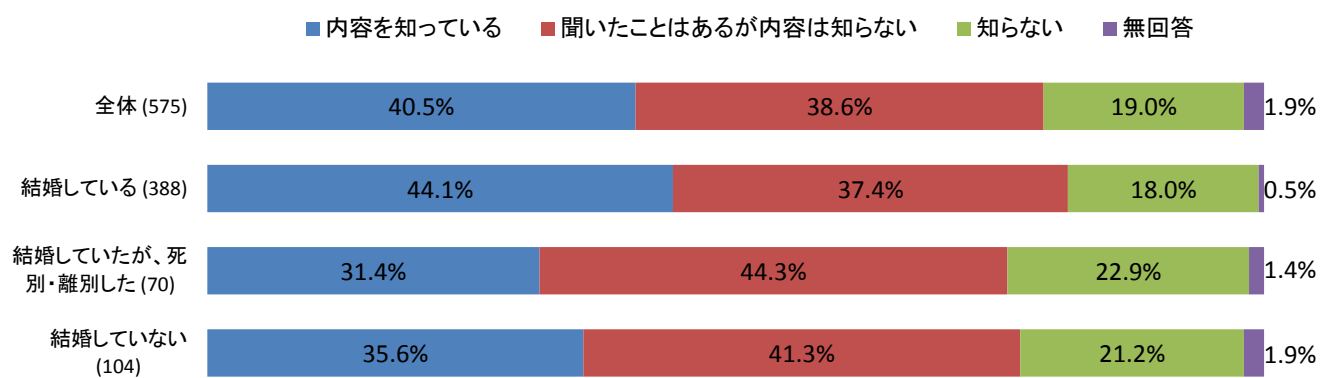
## (11) 育児休業制度



## (12) 介護休業制度



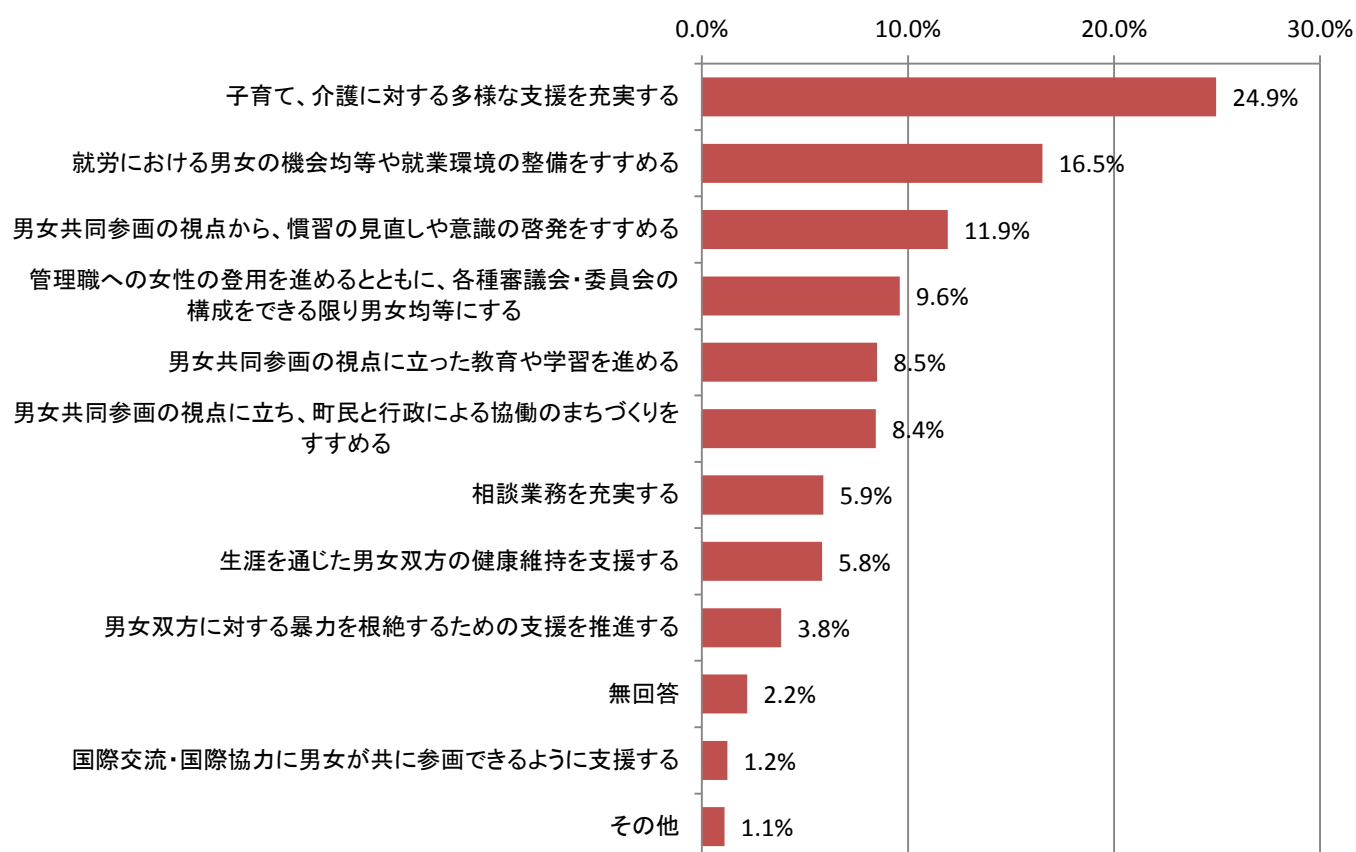
### ( 1 3 ) 短時間勤務制度



### 問 1 3 町が取り組むべきこと

問 1 3 今後、男女共同参画社会の実現を目指すためには、町ではどのようなことに取り組むべきだと思いますか。

|                                                  | 回答数  | 構成比    |
|--------------------------------------------------|------|--------|
| (1) 男女共同参画の視点から、慣習の見直しや意識の啓発をすすめる                | 174  | 11.9%  |
| (2) 管理職への女性の登用を進めるとともに、各種審議会・委員会の構成をできる限り男女均等にする | 140  | 9.6%   |
| (3) 就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる                   | 241  | 16.5%  |
| (4) 子育て、介護に対する多様な支援を充実する                         | 364  | 24.9%  |
| (5) 男女共同参画の視点に立った教育や学習を進める                       | 124  | 8.5%   |
| (6) 男女双方に対する暴力を根絶するための支援を推進する                    | 56   | 3.8%   |
| (7) 相談業務を充実する                                    | 86   | 5.9%   |
| (8) 生涯を通じた男女双方の健康維持を支援する                         | 85   | 5.8%   |
| (9) 国際交流・国際協力に男女が共に参画できるように支援する                  | 18   | 1.2%   |
| (10) 男女共同参画の視点に立ち、町民と行政による協働のまちづくりをすすめる          | 123  | 8.4%   |
| (11) その他                                         | 16   | 1.1%   |
| 無回答                                              | 32   | 2.2%   |
| 計                                                | 1459 | 100.0% |



男女共同参画に求められる施策について聞いたところ、前回同様、「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が最も多くなっています。前回比較的多くなかった「就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる」が第2位となりました。前回比較的多かった「男女共同参画の視点に立ち、町民と行政による協働のまちづくりをすすめる」は全体の6位となっています。

性・年齢別でみると、「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が女性では全ての年代が、男性では70歳以上を除く全ての年代で最も割合が高くなっています。

性・地区別でみると、「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が女男ともにどの地区においても最も割合が高く、中央地区、南部地区で男性のほうが高くなっています。

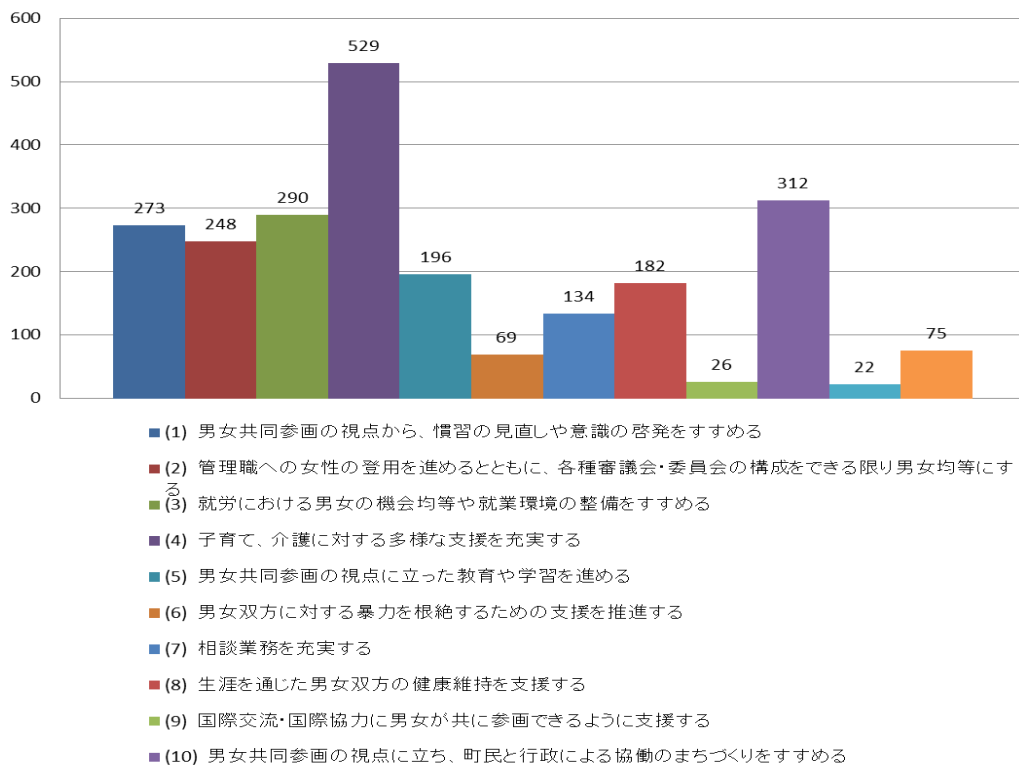
性・学歴別でみると、「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が男女ともにどの学歴においても最も割合が高く、女性では4年生大学・大学院が32.1%と最も高く、男性では専門学校・各種学校が24.8%で高くなっています。

職業別でみると、「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」がどの職種においても最も割合が高く、職種のなかでも会社員・公務員（常勤）が27.2%と最も高くなっています。

婚姻状況別でみると、「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が全ての結婚状況においても最も割合が高く、そのなかでも結婚している方が26.1%と最も高くなっています。

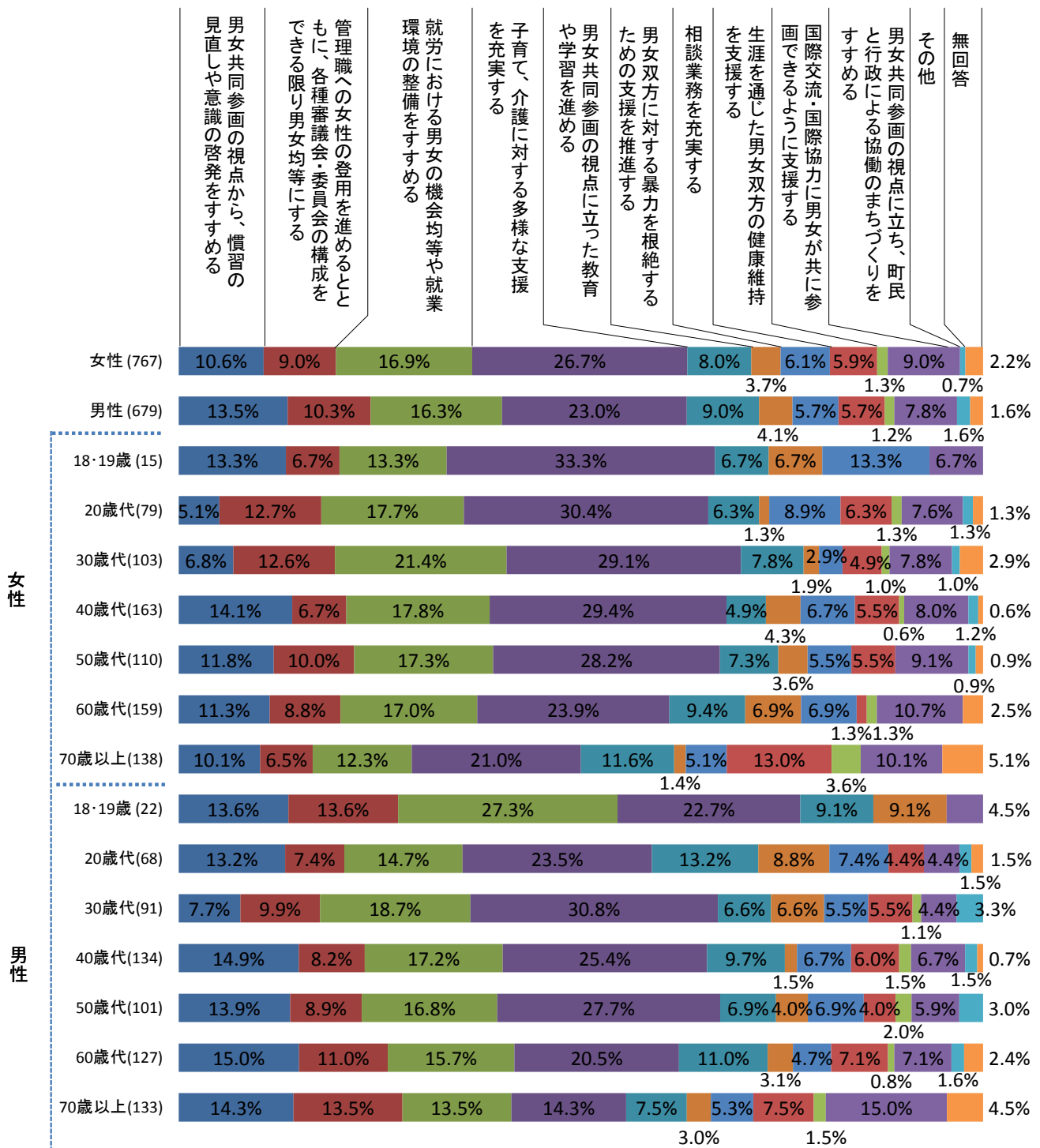
## ◇前回

問12 今後、男女共同参画社会の実現を目指すためには、町ではどのようなことに取り組むべきだと思いますか。

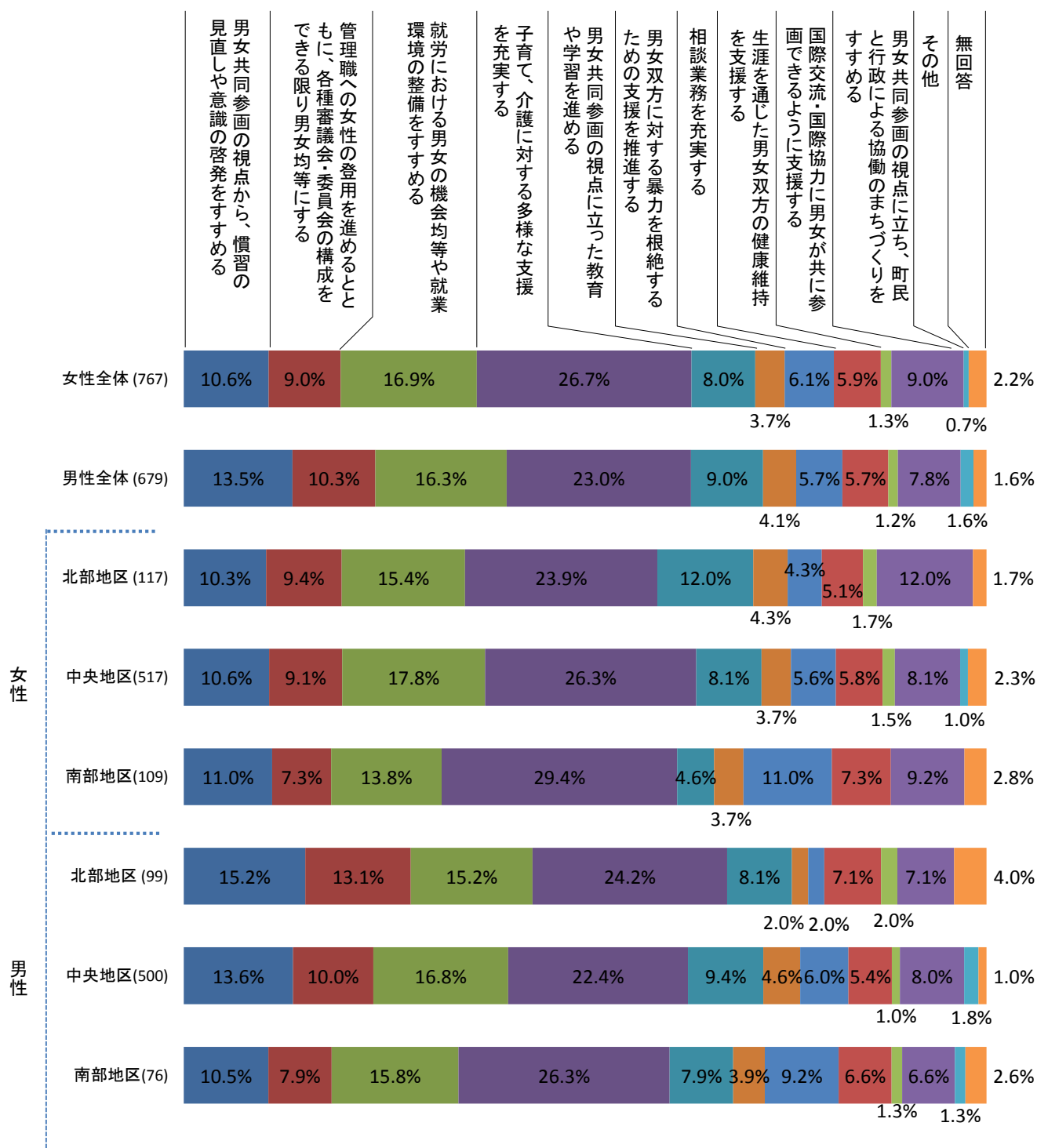




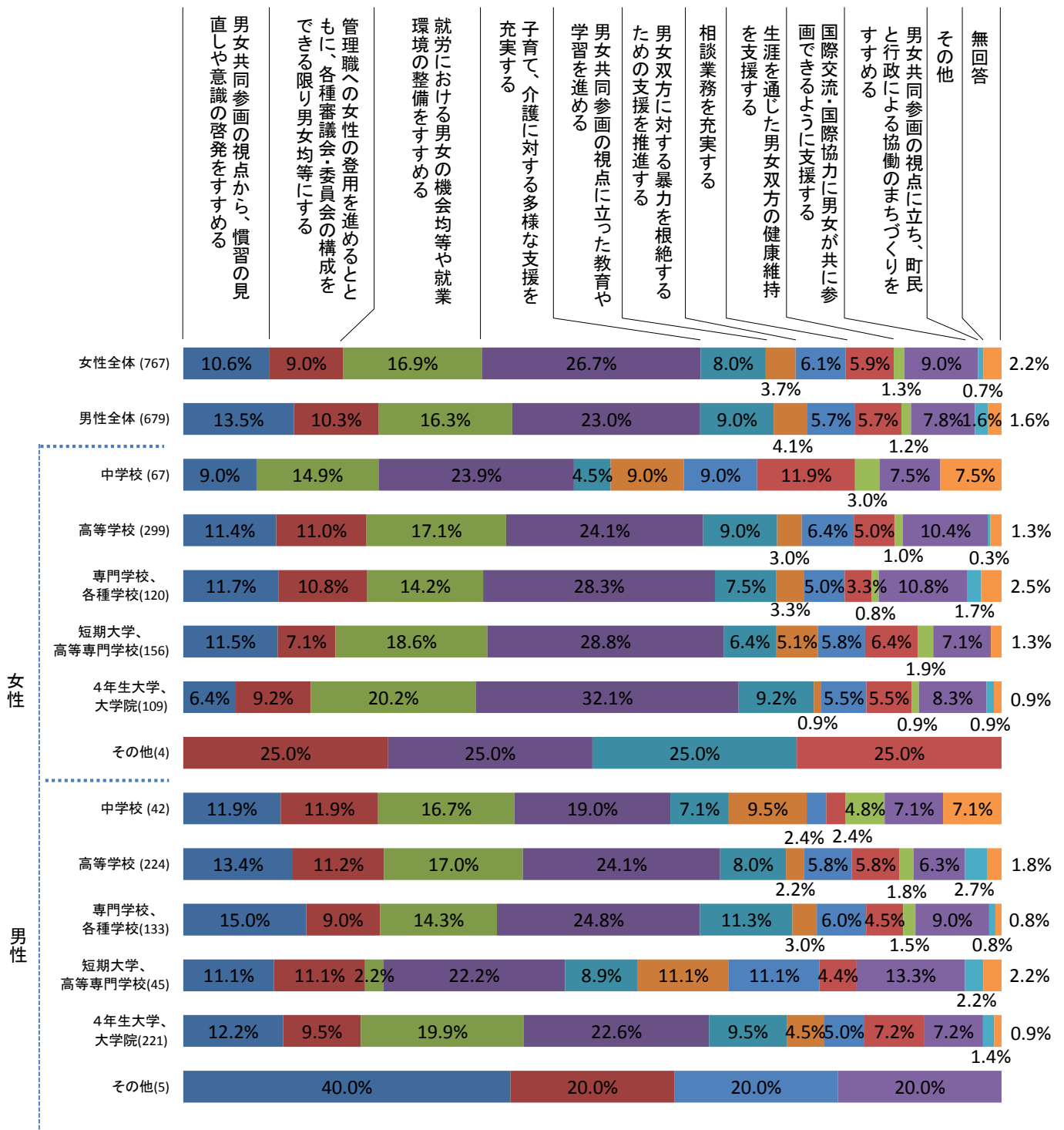
## ◇性別と年齢別の結果



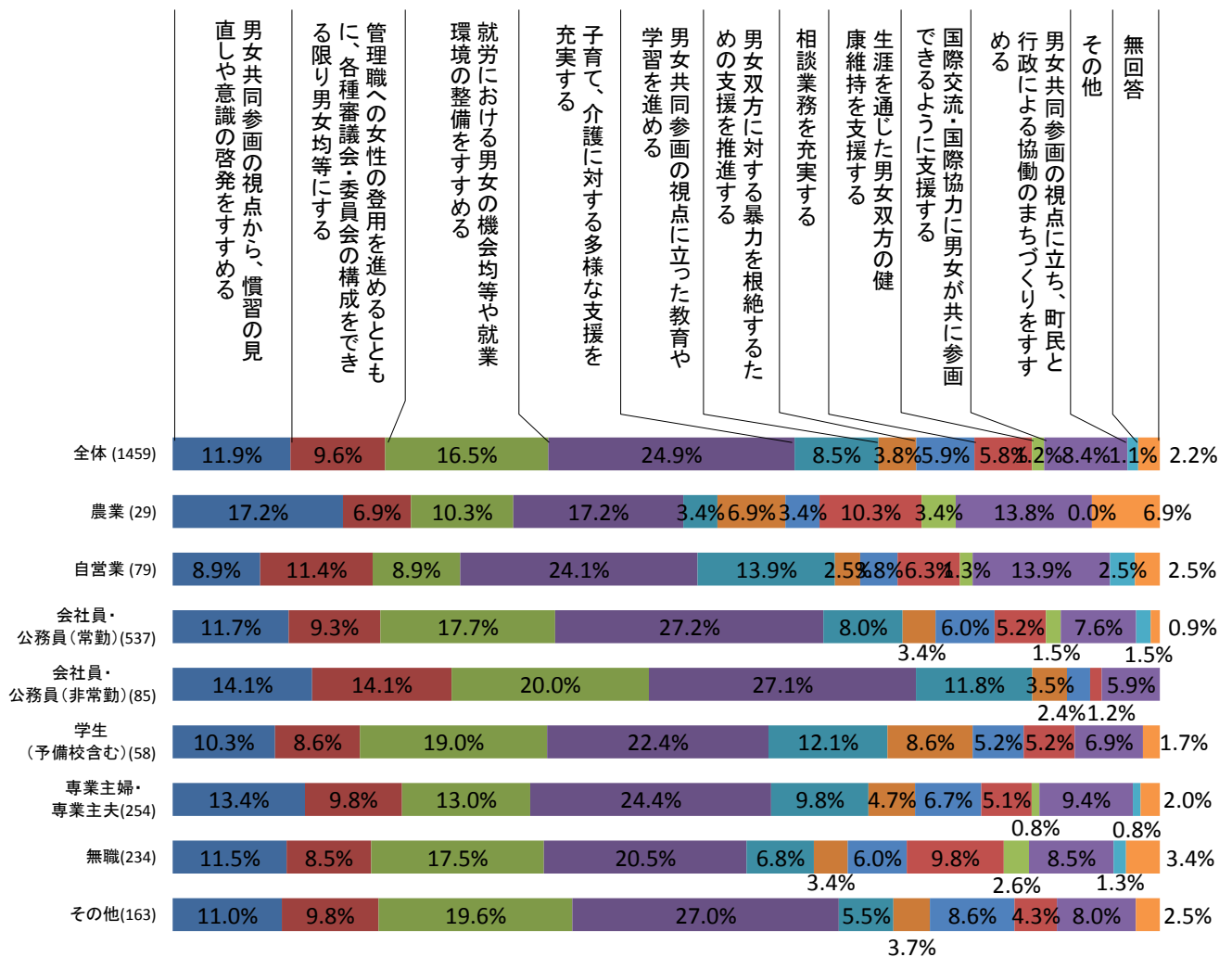
## ◇性別と地区別の結果



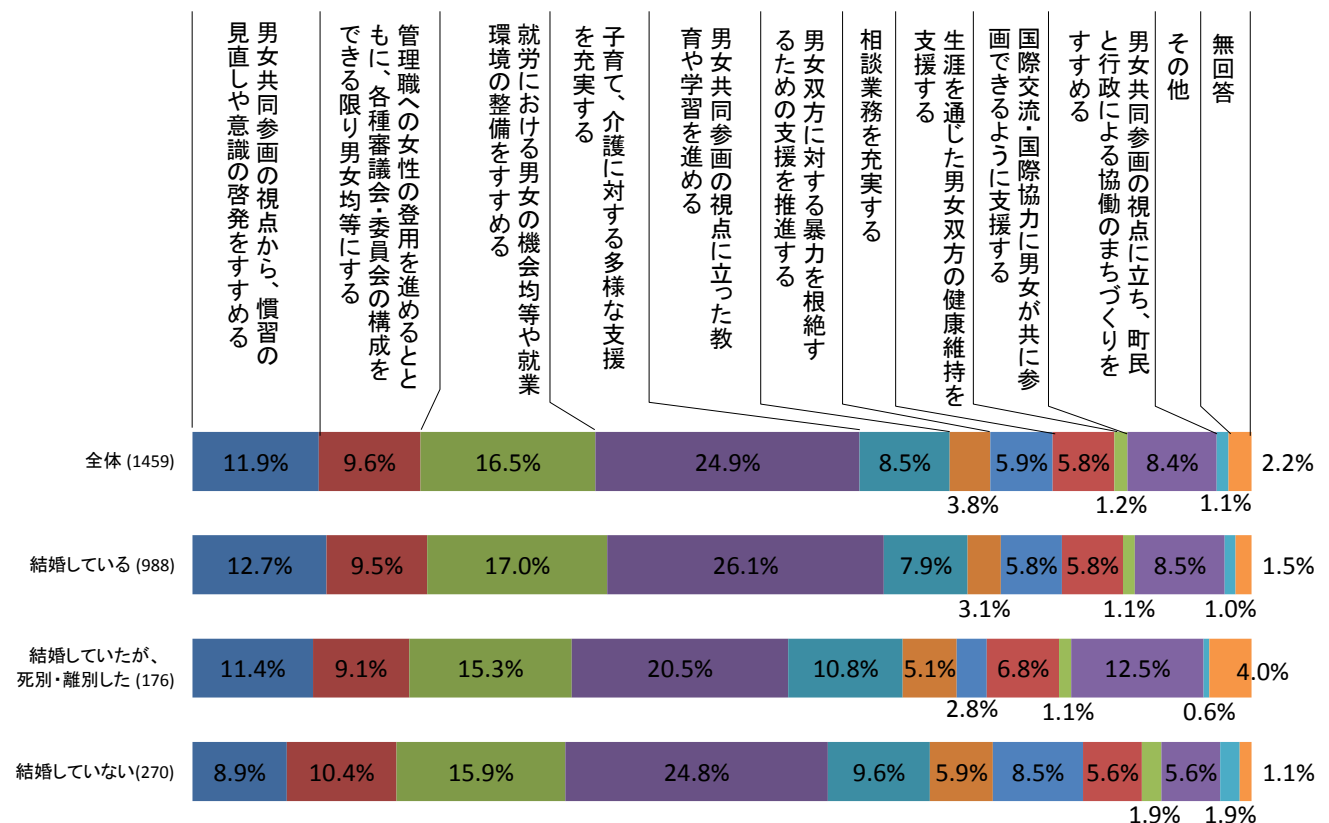
## ◇性別と学歴別の結果



## ◇職業別の結果



## ◇婚姻状況別の結果

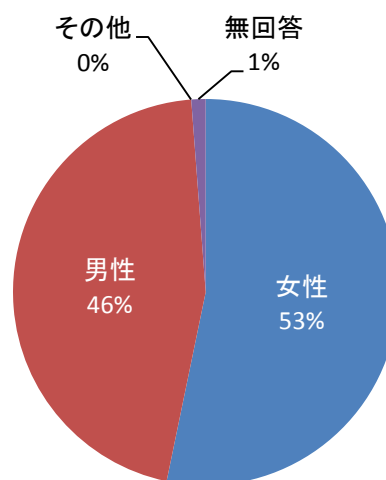


## 第Ⅲ章 調査の概要

### 1 回答者の内容

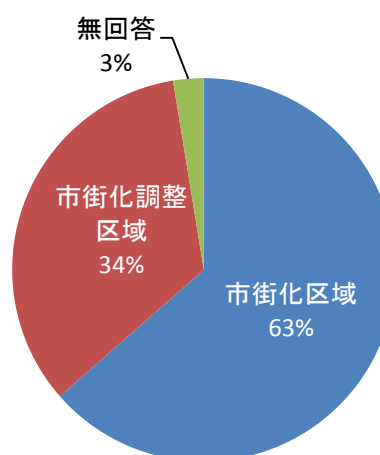
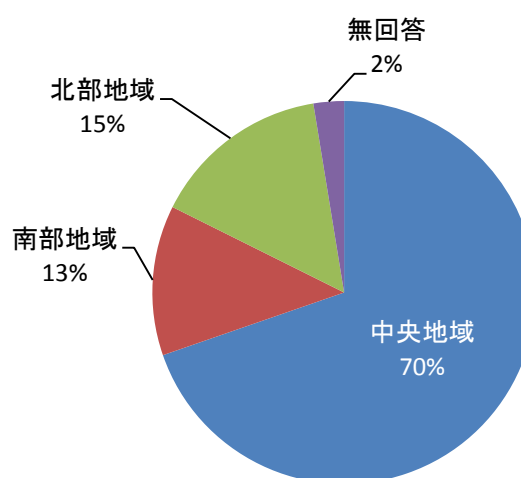
#### F-1 性別

|         | 回答数 | 構成比    |
|---------|-----|--------|
| (1) 女性  | 306 | 53.2%  |
| (2) 男性  | 262 | 45.6%  |
| (3) その他 | 0   | 0.0%   |
| 無回答     | 7   | 1.2%   |
| 計       | 575 | 100.0% |



#### F-2 地区

|            | 回答数 | 構成比    |
|------------|-----|--------|
| (1) 菅谷     | 105 | 18.3%  |
| (2) 川島     | 62  | 10.8%  |
| (3) 志賀1区   | 36  | 6.3%   |
| (4) 志賀2区   | 75  | 13.0%  |
| (5) むさし台   | 71  | 12.3%  |
| (6) 平沢1区   | 36  | 6.3%   |
| (7) 平沢2区   | 12  | 2.1%   |
| (8) 遠山     | 3   | 0.5%   |
| (9) 千手堂1区  | 13  | 2.3%   |
| (10) 千手堂2区 | 15  | 2.6%   |
| (11) 鎌形    | 29  | 5.0%   |
| (12) 大蔵    | 10  | 1.7%   |
| (13) 根岸    | 2   | 0.3%   |
| (14) 将軍沢   | 5   | 0.9%   |
| (15) 古里    | 18  | 3.1%   |
| (16) 吉田    | 16  | 2.8%   |
| (17) 越畑    | 7   | 1.2%   |
| (18) 勝田    | 4   | 0.7%   |
| (19) 広野    | 20  | 3.5%   |
| (20) 杉山    | 14  | 2.4%   |
| (21) 太郎丸   | 7   | 1.2%   |
| 無回答        | 15  | 2.6%   |
| 計          | 575 | 100.0% |



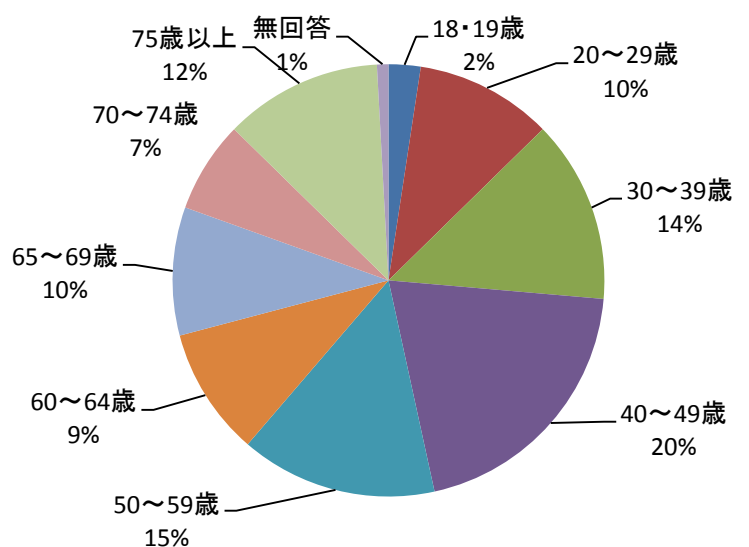
## ○分類内容

| 区域    | 分類1  | 分類2     |
|-------|------|---------|
| 菅谷    | 中央地域 | 市街化区域   |
| 川島    | 中央地域 | 市街化区域   |
| 志賀1区  | 中央地域 | 市街化調整区域 |
| 志賀2区  | 中央地域 | 市街化区域   |
| むさし台  | 中央地域 | 市街化区域   |
| 平沢1区  | 中央地域 | 市街化区域   |
| 平沢2区  | 南部地域 | 市街化調整区域 |
| 遠山    | 南部地域 | 市街化調整区域 |
| 千手堂1区 | 南部地域 | 市街化調整区域 |
| 千手堂2区 | 中央地域 | 市街化区域   |
| 鎌形    | 南部地域 | 市街化調整区域 |

| 区域  | 分類1  | 分類2     |
|-----|------|---------|
| 大蔵  | 南部地域 | 市街化調整区域 |
| 根岸  | 南部地域 | 市街化調整区域 |
| 将軍沢 | 南部地域 | 市街化調整区域 |
| 古里  | 北部地域 | 市街化調整区域 |
| 吉田  | 北部地域 | 市街化調整区域 |
| 越畑  | 北部地域 | 市街化調整区域 |
| 勝田  | 北部地域 | 市街化調整区域 |
| 広野  | 北部地域 | 市街化調整区域 |
| 杉山  | 北部地域 | 市街化調整区域 |
| 太郎丸 | 北部地域 | 市街化調整区域 |

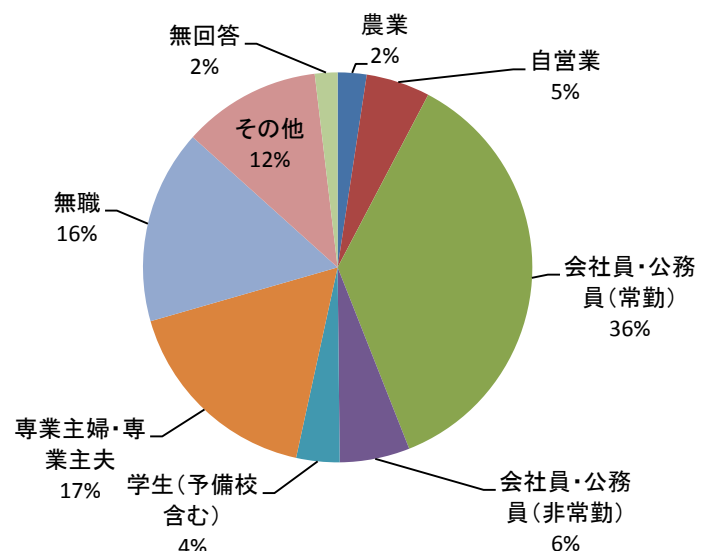
## F-3 年齢

|            | 回答数 | 構成比    |
|------------|-----|--------|
| (1) 18・19歳 | 14  | 2.4%   |
| (2) 20～29歳 | 58  | 10.1%  |
| (3) 30～39歳 | 78  | 13.6%  |
| (4) 40～49歳 | 117 | 20.3%  |
| (5) 50～59歳 | 84  | 14.6%  |
| (6) 60～64歳 | 54  | 9.4%   |
| (7) 65～69歳 | 56  | 9.7%   |
| (8) 70～74歳 | 40  | 7.0%   |
| (9) 75歳以上  | 69  | 12.0%  |
| 無回答        | 5   | 0.9%   |
| 計          | 575 | 100.0% |



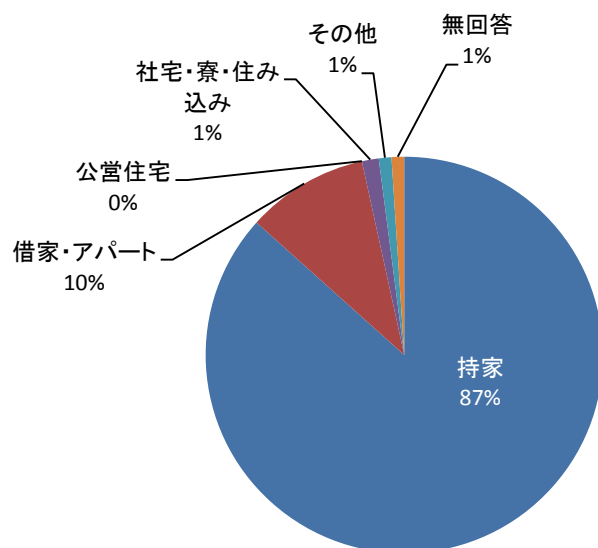
## F-4 職業

|                  | 回答数 | 構成比    |
|------------------|-----|--------|
| (1) 農業           | 12  | 2.1%   |
| (2) 自営業          | 31  | 5.4%   |
| (3) 会社員・公務員(常勤)  | 209 | 36.3%  |
| (4) 会社員・公務員(非常勤) | 34  | 5.9%   |
| (5) 学生(予備校含む)    | 21  | 3.7%   |
| (6) 専業主婦・専業主夫    | 99  | 17.2%  |
| (7) 無職           | 93  | 16.2%  |
| (8) その他          | 65  | 11.3%  |
| 無回答              | 11  | 1.9%   |
| 計                | 575 | 100.0% |



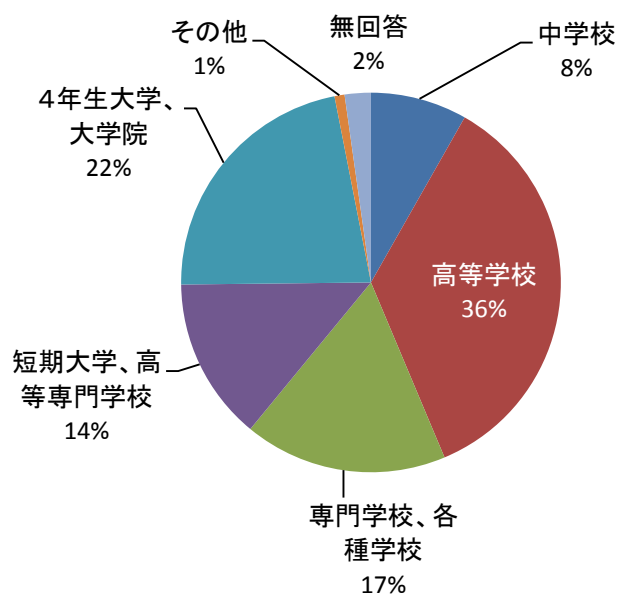
#### F-5 住宅の種類

|               | 回答数 | 構成比    |
|---------------|-----|--------|
| (1) 持家        | 499 | 86.8%  |
| (2) 借家・アパート   | 56  | 9.7%   |
| (3) 公営住宅      | 0   | 0.0%   |
| (4) 社宅・寮・住み込み | 8   | 1.4%   |
| (5) その他       | 6   | 1.0%   |
| 無回答           | 6   | 1.0%   |
| 計             | 575 | 100.0% |



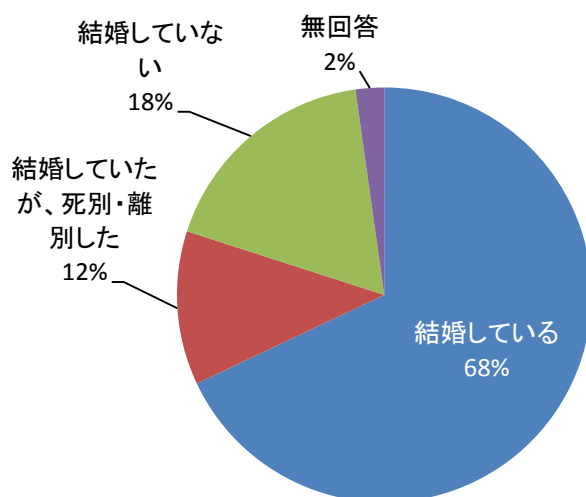
#### F-6 最終学歴

|                 | 回答数 | 構成比    |
|-----------------|-----|--------|
| (1) 中学校         | 48  | 8.3%   |
| (2) 高等学校        | 205 | 35.7%  |
| (3) 専門学校、各種学校   | 99  | 17.2%  |
| (4) 短期大学、高等専門学校 | 78  | 13.6%  |
| (5) 4年生大学、大学院   | 127 | 22.1%  |
| (6) その他         | 5   | 0.9%   |
| 無回答             | 13  | 2.3%   |
| 計               | 575 | 100.0% |



#### F-7 現在の婚姻状況をご回答ください。

|                     | 回答数 | 構成比    |
|---------------------|-----|--------|
| (1) 結婚している          | 388 | 67.5%  |
| (2) 結婚していたが、死別・離別した | 70  | 12.2%  |
| (3) 結婚していない         | 104 | 18.1%  |
| 無回答                 | 13  | 2.3%   |
| 計                   | 575 | 100.0% |



#### 第Ⅳ章 自由意見

・回答数 81 件、13.9%

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 回答者            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|
| <p>○ 「男女共同参画…」といった言葉は、広報や道路脇の看板で見かけたり、職場でチラシを配られたこともあって、何となく知ってはいましたが、日常生活において、耳にしたり、意識したりすることは、殆どありません。それは、職場や家庭が男女を問わずにスムーズに事業が行われているからだと思います。</p> <p>しかし言い替えれば、直面していない訳ですから意識が薄いのです。実際に「らんざん男女が共に…まちづくり条例」がどんな内容で、どんな事業があって、どういった収穫が得られたのかもわかりません。</p> <p>「共同参画プラン」も第2次が終了するというのですが、第3次を策定する上での成果は、何が、どのように得られたのでしょうか。</p> <p>希薄な者にも、伝わるような事業や報告等の工夫（広報のような冊子だけだと読まない人も多いです）があると、もっと浸透していくと思います。</p> <p>※行政の皆さまのご苦勞に感謝いたします。</p> | (古里、女性、50～59歳) |
| <p>○ 自分が子どもの頃より男女共同参画は進んできており、封建的な考えは、まわりの人の見る目や理解も育っているので、かなり平等になってきている。女性が進出できてきたのも学校等教育の機会・場が多くあり、基本的知識を身につけられ、職場へ出たとき自信を持って活躍できる。</p> <p>女性が社会に出ていくには、家庭がある場合は協力が必要です。又その家庭や生活環境の中で、女性が上になると嫌味やひきづり下ろそうとする心の狭い回りの人がいたとしたら、そのいう人の教育も必要です。</p>                                                                                                                                                                                    | (吉田、女性、60～64歳) |
| <p>○ 現在定年後ですので、ピンとこないことが多い。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | (広野、男性、70～74歳) |
| <p>○ お互いに助け合い人生をいきいきと歩んでいける人を見つけられる活動もあると、嵐山町で「いきいきと暮らせるまち」を実現できる引きガネになると感じます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | (川島、男性、40～49歳) |
| <p>○ 障害者雇用の問題です。今は5人に1人の割合で何らかの障害を持っている人がいます。また、グレーゾーンで働いている方も多いです。他の市町村では、大人の発達障害の講座を聞いていますが嵐山の方では、そう言う事は、していただけないのでしょうか？</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | (川島、女性、50～59歳) |



| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                | 回答者              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| ○ 経済的面はもちろん仕事は、家庭では感じられないやりがい、働いたことで得られる収入をもらう嬉しさ、仕事を通して学ぶこと、得られること、感じることは沢山あり、私は仕事を続けていきたいと考えています。保育園へあずけて、子供、実母へも負担かけたり、助けてもらったりしながら、毎日を過ごしています。職場では、独身の人などは特に子持ちの人に対して、影ぐちをいうなど、理解がえられないところが多々あります。「男女」問わずですが、そのあたりも全国民、まずは、町民の中でも理解して頂けると良いなと思ってます。全ての人が平等に働ける、暮らせるような町にしていってもらえたらとてもありがたいです。 | (むさし台、女性、20～29歳) |
| ○ 理想する社会を目指すことだと思います。<br>大変なこととは思いますが前進を諦めないことだと思います。                                                                                                                                                                                                                                             | (むさし台、男性、75歳以上)  |
| ○ 地区単位で、出前講座等の機会を積極的に設けることが必要と考えます。<br>特に若い人達にアピールする方法を考えてください。<br>学校、自治会の集まり等を活用し、今できることから始めることが必要です。                                                                                                                                                                                            | (菅谷、男性、65～69歳)   |
| ○ 質問内容と質問の答えの整合性について、吟味して出すべきだと思います。                                                                                                                                                                                                                                                              | (志賀1区、男性、20～29歳) |
| ○ ・男女平等とはどこまでを求めることなのか？<br>・家計を支えることができるのは、性別に関係なく収入を得る側になる。<br>・一人暮らし世帯の生活を支える方が、重要な事なのではないのか？<br>・若年失業者が出る経済で社会福祉が成り立つのか？（今後）<br>・男も女も同一になれば、男女の区別もなく、中性化し一本化になるのか？<br>・その事の先進諸外国の例はないのか？ーレディーファーストの西洋では？                                                                                       | (むさし台、男性、50～59歳) |
| ○ 男女共同参画をことばとしては、聞いているが中身はどの様になっているかをはっきり、しっかりと知らないし、知る機会もない様に思う。表記のいきいきと暮らせるまちへとあるが、どうゆうまちが、うおいうまちなのか？                                                                                                                                                                                           | (菅谷、女性、75歳以上)    |
| ○ 社会全体としては「女性が仕事を持つ」ことに流れがあるように思えるが、実際、介護や育児は女性が中心となっている。嵐山町では一時保育などを行っているがまだまだ足りない。保育の充実をお願いしたいと思います。                                                                                                                                                                                            | (菅谷、女性、40～49歳)   |
| ○ 莫大な量の設問設定、苦勞したかと思いますが、素晴らしい調査になったかと思います。この調査の回収率が高くなること、納得のいく調査結果になることを願っています。<br>嵐山町地域支援課政策創生ご担当者様、お疲れ様でした。                                                                                                                                                                                    | (平沢1区、男性、30～39歳) |

| 内容                                                                                                                                                                                                | 回答者               |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|
| ○ 1、積極的に推進しているとは思えない。（我々に伝わってこない）<br>2、そもそも何故男女共同にこだわるのか理解出来ない。                                                                                                                                   | (志賀2区、男性、75歳以上)   |
| ○ 良くわかりません!!                                                                                                                                                                                      | (勝田、女性、60～64歳)    |
| ○ このアンケートを集計することで一体何が分かるのでしょうか？<br>行政の何が変わるのでしょうか？                                                                                                                                                | (千手堂1区、女性、40～49歳) |
| ○ 無理やり男女均等とか男女共同参画とか同意させる必要はない<br>制度を活用したい人が活用する時に適切な情報・手続き出来れば良い<br>活用しない若しくは知らない人はケイモウを促すようにする事が大事                                                                                              | (むさし台、男性、40～49歳)  |
| ○ ・町職員の女性管理職の登用を積極的に推進していただきたい。<br>・自治会や区の仕事・役職は、男でなければとの意識がまだ、あるように思われる。根気強く学校教育の中から意識の変革を、図っていくことが大切である。<br>・町になんでも要求すればよい。組織の中で解決すればよいではなく、私たち一人一人が変わらなければ、全て、根本的な解決はありえないですよね。まず隗より始めようでしょうか。 | (志賀1区、男性、65～69歳)  |
| ○ 男だ、女だというより人の教育に尽力願いたい！                                                                                                                                                                          | (むさし台、男性、50～59歳)  |
| ○ 巨大レジャー施設をつくる。カラオケ、浴場 etc                                                                                                                                                                        | (大蔵、男性、65～69歳)    |
| ○ 残念ながら町で推進している事を今回のアンケートで初めて知った。                                                                                                                                                                 | (菅谷、男性、60～64歳)    |
| ○ 男女共同参画を謳うわりには、男性が暴力をふるう、もしくは社会的に強い前提のアンケート作りに見える。平等と言うならば、逆の立場からのアンケートも必要に思う。<br>(アンケート作成者・承認者自身にそういった偏見があるように感じる)                                                                              | (志賀2区、男性、30～39歳)  |
| ○ F6 最終学歴必要ですか？                                                                                                                                                                                   | (菅谷、女性、70～74歳)    |
| ○ 先日、友人とそのうち高齢化少子化で小学生もいなくわが地区がなくなってしまうのではとさびしい会話をしました。<br>大震災後、絆を深めたく、ご近所に声かけのみ会やおたのしみ会などしていますが私の力では微力です。<br>町民ひとりひとりが個性を認めつつ、お互いに助け合い人生いきいきと歩んでいける男女共同参画社会に嵐山町がなりますようよろしくお願い致します。               | (太郎丸、女性、60～64歳)   |
| ○ 男女共同参画に関する啓蒙活動を多に行って下さい。                                                                                                                                                                        | (川島、男性、75歳以上)     |

| 内容                                                                                                                                                                                                                          | 回答者              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <p>○ 嵐山町で働くこと考えてないです…会社、というか、町がそもそも栄えてないですよね？観光業、このままで良いとはとても思えません。頑張ってください。若い人も住みたいと思える町づくりをお願いします。女性も男性も労働時間が長すぎます。これを減らさなければ、家事まで頑張るのは無理です。育メンは完全な理想。男性も女性も我慢の限界です。家事の分担とかそれ以前の問題です。…と、大学で学んでいて、思っています。</p>              | (志賀2区、女性、18・19歳) |
| <p>○ モデルケースとして、町役場の管理職を、数年間女性だけにしてみたらどうでしょうか。<br/>それから、実務能力を公平に判断し、すぐれた男性がいれば入れかえていく、という方式で…。<br/>一般企業では、株主、取引先そろって男社会なので、これほど思い切ったことはできませんが、役場がこのように変わっても、納税者の立場からは特に文句はでないと思います。<br/>このくらい極端にふられないと、共同参画まで時間がかかりそうです。</p> | (志賀2区、男性、50～59歳) |
| ○ 定年後の雇用の確保                                                                                                                                                                                                                 | (菅谷、男性、50～59歳)   |
| <p>○ 男女平等は確かに大切である。しかし男女平等＝女性の社会的立場、地位などの向上だと安易に考えないでいただきたい。歴史的にみても女性が虐げられることの方が多いけれど、男性、女性双方の見方、意見を精査した上で男女の問題について取り組んでいただけたらと思う。</p>                                                                                      | (むさし台、男性、18・19歳) |
| <p>○ 保育園の入所が決まらないうと仕事につけない現状がありますが、実際には仕事が決まって働いている人が優先され、保育園の入所が決まります。<br/>一時保育の利用や実家の両親にみてもらい、仕事を決めてから、と役所に言われますが、この状況に具体的な対策を示していただきたいです。<br/>結局、女性が仕事できない社会になってしまっています。</p>                                             | (菅谷、女性、40～49歳)   |
| ○ このようなアンケート調査を行っていることは知らなかったが、非常にプラスになることだと思うので、男女共同参画社会以外でも色々と前向きに取り組んでほしい。                                                                                                                                               | (川島、男性、20～29歳)   |
| ○ 数年前に嵐山町に引越してきましたが、他の市町村よりすみやすく、人がとても親切だと思います                                                                                                                                                                              | (平沢1区、女性、40～49歳) |
| ○ LBGTの方も偏見をもたれないような配慮が必要だと思います。                                                                                                                                                                                            | (平沢2区、女性、20～29歳) |
| <p>○ 私は、男は男らしく外で世のため人のために働き、女は女らしく、家を守り、子育てに専念する事が家庭も社会も安定した平和な世界が築けるものと確信しています。<br/>よって男女共同参画など、考える必要はないと思います。</p>                                                                                                         | (志賀2区、女性、65～69歳) |

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 回答者              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <p>○ もっと家族の時間を作りたいが時間的余裕がない。教育にお金が掛かりすぎる。</p> <p>家庭の事にも（家事・育児に）協力したいが疲れてできない。子供と顔を合わさない日もある。一緒に食事をする事も平日は難しい。</p> <p>父親としてよい関係ができていいのか心配。子育てだけでよいのでフレックスタイムを導入して欲しい。妻が働くようになり子供の放課後、留守番が心配だ。学校（校内図書館）や雨でも遊べる場所を提供して欲しい。</p> <p>社会全体で子育てから老人まで地域社会で育てお世話して行くべきだと思う。</p> <p>子どもからお年寄りまで住みやすくするのが行政の仕事だと思う。</p> | (むさし台、男性、40～49歳) |
| <p>○ 学童の夏休み、冬休み、春休みだけの入室を作ってください。さまざまな働き方がある中で、子育てしながらの社会復帰や子育ての両立については、男性の働き方女性の働き方を考える上で家庭内だけで解決できない問題もあるので企業、行政共にサポートしないと難しい。</p> <p>子育てする上で、子育て中は子供の側にいたいがお金は掛かる。放課後の子供の過ごし方や安全生、を第一に社会全体で子供は社会の宝だと認識の元取り組んで欲しい。</p>                                                                                     | (むさし台、女性、40～49歳) |
| <p>○ 町駅周辺に活気がないと思います。学生など駅を活用する若い人達が嵐山町に住みたい、働きたいと思う町づくりから始める必要があると思います。昔から住んでいる方々と新しく住民になった方々との関係性が低いとも思います。</p> <p>子育てをこの町でしたいと思わせ人口増加を目指すことも必要だと思います。嵐山町に住むとこんなメリットがあると思うことをアピールすることで人を呼び就業の機会が増えその次に男女共同参画が活かされれると思います。</p> <p>区画整理も遅れていることも嵐山に引越してくる人のストッパーになっている話も聞きました</p>                            | (平沢1区、女性、50～59歳) |
| <p>○ 直接関係のない事ですが、嵐山町に移り住んで50年近くなります。地元の方からは、他所者と云われていて、溝があります。その為に今だに男性社会が残っているし、地元の高齢者が幅をきかせています。もう少し時が進めば、これが消えていくのでしょうか。</p>                                                                                                                                                                              | (平沢2区、女性、75歳以上)  |
| <p>○ 現在は、専業主婦ですが、私も30年近く共働き、そして、今は、孫、親の介護と忙しくしている物です。</p> <p>今の世の中は、特に、どんな時でもお互いに思いやり（理解・協力）がないと、何も出来ないと思います。</p> <p>このアンケートを記入するにあたり、的はずれな回答になったりと、少々悩みました。とてもむずかしいなと思いながら記入させていただきました。</p>                                                                                                                 | (菅谷、女性、60～64歳)   |
| <p>○ 田舎特有の「嫁のくせに」「女のくせに」が未だに実際に言われる事があるんだと、引越してきた当初は大変おどろきました。きびしい言</p>                                                                                                                                                                                                                                      | (志賀1区、女性、30～39歳) |

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 回答者                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| <p>い方ですが、そういった考えの年寄りが大勢いる田舎で男女共同参画社会の実現など不可能だと思います。町長以下、議員の皆さんも「女のくせに」と思う事が多々おありなのではないでしょうか。</p> <p>女性が働くのに、学校の PTA 活動は障害にしかならないと思います。役員になったが仕事で参加できないと、悪口を言われたりするようではどうしようもありません。PTA なくす事はできないのでしょうか。</p> <p>無駄な活動も多く、基本的にお母さんしかやらない等々、問題点も多くあるのになぜ毎年嫌々選出されなければならないのかわかりません。</p>                                                                                                                              |                    |
| <p>○ 男女の人種の尊重は当然だと思いますが、あまりに平等、対等、均等という言葉に縛られる必要はないと考えます。適材適所が良いのではないのでしょうか</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                | (むさし台、男性、50～59歳)   |
| <p>○ 嵐山町は過去 20 数年間殆ど人口に変化（最近は減少）は無いようですが、表記施策を実施し嵐山町は他に比較し、住み良い町だとの評判を取り、人口増加につながる政策を取られては如何でせうか。現在工業団地に働いている人達を嵐山町の居住者、他より来ている人達の比較を取って見ては如何ですか。その結果に、何をなすべきかのヒントが有るような気がします。</p>                                                                                                                                                                                                                             | (志賀 2 区、男性、75 歳以上) |
| <p>○ 現在、第二子育児中です。来年から常勤での復帰予定ですが、家庭の中、外ともに復帰できるのか、不安はいろいろあります。夫も育児への理解はある方だと思いますが、核家族で育てないこともあり、戸惑いもあるようです。いくら育児は大変だと言ったところで、数時間でも子守りはできません。夫婦とも 40 代に入り、仕事上もそれぞれ責任ある立場（本来、結婚が早ければと言われがちですが、職種上、それは難しかったように思います）家と仕事とのバランス、高齢出産での育児は体力的にも大変かと日々感じています。</p> <p>育児は恵まれている、確かにそうですが、あくまでも育児休暇ではなく、育児休業、介護も同様かと思います。自分の時間はほぼ 24 時間ないです。一時保育も満員状況、実家の親も高齢で苦労しています。</p> <p>まとまりませんが、そういった声も、どこかで取り上げていただけたら幸いです。</p> | (むさし台、女性、40～49歳)   |
| <p>○ 男女共同参画についても分からないので町の新聞等を利用して詳部を教えてください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | (志賀 1 区、男性、50～59歳) |

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                           | 回答者              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| ○ 男女共同参画社会は段々と夢物語になってきている。とにかく今の世の中結婚できない男女が多過ぎる。とにかく経済的に格差社会が横行して、少子化が進みもう遠くない時代に日本は衰退してしまうと思う。国づくりは政治家の責任だが、しっかり経済対策を取り、一度会社をやめたら次は就職しても負け組という世の中では未来は無い！いつの時代でもある程度の年になったら結婚し家庭をつくり子育てをし、成人したら豊かな夫妻での老後を迎える世の中でなければいけない。それが前提で男女共同参画社会となり皆が前向きに生きれる社会となる。 | (吉田、男性、50～59歳)   |
| ○ 男女共同参画という割には、嵐山町には<br>・大妻嵐山女子校<br>・国立女性会館<br>の知名度が高い。国の施設、私立の学校とはいえ矛盾を感じる。                                                                                                                                                                                 | (志賀2区、男性、30～39歳) |
| ○ 何でも平等にしなければならないという今の風潮に違和感を覚える。ただ、現実的にはそうっていない部分も確かにあるので仕方がない事かもしれませんね。とりあえず政治の舞台から変わっていけば自然とそのようになっていくのではないのでしょうか。                                                                                                                                        | (平沢1区、男性、40～49歳) |
| ○ 町の施策で出来る事には限度が有り、国レベルでの対応がのぞまれる。又、その為の罰則も必要である。<br>最後に…男女の平等とウーマンリブをとりちがえている人間があまりにも多い。男女が共働きに出て、家に一人ですごす子供の気持ちなどが考えられていない。子供も一人の個人です。かれらにもアンケートを取るべきでは？                                                                                                   | (川島、男性、40～49歳)   |
| ○ 男女共同参画の推進をするにあたり、子のいる母親にとっては、仕事を続ける上で、保育園や学童はとても重要です。現実的に、安心して子をあずけられる場がないと、働けない。<br>あずけられる時間と職員等の環境はとても大切だと感じます。                                                                                                                                          | (川島、女性、30～39歳)   |
| ○ 地域社会の活動の中で、男性優位の風潮を感じる。女性だと意見が言いにくい。                                                                                                                                                                                                                       | (鎌形、女性、40～49歳)   |
| ○ 別にありません。いつもありがとうございます。                                                                                                                                                                                                                                     | (千手堂2区、女性、75歳以上) |
| ○ 町だけが取り組んでも無意味。家が町内でも職場が町外では制度が活用されないから。<br>住みよい町を作る上で、子育て、介ゴが行いやすいイコール男女ともに両方を担える形が定着するように工夫するのはよい。男の介ゴ教室又は子育て教室、料理のコツなどを広めていくなど法制度よりも住民が必要とするサービスを行うべき。<br>どういものがDVかなど広めていくのも大切。<br>広く女性の意見を聞く場も作るべき。<br>希望にそっていないければ、どんなサービスも役立たずである。                    | (無回答、女性、40～49歳)  |

| 内容                                                                                                                                                                                                                         | 回答者                |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------|
| ○ 問 12 の (13) 短時間勤務制度の内容は全く知りませんが勤務時間を 9:00～13:00、13:00～17:00 など 1 日を分けて働ける様にしてほしいです。                                                                                                                                      | (広野、女性、50～59歳)     |
| ○ ・あなた自身への質問が全く理解できない。<br>・男女共同参画に関する質問なのに、全くの無作為抽出でよいのか理解できない。<br>・第 2 次プランの時も、男女別クロス集計のみの公表であったと記憶しているが、地区別、年齢別の情報はどのように処理されているのか？公表しているのだろうか。もし、公表に差し障りが出るようなデータであるならば、集める事自体に問題を感じる。本当にそのデータがなければ、第 3 次集は作成できないのであろうか？ | (無回答、男性、無回答)       |
| ○ 過保護化すると、人間、怠け者になるので何事も様々でよいのでは？人間、苦しさがなければ成長はない。                                                                                                                                                                         | (むさし台、男性、65～69歳)   |
| ○ 共同参画については、先に述べたとおりで意見等はありません。住みやすい町なので、今後も町の発展が良いものだと考えています。                                                                                                                                                             | (菅谷、女性、20～29歳)     |
| ○ もっと女性が働ける場所を増やしてほしい。<br>女性が働きやすくするためには保育施設を充実させてほしい。<br>幼稚園も年中からのメリットがわからない。<br>待機児童が出ているので働きたくても働けない。<br>保育所増やして！！                                                                                                      | (川島、男性、20～29歳)     |
| ○ 毎回いろんなアンケートを送られてきて、こちらは真剣にしめ切りまでに題出をしているが、アンケートを受けた所で、町が変わってきている様子が見られない。アンケートとはぜんぜん違う所ばかり進んでいる気がしてならない。<br>それと、役場の対応があいかわらず、冷めたい。人も変わりすぎて親しみの人がへってきてる。町のためを思うなら住んでいる町民に親切にしてほしい。たんたん業務をこなしてればいいとゆうことでもないと思う。            | (菅谷、女性、20～29歳)     |
| ○ 数の問題だけでは、ないと思いますが、まず町の職員を男女半々にすることから始めてみては、いかがですか？                                                                                                                                                                       | (平沢 1 区、男性、40～49歳) |
| ○ 自治体でこの様な事を行なうことはいいことと思う。生活に追われて個人では無理。<br>社会全体に 1 石投げることで同感。日本人が西洋化すぎるのは悪い。日本人の良さをなくさない社会。特に若い生性の自己主張（行動、女性としての性にからんだ行為。男性をシゲキしてしまってる点、バカな男も少なくないので社会面をにぎわしていること要人することを忘れてるように思える。                                       | (志賀 2 区、女性、65～69歳) |
| ○ 保育園→条件が厳しい<br>学童→定員が少ない。いっぱい入れない<br>長期休暇のみで預かってもらえる場が無ければ普段子供が学校に通っ                                                                                                                                                      | (菅谷、女性、40～49歳)     |

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 回答者              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <p>ている時間に働けても夏休み等に困る。</p> <p>アルバイト、パート等の労働時間帯も、丁度良い所が少なく昼間の短時間は時給も低い。</p> <p>正社員の労働時間を減らされると結局給料も減るので生活が増々厳しい。</p> <p>正社員の雇用が少ない→結婚して家庭を持って生活していくだけの収入が無い→少子化→子供を産んでも預ける所が無い→公園が無い</p> <p>できる議員はいるのですか？</p> <p>そもそも、自分が産んだ子を、赤ちゃんのうちから保育園に預けて働く事って、どうなんだろう…両親で、自分達の子供を育てないで、良いのだろうか…</p> <p>子供を産むという事は、女性にしかできないのだから、産休の年数は少なくとも5年、その後の復帰をしっかりとってもらいたい。</p> <p>公園重要～。遊び場が無ければ若い夫婦は住みたいとは思わない。ただの田舎。</p> |                  |
| <p>○ 施策の内容を知らないのは、町民として恥ずべきところではありますが、まずは認知度を高めることが必要だと思います。</p> <p>施策等のPR（祭りでのデモンストレーション、折り込みチラシなど）→認知度UP・施策への関心→施策の推進への意欲</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         | (むさし台、男性、30～39歳) |
| <p>○ 男女平等とは言っても、性別によって生まれ持った得手不得手は存在してしまうのが現実なので、男女問わず、増えてな部分を補元合える社会が必要だと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | (広野、男性、30～39歳)   |
| <p>○ 他にやるべき事があるのではないかな。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | (志賀2区、男性、30～39歳) |
| <p>○ 法律に、意識、習慣が追いつかない社会に住んでおります。何かあれば男性まかせ（良い意味では夫婦の役割がはっきりしている）女性まかせ（良い意味では台所に口を出さない）で、社会全体をみずに自分の必要な部分だけで生活している人が多いように見うけられます。それも仕方ないことだとは思いますが。今の若い世代は新しい教育を受け、変わっていくことだろうと信じています。でも、そんな中で生活しているんですね。</p> <p>本当に社会が変わってもこの田舎町だけは変わらないような気がします。まず役場のこども課の窓口の人が変わってもらいたい人が居ました（何年か前ですけど）</p>                                                                                                           | (越畑、女性、50～59歳)   |
| <p>○ 子育て、介護で身動きできない状態を作らないよう福祉などの面の充実をお願いしたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | (志賀1区、女性、50～59歳) |
| <p>○ 女性議員と嵐山町の女性企業家で何か会議のようなものが持てると良いと思う。（ぜひ実現していただきたい。）</p> <p>ただ役場の男性職員の態度があまりよくない人がいるのでそういう所の改善を先にやるべき。公務員とはいえサービス業の意識が薄い。女性町民に対しては横柄。それが改善されないと男女参画どころではないし、他の市町村より遅れをとると思う。</p>                                                                                                                                                                                                                    | (川島、女性、40～49歳)   |



| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             | 回答者              |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <p>○ 男女共同参画プランについて、各々の部署の取組みをいつまでに実現すると、期日を設定して取組むべきです。惰性でも一応やっています、という姿勢はいりません。</p> <p>また、男女共同参画プランを実施等していく上での事業の予算は、予算書のどの部分をみればいいのか分かりません。近々、役場に行き問合せるつもりです。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                            | (菅谷、男性、30～39歳)   |
| <p>○ 嵐山町の取り組む”宣言”や”条例”について今回のアンケートで知りました。認知度は低いと思います。広報などに記してあったとしても広報に楽しさや興味を引く要素が無いのであまり見ていません。いきいき暮らせると条例にあります、嵐山町にいきいきを感じません。ずっと住んでいますが活気は無くなっているような気が…中学校の部活動の無さに、子供の将来も心配です。キレイに整備されたり、キレイな遊具の公園、広い芝生の公園、水遊び出来る公園も無いので、遊びに行くのは近隣の市町村。室内遊びなどの施設に力を入れても利用者は決まってきてしまう。他の市町村の人に「嵐山町は育児や学校の評判は悪い」とよく言われます。</p> <p>お年寄りについても、町のイベントなどに自ら参加しない人にもこまめに声がけ等されているのか？その様なことを聞いた事が無いのですが…</p> <p>そもそも、役場に行くといつも職員ばかりたくさん居て活動している感が無いし、議員も選挙前にしか町中を活動しないので、宣言も条例も期待感ゼロです。すみませんが…。</p> | (平沢1区、女性、40～49歳) |
| <p>○ 正直、男女共同参画社会というものにあまり関心がありません。あくまでも個人的にと言う事があります。ただ社会に必要な考え方であるという事は十分に理解出来ているつもりではありますので今後も、この様な「アンケート」があった場合には協力出来たらと思っております。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        | (菅谷、男性、50～59歳)   |
| <p>○ この様な取組みが行われている事をお恥ずかしながら知りませんでした。今回を機に意識してみたいと思います。</p> <p>しかしながらアンケート実施後、そう言えばと実感する事も無い気が致します。行政には具体的な部分の情報発信をお願いできればと思います。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | (菅谷、男性、30～39歳)   |
| <p>○ 女性の家事、育児もりっぱな仕事だと思います。(逆に男がやってもOKと思います。)ただ、育児を考えると、母親の存在は、非常に大きなものだと思います。小さい時の躾や教育が、とても大切であるのに、それば不足した人々が増えている様な気がします。もちろん個人差はあり、男性以上に優秀な女性もいますし、バリバリ仕事をし、活躍できる方もいるでしょうが、生活費のために、やむをえず、働かねばならない人が、ほとんどではないでしょうか。</p> <p>女性が働くことばかり考えるのではなく、無理に働かなくても生活できる社会作りが大切ではないかと思います。</p>                                                                                                                                                                                           | (川島、男性、50～59歳)   |

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                       | 回答者              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------|
| <p>又、子供がある程度大きくなり、手がかからなくなった時点で、働く意思のある方は、社会に復帰できれば最高です。</p> <p>その様な仕組みが出来る事を期待します。</p>                                                                                                                                                                  |                  |
| <p>○ 子を持つ家庭の女性が職場に復帰する場合、安心して子供を預けることができる保育施設の他に、そこで働くスタッフへの待遇も高める必要があると思います。</p> <p>高齢者も多いことから、介護施設の増設がおこっているが、子供が遊べる施設も増やしていった方が良いと思います。まずは女性が安心して働ける職場や周囲の環境を整えることから始めてもらいたいです。</p>                                                                   | (菅谷、男性、20～29歳)   |
| <p>○ 町政をもっと良く知る為の手立てを構じて、町民が関わり合っているという実感を得なければならないと思う。</p> <p>どんな施策が、生活の何処に反映されているのかを知らなければ、冠だけで、その実が実らないままになってしまう。</p> <p>町民からのキックバックをしっかりと受け取る為にどうすべきか、待っている体勢でなく</p>                                                                                 | (志賀2区、女性、40～49歳) |
| <p>○ 専門家による委員会の設置と、現状把握を踏まえた検討の実施。</p> <p>女性教育会館の歴史、活動などの広報。</p>                                                                                                                                                                                         | (川島、男性、50～59歳)   |
| <p>○ 人間と人間として、尊重することが第1であると思います。男女共同参画の社会形成は当然であります。男・女であれ、お互いを思いやる気持ちになにより大切ではないでしょうか。</p> <p>女性の登用は何割ということもありますが、もっと自然体であることも、重要と思います。</p> <p>嵐山町の男女共同参画の推進に関する施策などはヌエックなどもあり。とても先進的であると感じてます。</p>                                                     | (川島、男性、60～64歳)   |
| <p>○ 結婚、出産前は「男女平等に働いて家事・育事をする」ことが理想だったが、実際に生活し、又周囲の声を聞いてみても、男女の性質の違いの上でそれは困難であると思うようになった。(男性は1つのことに集中する傾向にあり、どちらかと言えば仕事に集中してもらい女性が家事・育事に恵念した方がよい。又、それを可能にする労働条件も必要)</p>                                                                                  | (鎌形、女性、30～39歳)   |
| <p>○ 大人は、自分で考えて生きて行くものなので、今の社会や会社への負担となるような施策はやめていただきたい。十分に能力のある女性が働ける世の中になっています。能力が無いのに女性だというだけでポストを用意するのは、まちがっています。問題はジェンダーフリーとか、男女平等の名前で子供達へ教育している事です。組体操で男女が抱き合ったり、男女問わず「さん」付けで呼び合ったりすることは、正しく男女の心を育てることはできません。男が男らしく、女が女らしく。互いに、思いやる社会を作ってください。</p> | (志賀2区、男性、30～39歳) |

| 内容                                                                                                                                                                                                                                                                                    | 回答者                     |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------|
| <p>○ 「男女共同参画」は人権の保障、すべての人々の平等を達成するための1ステップでしかなく、「男女」をうたっている限り、セクシュアルマイノリティへの意識は欠落したままである。2016年にもなって「第3次男女共同参画プラン」なるものをはじめること自体に疑問を感じる。町政に出来ることには限界があるだろうが、まずは議員や町職員の人権・平等意識を、2016年にふさわしい水準にアップデートしてほしい。</p>                                                                           | <p>(むさし台、男性、20～29歳)</p> |
| <p>○ 妊娠・出産に肉体的な負担がかかるのが女性だけである以上、どう頑張ったところで女性が一時的に仕事から抜けることは回避しようがないことから、どうしても差が生じてしまうのは仕方のないことだと思う。その期間中の給与の差や、仕事上の評価の差を埋めようと組織や制度がするならば、その間に仕事をしてきた（抜けていた女性の分も含めるならば、普段以上に）男性にとっては、面白くないと思う人もいることは当然だろうし、かといって何もなければ、もっと女性の地位向上を、という話になってしまう。難しい問題だと思います。個人的には、今の状況で十分だと思っています。</p> | <p>(むさし台、男性、20～29歳)</p> |
| <p>○ 男女平等という言葉が一人歩きし、行き過ぎたものにならないようにと願っています。男女に、身体的特徴の違いや思考パターンの違いがあるのは、生物学上自然なことだと思いますので、「男か女か」という枠にとらわれず、一人ひとりが自らの得意・不得意なこと、志向性などを鑑み、自分に合った選択を気兼ねなく選べる社会であってほしいと思います。LGBTの方の問題も、近年多く取り上げられるようになってきましたが、全ての人々が、自分の性別に付随する問題について、悩みを抱えることのない柔軟で懐の広い社会であってほしいと思います。</p>                | <p>(むさし台、女性、20～29歳)</p> |

## いきいきと暮らせるまちへ (男女共同参画に関する意識調査)

日ごろより町政の進展につきまして、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、町では平成 15 年に「嵐山町男女共同参画都市宣言」を行い、平成 16 年には「“らんざん” 男女が共にいきいきと暮らせるまちづくり条例」を施行し、町民ひとりひとりが個性を認めつつ、お互いに助け合い人生をいきいきと歩んでいける男女共同参画社会の実現をめざしています。

国においても、「男女共同参画基本法」や「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」、埼玉県においても「埼玉県男女共同参画推進条例」を制定しています。

町では、平成 23 年度に策定した「第 2 次嵐山町男女共同参画プラン」が平成 28 年度に終了することに伴い、今回「第 3 次嵐山町男女共同参画プラン」を策定することとしております。策定においては、広く町民の皆様から実態や意見をお伺いするため、町に在住の 18 歳以上の方々の中から 2,000 人を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

いただきましたご意見・ご回答の内容につきましては、統計的な分析にのみ使用いたしますので、あなたのご意見が外部に漏れたり、他の目的に使用されたりすることは決してありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成 28 年 7 月

嵐山町長 岩 澤 勝

### 【ご記入にあたってのお願い】

1. この調査は、できる限りあて名の方ご本人がご記入ください。
2. このアンケートは匿名です。名前・住所を書いていただく必要はありません。
3. ご記入は、必ず黒又は青のボールペン又は鉛筆をご使用ください。
4. 質問番号に沿って、できるかぎり全部の質問にお答えください。
5. お答えは、あてはまる回答の番号に○印をつけてください。
6. 「その他」に○印をつけられた方は、( ) にその内容をご記入ください。
7. ご記入いただきました調査票は、

**平成 28 年 7 月 19 日（火）までに、**

同封した返信用封筒（切手不要）に入れて郵送してください。

8. 調査の内容や記入方法等について、ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

(問い合わせ先) ■ 嵐山町 地域支援課 政策創生担当

〒355-0211 埼玉県比企郡嵐山町大字杉山 1030-1

電話 0493-62-2152

FAX 0493-62-5935

## 男女平等に関する意識についてお伺いします

問1 あなたは、現在、男女の地位が平等になっていると思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。

（それぞれについて該当する「１～５」に１つずつに○）

|                        | 平等になっている | 平等になっていない<br>どちらかというと | 平等になっていない<br>どちらかというと | 平等になっていない | どちらともいえない |
|------------------------|----------|-----------------------|-----------------------|-----------|-----------|
| （１）家庭生活は               | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |
| （２）学校教育の場で             | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |
| （３）職場では                | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |
| （４）政治の場では              | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |
| （５）自治会活動等の地域社会で        | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |
| （６）社会通念や風潮（慣習・しきたり）などで | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |
| （７）法律や制度上では            | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |
| （８）社会全体の中で             | 1        | 2                     | 3                     | 4         | 5         |

問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考えに同感しますか（１つだけに○）

|         |        |             |
|---------|--------|-------------|
| 1 同感する  | →問2－1へ | 3 どちらともいえない |
| 2 同感しない | →問2－2へ | 4 わからない     |

(問2で「1 同感する」を選択した方に伺います。)

問2-1 同感する理由をご回答ください。(1つだけに○)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 日本伝統的な家族のあり方だと思うから                  |
| 2 性別で役割分担をした方が効率が良いと思うから              |
| 3 子どもの成長にとって良いと思うから                   |
| 4 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから |
| 5 男性が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから          |
| 6 個人的にそうありたいと思うから                     |
| 7 理由を考えたことはない                         |
| 8 その他 ( )                             |

(問2で「2 同感しない」を選択した方に伺います。)

問2-2 同感しない理由をご回答ください。(1つだけに○)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 男女平等に反すると思うから                       |
| 2 女性が家庭のみでしか活躍できないことは、社会にとっても損失だと思うから |
| 3 男女ともに仕事と家庭に関わる方が、各個人、家庭にとっても良いと思うから |
| 4 家事・育児・介護と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから |
| 5 男性も女性も働いた方が、多くの収入を得られると思うから         |
| 6 話し合いで自由な選択ができる方が良いと思うから             |
| 7 理由を考えたことはない                         |
| 8 その他 ( )                             |

問3 テレビ、映画、新聞、雑誌、インターネットなどメディアでの性別による固定的な役割分担の表現や、女性に対する暴力、性の表現について、あなたはどのように考えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1 性別による固定的な役割分担を助長する表現が目立つ           |
| 2 女性の性的側面を過度に強調するなど、行き過ぎた表現が目立つ      |
| 3 社会全体の性に関する道徳観・倫理観が損なわれている          |
| 4 女性に対する犯罪を助長するおそれがある                |
| 5 そのような表現を望まない人や子どもの目に触れないような配慮が足りない |
| 6 特に問題はない                            |
| 7 その他 ( )                            |

## 家庭生活・子育てについてお伺いします

問4 あなたの家庭では、次の（１）～（８）について、主に男性、女性のどちらが行っていますか。

（それぞれについて該当する「１～５」に１つずつに○）

|                           | 主<br>に<br>男<br>性<br>が<br>行<br>っ<br>て<br>い<br>る | 共<br>同<br>し<br>て<br>分<br>担<br>し<br>て<br>い<br>る | 主<br>に<br>女<br>性<br>が<br>行<br>っ<br>て<br>い<br>る | そ<br>の<br>他 | 該<br>当<br>し<br>な<br>い |
|---------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------|------------------------------------------------|-------------|-----------------------|
| （１）家事（炊事・洗濯・掃除など）         | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |
| （２）子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）   | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |
| （３）介護（介護の必要な親の世話、病人の介護など） | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |
| （４）地域の行事への参加              | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |
| （５）自治会、PTA 活動             | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |
| （６）生活費の確保                 | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |
| （７）家計の管理                  | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |
| （８）高額な商品や土地、家屋の購入の決定      | 1                                              | 2                                              | 3                                              | 4           | 5                     |

問5 家庭生活（家事・子育て・介護）の考え方について、あなたは「現実」では何を優先していますか。また、「希望」では何を優先したいですか。

（それぞれ１つずつに○）

### 【現実】

- 1 仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念
- 2 どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先
- 3 仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視
- 4 どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先
- 5 家庭生活（家事・子育て・介護）に専念

### 【希望】

- 1 仕事や趣味・ボランティアなどの自分の活動に専念
- 2 どちらかといえば、家庭生活より仕事や自分の活動を優先
- 3 仕事や自分の活動と家庭生活を同時に重視
- 4 どちらかといえば、仕事や自分の活動よりも家庭生活を優先
- 5 家庭生活（家事・子育て・介護）に専念

## 就業・仕事についてお伺いします

問6 一般的に女性の働き方について、あなたはどうお考えですか。

(1つだけに○)

- 1 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
- 2 子育ての時期だけ一時やめ、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい
- 3 子育ての時期だけ一時やめ、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい
- 4 結婚後又は子育て終了時から仕事をもつ方がよい
- 5 子どもができるまでは仕事もち、子どもができたなら家事や子育てに専念する方がよい
- 6 結婚するまで仕事もち、結婚後は家事などに専念する方がよい
- 7 女性は仕事をもたない方がよい
- 8 わからない
- 9 その他 ( )

問7 あなたは、現在の自分自身の働き方について、どうお考えですか。

(1つだけに○)

- 1 満足
- 2 どちらかという満足
- 3 どちらかという不満
- 4 不満
- 5 どちらともいえない



問8 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。次の（１）～（８）のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。

(それぞれについて該当する「1～4」に1つずつ○)

|                                   | とても重要 | 重要 | あまり重要でない | まったく重要でない |
|-----------------------------------|-------|----|----------|-----------|
| (1) パートナー（男性）の理解や家事・育児などへの参加      | 1     | 2  | 3        | 4         |
| (2) パートナー（男性）以外の家族の理解や家事・育児などへの参加 | 1     | 2  | 3        | 4         |
| (3) 保育施設や学童保育の充実                  | 1     | 2  | 3        | 4         |
| (4) 福祉施設やホームヘルパーの充実               | 1     | 2  | 3        | 4         |
| (5) 労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入         | 1     | 2  | 3        | 4         |
| (6) 企業経営者や職場の理解                   | 1     | 2  | 3        | 4         |
| (7) 育児・介護休業などの休暇制度の充実             | 1     | 2  | 3        | 4         |
| (8) 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保           | 1     | 2  | 3        | 4         |

問9 あなたは、男女共に仕事と家庭を両立していくためには、どのような条件が必要だと思いますか。(3つまでに○)

- 1 給与等の男女間格差をなくすこと
- 2 年間労働時間を短縮すること
- 3 代替要員の確保など、育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境を作ること
- 4 育児や介護のために退職した職員を、元の会社で再雇用する制度を導入すること
- 5 育児休業・介護休業中の賃金その他の経済的給与を充実すること
- 6 地域の保育施設や保育時間の延長など保育内容を充実すること
- 7 在宅勤務やフレックスタイム制度など、柔軟な勤務制度を導入すること
- 8 職業上、必要な知識・技術等の職業訓練を充実すること
- 9 女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること
- 10 男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること
- 11 男性が家事や育児を行う能力・機会を高めること
- 12 わからない
- 13 その他（ ）

## 配偶者等に対する暴力についてお伺いします

問 10 次の（１）～（１４）のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた場合、それをどう感じますか。あなたの考えに近いものを選んでください。（それぞれについて該当する「１～３」に１つずつ○）

|                                               | る<br>も<br>暴<br>力<br>に<br>あ<br>た<br>る | ど<br>ん<br>な<br>場<br>合<br>で | 合<br>が<br>あ<br>る | 暴<br>力<br>の<br>場<br>合<br>と<br>そ<br>う<br>で<br>な<br>い<br>場<br>合 | 暴<br>力<br>に<br>あ<br>た<br>る<br>と<br>は<br>思<br>わ<br>な<br>い |
|-----------------------------------------------|--------------------------------------|----------------------------|------------------|---------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|
| （１）骨折させる                                      | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （２）打ち身や切り傷などのけがをさせる                           | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （３）刃物などを突きつけて、おどす                             | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （４）身体を傷つける可能性のある物でなぐる                         | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （５）突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする                        | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （６）平手でたたく、足でける                                | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （７）物を投げつける、ドアをけったり、壁に物を投げ<br>ておどす             | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （８）大声でどなる、「役立たず」とか「能なし」などとい<br>う              | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （９）持ち物や大切にしているものをこわす                          | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （１０）いやがるのに性的な行為を強要する                          | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （１１）見たくないのに卑わいな映像や雑誌を見せる                      | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （１２）何を言っても、長時間無視し続ける                          | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （１３）交友関係や電話、メール、郵便物等を細かく監視<br>する              | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |
| （１４）必要な生活費を渡さない、仕事を無理やり辞めさ<br>せて経済的に弱い立場に立たせる | 1                                    |                            | 2                |                                                               | 3                                                        |

【現在配偶者・パートナー（親密な関係の異性）がいる方、または過去に配偶者・パートナーがいた方におたずねします。（該当しない方は問１２へお進みください。）】

問１１ あなたはこれまでに、あなたの配偶者・パートナーから次の（１）～（３）のような行為をされたことがありますか。

（それぞれについて該当する「１～３」に○を１つ）

|                                                  | 何<br>度<br>も<br>あ<br>る | 数<br>回<br>あ<br>る | 全<br>く<br>な<br>い |
|--------------------------------------------------|-----------------------|------------------|------------------|
| （１）なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた  | １                     | ２                | ３                |
| （２）あなた、もしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた | １                     | ２                | ３                |
| （３）いやがっているのに、性的な行為を強要された                         | １                     | ２                | ３                |

【質問１１で、「何度もある」または「数回ある」と答えた方におたずねします。】

問１１－１ これまでに誰かに打ち明けたり、相談したりしたことがありますか。

（１つだけに○）

|                           |
|---------------------------|
| １ 相談した → 問１１－２ へ          |
| ２ 相談できなかった → 問１１－３ へ      |
| ３ 相談しようとは思わなかった → 問１１－３ へ |

【問１１－１で、「相談した」と答えた方におたずねします。】

問１１－２ あなたが、相談した人（場所）を教えてください。

（あてはまるもの全てに○）

|                                |                                |
|--------------------------------|--------------------------------|
| １ 家族・親せき                       | ７ 男女共同参画センター・女性センター            |
| ２ 友人・知人                        | ８ その他の公的機関                     |
| ３ 警察                           | ９ 弁護士                          |
| ４ 人権擁護委員                       | １０ 医師・カウンセラー                   |
| ５ 役所の相談窓口・電話相談など               | １１ 民間の相談機関                     |
| ６ 配偶者暴力相談支援センター・婦人相談センター・女性相談員 | １２ その他（                      ） |

【問 1 1－1 で、「相談できなかった」、「相談しようとは思わなかった」と答えた方におたずねします。】

問 1 1－3 相談しなかった（できなかった）理由はどれですか。

（あてはまるもの全てに○）

- |                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |   |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| 1 誰（どこ）に相談してよいかわからなかったから<br>2 恥ずかしくて誰にもいえなかったから<br>3 相談しても無駄だと思ったから<br>4 相談したことがわかると、仕返しをされたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから<br>5 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから<br>6 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから<br>7 世間体が悪いから<br>8 他人を巻き込みたくないから<br>9 思い出したくないから<br>10 自分に悪いところがあると思ったから<br>11 相談するほどのことではないと思ったから<br>12 その他（ | ) |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|

## 男女共同参画を推進するための取組についてお伺いします

問 1 2 あなたは、（1）～（1 3）の男女共同参画に関する社会の動きや言葉について、見たり聞いたりしたことがありますか。

（それぞれについて該当する「1～3」に1つつ○）

|                | 内容を知っている | 聞いたことはあるが内容は知らない | 知らない |
|----------------|----------|------------------|------|
| （1）男女共同参画社会基本法 | 1        | 2                | 3    |
| （2）男女雇用機会均等法   | 1        | 2                | 3    |
| （3）女性活躍推進法     | 1        | 2                | 3    |



## あなたご自身についてお伺いします

F1 あなたの性別をご回答ください。(1つだけに○)

|       |       |        |
|-------|-------|--------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. その他 |
|-------|-------|--------|

F2 あなたの住んでいる地区をご回答ください。(1つだけに○)

|         |           |         |
|---------|-----------|---------|
| 1. 菅谷   | 8. 遠山     | 15. 古里  |
| 2. 川島   | 9. 千手堂1区  | 16. 吉田  |
| 3. 志賀1区 | 10. 千手堂2区 | 17. 越畑  |
| 4. 志賀2区 | 11. 鎌形    | 18. 勝田  |
| 5. むさし台 | 12. 大蔵    | 19. 広野  |
| 6. 平沢1区 | 13. 根岸    | 20. 杉山  |
| 7. 平沢2区 | 14. 将軍沢   | 21. 太郎丸 |

F3 あなたの年齢をご回答ください。(1つだけに○)

|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 18・19歳 | 4. 40～49歳 | 7. 65～69歳 |
| 2. 20～29歳 | 5. 50～59歳 | 8. 70～74歳 |
| 3. 30～39歳 | 6. 60～64歳 | 9. 75歳以上  |

F4 あなたの職業をご回答ください。(1つだけに○。複数ある方は主なものに1つ)

|                 |              |
|-----------------|--------------|
| 1. 農業           | 5. 学生(予備校含む) |
| 2. 自営業          | 6. 専業主婦・専業主夫 |
| 3. 会社員・公務員(常勤)  | 7. 無職        |
| 4. 会社員・公務員(非常勤) | 8. その他( )    |

F5 現在居住している住宅の種類をご回答ください。(1つだけに○)

|            |              |
|------------|--------------|
| 1. 持家      | 4. 社宅・寮・住み込み |
| 2. 借家・アパート | 5. その他( )    |
| 3. 公営住宅    |              |

|              |                |
|--------------|----------------|
| 1. 中学校       | 4. 短期大学、高等専門学校 |
| 2. 高等学校      | 5. 4年生大学、大学院   |
| 3. 専門学校、各種学校 | 6. その他（ ）      |

|                    |            |
|--------------------|------------|
| 1. 結婚している          | 3. 結婚していない |
| 2. 結婚していたが、死別・離別した |            |

This image shows a single sheet of white paper with horizontal blue or grey ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There is a vertical margin line on the left side, creating a narrow left margin. The paper appears to be from a notebook or a standard ruled document.

ご協力ありがとうございました